2023
履修要覧
KANAGAWA UNIVERSITY

経営学部
外国語学部
国際日本学部

本冊子は卒業まで
大切に保管してください。

本冊子は、みなさんが学業を進めていくうえで
必要不可欠かつ基本的な事項を収録したものです。
次年度以降の配付はありません。また、記載内容を
変更することがありますので、各年度初めに
WeB St@tion より web 版の履修要覧を
確認してください。

KU 神奈川大学

2023（令和5）年度
学年暦および各種行事日程表

年 月	日	月	火	水	木	金	土	行事日程等
2023年							1	1～6日 オリエンテーション期間
（令和5年）	2	3	4	5	6	7	8	3日 入学式
4月	9	10	11	12	13	14	15	7日　前学期授業開始
	16	17	18	19	20	21	22	29日 昭和の日（ただし授業日）
	23	24	25	26	27	28	29	
	30							
5月		1	2	3	4	5	6	1日・2日・6日　休講
	7	8	9	10	11	12	13	15日 創立記念日（ただし授業日）
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
6月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		
7月							1	17日 海の日（ただし授業日）
	2	3	4	5	6	7	8	21日・22日 補講日
	9	10	11	12	13	14	15	22日 前学期授業終了
	16	17	18	19	20	21	22	24～29日 前学期末定期試験
	23	24	25	26	27	28	29	31日 前学期末定期試験予備日
	30	31						
8月			1	2	3	4	5	1日 夏季休業開始
	6	7	8	9	10	11	12	1～7日 夏季集中講義期間
	13	14	15	16	17	18	19	25～31日 夏季集中講義期間
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
9月						1	2	1～7日 夏季集中講義期間
	3	4	5	6	7	8	9	21日 夏季休業終了
	10	11	12	13	14	15	16	22日 後学期授業開始
	17	18	19	20	21	22	23	23日 秋分の日（ただし授業日）
	24	25	26	27	28	29	30	30日　9月期卒業式

年 月	日	月	火	水	木	金	土	行事日程等
10月	1	2	3	4	5	6	7	9日 スポーツの日（ただし授業日）
	8	9	10	11	12	13	14	27日 MMCのみ休講（大学祭準備）
	15	16	17	18	19	20	21	28日 MMCのみ休講（大学祭）
	22	23	24	25	26	27	28	28日・29日 大学祭（MMC）
	29	30	31					
11月				1	2	3	4	3日 文化の日（ただし授業日）、YCのみ休講（大学祭準備）
	5	6	7	8	9	10	11	4日 YCのみ休講（大学祭）
	12	13	14	15	16	17	18	4日・5日 大学祭（YC）
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			
12月						1	2	23日 冬季休業開始
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
2024年		1	2	3	4	5	6	5日 冬季休業終了
（令和6年）	7	8	9	10	11	12	13	12日 休講（大学入学共通テスト準備）※予定
1月	14	15	16	17	18	19	20	13日 休講（大学入学共通テスト）※予定
	21	22	23	24	25	26	27	16日・17日 補講日
	28	29	30	31				20日 後学期授業終了
								22～27日 後学期末定期試験
								29日 後学期末定期試験予備日
								31日 TOEIC®プレイスメントテスト
2月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29			
3月						1	2	22日 卒業式（予定）
	3	4	5	6	7	8	9	25～29日 オリエンテーション期間
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							

YC＝横浜キャンパス、MMC＝みなとみらいキャンパス

【備　考】

1. ■ 印は授業日、○印は補講日、□印は定期試験日、■印は休日、□ 印は授業休講日を示す。
   なお、補講については「補講日」のほか、6時限、土曜日及び1/12（金）（MMCのみ）に行うことがある。
2. 集中講義期間は、土曜日・休日を除く。
3. 4/29（土）、7/17（月）、9/23（土）、10/9（月）、11/3（金）（MMC）は、授業日とする。
4. 上記以外の行事については、掲示、ホームページ等を参照のこと。

履修要覧

2023 年度

みなとみらいキャンパス

●経営学部

●外国語学部

●国際日本学部

KU 神奈川大学

神奈川大学の新入生そして在学生の皆さんへ

新入生の皆さん，神奈川大学へようこそ。すべての教職員そして在学生の先輩たちとともに，新入生の皆さんを歓迎いたします。

みなさんは，新型コロナウイルス感染症が流行する中で，出身校において教育を受けることに不自由な思いをしてきたと思います。神奈川大学においても，新型コロナウイルス感染拡大防止のために，2020 年度は，大学構内を閉鎖して多くがオンライン授業を行い，2021 年度は，大学構内を基本的に解放しましたが，一部の大教室における授業はオンライン授業を継続してきました。2022 年度は，新型コロナウイルス感染の状況を見計らいながら，対面授業とオンライン授業を併用してきました。今年度は，原則，対面授業を前提とし，皆さんが神奈川大学の横浜キャンパスそしてみなとみらいキャンパスで大学生活を十分謳歌できるよう努力していきたいと思います。

さて，皆さんは神奈川大学という船に乗り，未来に向けて出港しました。船が目的地に向かって進むためには，航海図が必要です。この『履修要覧』は，それぞれの学部・学科の教員たちが，自分の学生に大学生としてどのように学んでほしいかを示した航海図です。しかし，高校までとは，自分の目的に沿って履修する授業を選んでいくという点が大きく異なります。『履修要覧』をじっくり読んで，自分がどのような大学生活を送るのか，そして何を学んで，どのような社会人になるのかを大学生として皆さん一人一人に考えてほしいと願っています。

まず，『履修要覧』における学科ごとの「教育課程表」を探してください。そこには，学科ごとの開設科目がたくさん記されていますが，その下に卒業要件単位の表があります。そこには，重要なことが示されています。それは，大学で学ぶべき科目は「共通教養科目」と「専門科目」に分かれていることです。ここで私が言いたいことは，「共通教養科目」の大切さです。皆さんが神奈川大学で学ぶ目的はさまざまだと思いますが，大学で学ぶ皆さんに社会から共通に課せられていることは，激動する現代を生き抜く社会人になることです。

皆さんが入学した学部・学科の専門科目を学ぶことは当然ですが，語学をはじめ人文・社会・自然分野から幅広く学問の基本を学び，科学や文化について考えることは，大学生として物事を幅広く知り，そして考える力を養うことを目的としています。教養科目は，古代ギリシャに生まれたリベラルアーツにルーツをもち，中世ヨーロッパの大学で発展して，その制度が今日に至っています。それは，人間として生きる力を身につけるための学問に通じます。

現代において，社会や科学技術は大きく変化しています。文化のグローバル化が進む中で，日本だけでなく世界の文化や宗教を知り，世界の中の日本を知ることが必要です。地球規模の環境問題や情報通信技術，遺伝子操作技術など倫理的に考える必要がある課題もさまざまあります。

変化の激しい時代にあって，地球規模の視野に立ち，歴史的な視点を持ち，多元的な視点で物事を考えることによって，現代社会の事態や新しい状況に的確に対応することができる社会人になるために，教養を身につけた上で，専門を学んでほしいと思います。

大学生活は，この『履修要覧』から始まります。そして，困ったときにはいつでも『履修要覧』を参照してください。皆さんの航海を安全に進めるため，そして目的地に無事到着するために。

学長　小　熊　　誠

『履修要覧』は，みなさんが学生の本分である学修をすすめるうえで，最低限必要な事項や情報を掲載しています。いずれの内容も重要な項目ですが，特に《履修案内》と《学修の手引き》は理解するまでよく読み込んでください。また，必要に応じて参照するなど，年間を通じて利用してください。

なお,『履修要覧』の記載内容について重要な変更が生じた場合は，WeB St@tion 又は掲示板でお知らせしますので，十分注意してください。

― 目次 ―

〇表紙…… 1
〇神奈川大学の新入生そして在学生の皆さんへ…… 2
〇目次…… 3

1 神奈川大学の目的・理念…… 8

2 学修の手引き
Ⅰ 履修について…… 12
Ⅱ 授業について…… 15
Ⅲ 試験について…… 17
Ⅳ 単位認定（成績について）…… 20
Ⅴ 学外単位認定制度について（単位認定の特例）…… 22
Ⅵ 卒業について…… 23
Ⅶ 進級について…… 24
Ⅷ 休学・復学・退学・除籍について…… 26
Ⅸ 大学から在学生のみなさんへの連絡方法…… 27
Ⅹ 緊急時に伴う授業の臨時休講措置について…… 28
Ⅺ 事務取扱窓口…… 29

3 共通教養科目（2020年度入学者から適用）
共通教養教育の目的及び基本方針…… 32
共通教養科目　履修要領・教育課程表…… 37
初年次ゼミナール（ＦＹＳ）とキャリア形成に関する科目…… 39
外国語科目について…… 42
外国語科目　教育課程表…… 60

4 履修案内

経営学部

経営学部の教育課程について ･･･ 68

学部・学科の教育研究上の目的及び基本方針

経営学部　国際経営学科 ･･･ 70

専攻科目

経営学部　履修案内・教育課程表（2021年度入学者から適用） ･･･ 91

外国語学部

外国語学部学生のみなさんへ ･･･ 106

学部・学科の教育研究上の目的及び基本方針

外国語学部 ･･･ 108

英語英文学科 ･･･ 110

スペイン語学科 ･･･ 112

中国語学科 ･･･ 113

専攻科目

英語英文学科　履修案内・教育課程表（2020年度入学者から適用） ･･･ 124

スペイン語学科　履修案内・教育課程表（2020年度入学者から適用） ･･･ 136

中国語学科　履修案内・教育課程表（2020年度入学者から適用） ･･･ 146

国際日本学部

国際日本部学生のみなさんへ ･･･ 158

学部・学科の教育研究上の目的及び基本方針

国際日本学部 ･･･ 160

国際文化交流学科 ･･･ 162

日本文化学科 ･･･ 163

歴史民俗学科 ･･･ 165

専攻科目

国際文化交流学科　履修案内・教育課程表（2020年度入学者から適用） ･･･ 178

日本文化学科　履修案内・教育課程表（2022年度入学者から適用） ･･･ 190

歴史民俗学科　履修案内・教育課程表（2020年度入学者から適用） ･･･ 198

副専攻

副専攻について ･･･ 206

5 各種案内

語学研修及び留学について ･･･ 224

各種資格案内 ･･･ 227

資格取得講座について ･･･ 228

転部・転科／再入学の制度について ･･･ 229

科目等履修生及び研究生について ･･･ 230

大学院について ･･･ 231

6 学則及び諸規程

神奈川大学学則 234
神奈川大学履修規程 241
神奈川大学試験不正行為等取扱内規（学長決定） 243
神奈川大学既修得単位の認定に関する取扱規程 244
学生の海外留学に関する取扱規程 245
海外語学研修の単位認定に関する取扱規程 246
各種検定試験合格者の単位認定に関する取扱規程 249
横浜市内大学間の単位互換に関する神奈川大学取扱規程 259
国内大学間の単位互換に関する神奈川大学取扱規程 262
神奈川大学学位規程（抜粋） 264
卒業見込証明書発行基準 267

7 専任教員研究室一覧

専任教員研究室一覧 272

○授業時間区分 巻末

1　神奈川大学の目的・理念

神奈川大学の目的・理念

目　　的

（神奈川大学学則　第１条）

神奈川大学(以下「本大学」という。)は，教育基本法(昭和 22 年法律第 25 号)及び学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)にのっとり，一般教養並びに専門学術の理論及び応用を教授研究し，識見高邁にして実践力に富む人材を育成し，文化の創造発展及び人類の福祉に貢献することを目的とする。

理　　念

（2008 年８月策定）

「質実剛健」「積極進取」「中正堅実」の建学の精神に基づき，真の実学を目指す伝統を踏まえ，自立した良識ある市民としての判断力と実践的能力，国際的感性とコミュニケーション能力を有し，専門的知識と技能を身に付けた，自ら成長することのできる人材を養成する。同時に，地域社会及び世界に開かれた大学として，時代と社会の付託に応えるべく，人類と社会の発展に貢献しうる研究の遂行と，その成果の社会への還元を実現する。

理念に基づく4つの方針

本学は「質実剛健」「積極進取」「中正堅実」の建学の精神とこれに基づく理念を踏まえ，以下の4項目を方針として定めます。

1．人材の養成

「実学」を尊重する伝統に基づき，多様な関心と能力を有する学生を様々な入学試験によって受け入れ，少人数教育と双方向型授業を重視し，基礎的学力，実践的能力，幅広い教養の修得を目的として全学的に教育を行います。そうした教育によって，全ての学生が良識ある市民としての主体性と社会性，思考力と判断力，地球的視野とコミュニケーション能力，自ら成長することのできる能力を身に付け，さらに専門課程，大学院を通じて，新しい時代に必要とされる専門的知識，技能，実践的能力を身に付けた人材を養成することを第1の方針とします。

2．教育と研究の高度な結合

港横浜で育まれた建学の精神を21 世紀において継承すべく，かつ高等教育機関の社会的責任に鑑み，新たな地球環境等の諸課題に対して，その解決に取り組み，人類の福祉に貢献しうる高度な研究を行います。その成果は直接，地域社会及び世界に還元されるのみならず，教育を通じて学生に伝えられ，世界と未来へ発信することのできる学部生，大学院生を育成することによって社会に還元されます。こうした教育と研究の高度な結合を第2の方針とします。

3．日本，アジア，さらには全世界に

建学の精神に基づき，地域社会に，日本に，アジアに，さらには全世界に対して開かれた，人的な，あるいは情報のネットワークのターミナルとして機能する大学として，地域と世界の平和と繁栄に寄与することを

目指します。また，全ての構成員がネットワークに自由に参加でき，グローバル化する社会に適応する能力を身に付けることができるように，参加をサポートする制度とシステムを実現します。そうしたネットワークによって支えられた，開かれた大学の実現を第3の方針とします。

4．教育と研究水準の維持・発展

建学の精神に基づき，社会の付託に誠実かつ機敏に対応し，前述の理念を実現するために，教職員一人一人の意欲を高め，教育，研究及び組織とその運営を常に自己改革し続けていくことが可能な組織とシステムを造り上げていきます。それによって，充実した教育と高い水準の研究を維持し，さらに発展させることを本学の第4の方針とします。

本学の教育目標

本学は，理念及びこれに基づく4つの方針の中で，大学が社会に対して責任を負うべき最重要課題は教育であると位置づけ，これについて以下の3点を教育目標として定めます。

本学は4年間の学士課程において全学の学生一人一人が共通して修得すべき，基礎学力を中核とした総合的能力を明確に定め，その実現のために充実した全学共通教育を実施し，かつそのための組織，制度，カリキュラムなどの改革，改善に努めます。とりわけ，初年次教育，キャリア教育，教養教育，言語教育などを含む全学共通の基礎教育と各学部・学科の導入教育とを有機的に連関させ，少人数教育，双方向型及び体験型授業，習熟度別クラス編成などによって，系統的に，かつきめ細かく実施し，大学生としての必要かつ十分な基礎的学力を修得させます。このような課程を通じて人間形成のための教育を行い，様々な場面で自ら想像し，思考し，判断し，実践できる能力，集団の中での協調性と主導性を発揮できる能力，グローバル化に対応するコミュニケーション能力，将来に向けて常に自ら成長することのできる能力を有する学生を育成します。

各学部・学科では，基礎教育及びこれと関連する導入教育を効果的に実施しつつ，高度な研究能力と教育への熱意を有する，多彩な教員及びスタッフにより，多様かつ高度な体系的専門教育を，資格教育，職業教育と有機的にかつ系統的に組み合わせて行い，幅広い教養と新しい時代に必要とされる専門的，かつ体系的な知識と，知識に裏打ちされた技能とを備えた人材を育成します。また，ボランティア，インターンシップ，留学など多様な体験機会を通じて，地域社会にあっても，国際社会にあっても，地球的視野に立って考え，語り合い，他者との協同を追求し，問題解決に向けて実践できる能力を身に付けた人材を養成します。

さらに，学部，大学院を通じた一貫した教育によって，より深い世界水準の専門知識と，より広い学際的な教養と，より洗練された情報処理能力及びコミュニケーション能力を身に付け，国際化と情報化の時代において，研究の分野において，実業の分野において，様々な社会活動の場面において広く人類と国際社会の発展に貢献することのできる各分野の専門家を養成します。

2　学修の手引き

Ⅰ　履修について

大学での学修は，**「各自が卒業までの目標を定め，自主的に学ぶ」**ということが基本となります。

各自が所属する学部・学科の教育方針に基づいた「教育課程」（大学では「カリキュラム」と呼んでいます。）に従って，履修計画をたて，履修登録をしてください。

この「履修計画をたてる」「履修登録をする」ために必要となる資料が，『履修要覧』『シラバス』『授業時間割表』『学修スタートガイド』です。

『履修要覧』	「学修の手引き」を含め，各学部・学科の「履修方法」「教育課程表」や，学修及び履修を行ううえで必要となる「学則」「規程」などのルールや，各種資格取得などの情報を記載しています。（本書）
『シラバス』	本年度に開講されている授業科目の授業内容や年間授業計画などを説明しています。 （WEB 上でのみ掲載しています。WeB St@tion 又は神奈川大学 HP から確認してください。）
『授業時間割表』	どの曜日・時限にどの授業科目が開講されているかを示すスケジュール表です。 （各学科別に WEB 上でのみ掲載しています。共通教養科目，「教職課程」等の資格教育課程については別冊になっています。）
『学修ｽﾀｰﾄｶﾞｲﾄﾞ』	履修登録を行う際に，いつ，どこで，どのような手続をしなければならないのかをわかりやすく説明したガイドブックです。 （履修に制限のある授業科目の手続方法や，履修登録に関する注意事項などが載っています。スタートガイドを携帯してください。）

以上の資料を熟読し，履修計画・履修登録に誤りのないようにしてください。**履修登録のない科目（担当者間違いも含む）は授業に出席していたとしても成績評価の対象にはなりません。わからないことがあれば，そのままにせず，「クラス担任者」や「教務課」を訪ね，相談してください**。

1　教育課程（カリキュラム）の構成

本学で開設されている教育課程（カリキュラム）は，「共通教養科目」と「専攻科目」から構成されています。また，各種資格取得（教職，学芸員など）を目的とした「資格教育課程科目」を別途開設しています。

●共通教養科目（2020年度入学者から適用）

共通教養科目は，全学部の１年次から４年次を対象とした全学共通科目であり，「共通基盤科目」と「共通テーマ科目」から構成されています。

「共通基盤科目」

「共通基盤科目」は，幅広い分野にわたる教養や基礎的学力を身に付けるための科目として，「初年次ゼミナール」「外国語科目」「教養基礎演習」「人文の分野」「社会の分野」「自然の分野」「人間形成の分野」から構成されています。

このうち，「外国語科目」は，「英語」「韓国語」「スペイン語」「中国語」「ドイツ語」「フランス語」「ロシア語」「日本語」（「日本語」は留学生及び帰国生徒等が対象となります）が開講されています。

「共通テーマ科目」

「共通テーマ科目」は，現代社会における市民の生存，生活，活動にかかわる諸課題を取上げ，既存の学問分野に収まりきらない学際的な科目として，７つのサブテーマに基づいた科目で構成されています。

●専攻科目

各学部・学科の専門知識を身に付けるために，基礎・基本から応用へと段階的に進めていけるように科目が構成されています。

2　資格教育課程について

本学には各種資格を取得するための課程が次のとおり開設されています。

1　教職課程	中学校・高等学校の教育職員免許状を取得する課程
2　社会教育課程	社会教育主事・社会教育士になるための資格を取得する課程
3　学芸員課程	学芸員になるための資格を取得する課程
4　日本語教員養成課程	日本語教員の専門知識を修得する課程

詳細については，1年次にのみ配付される『履修要覧　資格教育課程』を参照してください。

なお，資格教育課程科目には，卒業・進級要件に算入されない科目がありますので，各自学科適用の教育課程表及び資格教育課程の内容をよく確認して履修してください。

3　大学院特別科目等履修制度について

この制度は，本学大学院の授業科目を学部生のうちに履修し，本学大学院に進学後に，定められた範囲内で大学院の修了要件単位数として認定される制度です。詳細は，修学キャンパスの教務課で確認してください。

申請可能な学生

成績優秀な学部 4 年次生のうち，本学大学院に進学を希望している者に限ります。

履修できる科目及び履修できる単位数

各専攻が指定した科目のうち，定められた単位数に限り履修可能です。

修得した単位の取り扱い

この制度によって修得した単位は，学部の卒業要件単位数には含まれません。また，学部の成績通知表及び成績証明書に記載されません。

4　授業科目の区分

授業科目は，「教育課程表」上で「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」「関連科目」「自由選択科目」「基礎科目」などに分類されて配置されています。この分類を授業科目区分といいます。

「必修科目」	必ず履修しなければならない科目です。その科目の単位を修得しなければ，「卒業」できません。
「選択必修科目」	いくつかの科目の中から必ず選択して履修しなければならない科目です。一定単位を修得することが「卒業」の要件となっています。
「選択科目」	自分の希望・将来を考えて自由に選択できる科目です。一定の単位を修得することが「卒業」の要件となっています。
「関連科目」	各学部・学科が「他学部・他学科開講科目」及び「資格教育課程に関する科目」から履修を認めている科目です。修得した単位の一部が，卒業に必要な単位として算入できる場合があります。（学部・学科によって異なりますので，各学科の「教育課程表」を参照してください。）
「自由選択科目」	さまざまな教養的知識と幅広い専門的知識を身に付けるために授業科目区分の枠を越えて横断的に選択することができます。（特定の学部・学科に配置されているので，各学科の「教育課程表」を参照してください。）
「基礎科目」	専攻科目のうち専門を学ぶための前提，基礎となる科目で，1･2年次で履修するようになっています。学科によっては，必修・選択などの区別があります。

5　単位と学修時間について

単位とは，授業科目を修得するための学修時間を数値で表したもので，授業科目ごとに異なります。学修時間は授業時間と必要な授業外（予習・復習）時間とで構成されており，最終的に試験その他の方法によって合格と判定されたとき，その授業科目の単位が与えられます。

１年間の授業期間は前学期と後学期に分かれ，これまでは前学期，後学期各15週，通年で30週としていましたが，2018年度から１時限を90分授業から100分授業に変更し，各期14週で行います。各期の基本的な授業時間数は合計で1,350分（90分×15週）から1,400分（100分×14週）となりますが，これを同程度と見なし，単位数と学修時間数の関係はこれまでの考え方を踏襲するものとします。以下に，単位数ごとに必要なこれまでの学修時間数の例を示しますので，参照してください。

本学での各授業科目の単位数は，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間以外に必要な学修等を考慮して，次の基準によって計算しています。

１．講義及び演習については，15時間から30時間での授業をもって１単位とする。
２．実験，実習及び実技については，30時間から45時間での授業をもって１単位とする。
３．講義，演習，実験，実習又は実技のうち２以上の方法の併用により行う場合については，５時間の講義及び20時間の実験の授業をもって１単位とする。

なお，授業時間割上の45分を１時間とみなし，授業時間数は100分×14週をもって30時間とみなします。

授業時間割	単位数	学修時間数	授業時間数	授業外（予習・復習）時間数
半期週１回	１単位	45時間×１単位 ＝45時間	２時間×１回×15週 ＝30時間	45時間−30時間 ＝15時間 （週１時間）
	２単位	45時間×２単位 ＝90時間		90時間−30時間 ＝60時間 （週４時間）
半期週２回	２単位	45時間×２単位 ＝90時間	２時間×２回×15週 ＝60時間	90時間−60時間 ＝30時間 （週２時間）
	４単位	45時間×４単位 ＝180時間		180時間−60時間 ＝120時間 （週８時間）
通年週１回	４単位	45時間×４単位 ＝180時間	２時間×１回×30週 ＝60時間	180時間−60時間 ＝120時間 （週４時間）

大学を卒業するため，あるいは上位年次に進級するためには，各学部・学科で定められた「卒業要件単位数」を修得しなければなりません。卒業や進級に必要な単位数等は，各学科の「教育課程表」に記載されていますのでよく読んで理解してください。

Ⅱ　授業について

1　授業期間

１年間の授業期間は，「前学期」と「後学期」に分かれており，各学期の授業科目はそれぞれ14週，通年の授業科目は年間28週の授業期間となります。

2　授業時間

授業は次の時間区分で行います。（定期試験の時間区分は，これとは異なりますので注意してください。）
※各学期の授業期間は14週（通年の科目は28週），１時限あたりの授業時間は100分。

時限	授業時間
1	9：00～10：40
2	10：50～12：30
3	13：30～15：10
4	15：20～17：00
5	17：10～18：50
6	19：00～20：40
7	20：45～22：25

※７限は，博士前期課程昼夜開講制時限

3　授業形態

授業形態は次のとおりです。

前学期科目・後学期科目	前学期又は後学期に授業を行う科目。
通年科目	１年間にわたって授業を行う科目。
時間外科目	輪講・卒業研究や，教育実習など，授業時間の制約を受けず，実施については，担当教員と履修者で決定する授業科目。
集中講義科目	授業期間外に集中して授業を行う科目。通常授業と併用して実施する場合もあります。（実施科目は，各学部掲示板及びWeB St@tionの掲示板機能にて配信します。）

4　授業の出席登録について

授業に出席する際，授業講堂等に設置している場合は「出席管理システム」のカードリーダー（読取器）に学生証をかざしてください。

「出席管理システム」は，授業講堂等に設置されたカードリーダーに学生証をかざすだけで，出席情報を収集できるシステムです。授業の出席率の向上や，学修への動機付け，学生との面談，早期の学修指導，保護者との面談等への利用など，多岐にわたる活用をしています。

また，一部の学生が出席を不正登録するケース（代理出席，途中退出など）が見受けられますが，このような行為は，厳に慎むべきであり，このような事態が頻発した場合には，**厳格な対応を検討せざるを得ません。**

なお，このシステムの出席情報の運用については，授業担当教員に委ねられていますが，出席登録だけを目的とせず，学生のみなさんは授業に対し主体的に参加してください。

5　出席情報公開について

自身の「出席情報」をWeB St@tionで確認ができます。(履修登録期間後)

出席管理システムの端末のない講堂（実験室，グラウンド・体育館等）での科目や遠隔授業及びオンラインで参加した科目，複数時限にまたがる科目は「欠」と表示されます。集中講義，時間外科目は，出席情報を収集していないため，出欠は表示されません。「出席情報」の取扱いは授業担当教員によって異なりますので，授業担当教員の指示に従ってください。

6　欠席について

本学には，公欠や欠席届の制度はありません。忌引，学校保健安全法に定められた感染症に罹患，並びに裁判員制度による裁判員への選任などで，やむを得ず授業を欠席する場合は，教務課に相談してください。その他，病気，課外活動及び就職活動などにより，授業を欠席せざるを得ない場合は，必要に応じて各人で授業担当教員に事情を説明してください。

学校保健安全法施行規則では，インフルエンザ，麻しん，百日咳，新型コロナウィルス感染症などは『学校において予防すべき感染症』として，出席停止期間が制定されています。（ノロウイルスや感染性胃腸炎は，『学校において予防すべき感染症』には含まれていません。）感染症罹患後は，保健管理センターへ連絡してください。感染拡大防止のための病状聞き取り調査と欠席の証明に必要な手続きの説明を行います。出席停止期間が過ぎたら，登校可能である旨の証明書や感染症登校許可証明書（ＨＰよりダウンロード）の作成など，保健管理センターで手続き後に登校可能となります。場合によっては，医療機関で作成した診断書が必要になることもあります。授業に際しては，その後，教務課で欠席に伴う書類を発行しますので，授業担当教員へ提出してください。

なお，定期試験を欠席した場合は，追試験が認められるケースもあります。18ページの追試験の項を参照してください。

7　レポートについて

授業内に課せられたレポートについては，各人で授業内に提出期限・場所・方法・課題内容等を必ず確認してください。

なお，提出期限を過ぎたものについては受け付けませんので注意してください。

8　休講

授業担当教員のやむを得ない理由により授業が休講になる場合があります。

授業担当教員が，事前に届出をしている場合は，WeB St@tionで確認することができます。

また，緊急休講情報は，大学ホームページでも確認することができます。

休講掲示がなく，授業開始時刻から20分経過しても講義が行われない場合は，教務課の授業担当窓口へ連絡してください。

なお，30分経過しても授業担当教員の出講がない場合は休講とします。

また，緊急時の授業の措置については後述の項（26ページ）を参照してください。

9　補講

授業期間中において授業の進度や，休講等を補う授業として，補講日及び各週の土曜日（「学年暦及び各種行事日程表」参照）等に補講が行われます。補講情報は，WeB St@tion で確認することができます。なお，補講の予定は変更される場合があります。

10　教科書の購入について

授業担当教員の指示に従ってください。

なお，教科書は，神奈川大学生活協同組合書籍部で取り扱っています。

詳しくは以下のホームページで確認してください。

教科書販売ホームページ　http://www.ku-coop.org

Ⅲ　試験について

「履修規程」（『履修要覧』の「学則及び諸規程」を参照）をよく読んで試験に臨んでください。
試験についての連絡事項はWeB St@tionに掲載します。必ず確認するようにしてください。

1　定期試験

定期試験は，前学期末と後学期末の定期試験期間中に実施する試験のことです。
試験日程は，各学部の『履修要覧』表紙裏に書かれている「学年暦及び各種行事日程表」のとおりです。

① 前学期末試験の実施対象科目は，原則として前学期で終了する授業科目です。
ただし，通年科目についても，授業担当教員の判断により実施する場合があります。

② 後学期末試験の実施対象科目は，前学期で終了する授業科目を除くすべての授業科目です。

③ 試験時間割は，原則として試験実施２週間前までにWeB St@tionの定期試験時間割照会機能にて公開します。通常の授業時間割と曜日・時限が異なる場合があります。なお，発表後に変更される場合もありますので注意してください。

④ **定期試験を実施する授業科目は，試験を受験しなければ成績評価の対象となりません。**
また，通年科目で前学期末試験と後学期末試験の２回にわたって試験を実施する授業科目は，その双方とも受験しなければ成績評価の対象となりません。

⑤ **履修登録をしていない授業科目は，受験しても成績評価の対象となりません。**
また，同一担当者の同一授業科目の試験であっても，「履修登録確認表」の記載と異なる曜日・時限で受験した場合は成績評価の対象となりません。試験時間割が通常の授業時間割から変更になった場合は，必ず変更後の曜日・時限で受験してください。

●**定期試験時間**（前学期末・後学期末共通）

時限	試験時間
1	9：20～
2	11：10～
3	13：50～
4	15：40～
5	17：30～
6	19：20～

◎試験時間は，原則60分です。試験終了時間は試験科目によって異なります。
◎試験時間は，変更となる場合があります。必ずWeB St@tionで確認してください。

2　臨時試験

臨時試験は，成績評価のために各授業担当教員の判断により授業時間内に行う試験です。
ただし，定期試験の評価と臨時試験の評価を併せて成績評価とする授業科目もあるので注意してください。

試験講堂・試験日・時間などは授業担当教員の指示に従ってください。

3　追　試　験

追試験は，神奈川大学履修規程第4条に基づき，病気その他やむを得ない理由により定期試験を受験できなかった者に対して行われます。本人の申請に基づき，追試験審査委員会の審査を経て受験を許可された場合に，本学が指定する日に追試験を受験することができます。

●受験資格

① やむを得ない理由（下表を参照のこと）によって，定期試験科目を受験できなかった者。

② 「申請受付期間」に欠席理由を証明できる書類を添えて申請書を提出した者。

③ 「追試験料」を納入した者。

以上３点の要件をすべて満たし，「追試験審査委員会」の審査で許可された者。

※不明な点は必ず事前に教務課窓口で確認してください。自分で判断することは間違いの原因となりますので注意してください。

●申請手続き

受験できなかった事由	追試験対象期間	提出書類	申請受付期間
(1) 病気・怪我等	＊医師の診断書等に記載されている期間のみ	＊「医師の診断書」等理由を証明できる書類	当該科目の試験日を含め４日以内 (ただし日曜・祝日を除く) ＊ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ等やむを得ず４日以内に登校できない場合は，あらかじめ電話連絡を入れること
(2) 採用に関る説明会や面接・試験等の就職活動 (採用と直結しないｾﾐﾅｰは対象外)	＊試験等の時間及び受験のための往復に要すると判断される時間のみ	＊受験した企業等が発行した「受験証明書」(日時・場所・担当者の記載があるもの) ＊証明書について不明な点がある場合は，事前に教務課で確認してください	当該科目の試験日を含め４日以内 (ただし日曜・祝日を除く)
(3) 列車遅延等	＊遅延等を証明できる書類に記載されている時間のみ ＊原則として自宅からの通学において，試験開始時間に間に合うように自宅を出た場合	＊遅延等を証明できる「遅延証明書」等	当該科目の試験日を含め翌日まで
(4) 資格教育課程の実習との重複	＊実習期間及び実習のための往復に要すると判断される期間のみ		当該科目の定期試験実施前
(5) 公的機関の招請等	＊招請状に記載された期間及び現地への往復に要する期間	＊公的機関からの「招請状」又は「依頼状」等	当該科目の定期試験実施前
(6) 以下の内容におけるｽﾎﾟｰﾂ大会又はｺﾝｸｰﾙ等への出場 ①世界的大会又はｺﾝｸｰﾙ等への出場者 ②全日本的大会又はｺﾝｸｰﾙ等への出場者 ③世界的・全日本的と同等とみなし得る大会又はｺﾝｸｰﾙ等への出場者	＊大会又はｺﾝｸｰﾙ等参加期間及び現地への往復に要する期間	＊「大会案内・ｺﾝｸｰﾙ案内」及び「ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」等	当該科目の定期試験実施前
(7) 三親等以内の親族の忌引き	＊以下の内容に掲げる期間及び帰省等のための往復に要する時間 ①父母・配偶者・子…７日以内 ②祖父母・兄弟・姉妹…３日以内 ③曾祖父母・伯(叔)父母・姪・甥…１日	＊当該事由を証明するに足る書類(会葬礼状等)	当該科目の定期試験終了後速やかに
(8) その他やむを得ない事由	＊当該事由を証明するに足る書類に記載された期間	＊当該事由を証明するに足る書類	当該科目の試験日を含め４日以内 (ただし日曜・祝日を除く)

◎「診断書」の記載事項については，次の事項に注意してください。

① 診断書の日付は，受験できなかった科目（申請科目）の試験日と同じであること。

② 診断書の日付が試験日以前である場合や申請科目が複数日になる場合は，医師の所見欄に治療に要した期間が明示されていること。(例：○日間の自宅安静を指示した。○日から○日まで通院した。)

●受験対象科目

定期試験を実施した科目のみです。

●追試験時間

定期試験開始時間と異なりますので注意してください。
試験開始時間については，受験手続きの際に「追試験実施要領」を配付又は掲示しますので確認してください。

4　受験上の注意（定期試験・追試験）

●試験開始前

① 「履修登録確認表」に記載された授業科目以外は，受験できません。また，担当者・クラス・時限などを誤って受験した場合は，「無効」となります。
② 「試験開始時間」は通常の「授業開始時間」とは異なりますので注意してください。
③ 受験講堂及び座席は，WeB St@tion の定期試験時間割照会機能で公開されます。指定された席に着席してください。
④ 遅刻は試験開始後30分まで認めます。ただし，正当な理由があり，追試験の受験を希望する場合には，試験問題を確認する前に，試験監督者に申し出てください。
⑤ 「学生証」は必ず試験場に持参してください。学生証を忘れた又は紛失した場合は，証明書自動発行機で「仮学生証」を発行してください(手数料100円)。
⑥ 追試験を受験する場合は，受験手続き後に交付される「受験票」及び「学生証」を持参してください。

●試験開始後

① 試験場においては，すべて試験監督者の指示に従ってください。
② 試験場においては，「私語」「その他疑惑を招くような態度」はとらないでください。また，「携帯電話」，「スマートフォン」，「ウェアラブル端末」，「ふでばこ」は机の上には置かないでください。「携帯電話」，「ウェアラブル端末」は時計として使用することも禁止します。
③ 「答案用紙」に学部・学科・年次・組・学籍番号・座席番号・氏名を記入する際には，はっきりと正しく記入してください。無記名の答案用紙は無効となり，成績評価の対象外になります。
④ 試験開始後は受験放棄できません。また，試験開始後40分間は退出できません。
⑤ 「答案を持ち帰る」ことは，不正行為（カンニング）扱いとなります。

●不正行為について

「カンニング行為」だけでなく，「答案の教室外への持ち出し」「持ち込み条件で許可された以外の物の参照」「試験監督者の指示に従わなかった場合」等すべて不正行為とみなされ，神奈川大学試験不正行為等取扱内規（学長決定）に則り当該試験期間の全試験科目が無効となます。また，停学・退学などの処分となることもあります。処分については，保証人に通知します。

【参考】 ① 単純不正行為＝「戒告」
② 悪質不正行為＝「停学」
③ 不正行為が２度にわたった時＝「退学」

Ⅳ　単位認定（成績について）

1　成績評価

大学の学修は，単位制で行われています。それぞれの授業科目について所定の時間を履修し，試験その他の方法によって成績評価が与えられ，合格と判定されたとき，その授業科目の単位が与えられます。
下記の基準によって各履修科目の成績評価が行われます。

評　価	得　点	GP	合　否	
秀	100～90点	4	合　格	所期の目標を十分に達成し，特に秀でた成績を示している
優	89～80点	3	合　格	所期の目標を十分に達成し，優れた成績を示している
良	79～70点	2	合　格	不十分な点があるが，所期の目標をほぼ達成している
可	69～60点	1	合　格	所期の目標の最低限は満たしている
不　可	59点以下	0	不合格	いくつかの重要な点において所期の目標を達成していない
不　可	-(ハイフン)		不合格	出席不足やレポート未提出等で評価に至らない

学業成績を総合的に判断する指標として，グレードポイントアベレージ(以下「GPA」という。)を用います。GPA は，履修登録をした科目の得点にグレードポイント(以下「GP」という。)を付与し，GP に当該科目の単位数を乗じ，その総和を，履修登録科目の総単位数で除して算出します。
GPA は，世界標準的な大学での学生の成績評価の方法で，欧米の大学では一般に使われており，留学の際の学力を測る指標とされています。本学でも学内の各種選考における指標として活用しています。

$$\text{GPA}=\frac{(\text{秀の修得単位数}\times 4)+(\text{優の修得単位数}\times 3)+(\text{良の修得単位数}\times 2)+(\text{可の修得単位数}\times 1)}{\text{履修登録総単位数}}$$

※資格教育課程科目，及び評点の付かない各種検定試験合格者等の認定科目や合否科目は，算定の対象外です。
※履修登録総単位数には，不合格科目の単位数も含まれます。

既に履修登録済みの科目（必修科目，資格教育課程の一部科目，各学部・学科が定める一部科目等を除く）の取消しを希望する場合，所定の期間内（前学期は５月，後学期は10月を予定）に限り教務課で申請を受け付けます。これにより取消した科目は GPA 算出対象とはなりません。
なお，学部学科が定めた GPA の数値により，成績不良者には学修指導を行い，改善が見られない場合は退学勧告を行います。

2　成績発表について

「学業成績通知表」は WeB St@tion で，確認や印刷ができます。公開を一時停止することがありますので，成績発表後，各自必ず印刷をして，保管してください。
※卒業確定者は，卒業後は確認も印刷もできなくなりますので，注意してください。
①　前学期末については，９月上旬。
②　後学期末については，３月上旬。
また，成績発表後，保証人宛に「学業成績通知表」を送付します。

3　成績評価に関する問い合わせ

不合格科目の成績評価について，誤りがあると思われる確かな根拠がある場合，所定の期間内に限り教務課で「成績評価に関する照会」の申請を受け付けます。(受付後，教務課から授業担当教員に確認を行いますので，直接授業担当教員に問い合わせることを禁じます。）なお，具体性を欠く内容や嘆願的な内容の申請は受け付けません。

4　卒業要件単位に含めることができる「遠隔授業」の単位数について

2023年度より「大学設置基準」（文部省令）及び本学学則に基づき，学部（学士課程）において，卒業要件単位数に含めることのできる「遠隔授業」の単位数は60単位が上限となります。

(1)60単位の上限が適用される「遠隔授業」の単位と(2)同上限が適用されない「遠隔授業」の単位の違いは下記の通りです。

(1) 60単位の上限が適用される「遠隔授業」の単位

・時間割表や履修登録確認表，WeB St@tion 内において講堂の情報が「**遠隔（キャンパス名）**」となっている授業において修得した単位。

・単位互換制度や入学前既修得単位認定制度において，「遠隔授業」として開講していた科目を申請し，認定され修得した単位。

(2) 60単位の上限が適用されない「遠隔授業」の単位

・2020～2022年度に「遠隔授業」で開講されていた授業において修得した単位。

・「面接（対面）授業」のうち，個別の事情（「基礎疾患を有している」，「日本への入国ができない」等）により，本学の許可を受け，「遠隔授業」と同様の方法で受講し，修得した単位。

・2023年度に開講する授業について，全14回の授業回数のうち，「遠隔授業」での授業実施が４回以内の「面接（対面）授業」において修得した単位。

履修登録の際は，時間割表や履修登録確認表をよく確認し，上記(1)にあたる「遠隔授業」については，計画的に履修するよう注意してください。

V　学外単位認定制度について（単位認定の特例）

大学における各学部・学科の正規の授業科目以外に，在学中に許可を得て他大学（海外を含む）の授業科目を修得した場合，並びに指定された技能資格の審査に合格した場合は，本学における授業科目の履修とみなすことができます。この制度（「学外単位認定制度」）には下記のようなものがあり，入学前の既修得単位と合わせて60単位を限度に単位を認定し，各学科の卒業要件単位に算入することができます。

1　横浜市内大学間の単位互換

「横浜市内大学間の単位互換に関する神奈川大学取扱規程」に基づき，許可を得て派遣された他大学において修得した授業科目の単位を認定する制度です。

詳細は『履修要覧』の「学則及び諸規程」にある「横浜市内大学間の単位互換に関する神奈川大学取扱規程」を参照してください。

制度適用大学は次のとおりです。

関東学院大学・國學院大學・鶴見大学・桐蔭横浜大学・東洋英和女学院大学（女子のみ）・フェリス女学院大学（女子のみ）・東京都市大学・明治学院大学・横浜国立大学・横浜商科大学・横浜市立大学

2　国内大学間の単位互換による単位認定

本学と協定又は覚書を締結している国内の大学において，「国内大学間の単位互換に関する神奈川大学取扱規程」に基づき修得した授業科目の単位を認定する制度です。本学では，2019年に山形大学と包括連携協定を締結したことにより，山形大学で開講する主に集中形式の体験型授業科目を履修することが可能です。手続き等の詳細は各キャンパスの教務課へお問い合わせください。

3　海外留学の単位認定

「学生の海外留学に関する取扱規程」に基づき，許可を得て外国の大学等で正規の授業を受け修得した単位を，本学の授業科目として個別に振り替えて認定します。単位認定をうけるためには，留学終了後に，国際センターへ所定の申請書を提出してください。詳細は『履修要覧』の「各種案内」にある「語学研修及び留学について」「学則及び諸規程」にある「学生の海外留学に関する取扱規程」を参照してください。

4　海外語学研修の修了による単位認定

本学が主催又は推薦する海外語学研修に参加し所定のプログラムを修了した者について，所定の単位を認定します。詳細は『履修要覧』の「各種案内」にある「語学研修及び留学について」「学則及び諸規程」にある「海外語学研修の単位認定に関する取扱規程」を参照してください。

5　各種検定試験（文部科学省認定及びそれに準じる技能資格の審査）に合格した者の単位認定

大学以外の教育施設等における学修として，文部科学省認定及びそれに準じる技能資格の審査に合格した者について所定の単位を認定します。学部学科によって認定条件が違いますので注意が必要です。詳細は『履修要覧』の「学則及び諸規程」にある「各種検定試験合格者の単位認定に関する取扱規程」を参照してください。

Ⅵ　卒業について

１　卒業要件について

大学を卒業するためには，以下の２点を満たさなければなりません。

①　４年次を１学期以上含め，通算して４年（８学期）以上在学（ただし，休学期間は除く）する。

②　各学部・学科によって定められている卒業要件単位数を修得する。

２　９月期卒業について

４年次の９月末日時点で，４年（８学期）以上在学し，定められている卒業要件単位数を修得した者は，自動的に９月期卒業対象者となります。

※定められている卒業要件単位数を修得した者で，翌年３月末日までの在籍延長を希望する者は，指定の期日までに教務課に在籍延長を申請しなければなりません。対象者には，WeB St@tion でお知らせします。

Ⅶ　進級について

1　進級要件について

進級要件（単位・科目等）を定めていない学部・学科は，次に示す①の条件のみで進級となります。
進級要件（単位・科目等）を定めている学部・学科は，次に示す①，②の条件双方が必要となります。

●１年次→２年次
　①　通算して１年（２学期）以上在学（ただし，休学期間は除く）する。
　②　各学部・学科によって定められている授業科目及び単位数を修得する。
●２年次→３年次
　①　２年次を１学期以上含め，通算して２年（４学期）以上在学（ただし，休学期間は除く）する。
　②　各学部・学科によって定められている授業科目及び単位数を修得する。
●３年次→４年次
　①　３年次を１学期以上含め，通算して３年（６学期）以上在学（ただし，休学期間は除く）する。
　②　各学部・学科によって定められている授業科目及び単位数を修得する。

2　年度途中での進級について

前学期終了の時点で進級要件を満たしても年度途中での進級（学籍年次の移行）は行いません。

3　休学した学生等の学籍年次の移行（進級）

１．「休学した学生の学籍年次の移行（進級）に必要な在学期間」については，「学期単位」を基準とし，入学時から起算して「複数学期（２，４，６）以上在学した者」は，各年度当初において次の基準により，学籍上「次年次へ移行（進級）」できます。
　ただし，各年次とも「最低１学期以上在学」しなければなりません。

①　１学期間（０．５年）の在学者……次年度……１年次
②　２学期間（１．０年）の在学者……次年度……２年次
③　３学期間（１．５年）の在学者……次年度……２年次
④　４学期間（２．０年）の在学者……次年度……３年次
⑤　５学期間（２．５年）の在学者……次年度……３年次
⑥　６学期間（３．０年）の在学者……次年度……４年次

２．「進級制度」のある学部・学科については，進級要件を満たさなければ次年次へ進級できません。
３．年度途中における「学籍年次の移行（進級）」は行いません。
４．進級要件を満たすことができなかった者（原級者）の「学籍年次の移行（進級）」についても上記に準じて取り扱います。

5．休学した学生等の学籍年次の移行（進級）の事例

(1) 通常の場合

1年次		2年次		3年次		4年次	
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧

○印の数字は学期を示す。

卒業

(2) 休学者の事例

1年次				2年次		3年次		4年次	
①	休	休	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧

卒業

(3) 9月卒業の事例

1年次		2年次		3年次				4年次			
①	②	③	④	休	休	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨(注1)	※

（留年）　9月卒業可

（注１）　４年次の⑨学期において卒業要件を満たした者は，９月卒業が可能になります。

(4) 進級制度のある学科の事例

1年次		2年次						3年次		4年次	
①	②	③	④	⑤(注2)	休	休	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

（原級）　（原級）　進級　9月卒業可

（注２）　２年次の⑤学期において進級要件を満たした者は，翌年度に次年次へ進級できます。
ただし，年度途中での進級は行いません。

Ⅷ　休学・復学・退学・除籍について

1　休学

病気・けが，その他の理由により，長期にわたり（引き続き３ヶ月以上）修学できない場合は，休学を願い出ることができます。休学期間は在学年数に算入しません。休学には手続きやその他の制約があり，また学費が減額されることがありますので，休学をする際は早めに修学キャンパスの学生課に相談してください。

休学の種類と期間及び願い出有効期日は，つぎのとおりです。

休学の種類	対象となる期間	願い出有効期日（最終日）	学費（在籍料）	当該年度の成績について
通年休学	４月１日～翌年の３月31日	当該年６月30日	第１分納期（４月28日）までに１年間の休学が認められた場合の年間の学費は，100,000円	すべて認定されません。
前学期休学	４月１日～９月30日	当該年６月30日	第１分納期（４月28日）までに前学期の休学が認められた場合の前学期学費は，50,000円	通年及び前学期科目の成績は認定されません。
後学期休学	10月１日～翌年の３月31日	当該年12月31日	第２分納期（10月31日）までに後学期の休学が認められた場合の後学期学費は，50,000円	通年及び後学期科目の成績は認定されません。

注意事項

(1) 休学の期間は，当該年度限りとし，年度をまたぐ休学は認められません。
(2) 休学の期間は，通算して３年（６学期）を超えることができません。
(3) 休学の開始日は，大学が受け付ける日以降とし，願い出前に遡ることはできません。

2　復学

復学の時期は，年度始め（４月１日）又は，後学期始め（10月１日）です。

通年休学した者が，事情により前学期休学に変更したい場合は，願い出により，後学期から復学することができます。その場合は，７月の上旬までに学生課へお問い合わせください。

3　退学

本学を退学する場合は，修学キャンパスの学生課で手続きをしてください。

4　除籍

以下のいずれかに該当する場合，「除籍」となります。（学則第48条参照）

①　通算して在学８年（16学期）を超えてなお卒業し得ない者。
②　進級制を実施している学部・学科の学生で，通算して在学４年（８学期）を超えてなお３年次への進級要件を満たし得ない者。
③　所定の授業料・履修費・研修料その他の納入金を期日までに納入しない者。

Ⅸ　大学から在学生のみなさんへの連絡方法

1　学修支援ポータルサイト「WeB St@tion」

「WeB St@tion」は，学修支援のために構築された本学独自のポータルサイトです。
このサイトには，「教員からのお知らせ」「事務からのお知らせ」「定期試験情報」「休講情報」「補講情報」「時間割変更」「講堂変更」など，重要な情報が随時掲載されますので，こまめに確認するようにしてください。

Ｘ　緊急時に伴う授業の臨時休講措置について

次のような場合には，状況に応じて授業の臨時休講措置をとることがあります。
なお，定期試験も同様の取り扱いとするほか，資格取得講座，公開講座の休講措置もこれに準じての対応となります。

臨時休講する場合は，本学公式ホームページＴＯＰの「重要なお知らせ」でお知らせします。

１．災害等により交通機関の指定区間が全面的に不通となり，通学に大きな支障が生ずると判断した場合

【授業休講の対象となる交通機関及び条件】

◎横浜キャンパス・みなとみらいキャンパス

JR 東海道線（東京～小田原間），JR 横須賀線（東京～久里浜間），JR 京浜東北・根岸線（東京～大船間），JR 横浜線（東神奈川～八王子間），東急東横線・みなとみらい線（渋谷～元町・中華街間），京浜急行線（品川～三崎口間），相模鉄道線（横浜・羽沢横浜国大～海老名・湘南台間），小田急小田原線・江ノ島線（新宿～小田原・片瀬江ノ島間），相鉄・東急 新横浜線（西谷～日吉間）及び横浜市営地下鉄ブルーライン・グリーンライン（湘南台～あざみ野間，中山～日吉間）のうち，２路線以上の指定区間が不通となり，運行再開が見込まれない場合

※　事故・車両トラブル等によるダイヤの乱れ（遅延，運休，運転見合わせ等）や，他の交通機関による振替輸送が実施されている場合は運行しているものとみなします。（授業に遅れる場合は授業担当者に「遅延証明書」を提示する等，申し出るようにしてください。）

２．気象庁等により神奈川県下に発令された特別警報，暴風警報又は大雪警報（大雨・洪水・波浪警報は対象外）をもとに，大学において危険であると判断した場合

※　気象状況が時間の経過とともに悪化することが事前に十分予測される場合は，警報の発令によらず臨時休講措置を決定することがあります。

３．大規模地震の「警戒宣言」が発せられた場合

４．上記のほか，授業の実施に重大な支障があると判断した場合

■交通機関運転再開・気象警報解除等に伴う授業再開の基準

・午前６時00分までに運転が再開・警報が解除された場合　→　１時限目から授業を実施
・午前10時00分までに運転が再開・警報が解除された場合　→　３時限目から授業を実施
・午後２時00分までに運転が再開・警報が解除された場合　→　５時限目から授業を実施

※　気象状況及び交通機関の運転状況によっては，警報が解除される前に授業再開を決定することがあります。

授業を再開する場合は，本学公式ホームページＴＯＰの「重要なお知らせ」でお知らせします。

XI　事務取扱窓口

主な事務取扱窓口は，次のとおりです。

窓口	取扱時間	主な取扱内容	場所
教務課	月～金　8:45～18:00 土　8:45～16:30	履修・学修相談，授業，試験，成績，証明書 学習相談（英語・数学・文章表現）， ステューデント・アシスタント	2階
資格教育課程課	月～金　8:45～18:00 土　8:45～16:30	教職課程，社会教育課程，学芸員課程，日本語教員養成課程	
学生課	月～金　8:45～18:00 土　8:45～16:30	奨学金，クラブ・サークル，休学・退学など	
国際課	月～金　8:45～18:00	留学，海外語学研修，外国人留学生支援など	
就職課	月～金　8:45～18:00 （相談受付9:00～17:30） 土　8:45～16:30 （相談受付9:00～15:30）	進路・就職相談，就職講座主催など	
なんでも相談コーナー	月～金　9:00～16:00	障がいのある学生の支援など	
ＫＵポートスクエア	月～土　9:00～17:00	資格取得講座，生涯学習エクステンション講座	
社会連携課	月～金　8:45～16:30	自治体・企業等との社会連携活動 みなとみらいキャンパスソーシャルコモンズの運用 高大連携事業など	1階

注意
※取り扱う内容によっては，窓口取扱時間が異なる場合があります。各課担当者までお問い合わせください。
※夏季・冬季休業期間及び後学期末試験期間終了後～3月末日までは，窓口取扱時間が異なります。
　詳細については，大学ホームページ，掲示，学内広報誌『神大 Style』等でお知らせします。
※日曜・祝日（授業日を除く）・振替休日及び大学休業日（入学試験日など）は，窓口取扱を行いません。

3　共通教養科目

共通教養教育の目的及び基本方針

共通教養教育

教育目標

現代の国際社会は地球規模で考えなければならない問題に溢れています。１つの国で紛争が起これば世界中の経済や政策，人々の生活に影響が及びますし，１つの国で排出した汚染は大気や海洋を通して世界中に拡がり，また地球温暖化は世界中の気候変動を引き起こし，多くの地域の人々の生活に影響を与えます。これからのますます複雑化し，変化し続ける時代を生き抜いていく皆さんには，地球規模で人々の幸せな生活に積極的に貢献する人，すなわち「２１世紀型地球市民」になって欲しいと願っています。

そのために共通教養教育では本学の教育目標を踏まえ，社会に積極的に貢献できる２１世紀型地球市民となるための学びを教育目標としています。

２１世紀型地球市民となるために必要な学び

１．幅広い分野や分野横断的な知識，地球規模での問題を解決するための知識を身につける
　○幅広い分野や分野横断的な知識を身につける
　○SDGs に代表される問題をグローバル・ローカルの両面から理解する
　○変化する現代における地域社会や国際社会の様々な問題を発見し解決する

２．世界に開かれた態度を持ち，行動を起こす力を身につける
　○様々な情報を適切に精査し，情報に基づいて論理的に思考し，意見を述べる
　○異なる背景の人への尊敬の念を持ちつつ，共通の理解と相互の効果的コミュニケーションをはかる
　○何らかの対立・葛藤のある状況については，相互に共有できる解決をめざして対応・対話する

３．人間の尊厳と多様性を尊重する価値観を持つ
　○他の文化的背景を持つ人々を理解し心を開く
　○全ての人の尊厳や信条，意見，行動の選択の権利を尊重する
　○地球市民としての高い公共性と倫理観を持つ

カリキュラム・ポリシー　（教育課程編成・実施の方針）

共通教養教育ではこの２１世紀型地球市民となるための学びを具体化し，以下に示した方針でカリキュラムを編成しています。

１．教育課程の編成・実施

（１）　初年次ゼミナール（FYS）を設け，大学生活に順応し，情報リテラシー，メディアリテラシー，スタディースキルを身につけ，本学が掲げる SDGs やダイバーシティについても学びます。

（２）　人文，社会，自然，人間形成という幅広い分野の科目を履修し，批判的思考を身につけ，分析，考察できる力，及び見解を論理的に論じる力を身につけるための基礎的知識及び教養を身につけます。

（３）　共通テーマ科目「現代社会と市民」を配置し，変化する現代の地域社会や国際社会での様々な問題を発見し，地球規模での問題解決にも貢献できる力を涵養します。

（４）　英語，韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語の科目を配置する外国語については，今日のグローバル社会に必須である効果的なコミュニケーションをはかるための実用的外国語能力の養成に努めます。また，実用的能力と併せて世界の多様性への認識や異文化理解を促進し，世界の動勢にアンテナ

を張り，情報を収集して平和を希求する地球市民として積極的に行動する力を身につけます。

（5）　「文章表現基礎演習」を配置して，分野を問わず大学の学びに不可欠な論理的思考法を身につけ，文章によるコミュニケーション能力を高めます。

（6）　「教養データサイエンス」を配置して，これからの現代社会に必須の数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能をもとに人間中心の適切な判断を下す力を涵養します。

（7）　「キャリア教育」は，働く人々を取り巻く社会環境の変化を捉えた上で，社会的・職業的な自立に向けた意欲・態度・職業観を育んでいきます。長い人生をどのように生きるか，職業人として社会とどのように繋がっていきたいのかを考えます。

（8）　「体験型研修」（文化・スポーツ体験，自然体験，地域貢献・社会体験等）では，現地に足を運ぶ，実物に触れる,多様な人びとと協力し合い行動するなど,新しい経験を通じて実践的能力と人間的成長を促進します。

（9）　各分野への導入と学部専攻科目を連関させるための科目を配置しています。

2．教育の方法と評価

（1）　それぞれの科目においてこの教育目標達成のため，グループワーク，ディスカッション，論文作成，プレゼンテーション，フィールドワーク等の教育方法の工夫をしています。

（2）　それぞれの科目において教育方法の工夫により，批判的思考力，論理的思考力，創造的思考力を身につけ，他者との関係性を構築し，コミュニケーションを発展させられる力を身につけられるようにしています。

（3）　外国語科目では，習熟度別（英語）ならびに少人数制により，個人の到達レベルに合うきめ細やかかつ効果的な教育ができるように配慮しています。個人の興味や留学などの目標の実現のために，検定試験や会話等の授業を充実させることにより語学能力のさらなる伸長を図ります。

（4）　外国語科目では，外部検定試験をプレイスメントテストとして全学生に複数回実施（英語），単位認定制度・報奨制度を設けて検定試験の受験を強く推奨，ICT を利活用，授業外でいつでもネイティブスピーカーと話せる場所の設置，スピーチ大会を開催，等により授業内外で学生の語学習得をサポートすることに努めています。

（5）　科目の性質により，ゲストスピーカーを招いて実社会の現場の状況を聞く機会を設けています。
科目によっては，体験や実習を通して実学教育を重視します。

（6）　学生による研究発表会，体験報告発表会等のイベント参加，地域貢献活動などのような，学生個人の努力が自他共に理解され，相互の刺激となる機会を設けています。

（7）　単位制度の実質化を図るため，成績評価の方法及び基準を明確化し，成績評価を厳格化しています。

共通教養科目

共通教養科目は，１年次から４年次まで全年次を対象として開講されている科目です。下の図のようにいくつかの分野に分かれています。各分野には卒業までに修得しなければならない単位数（卒業要件単位数）が，また一部の学科では進級に必要な単位数が定められています。この単位数は，入学年度，学部・学科で異なりますので，必ず専攻科目のページに記載の「卒業要件」「進級要件」を確認してください。

共通教養科目							
共通基盤科目							共通テーマ科目
初年次ゼミナール	外国語科目	教養基礎演習	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	現代社会と市民

共通教養科目 共通基盤科目

「共通基盤科目」では幅広い分野にわたる教養や基礎的学力，ジェネリック・スキル（一般的・汎用的な有用性をもつスキル）の育成を旨として，以下の科目を開講しています。

１　初年次ゼミナール（ＦＹＳ）（必修）

ＦＹＳは全学共通の初年次教育科目（必修）です。ＦＹＳとは，ファースト・イヤー・セミナー（First Year Seminar）の略で，新入学生（１年次生）は少人数のクラスに分かれ，「大学への入門」をセミナー（演習）形式で学びます。本学では，このＦＹＳを通して新入学生が大学での学修により早く適応できるようにサポートしています。

２　外国語科目（必修）

今日のグローバル社会において，外国語運用能力がますます不可欠となっていることから，外国語能力の一層の充実を図っています。

３　教養基礎演習

「文章表現基礎演習」「教養データサイエンス」を配置しています。

「文章表現基礎演習」では，論述試験解答やレポートに必要な，論理的な文章の書き方を学び，添削指導によるフィードバックも受けられます。論文・レポートの基礎が身に付くとともに，文系・理系を問わず大学の学びに不可欠な，論理的思考法も身に付きます。情報化の進む現代社会では，文章コミュニケーションが重視されます。「文章表現基礎演習」で身に付けた論理的文章力，思考力は，学生生活のみならず，社会に出てからも大きな力になるはずです。

「教養データサイエンス」では，今や社会のトレンドとなっているデジタル化，ビッグデータの利用，人工知能技術の普及についての基礎となる知識を学びます。文系・理系を問わずこれからの時代を生きる人間には必須の知識が理解できるだけでなく，データをどう活用すれば人々の役に立ち社会を変革していけるか，基礎となる考え方が身に付きます。これらを科学技術の専門に偏ることなくどの分野の学生にも分かり易く教えます。こうして得た見識に立って大学

での学びを組み立てて行くことが，全ての学生に求められています。
これらの科目は特に**初年次にＦＹＳと合わせて履修することを強く推奨**します。

4　人文の分野

過去から現在に至るまで，人は常に「人間」の存在に関心を抱き，その探究に力を注いできました。「人文の分野」では，哲学・宗教・心理・歴史・文学・言語などの諸分野の学修を通して，人間の存在に関わる様々な事柄とその本質，あるいは人間が生み出した多様な文化とその価値を，これまでよりも広く深く学び，豊かな教養を身に付けることを目的としています。学生の皆さんには，この分野の学修を通して人間社会がこれまで積み上げてきた多様な価値観と豊かな文化を理解し，国際社会で通用する幅広い視野と文化的感覚・知的能力を培っていただきたいと思います。

5　社会の分野

現代社会は多様化と複雑化の一途をたどり，便利さと同時に様々な問題をも生み出しています。例えば，国境を越えたヒト・モノ・カネの移動は，政治や経済のみならず教育や文化，さらには環境や食品などの分野にも大きな影響を与えています。このような現代社会をどのように把握したらよいのでしょうか。「社会の分野」における科目は，現代社会の多様な諸問題を，学際的かつ多面的に理解するために必要な，様々な学問分野の基礎的概念（理論と体系）を学ぶことを目的としています。学生の皆さんには，政治学，経済学，法学，社会学などそれぞれの学問分野の知識や思考方法を身に付け，多様な問題を解決するために必要な能力を修得していただきたいと思います。

6　自然の分野

人文，社会，自然など，どのような分野であれ，私たちが何かの対象について理解しようとするとき，ただそれらを漠然と眺めているだけでは理解することはできません。対象を理解するためには，それにふさわしい言葉，方法，道具からなる枠組みが必要になります。私たちを取り巻く自然の成り立ちや変化，また私たち人間と自然との関わりを理解しようとするときに，必要となる基本的な言葉，方法，道具を提供するのが「自然の分野」の科目群です。具体的には，自然を表現するために必要となる普遍的な言葉（概念，数式等）を提供する数学関連の科目，これらの言葉を用いて自然の成り立ちや変化を理解する方法と道具を提供する物理，化学，生物関連の科目，さらにこれらの基本的な方法や道具が，実際の社会でどのように応用されているかを知る工学関連の科目を配置しています。
自然の分野における考え方・方法と，人文や社会の分野における考え方・方法との違いを知ることは，自分の理解の幅を広げることにつながりますので，人文や社会の分野と自然の分野をバランスよく履修することを勧めます。

7　人間形成の分野

「人間形成の分野」は，「幅広い教養と豊かな人間性」を育む分野として，本学での学びを人間形成の観点から自覚的に捉えることを促す主旨で設置しています。具体的には，世界と日本の労働環境と社会環境の変化について学び，その中で自分らしい生き方や働き方を考える「キャリアデザイン」。より実践的な形で自分らしい働き方を探究する「国内インターンシップ」「海外インターンシップ」。そして，健康に関する理論と運動実践を通して，社会生活でも必要な自己管理の動機付けとなる知識とその方法を学ぶ「健康科学に関する科目」を配置しています。またこの分野では，本学創立者である米田吉盛の教えや本学で学んだ人たちの足跡を知る「神奈川大学の歴史」を配置していることも特徴です。さらに，様々な体験を基に新たな領域を学び，興味関心を拡げることを目的とした「体験型研修」「手話入門」「芸術」なども配置されているため，多種多様な経験を得る機会の多い「人間形成の分野」を大いに活用していただきたいと思います。
なお，体験型研修については，後掲の【体験型研修について】の頁に記載されているQRコードにて詳細を確認してください。

共通教養科目 共通テーマ科目

「共通テーマ科目」は，現代の諸課題を扱うため，学際的性格あるいは既存の学問分野を越境する性格をもつ科目で，学生が世界と自己との関係性を自立的・主体的に捉えるという基本的視座の形成に資することを目標としています。

こうした主旨・目標のもと，「現代社会と市民」をテーマとし，現代社会における市民の生存，生活，活動にかかわる諸課題を取り上げ，既存の学問分野を横断する学際的な科目として次の７つのサブテーマに基づいた科目を開講しています。

(1) 世界の中の日本　(2) 社会と人間　(3) 科学技術と社会　(4) 社会生活とスポーツ

(5) 公共の新しいかたちをもとめて　(6) 環境と社会　(7) 科学の世界

共通教養科目　履修要領・教育課程表　(2020年度入学者から適用)

（1）卒業するために必要な単位数（卒業要件単位数）は，各学科で異なるため，各学科専攻科目の『教育課程表』で確認してください。
（2）同一授業科目は，重複して履修することはできません。
（3）『授業時間割表』上で，科目名が赤字の共通教養科目は，履修制限を行う授業科目です。履修の許可は抽選によりますので，『学修スタートガイド』を参照して手続きしてください。
（4）「人間形成の分野」の「体験型研修」は，体験を通して学びを深める科目です。体験する内容の特性に応じて授業計画が立てられており，学外での実習も予定されています。詳細は【体験型研修について】の頁に記載されている概要の QR コードにて確認してください。
（5）履修方法の詳細については，本『履修要覧』とともに，『学修スタートガイド』『授業時間割表』『シラバス』を熟読してください。

1　共通教養科目（外国語科目を除く）教育課程表

2023年度　共通教養科目(外国語科目を除く)　教育課程表　(2020年度入学者から適用)

			全年次対象							
			前学期				後学期			
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教養科目	共通基盤科目	初年次ゼミナール	ＦＹＳ（1年次対象）	2						
		外国語科目	別表							
		教養基礎演習	文章表現基礎演習	2	教養データサイエンス (2022年度入学者から適用)	2	文章表現基礎演習	2	教養データサイエンス (2022年度入学者から適用)	2
		人文の分野	哲学 倫理学 宗教学 心理学 文学 日本語学	2 2 2 2 2 2	言語学 世界史 日本史 民俗学 考古学 文化人類学	2 2 2 2 2 2	哲学 倫理学 宗教学 心理学 文学 日本語学	2 2 2 2 2 2	言語学 世界史 日本史 民俗学 考古学 文化人類学	2 2 2 2 2 2
		社会の分野	社会学 人文地理学 国際関係概論 法学 日本国憲法 政治学 社会心理学	2 2 2 2 2 2 2	経済学 ジェンダー論 ボランティア論 経営学 生涯学習論 ◇日本事情	2 2 2 2 2 2	社会学 人文地理学 国際関係概論 法学 日本国憲法 政治学 社会心理学	2 2 2 2 2 2 2	経済学 ジェンダー論 ボランティア論 経営学 生涯学習論 ◇日本事情	2 2 2 2 2 2
		自然の分野	基礎数学 数学 統計学 基礎物理学 物理学 基礎化学 化学	2 2 2 2 2 2 2	基礎生物学 生物学 コンピュータ概論 物理科学 生命科学 科学技術史	2 2 2 2 2 2	基礎数学 数学 統計学 基礎物理学 物理学 基礎化学 化学	2 2 2 2 2 2 2	基礎生物学 生物学 コンピュータ概論 物理科学 生命科学 科学技術史	2 2 2 2 2 2
		人間形成の分野	キャリアデザイン 国内インターンシップ 海外インターンシップ 体験型研修 手話入門	2 2 2 2 2	神奈川大学の歴史 健康科学とスポーツⅠ 教養スポーツ 公衆衛生 芸術	2 1 1 2 2	キャリアデザイン 国内インターンシップ 海外インターンシップ 体験型研修 手話入門	2 2 2 2 2	神奈川大学の歴史 健康科学とスポーツⅡ 教養スポーツ 公衆衛生 芸術	2 1 1 2 2
	共通テーマ科目	現代社会と市民	社会と人間 科学技術と社会 世界の中の日本 公共の新しいかたちをもとめて	2 2 2 2	社会生活とスポーツ 環境と社会 科学の世界	2 2 2	社会と人間 科学技術と社会 世界の中の日本 公共の新しいかたちをもとめて	2 2 2 2	社会生活とスポーツ 環境と社会 科学の世界	2 2 2

【備　考】
1．◇印は外国人留学生（外国高等学校在学経験者〔帰国生徒等〕を含む。）を対象とした科目を示す

体験型研修について

体験型研修は、人や自然・文化・社会等と関わる活動を直接経験できる実践的な授業です。
少人数教育・双方向性教育を特色とします。
〇現地に足を運び、実物に触れること。
〇多様な人々と交流・協力し合い行動すること。
〇地域社会の課題解決に貢献すること、など。
新しい経験を通じて実践的能力と学部や世代を越えたコミュニケーション力を高めます。
授業は、「文化・スポーツ体験」、「自然体験」、「地域貢献・社会体験」など、多様な「体験型研修」の授業があります。
詳細は、実施要項とシラバスでご確認下さい。

2023年度体験型研修の実施要項　　シラバス

2023年度体験型研修開講科目一覧

開講キャンパス	実施学期	開講区分	時間割コード	開講科目名（2020年度以降入学者／2019年度以前入学者）	実習内容（副題）
横浜	前学期	前学期	11FL001	体験型研修／スポーツ文化Ⅲ 【基礎からはじめるゴルフ】	初心者から上級者用のプログラムの実施
			11FL002	体験型研修／スポーツ文化Ⅲ 【基礎からはじめるゴルフ】	初心者から上級者用のプログラムの実施
			11FL006	体験型研修／日本の伝統文化と地域連携 【囲碁】	囲碁で養うロジカルシンキング
			11FL008	体験型研修／自然の体験学習 【野外での自然観察】	湘南ひらつかキャンパスビオトープとその周辺の里地里山での自然観察と農村体験
			11FL010	体験型研修／－ 【食育わくわく体験】	仲間と共に地域課題を考える
			11FL011	体験型研修／－ 【法的交渉入門プログラム】	法律的トラブルに対応するための知識を獲得する
		集中	11FL003	体験型研修／スポーツ文化Ⅲ 【マリンスポーツの多種目実践】	シーカヤック・サーフィン・ウィンドサーフィン・シュノーケリングと海上安全・気象の講義
	後学期	後学期	11FL004	体験型研修／スポーツ文化Ⅲ 【基礎からはじめるスノースポーツ】	生涯スポーツの実践（スキー・スノーボード）
			11FL005	体験型研修／スポーツ文化Ⅲ 【基礎からはじめるスノースポーツ】	生涯スポーツの実践（スキー・スノーボード）
			11FL007	体験型研修／日本の伝統文化と地域連携 【囲碁】	囲碁で養うロジカルシンキング
			11FL009	体験型研修／自然の体験学習 【野外での自然観察】	湘南ひらつかキャンパスビオトープとその周辺の里地里山での自然観察と農村体験
みなとみらい	前学期	前学期	21FL006	体験型研修／日本の伝統文化と地域連携 【囲碁】	囲碁で養うロジカルシンキング
			21FL008	体験型研修／－ 【みどりの鎌倉】	フィールドワークとボランティア
			21FL010	体験型研修／－ 【ひらめき鑑賞学】	みんなで「ひらめき」を生み出す美術鑑賞
		集中	21FL001	体験型研修／生涯スポーツＡ 【ゴルフ】	ゴルフの甲子園でナイスショット！
			21FL002	体験型研修／生涯スポーツＣ 【鎌倉でマリンスポーツ】	運動学習と自然共生
	後学期	後学期	21FL007	体験型研修／日本の伝統文化と地域連携 【囲碁】	囲碁で養うロジカルシンキング
			21FL009	体験型研修／－ 【石造物で知る歴史と文化】	川崎市での石造物調査
		集中	21FL003	体験型研修／海の体験学習 【横浜内港でのシーカヤック実習】	シーカヤックに乗艇して海洋に関する知見を深めよう
			21FL004	体験型研修／海の体験学習 【横浜内港でのシーカヤック実習】	シーカヤックに乗艇して海洋に関する知見を深めよう
			21FL005	体験型研修／生涯スポーツＤ 【スノースポーツ（スキー・スノーボード）】	北海道富良野でJapowを体験しよう！

〇「体験型研修」は、1科目のみ履修が可能です。
〇「体験型研修」は、キャンパスに関わらず履修することができます。
〇「体験型研修」は、授業によって別途費用（自己負担）が掛かります。
〇「体験型研修」の内容や実施日（土日・祝日）、場所等の詳細は、授業担当教員から説明があります。
〇「体験型研修」の履修希望者が多い場合、抽選となります。
〇「体験型研修」の履修者数が少ない場合は、実習内容の変更や開講を取りやめることもあります。

初年次ゼミナール（ＦＹＳ）とキャリア形成に関する科目

神奈川大学は一人ひとりの個性を大切にした教育を実践し，真の実学志向という伝統のもと，さまざまな改革を行ってきました。そして，激変する社会や時代の変化に対応するため，大学での学修の出発点で新入生に適切な助言を与え，学問に誘い学びの態勢を整える機会として「ＦＹＳ」を，大学と社会をつなぐ教育として，自己価値を向上させていくことを目的に「キャリア形成科目」を2006年度から導入しました。共通教養科目として先駆的でかつ特徴的な「ＦＹＳ」と人間形成の分野にある「キャリア形成に関する科目」について，以下に紹介します。

１　初年次ゼミナール（ＦＹＳ）について

ＦＹＳは全学共通の初年次教育科目（必修）です。ＦＹＳとは，ファースト・イヤー・セミナー（First Year Seminar）の略で，新入学生（１年次生）は少人数のクラスに分かれ，「大学への入門」をアクティブ・ラーニングを取り入れたセミナー（演習）形式で学びます。特に，大学の４年間の学修と将来の社会生活において，必要不可欠な「情報リテラシー」の基本をまず確実に身に付けます。本学では，このＦＹＳを通して新入学生が大学での学修により早く適応できるようにサポートします。

新入学生のみなさんは，この科目の履修を通して「高校と大学との違い，神奈川大学の歴史と今，情報リテラシー，メディアリテラシー，本学が掲げるSDGs，ダイバーシティ，そして今後の授業で必須となるスキル（読み・書き・調べる力・情報を読み解く力・問題発見力・表現力・プレゼンテーション能力）等」を学び，主体的に学修に取り組む姿勢を修得してください。

具体的には，以下のような能力を身に付けた学生の育成をめざします。

〔大学で学ぶための視点〕

① 大学で学ぶことの意味を理解し，自分を客観視することができる。
② 事象や既存の理論に対して「問題」を発見し，また疑問を提示することができる。
③ 自らの能力を自己評価でき，新たな達成目標を設定することができる。
④ 「情報リテラシー」の基本を理解し，大学での学びや生活において適用することができる。

〔大学で学ぶための方法〕

① 大学の組織と沿革を知り，また学修支援システムを自立的・継続的・多面的に利用できる。
② 教育課程を理解し，４年間の学修計画をたてることができる。
③ 図書館の利用により，独自に文献・資料等を検索又は収集できる。
④ 既存の文書を指示された要件に従って要約・再構成でき，また，完成度の高いレポートや小論文を期限内に完成できる。
⑤ グループ学習に際しては，協調性をもって主体的に参加することができ，また意見を述べることができる。
⑥ プレゼンテーションに際しては，自ら資料を作成し，論点を整理し，所要時間内に口頭発表ができる。

授業回数は，前学期（半期）14回を，「大学への適応」（前半７回）と「基本的なスタディー・スキルの涵養」（後半７回）とし，「大学への適応」では，大学生活を送るうえで必要な知識や態度を，「基本的なスタディー・スキルの涵養」では，大学で学ぶための基礎的技法を実践的に学びます。

なお，事前・事後課題については毎回教員から指示があり，予習・復習合わせて各回あたり約４時間の自己学習が必要です。

第１編　大学への適応（前半７回）
　第１回　ガイダンス
　第２回　主体的に授業に取り組む①
　第３回　神奈川大学を知る
　第４回　情報を読み解く
　第５回　図書館利用ガイダンス
　第６回　主体的に授業に取り組む②
　第７回　主体的に授業に取り組む③

第２編　基本的なスタディー・スキルの涵養（後半７回）
以下には，７回を２課題として取り組む際の標準的な例を示します。
第８回　レポート作成やプレゼンテーション（１回目）①　～課題設定～
第９回　レポート作成やプレゼンテーション（１回目）②　～資料収集～
第10回　レポート作成やプレゼンテーション（１回目）③　～具体的表現～
第11回　レポート作成やプレゼンテーション（１回目）④　～相互での確認，問題改善とその発見～
第12回　レポート作成やプレゼンテーション（２回目）⑤　～課題設定・資料収集～
第13回　レポート作成やプレゼンテーション（２回目）⑥　～具体的表現～
第14回　レポート作成やプレゼンテーション（２回目）⑦　～相互での確認，問題改善とその発見，まとめ～

このＦＹＳは少人数による演習（セミナー）科目です。毎回の出席はもちろんのこと，課題の提出，グループでの学修や作業，そして討論やプレゼンテーションなど，学生の主体的かつ積極的な参加が求められます。
成績評価は，課題，レポート，プレゼンテーション等の内容70%，授業に参加する姿勢30%を目安とします。

２　キャリア形成に関する科目について（共通基盤科目「人間形成の分野」）

変化の激しい社会において，長い職業人生を自分らしく主体的に生きるために，キャリア形成に関する科目では大学生活のスタートとともに，自己のキャリアデザインに取り組みます。大学卒業後の進路を見据え，社会人，職業人としてどのように生きていくのかを考えるための視点を得て，受講者が自分自身について考え，おおまかなプランが描けるようになることをめざします。
キャリアは単に職業経歴を意味するのではなく，生涯をどのように生きるか，職業人として社会とどのように繋がるのかを求めていく，その人らしい生き方のプロセスを指します。自分らしく生きていくには，何を知っておくべきかを考えてみましょう。「キャリアデザイン」はそのための授業科目であり，全学部生が共通して学ぶべきキャリアデザインの基礎を提供する科目です。
学年が進み，卒業後の職業選択が近づいたら，専攻科目での学びを職業にどう活かすか，所属する学部の卒業生はどのようなキャリアを選んでいるかなど，より専門的なキャリア研究に取り組みましょう。また「国内インターンシップ」,「海外インターンシップ」などの実践的な科目を履修して，自分らしい働き方を探求してみることも重要です。

「キャリアデザイン」
「キャリアデザイン」では，グループワークを多く採り入れて受講者同士が意見を交換し共有しながら，以下の内容を学んでいきます。

（１）キャリアとカリキュラム
まずキャリアの意味を学び，大学での学修が自己のキャリアとどのように関連し，活かされていくのかを考えます。大学での４年間にどのような意義と価値があるのか，大学時代を自己のキャリアに活かすためには何が重要かを探っていきます。

（２）社会に生きる
働くことは他者と繋がることであり，社会を支えることです。社会を見る目を養い，働く人を取り巻く社会の変化を理解します。また，働くうえで知っておくべき基本的な権利と義務について学びます。

（３）キャリアを育む
人々が働く目的はなにか，長い職業人生を，意欲とやりがいを感じながら過ごすには何が必要なのかを考えます。また，女性と男性のそれぞれのキャリアの特徴と課題を知り，将来像を描いてみます。

（４）変化に挑む
グローバル人材が求められ，AI の発達によって仕事の未来が大きく変わると言われています。では，予測できない変化に対応する力を鍛えるには，どうすればよいのでしょうか。変化の時代のキャリアについて考えたうえで，これからの大学生活をどう過ごすか，何を獲得したいかといった自己の目標と課題について検討し，意見交換します。授業の終わりには，「明日から取り組む」ことを見つけてください。

なお，「キャリアデザイン」の科目には上記の授業の他にも，企業や団体と連携し，一般の家庭へのインターンを組み込んだ体験的な授業が用意されることがあります。シラバスをよく読んで，自己のキャリアに必要な授業を履修してください。

「国内インターンシップ」

「国内インターンシップ」は，国内の企業・団体でのインターンシップに参加することを目的として開講するプログラムです。

「国内インターンシップ」の学修目的は以下の４点です。

①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る。

②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める。

③職業人になることへの意識を醸成し，働くことの心構えを学ぶ。

④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ。

大学の休業中に企業・団体で就業体験を行うために，事前授業ではビジネスマナー，コミュニケーションスキル，プレゼンテーションスキル，仕事の指示の受け方と報告の仕方，電話と面談時のマナーなどを身に付け，実習に備えます。

この科目は，実習前の事前授業，企業・団体での実習，実習終了後の成果報告の３ステップに分かれており，このすべてに出席・参加して成果をあげることで単位が修得できます。

「海外インターンシップ」

「海外インターンシップ」は，海外の企業・団体でのインターンシップに参加することを目的として開講するプログラムです。

「海外インターンシップ」の学修目的は，海外生活や業務体験で必要となる「視点・考え方・態度行動・人間関係の築き方」等の異文化コミュニケーションのあり方を理解し，実際の場で役立てられるようにすることです。

事前授業では，海外企業オフィスでのワークスタイルや慣習の違い，マナーやコミュニケーションスタイルの習得，受付・店舗等での接客接遇の仕方，電話対応・伝言・報告の仕方などを，実際のオフィスシーンを想定しながら身に付けます。また英文履歴書の書き方や，ホームステイ等の生活場面での留意点なども学び，これらを通じて海外生活への不安を軽減し，対応力やプレゼンテーション力を養います。

この科目は，海外インターンシップ実習前の事前授業と，海外の企業・団体での実習，実習終了後の成果報告の３ステップに分かれており，このすべてに出席・参加して成果をあげることで単位が修得できます。

共通教養データサイエンスプログラム

神奈川大学では，数理・データサイエンス・ＡＩを日常の生活等の場で使いこなすことができ，学修した数理・データサイエンス・ＡＩに関する知識・技能をもとに人間中心の適切な判断ができ，自らの意志でＡＩ等の恩恵を享受し，これらを説明し，活用できる人材の育成を目指します。これに伴い，2022年度入学者から，情報リテラシーを学修する「ＦＹＳ」及び数理・データサイエンス・ＡＩの基礎を学ぶ「教養データサイエンス」の単位（計２科目４単位）を修得した場合，共通教養データサイエンスプログラム修了者として取り扱います。

英語について　（2020年度入学者から適用）

社会生活を送るなかで，外国語を使って必要な事柄や気持ちを伝えたり，情報や知識をやりとりする機会が多くなりました。仕事のために否応なく外国語を使わなければならないことも確かに少なくありませんが，それよりも，外国語を身に付けることによって，より心豊かに生きてゆけるのだと考えるほうが肯定的で良い姿勢でしょう。外国語を媒介にして，より広い範囲の，文化的背景が異なる人たちと，映画・スポーツ・音楽など，自分の関心のある事柄について情報や感じ方を伝え合うのは楽しいものです。

現在，いちばん通用性の大きな外国語は英語です。ですから，少なくとも易しい英語だけは大学生のうちに使えるようにしましょう。そして，英字新聞の一般記事の大意が理解できるくらいにはしておきましょう。すでに易しい英語が使える人は，自分の専門領域について英語で意志疎通ができるようになるといいですね。

英語を使えるようにするために大事なことをいくつか書いておきます。

第一に，理解できるのと使えるのとは次元が違うということを認識してください。例えば，大学受験レベルの英語が理解できるからといって，中学校レベルの英語が使えるということではありません。理解できないものはもちろん使えませんが，理解できるというのは，使えることへの一歩なのです。

第二に，最も基礎的な水準 ― 例えば，中学校レベルの英語 ― の構文や語彙を徹底的に練習した人だけが英語を使えるようになります。このレベルの構文と語彙がすべての土台です。土台がしっかりしていなければ，その上に何を載せても崩れてしまいます。基礎レベルの英文が無意識に正しく言え，書けるようにしましょう。

第三に，英語を習得するのは，みなさん自身です。教員は習得の手助けはできますが，記憶するのはみなさんの脳であり，話すのはみなさんの口であり，書くのはみなさんの手です。これから掲げるシラバスには到達目標が書いてありますが，それに到達できるのは，教員の指示にしたがって十分に自学・自習する人たちだけです。

第四に，英語はできるだけ毎日練習するようにしましょう。スポーツや楽器と同じです。いつも練習していないと，せっかく身に付けた力もたちまち落ちてしまいます。

第五に，英語を理解することと日本語に訳すこととを混同しないようにしましょう。翻訳作業をしているのでもない限り，日本語訳は英語が理解できているかどうかを測る一つの目安にすぎません。ある文脈のなかで与えられた英文の構造，及び使用されている語彙・表現からその英文によって伝えられるべき意味が正しく理解できれば，それでいいわけです。英語を英語として理解する ― それを目標に英語学習を進めてもらいたいと思います。

神奈川大学の英語カリキュラムは，全体として，英語をコミュニケーション ― 話し言葉と書き言葉による意志・気持ち・情報・知識の相互伝達 ― の道具にすることを目指して組み立てられています。

しかし，必修科目としての英語 ― 「クラス英語」と呼んでいます ― だけでは，英語の力を伸ばすためには不十分だと言わねばなりません。ですから，それらに加えて，「選択英語」をできるだけたくさん履修してください。「選択英語」は，特に力をつけたい分野（「読解」，「会話」，「作文」，「リスニング」など）を適切なレベルで学修できるようになっています。

また，パソコンでの学習はもちろん，タブレットやスマホでも学習が可能な「英語ｅラーニング・システム」が導入され，学内・学外を問わず，オンラインで英語の自主学習ができます。本学在学中，無料で使用できますので TOEIC®や TOEFL®のスコアアップなど，授業以外でも積極的に利用し，大いに活用して力を伸ばしてください。

詳細はこちらのＱＲコードより確認してください。

では，心豊かな学生生活が送れるように頑張ってください。努力を厭わなかった人たちには，その努力の分だけ ― いえ，きっと，それ以上の達成・喜びが約束されることでしょう。

地域言語（英語以外の外国語）について

（韓国語・スペイン語・中国語・ドイツ語・フランス語・ロシア語）　（2020年度入学者から適用）

地域言語への誘い

神奈川大学で履修できる地域言語（英語以外の外国語）は，**韓国語**，**スペイン語**，**中国語**，**ドイツ語**，**フランス語**，**ロシア語**の６言語です。これは共通教養科目に限った話で，神奈川大学全体で勉強できる言語は，確認したところ14言語あります。もう８言語，分かりますか？

「地域言語」って何？

ところで「地域言語」は聞きなれない言葉かもしれません。一般的には「第二外国語」，ときには「二外」という愛称（？）で呼ばれる場合もあります。

ただ，どうしても第二外国語というと，英語以外のサブの外国語というニュアンスがつきまといます。たしかに英語は大事で，TOEIC などの試験も多く，実際に使う機会も出てくる。それに比べて，地域言語は重要度に劣るように見えるかもしれません。

試験のための外国語？

まずみなさんに考えてもらいたいのは，「試験のために外国語を勉強するのか？」ということです。試験はその字のごとく，能力があるかどうかを「試す」ものであって，その後に何をするかが大事なことです。

地域言語にも検定試験があり，英検のように独検や仏検があったりします。それを目標にして語学の勉強をがんばるのもよいでしょう。神奈川大学には検定試験合格による単位認定制度，報奨制度もあり，合格すると単位を取得できたり，受験料をカバーしてもらったりすることができます。

しかし，言語を勉強することにはそれ以上のものがあります。言語によって私たちは，世界の人びととコミュニケーションをして，日本語だけでは知ることのなかった世界の情報を知ることができます。

語学はダンスのレッスン？

みなさんは英語を子どものときから，選択の余地なく勉強してきたと思います。周りの人はすごくしゃべれるのに，自分は……と，苦手意識をもっている人もいるかもしれません。

それに対して，地域言語は，多くの人にとって初めて習う言語です。スタートラインがいっしょなので，みんなで楽しく，未知の言語にぶつかっていくことができます。頭も使いますが，口や耳など体もすごく使います！　そういう意味では，地域言語は体育，ダンスのレッスンに近いものかもしれません。

地域言語は「使えない」？

もう一つ考えてもらいたいこと，それは「言語は実用的でなければ意味がないのか？」ということです。たしかに，せっかくであれば使える方が良いでしょう。英語以外にも韓国語や中国語で接客という機会は増えていますし，これからさらにニーズは増すように思います。

それでは，日本から遠く離れた国で使われている言語には，ニーズがないから勉強する意味がないのでしょうか。そんなことはありません！　言語はコミュニケーションのツールであると同時に，世界に対する考え方，文化を映し出すものでもあります。

日本国内で報じられる国際ニュースと，アメリカの国際ニュースは異なりますし，例えばロシアの国際ニュースもまた，両者とは違う視点から世界の姿を伝えています。動画サイトを通じて皆さんは海外ドラマを見ることもあると思いますが，そこに映し出されるライフスタイルも社会背景も，ことばを通じて理解できるものとなるのです。

言語は国境を越える

また，言語は国に属しているという考えも，疑ってみてください。それは英語が世界的な広がりを示しているという話にはとどまりません。

スペイン語はスペインだけでなく，ラテンアメリカの多くの地域で使用されており，国境を越えたスペイン語圏を構成しています。フランス語はアフリカの多くの地域で使われ，アフリカでの人道支援やビジネスに必須の言語とさ

れています。

地域言語は，１つの国の言語ではなく，より広い地域をカバーする言語であり，それを勉強することは，もう１つの世界の扉を開けることなのです。

神大から「ことばの世界」へ

扉を開けた後，みなさんを待っているのは広くて深い「ことばの世界」です。「初級」の後には，「中級」・「上級」，留学や検定試験などにも対応している「特修」と，さらに言語をきわめたい人にさまざまな授業を用意しています。週１回授業の【ノーマル】ではなく，週２回授業の【ラピッド】をとれば，半年で初級や中級を終えることもできます。前学期はとらなかったという人には後学期からスタートするクラスもありますし，３・４年生からの履修でもまったく遅くはありません。

みなさんと，新しい言語をいっしょに勉強するのを楽しみにしています！　ぜひ少しでも気になる言語があったら，各言語の紹介を読んで，初回授業に顔を出してみてください。大学ホームページ「地域言語への誘い」でも，さまざまなコラム・最新情報とともに案内しています。こちらのＱＲコードから見てみてください。

大学ホームページ「地域言語への誘い」
https://www.kanagawa-u.ac.jp/international/regionallanguage/

履修の際に注意すること

履修可能な言語

韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語を開講しています。

学部・学科によって履修方法や必要な単位数が異なりますので，『履修要覧』の「外国語科目の履修要領・教育課程表」を必ず確認してください。また，各授業の具体的な内容は担当者により多様ですので，あらかじめ講義計画（シラバス）を熟読したうえで履修することが必要です。

レベルと授業運営方式

「初級」・「中級」・「上級」・「特修」のうち，「初級」と「中級」の授業運営方式には，週１回のノーマル方式［標準］と週２回リレー式のラピッド方式［速習］があります。

学期ごとに方式を変えることも可能です。

例①「初級」をノーマル方式で履修した後，「中級」をラピッド方式で履修する。

例②「初級」をラピッド方式で履修した後，「中級」をノーマル方式で履修する。

レベル【方式】	開講科目名
初級【ノーマル】	初級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ
初級【ラピッド】	初級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ
中級【ノーマル】	中級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ
中級【ラピッド】	中級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ
上級	上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
特修	特修Ⅰ・Ⅱ

※理学部（2023 年度以降入学），工学部（2023 年度以降入学），建築学部，化学生命学部，情報学部の学生は，「初級Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」を履修できません。

■初級／中級【ノーマル】（ａ→ｂの順で通年履修）

ノーマル方式［標準］は，最初の学期に「初級ａ」を，次の学期に「初級ｂ」を履修します。そして，「初級ａ・ｂ」の単位を修得した後に「中級」を履修します。

ノーマル方式では，「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」が開講されており，文法，会話，講読等重点を置く講義内容に違いがあります。「初級」については，原則として「Ⅰ・Ⅱ」，「Ⅲ・Ⅳ」の組み合わせで履修します。

「中級」を履修するためには，「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」，「初級Ⅲａ・Ⅲｂ」，「初級Ⅳａ・Ⅳｂ」のいずれかの組み合わせで２単位を修得する必要があります。スペイン語については，「初級」で４単位を修得していなければ中級を履修することはできません。

化学生命学部の学生は，ノーマル方式［標準］での履修を推奨します。

■初級／中級【ラピッド】（ａとｂをペアで履修し，初級と中級を通年履修）

ラピッド方式［速習］は，週の前半（月・火・水）に開講される「ａ」と週の後半（水・木・金）に開講される「ｂ」の組み合わせで履修する必要があります。よって，ラピッド方式では，最初の学期で「初級ａ・ｂ」を，次の学期で「中級ａ・ｂ」を履修することにより，１年間で「初級」と「中級」を修了できます。

ラピッド方式では，「Ⅰ・Ⅱ」が開講されており，「Ⅰ」は文法，「Ⅱ」は会話に重点を置く内容になっています。どの担当者の授業でも，「Ⅰａ・Ⅰｂ」「Ⅱａ・Ⅱｂ」はそれぞれ同一の教科書を用い，２科目をリレー式で進めます。原則として，最初の学期に「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」と「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」を同時に履修し，次の学期に「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」と「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」を同時に履修することを推奨しますが，「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」あるいは「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」のどちらかを選んで履修することもできます。

また，「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」を修得したら次の学期に「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」に，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」を修得したら次の学期で「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」に進めます。

経営学部及び理学部の学生は，ラピッド方式［速習］での履修を推奨します。

■初級／中級（後学期スタートクラス）

いくつかの言語では，いつからでも学修を始められるように後学期スタートの「初級」及び「中級」を設けています。

ノーマル方式の場合，前学期に「ｂ」，後学期に「ａ」を開講している言語がありますので，後学期から学び始めることや前学期に単位を修得できなかった科目を再履修することができます。

ラピッド方式の場合，後学期に「初級Ⅰ・Ⅱ」を履修し，次年度の前学期に「中級Ⅰ・Ⅱ」を履修することで，１年間で「初級」と「中級」を修了することができます。

■再履修の方法

履修した科目の単位を修得できなかった場合は，次学期以降に再履修することができます。

再履修にあたって方式を変えることも可能です。

例①「初(中)級」をノーマル方式で履修したが，再履修ではラピッド方式で履修する。

例②「初(中)級」をラピッド方式で履修したが，再履修ではノーマル方式で履修する。

■上級

「初級」及び「中級」を修了し，さらに外国語の学修を続けることを希望するみなさんのために「上級」を開講しています。「上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に履修の順序はありませんので，好きな科目を必要な分だけ履修することができます。

■特修

「特修」は，学生にさらなる語学力の向上を目指す場を提供するばかりでなく，学修の到達レベルを示す材料となる語学能力検定試験の受験準備も兼ねています。検定試験に合格することで派遣交換留学の資格を得ることになり，また就職に有利となります。

「特修」を履修するためには「初級」程度の学修を終えている必要がありますが，「特修Ⅰ・Ⅱ」はどちらからでも履修することができますし，「中級」・「上級」との並行履修も可能です。

■既習者の履修方法

高等学校等で既習の場合は，当該外国語の担当者がその学生の能力を判定したうえで，その能力に見合った当該外国語の履修方法を指示しますので，「中級」・「上級」・「特修」からの履修も可能です。

ただし，あらかじめ授業担当者の許可を得たうえで履修してください。

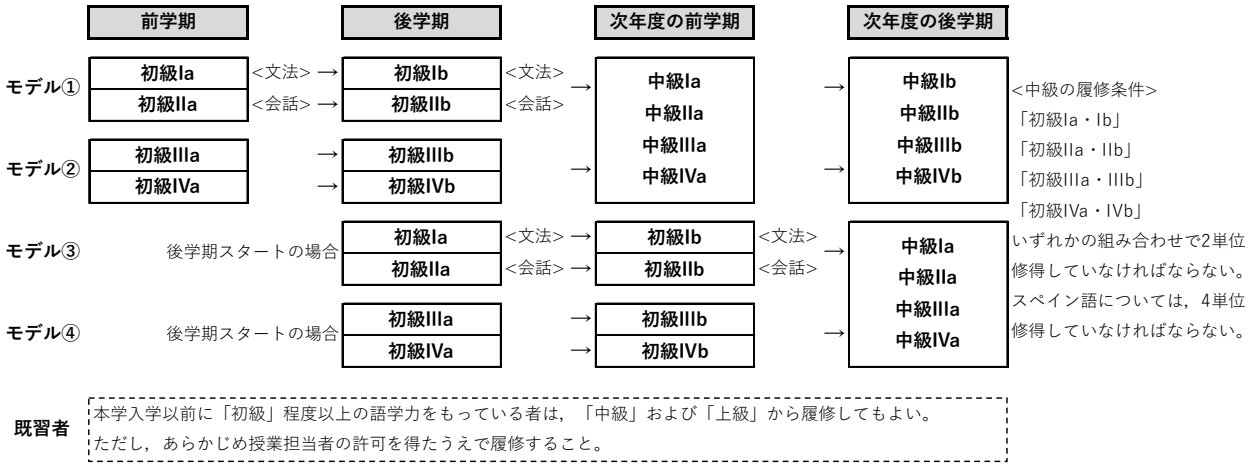
■所属外キャンパス開講科目の履修方法

所属外キャンパス開講科目を履修する場合は，授業時間割表やシラバスで曜日・時限・開講キャンパスを確認してWeB St@tionで履修登録してください。

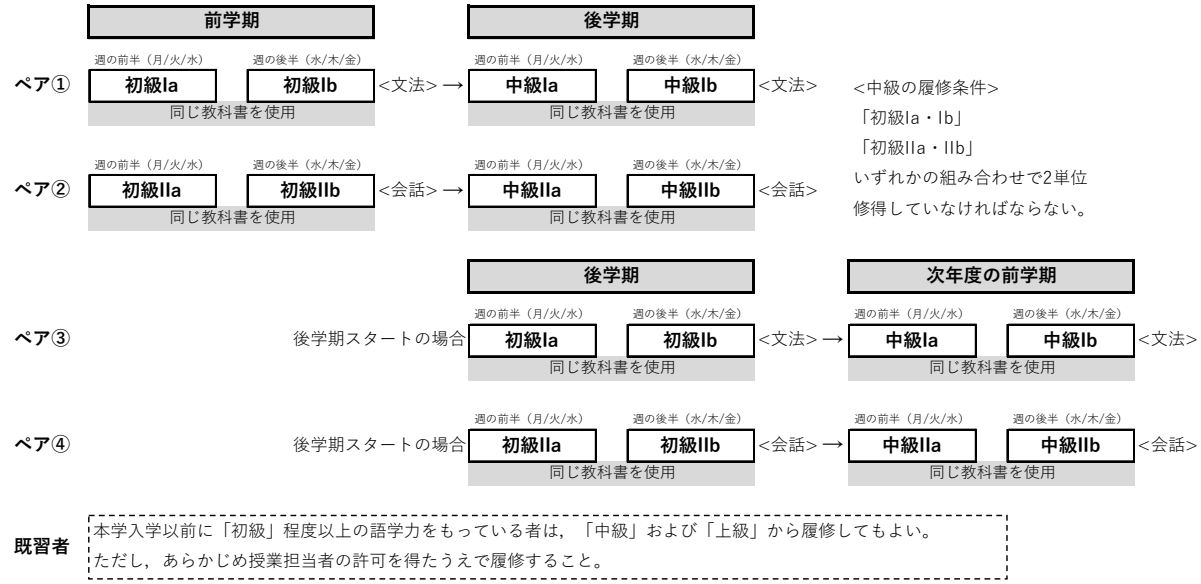
なお，自所属キャンパスで開講されていない科目を履修する学生などに対応するため，担当教員の判断により，対面授業と同時に遠隔授業を行う（ハイフレックス授業を行う）ことがあります。

共通教養外国語科目（地域言語）の履修モデル

■ノーマル方式 ［標準］原則としてa→bの順で通年履修



■ラピッド方式 ［速習］aとbをペアで履修し、初級と中級を通年履修



各種検定試験合格者の単位認定

本学には，各種検定試験に合格すると外国語科目等の単位として認定される制度があります。詳しくは，『履修要覧』の「学則及び諸規定」にある「各種検定試験合格者の単位認定に関する取扱規程」を参照してください。

外国語検定試験資格取得者に係る報奨制度

外国語の検定試験に合格した学生を対象として，その受験料（合格証明書発行代金を含む）を補助する制度で，年２回申請を受け付けます。申請方法は，WeB St@tion 掲示板「【教務】事務からのお知らせ」で確認してください。

1　「韓国語」について

韓国語は，日本にとって一番近い国の言葉です。昔から日本と韓国はきわめて親密な，しかしときにはかなり緊張した関係におかれたこともあります。いずれにせよ，隣国の言葉を学ぶということは，これからの時代を考えると非常に重要なことです。

特に最近，日本にとって韓国や朝鮮民主主義人民共和国はますます重要な存在になりつつあります。政治や経済だけでなく，文化や芸術の面においてもそうであります。授業では韓国語の文法と会話だけでなく韓国の歴史，文化，生活などについてもできるだけ触れるようにしています。

■初級韓国語【ノーマル】

韓国語がまったくはじめての人を対象に，韓国語の文字（ハングル）と発音から授業を進めます。韓国語の文構造は日本語と非常に似ているため，日本語を母語とする学習者にとっては，習得しやすい外国語の一つです。

「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」では韓国語の基本的な文法を中心に授業を行い，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」では韓国ですぐ使える実用的な会話の練習を中心にコミュニケーション能力の養成を図ります。

「初級Ⅲａ」と「初級Ⅳａ」は後学期でそれぞれ「初級Ⅰａ」と「初級Ⅱａ」の内容からスタートします。履修上の都合で前学期に「初級Ⅰａ」または「初級Ⅱａ」が履修できなかった人はここから始めても遅くありません。「初級Ⅲｂ」と「初級Ⅳｂ」は前学期に「初級Ⅰｂ」と「初級Ⅱｂ」の内容からスタートします。すでにハングルの読み書きができ，韓国語の文法が多少分かる人は「初級Ⅲｂ」か「初級Ⅳｂ」からスタートしてもいいです。

「初級Ⅰ・Ⅱ」（または「初級Ⅲ・Ⅳ」）のうち，文法中心の授業と会話中心の授業をセットで履修してください。１年間の授業で，韓国語の読み書きと基本文型・会話能力が身につく他に，韓国社会や文化についても理解が深まるでしょう。「初級Ⅰ・Ⅲ」と「初級Ⅱ・Ⅳ」は同じ教材で，スタート時期が異なります。

「初級Ⅲ・Ⅳ」は，前学期で「初級Ⅱ」の内容を扱う逆順科目です。「初級Ⅲａ・Ⅲｂ」は文法中心の授業，「初級Ⅳａ・Ⅳｂ」は会話中心の授業となります。

■初級韓国語【ラピッド】

初めて韓国語を学修する学生，改めて韓国語の文法などの仕組みを学びたい学生向けの科目です。

週の前半に開講される「ａ」と週の後半に開講される「ｂ」の週に２回の組み合わせで履修する必要があります。

「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」は同一教科書，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」は同一教科書を用い，「ａ」と「ｂ」はリレー式で進めます。

「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」は，まったく韓国語を知らない入門者向けの授業です。韓国語の文字の仕組みや文法・会話を学習し，「自己紹介」の表現及び「ハングル検定試験４級，５級」を目指します。

「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」は，韓国語の文法・会話を中心に学習し，「私の日課」，「好き・嫌い」の表現及びハングル検定試験４級」を目指します。

原則として最初の学期に「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」と「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」を同時に履修し，次の学期に「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」と「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」を同時に履修することを推奨しますが，「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」あるいは「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」のどちらかを選んで履修することもできます。

また，いつからでも学修が始められるよう後学期スタートの「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」も開設しています。

■中級韓国語【ノーマル】

初級韓国語を履修した人を対象とします。韓国語の能力を一層高めるため，「中級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の４科目を設けています。それぞれの授業では文法・会話・読解・作文・翻訳などに重点を置きながら日常でよく使う語彙と表現を多く取り入れていきます。会話能力の向上のため，実際の場面を想定した練習も行います。韓国を知る上で必要な歴史的出来事，人物，最近の日韓関係や映画・音楽・食文化にも目を向けます。さらに，韓国語の文法・会話に加え，日本の公共の場で目にする表示や案内など韓国語の表示を視覚教材として取り上げ，多くの漢字・漢語の用法を覚えていきます。

韓国語能力試験，ハングル能力検定試験などのサポートもしています。合格して教務課に申請すると，単位も修得できます。

「中級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に履修の順序はありませんので，同一年度に複数の授業を履修することができます。

■中級韓国語【ラピッド】

初級程度の韓国語の学修を終えた学生向けのクラス科目です。学習の内容は，出身地についての作文や形容詞・副詞を利用した会話の表現を学修し，「ハングル検定試験４級，３級」にチャレンジするのに必要な能力の獲得を目指します。

週の前半に開講される「ａ」と週の後半に開講される「ｂ」の週に２回の組み合わせで履修する必要があります。

「中級Ⅰ・Ⅱ」が開講され，「中級Ⅰ」は文法，「中級Ⅱ」は会話に重点を置く内容です。「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」は「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」と同じ教科書を，「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」は「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」と同じ教科書を継続して使用し，「ａ」と「ｂ」はリレー式で進めます。

また，いつからでも学修が始められるよう前学期スタートの「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」も開設しています。

■上級韓国語

韓国語の中級程度の学習を終えた人を対象とします。韓国語と日本語の類似点と相違点にも注目しながら，より体系的に学習します。韓国の人々のものの見方と関係のある表現，ことわざ・慣用句なども取り上げ，その特徴について話し合います。韓国ドラマや映画を通して韓国の食文化，冠婚葬祭，風習などにも触れ，韓国に対する理解を深めます。また，韓国の社会問題や政治・経済・歴史をめぐる時事関連のトピックスを中心にディスカッションを心がけています。ニュースのワンシーンや韓国と日本の新聞記事を講読・分析しながら，日韓関係についての認識を深めていきます。語彙力・読解力・表現力に加え，ディスカッション能力を向上させることに力を入れています。

同一年度に「上級Ⅰ」と「上級Ⅱ」を同時に履修することができます。

■特修韓国語

中級韓国語程度を履修した人を対象とします。「中級」・「上級」は，どちらかというと文法や会話，ディスカッション中心の授業です。「特修韓国語Ⅰ」と「特修韓国語Ⅱ」では，全面的に韓国語能力試験，ハングル能力検定試験などのサポートをしています。特に，検定試験合格は韓国への交換留学の条件にもなっているので，留学を考えている人はこの授業を受講するようにしてください。交換留学から帰ってきてから検定試験を目指す人も受講できます。韓国語の運用能力を一段と伸ばせる授業です。

■検定試験

本学では，「韓国語能力試験」および「ハングル能力検定試験」の学習をサポートしています。それぞれの試験の中級レベル以上の合格者に対して，単位を認定しています。合格した人を対象に受験料の補償制度も設けてあります。交換留学の応募や就職の条件になる場合もありますので，韓国語を勉強する上での目標として，検定試験による客観的評価を得ておくことも一つの選択肢でしょう。

韓国語能力試験（韓国教育財団）	TOPIKⅠ（初級）１級，２級 TOPIKⅡ（中級・上級）３級，４級，５級，６級 （１級が一番低いレベル，６級が一番高いレベルです。）
ハングル能力検定試験（ハングル能力検定協会）	５級，４級，３級，準２級，２級，１級 （５級が一番低いレベル，１級が一番高いレベルです。）

２　「スペイン語」について

スペイン語は英語とともに世界で最も重要な国際語の一つで，国連の公用語でもあります。スペインや中南米諸国など20か国以上で話されるほか，アメリカ合衆国でもスペイン語を話す人々が大変増えています。これらの国々の政治・経済，社会や文化を理解するためには，スペイン語の学習が欠かせません。

また，スペイン語圏の国々を知ることで，新しい価値観を学ぶことができます。英語ではなくスペイン語を通じて世界を見ることで，グローバル化が進む今日の社会を異なる視点から眺めることができるはずです。私たちが暮らす日本社会の見え方も変わってくるかもしれません。

新しい言語を学ぶのは決して簡単なことではありませんが，英語のほかにスペイン語を身に付ければ，将来の可能性も大きく広がります。

スペイン語技能検定，DELE などの資格取得を目指す場合や，スペイン語圏への語学研修・留学を希望する場合は，授業担当者に相談するとともに，「中級」や「上級」を積極的に履修してください。

■初級スペイン語【ノーマル】

スペイン語によるコミュニケーションのための基礎的な文法や文型を学びます。

スペイン語の動詞の活用（主語に応じて動詞が形を変えることを指します。）には大きく分けて直説法における活用と接続法における活用がありますが，「初級」では直説法の現在形を中心に学びます。日常生活において最低限の受け答えができるレベルを目指します。

「初級Ⅰ」「初級Ⅲ」は文法中心の授業，「初級Ⅱ」「初級Ⅳ」は会話中心の授業です。文法クラス（「初級Ⅰ」あるいは「初級Ⅲ」）で学んだことを，会話クラス（「初級Ⅱ」あるいは「初級Ⅳ」）において様々なアクティビティーを行い実践練習し，定着させていきます。

【重要１】原則として「初級Ⅰ」と「初級Ⅱ」を同時にセット履修するか，「初級Ⅲ」と「初級Ⅳ」を同時にセット履修することが必須となります。

【重要２】「初級Ⅰ」と「初級Ⅱ」では共通のテキストを使用します。「初級Ⅲ」と「初級Ⅳ」ではまた別の共通テキストを使用します。

【重要３】「初級Ⅰ」と「初級Ⅱ」を同時にセット履修する場合でも，「初級Ⅲ」と「初級Ⅳ」を同時にセット履修する場合でも，学ぶ内容やレベルに変わりはありません。

「初級Ⅰ」: 文法　「読み」「書き」を中心にスペイン語の基礎を学ぶ。
「初級Ⅱ」: 会話　「話す」「聞く」を中心にスペイン語の基礎を学ぶ。
「初級Ⅲ」: 文法　スペイン語の基本的な文法事項を学ぶ。
「初級Ⅳ」: 会話　スペイン語の基本的な会話表現を学ぶ。

一般的な履修モデル（※パターン①でもパターン②でも，学習内容やレベルに変わりはありません。）

パターン①　共通テキストを使用

１年次前学期	１年次後学期
初級スペイン語Ⅰａ（文法）	初級スペイン語Ⅰｂ（文法）
初級スペイン語Ⅱａ（会話）	初級スペイン語Ⅱｂ（会話）

（１年間で合計４単位修得　→　次年度中級スペイン語へ進む）

パターン②　共通テキストを使用

１年次前学期	１年次後学期
初級スペイン語Ⅲａ（文法）	初級スペイン語Ⅲｂ（文法）
初級スペイン語Ⅳａ（会話）	初級スペイン語Ⅳｂ（会話）

（１年間で合計４単位修得　→　次年度中級スペイン語へ進む）

■初級スペイン語【ラピッド】

初めてスペイン語を学修する学生が，週２回の授業でじっくり学ぶための科目です。

前学期スタートの場合，みなとみらいキャンパスの学生の場合，「初級Ⅰ」は月曜（１限または３限のいずれか）の「Ⅰａ」と木曜（２限または３限のいずれか）の「Ⅰｂ」のペア，「初級Ⅱ」は火曜（１限または２限のいずれか）の「Ⅱａ」と金曜（２限または３限のいずれか）の「Ⅱｂ」のペアで履修しなければなりません。

後学期から始める場合は，みなとみらいキャンパスの「初級Ⅰ」は木曜４限の「Ⅰａ」と金曜１限の「Ⅰｂ」のペア，「初級Ⅱ」は火曜１限の「Ⅱａ」と金曜４限の「Ⅱｂ」のペアで履修してください。

横浜キャンパスの学生の場合，前期に開講される「初級Ⅰ」のペアは水曜４限の「Ⅰa」と金曜３限の「Ⅰｂ」のペア，「初級Ⅱ」は水曜４限の「Ⅱａ」と金曜２限の「Ⅱｂ」のペアで履修しなければなりません。

「初級Ⅰ」は文法に重点を置き，同じ教科書を使用してリレー式の授業になります。

「初級Ⅱ」は会話に重点が置かれ，火曜日のネイティブ教員の授業を金曜日の日本人教員が補足説明などでサポートするような形になります。会話の授業では担当教員が教材プリントを配布します。

最初の学期に「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」と「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」を同時に履修すれば，より高い学習効果が得られ，次のステップである「中級」の授業にも役立つでしょう。

■中級スペイン語【ノーマル】

「中級」は，「中級Ⅰ」「中級Ⅲ」が会話中心の授業，「中級Ⅱ」「中級Ⅳ」が文法中心の授業です。「中級Ⅱ」「中級Ⅳ」の授業では，直説法における動詞の過去形と未来形，及び接続法における動詞の活用まで，スペイン語文法を一通り学びます。日常生活において不自由のない受け答えができるレベルを目指します。文法クラス（「中級Ⅱ」あるいは「中級Ⅳ」）で学んだことを，会話クラス（「中級Ⅰ」あるいは「中級Ⅲ」）において様々なアクティビティーを行い実践練習し，定着させていきます。

【重要１】原則として「中級Ⅰ」と「中級Ⅱ」を同時にセット履修するか，「中級Ⅲ」と「中級Ⅳ」を同時にセット履修することが必須となります。
【重要２】「中級Ⅰ」と「中級Ⅱ」では共通のテキストを使用します。「中級Ⅲ」と「中級Ⅳ」ではまた別の共通テキストを使用します。
【重要３】「中級Ⅰ」と「中級Ⅱ」を同時にセット履修する場合でも，「中級Ⅲ」と「中級Ⅳ」を同時にセット履修する場合でも，学ぶ内容やレベルに変わりはありません。

「中級Ⅰ」: 会話　初級スペイン語の復習をしつつ，さらなる会話能力の向上を目指す。
「中級Ⅱ」: 文法　初級スペイン語の復習をしつつ，さらなる文法能力の向上を目指す。
「中級Ⅲ」: 会話　初級スペイン語の復習をしつつ，さらなるコミュニケーション能力の習得を目指す。
「中級Ⅳ」: 文法　初級スペイン語の復習をしつつ，さらなる文法事項の習得を目指す。

一般的な履修モデル（※パターン①でもパターン②でも，学習内容やレベルに変わりはありません。）

パターン①　共通テキストを使用

２年次前学期	２年次後学期
中級スペイン語Ⅰａ（会話）	中級スペイン語Ⅰｂ（会話）
中級スペイン語Ⅱａ（文法）	中級スペイン語Ⅱｂ（文法）

（１年間で合計４単位修得）

パターン②　共通テキストを使用

２年次前学期	２年次後学期
中級スペイン語Ⅲａ（会話）	中級スペイン語Ⅲｂ（会話）
中級スペイン語Ⅳａ（文法）	中級スペイン語Ⅳｂ（文法）

（１年間で合計４単位修得）

■中級スペイン語【ラピッド】

みなとみらいキャンパスで前学期に「初級Ⅰ」を終えた学生は，後学期に月曜（１限または２限のいずれか）と木曜（２限または３限のいずれか）のペア授業である「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」の授業を，前学期に「初級Ⅱ」を終えた学生は，後学期に火曜（２限または３限のいずれか）と金曜（２限または３限のいずれか）のペア授業である「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」を履修することができます。

後学期に「初級」を終えた学生は，次年度の前学期，月曜と木曜のペア授業である「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」，および火曜と金曜のペア授業である「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」を履修してください。

横浜キャンパスの学生で前学期に「初級Ⅰ」を終えた学生は，後学期に水曜３限と木曜３限のペア授業である「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」の授業を，前学期に「初級Ⅱ」を終えた学生は，後学期に水曜４限と木曜４限のペア授業である「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」を履修することができます。

■上級スペイン語

「中級」までで学んだスペイン語の運用能力をさらに向上したい学生や検定試験の合格を目指す学生のための科目です。スペイン語技能検定でしたら４級，DELE でしたら B１レベルの合格を目標にしています。下記に記載されている通り，このふたつの検定試験は単位認定や報奨制度の対象となっています。本学が就職活動をも見据えて設けた，学生みなさんの一人ひとりを応援し支援する制度です。積極的に活用してきましょう。

■特修スペイン語

基本的な文法事項の修得を終えた学生が，スペイン語の実践的な運用能力の向上を目指すための科目です。スペイン語検定試験の受験やスペイン語圏への語学研修・留学に向けた総合的な学修を行います。

■検定試験

スペイン語の検定は，下記のふたつがあります。どちらも単位認定および報奨制度の対象となっています（各級・レベルは低い順に並べています）。

スペイン語技能検定（公益財団法人日本スペイン協会）　６級，５級，４級，３級，２級，１級

DELE スペイン語検定（セルバンテス文化センター）　Ａ１，Ａ２，Ｂ１，Ｂ２，Ｃ１，Ｃ２

（レベルはヨーロッパ言語共通参照枠 MCER（CEFR）に基づいています。）

３　「中国語」について

世界の人口 77 億人，中国の人口は 14 億人を超えていますから，中国語を学ぶということは世界の約 5 人に 1 人とコミュニケーションを取ることができるということです。

中国は多民族国家ですし，また多様な方言が存在します。皆さんはいわゆる漢民族の言語で，また全国的に共通して通じる「普通話」を学修します。

中国語	我爱他。
拼音（ピンイン）	Wǒ ài tā
英語	I love him.
日本語	私は彼を愛する。

中国語は漢字で表現します。漢字の読み方を示すために中国式ローマ字の拼音（ピンイン）を使用します。ローマ字の上についている—，／，∨，＼の記号は音の上げ下げを表します。漢字も「簡体字」といって，日本の漢字とは異なる字体が用いられます。漢字を並べ替えて言い表しますから，英語のように格変化や活用はなく，漢字が変化したりしません。

中国語はとてもリズミカルな言語です。歌を口ずさむように楽しく学修しましょう。

私が中国語の授業で最初に教えるのは「チーファンラマ？（ご飯食べましたか？）」という言葉です。これは，中国では「おはよう」や「こんにちは」の代わりに親しい間柄で交わされる挨拶なのです。中国人は「食べる」ことを大変重要と考えていて，食事を欠かすことは思いもよりません。相手が元気であるかどうかを尋ねるために，相手が食事を取ったかどうかという言葉を使うのです。

言語は，人と人とが交流するときの手段に過ぎません。私はただ単に言葉を教えるのではなく，語学を通じて中国人の価値観や文化的背景なども知ってもらうことができるよう心がけています。また，言語はどれだけたくさんの言葉を知っているかではなく，どうやって使うかが肝心ですから，実践的な中国語を教えることに重点を置いています。

確実に中国と日本との貿易額は増えていて 2021 年は 4000 億ドル台に達しました。私も愛用しているユニクロの製品は糸から縫製まで中国で全行程を生産するところからスタートしました。あんなに安く品質も良いものができるのですから，中国は衣料だけでなく家電，スマホそして自動車へと，世界の工場としての位置を確実にしています。

日本の約 13 倍の 14 億人を超える購買力はすさまじく，まさに中国は世界の市場となりつつあります。日本のさまざまな業種の企業が中国に販路を求めているのです。中国では近年 11 月 11 日は独身の日とされ，ネットショッピングをする日として定着しています。大手通販アリババ集団によるとライブ配信とネットショッピングを組み合わせたライブコマースの普及も手伝い，2020 年 11 月 1 日から 11 日間の総売上額は 7 兆 9000 億円に達しました。

これはネット上での購入決済だけでなく物流もスムーズに行われるためのインフラが整備されていることを示しています。携帯電話 1 つでネットショッピングだけでなく種々な買い物，デリバリーサービス，チケット・レストラン等の予約やオーダーや支払い，タクシーの呼び出し・支払い等が可能で現金を持ち歩かなくてもよいのです。

都市部では，AI とカメラの最先端技術を応用した無人コンビニがトレンドとなっています。スーパーマーケットでも生鮮食品に付けられた電子タグにスマホをかざすと，その食品がどこでどのように作られたか，店に至るまでの情報を得ることができ，それを食材とする料理まで見ることができます。もちろんスーパーのレジは無人でスマホで決済されます。中国の生活では AI の活用が進んでいるといえます。

将来学生のみなさんがどんな企業に就職を求めるにしろ，中国語ができるということは確実に武器になるのです。企業研修でも中国語を課す企業は多く，内定をもらった４年生の学生があらためて中国語を履修するケースも増加しています。

今中国は「和諧社会（調和のとれた社会)」をモットーに「国家の豊かさ」から「国民の豊かさ」を追求する方向に転換を図っています。中国は環境破壊の対策，食品安全の確保，格差社会の是正等多くの問題に直面しています。ここで中国は日本をモデルとして参考にしようとしているのです。日本人の行き届いたきめの細かい考え方，中国人の将来を見据えた戦略的行動力，このようなお互いの良い面を認め合い，感情的な偏見や矛盾を超え，共同して東洋の時代を興していくことができるでしょう。

通訳なしで自分の言葉でコミュニケーションを取ることができれば，よりよくお互いを正しく理解することに繋がり，平和で豊かな東アジア世界が実現できると思うのです。将来の可能性を広げるためにも一緒に中国語を学びましょう。

元気に“こんにちは” “ニーハオ・你好！！”からスタートです。

■初級中国語【ノーマル】

［運営方法］

「初級中国語Ⅰ」および「初級中国語Ⅲ」は中国語非母語話者が担当し，「初級中国語Ⅱ」および「初級中国語Ⅳ」は中国語母語話者が担当します。両方の科目を同時に履修することでバランスよく中国語の基礎を学習することができます。こうした観点から中国語の基礎能力を身につけるために，「初級中国語Ⅰ」および「初級中国語Ⅲ」では中文和訳・和文中訳や単語並べ替えなど文字を使った訓練を多めに行い，「初級中国語Ⅱ」および「初級中国語Ⅳ」では担当者との会話やリスニングの訓練を多めに行います。なお，「初級中国語Ⅲ」と「初級中国語Ⅳ」は発音の基礎および発音表記法の学習経験を持つ学生向けの内容で授業を行います。履修登録するまえにシラバスで授業内容をよく把握してください。

［履修の方法］

初級中国語Ⅰと初級中国語Ⅱはそれぞれ担当者の異なる複数のクラスが開講されています。各学期で１週間あたり初級中国語Ⅰと初級中国語Ⅱをそれぞれ１科目ずつ組み合わせて履修してください。なお，英語英文学科は学科生向けのクラスを設けています。指定された曜日時限のクラスで履修してください。

このように前学期２科目，後学期２科目履修すると１年間で４科目４単位分の学修をすることができます。

中級レベルの学習をスムースに進めるためには初級中国語４科目４単位の単位を修得しているのが理想的です。

「初級中国語Ⅲ」と「初級中国語Ⅳ」は１週間にそれぞれ１クラスずつ開講されています。「初級中国語Ⅲ」と「初級中国語Ⅳ」は発音の基礎および発音表記法の学習経験を持つ学生向けの授業内容となっているため，中国語学習経験のない人は「初級中国語Ⅰ」と「初級中国語Ⅱ」の組み合わせで履修するようにしてください。

［内容・目標］

初級レベル（中国語検定４級取得程度）を目標に中国語の発音，発音表記法から始まり，基本的な語彙や文法項目を身につけながら学習を進めます。

［教材］

教科書は各担当者が最も指導しやすいものを選定するため，クラスごとに違いますが，他大学の外国語科目でも一般的に使用されている初級レベルの教科書です。

■初級中国語【ラピッド】

初めて中国語を学修する学生向けの科目です。HSK２級～３級にチャレンジするのに必要な能力の獲得を目指します。

週の前半（月・火・水）に開講される「ａ」と週の後半（水・木・金）に開講される「ｂ」の週に２回の組み合わせで履修する必要があります。

「初級Ⅰ・Ⅱ」が開講され，「初級Ⅰ」は文法，「初級Ⅱ」は会話に重点を置く内容です。「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」は同一教科書，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」は同一教科書を用い，「ａ」と「ｂ」はリレー式で進めます。原則として最初の学期に「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」と「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」を同時に履修し，次の学期に「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」と「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」を同時に履修することを推奨しますが，「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」あるいは「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」のどちらかを選んで履修することもで

きます。
　また，いつからでも学修が始められるよう後学期スタートの「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」も開設しています。なお，横浜キャンパスでは，後学期スタートの「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」が開講されませんので，履修希望者はみなとみらいキャンパス開講科目を履修してください。その際移動に配慮し，担当教員の判断により，対面授業と同時に遠隔授業（ハイフレックス授業）を行うことがあります。

■中級中国語【ノーマル】

［運営方法］
　「中級中国語Ⅰ」および「中級中国語Ⅱ」は中国語非母語話者が担当し，文章の読解，和文中訳や単語並べ替えなど文字を使った訓練を多めに行います。「中級中国語Ⅲ」および「中級中国語Ⅳ」は中国語母語話者が担当し，担当者との会話やリスニングの訓練を多めに行います。

［履修の方法］
　中級レベルの学習をスムースに進めるためには「初級」科目で４単位を修得しているのが理想的ですが，「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」，「初級Ⅲａ・Ⅲｂ」，「初級Ⅳａ・Ⅳｂ」いずれかの組み合わせで，２単位を修得していれば抽選への応募や履修登録ができます。
　「中級中国語」は「初級中国語」と異なり，履修すべき科目の制約はありません。各自の卒業要件あるいは希望に沿って自由に履修してください。
　ただし科目名が同一の「中級中国語」科目は担当者が異なっていたとしても単位の取得は１度だけです。

［内容・目標］
　「初級中国語」で身につけた中国語を基礎にして，中級レベル（中国語検定３級取得程度）を目標に，中国の文化や社会に目を向ける視点をもって，語彙を増やし応用会話や比較的読みやすい文芸作品などに触れながら学習を進めます。

［教材］
　教科書は各担当者が最も指導しやすいものを選定するため，クラスごとに違いますが，他大学の外国語科目でも一般的に使用されている中級レベルの教科書です。

■中級中国語【ラピッド】

　初級程度の中国語の学修を終えた学生向けのクラス科目です。HSK３級～４級にチャレンジするのに必要な能力の獲得を目指します。
　週の前半（月・火・水）に開講される「ａ」と週の後半（水・木・金）に開講される「ｂ」の週に２回の組み合わせで履修する必要があります。
　「中級Ⅰ・Ⅱ」が開講され，「中級Ⅰ」は文法，「中級Ⅱ」は会話に重点を置く内容です。「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」は「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」と同じ教科書を，「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」は「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」と同じ教科書を継続して使用し，「ａ」と「ｂ」はリレー式で進めます。
　また，いつからでも学修が始められるよう前学期スタートの「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」も開設しています。なお，横浜キャンパスでは，前学期スタートの「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」が開講されませんので，履修希望者はみなとみらいキャンパス開講科目を履修してください。その際移動に配慮し，担当教員の判断により，対面授業と同時に遠隔授業（ハイフレックス授業）を行うことがあります。

■上級中国語

　「中級」を修得した方は「上級」を受講することによって，中国語の能力をさらに伸ばすことができます。「上級」は基本的に中国語が母語の教員による授業で，全てを中国語で行うものもあります。徹底した少人数教育で行われますので，この授業を一年間受講すればあなたの中国語力は飛躍的に伸びるでしょう。

■特修中国語

　「特修Ⅰ・Ⅱ」は「Ⅰ」と「Ⅱ」どちらからでも履修可能です。中国語能力の向上を目指す場を提供するばかりでなく，学修の到達レベルを示す材料となる語学能力検定試験の受験準備も兼ねています。検定試験に合格することで派遣交換留学の資格を得ることになり，また就職に有利となります。

なお，横浜キャンパスでは，「特修Ⅰ・Ⅱ」が開講されませんので，履修希望者はみなとみらいキャンパス開講科目を履修してください。その際移動に配慮し，担当教員の判断により，対面授業と同時に遠隔授業（ハイフレックス授業）を行うことがあります。

■中国語の検定について

HSK（中国国家漢語水平孝試）および中国語検定の合格者に対して，単位が認定され，また報奨制度の対象となります。留学する際の資格となりますし，就職においても高く評価されますから，中国語力の到達目標と考えてください。

4　「ドイツ語」について

ドイツ語はたんにドイツ一国だけの言葉ではなくて，ドイツの他にも，オーストリア，スイス等でも使用されており，さらに，いわゆる中欧，東欧の近隣の国々でもよく通用している言葉です。その使用人口はほぼ１億人と言われています。従来ドイツは，どちらかと言えば哲学，音楽，文学，自然科学などの国であるというイメージが強かったのですが，工業の発達した経済先進国であり，ＥＵ（ヨーロッパ連合）の経済を支え，アメリカや日本とともに経済大国でもあります。そしてその経済力と地理的位置から，ヨーロッパの諸国に与える影響も大きく，名実ともにＥＵのリーダー的存在でもあります。

ドイツ及びオーストリア，スイス等の「ドイツ語文化圏」の政治，経済，社会，歴史，文化等を理解しようとするためには，ドイツ語の習得がどうしても必要です。逆に言うと，ドイツ語の習得によって，みなさんの専攻分野をさらに深く探究できるチャンスが広がるのです。ドイツ語文化圏においてこれまで研究され蓄積された膨大な知識のデータベースへのアクセスは，ドイツ語を地域外国語として選択されたみなさんにしか与えられません。大学生として自分自身の専門分野にしっかりと向き合い，向上させたい気持ちのある人には強くドイツ語をおすすめします。

もちろん，ドイツのサッカー，車，音楽やアートが好きでドイツ語を勉強してみたい！という人も大歓迎です。子どもの頃から音楽やメルヘンを通じて，ドイツ語圏の文化に親しんでいる人も多いかもしれないですね。ヨーロッパの中央に位置するドイツ語文化圏は，今も昔も人の行き来が活発で，都市や地域ごとに魅力あふれる文化が育ってきました。その一方で，さまざまルーツをもつ人の往来が，ときに衝突や争いを生んできたこともまた，歴史的な事実です。ドイツ語を通じて，ドイツ語圏の国々の文化や歴史に触れることは，みなさんが「今の世界」を視る目をも変えることでしょう。

ドイツ語の学習をより発展させていくために，長期・短期留学は大きな意味を持ちます。ヨーロッパで最も理想的な留学先はドイツです。その理由は，もちろんドイツの大学の質の高さにあるわけですが，その他に，他国の留学費用と比較すると，学費が破格に安いということはあまり知られていないことかもしれません。本学ではドイツへの長期・短期の留学制度が充実しています。また夏季休暇や春季休暇を使って，本学が指定しているドイツの大学主催の語学講座に参加し所定の条件を満たすことで，単位認定される推薦語学研修制度もありますので，ぜひ活用してください。

■初級ドイツ語【ノーマル】

「初級Ⅰ・Ⅲ」は文法中心，「初級Ⅱ・Ⅳ」はコミュニケーション中心の授業を行います。「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」では，入門から始まり，平易なものが理解できるための最低限度の文法知識を学びます。「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」では，コミュニケーションを成立させるためのドイツ語の表現をさまざま学びます。「初級Ⅲａ・Ⅲｂ」では，入門から文法知識を学び，すぐに応用していくことにも力を入れます。「初級Ⅳａ・Ⅳｂ」では，日常の場面を想定しながらドイツ語の会話や表現を学びます。

履修希望者は，自分の出席可能なクラスを選んで受講して下さい。なお，相談及び質問のある者は，専任教員に相談してください。

「初級Ⅰ」（文法中心）は，全クラスで統一教科書を使用します。
「初級Ⅱ」（コミュニケーション中心）は，全クラスで統一教科書を使用します。
「初級Ⅲ」（文法中心）は，クラスごとに異なる教科書を使用します。
「初級Ⅳ」（会話・表現中心）は，クラスごとに異なる教科書を使用します。

■初級ドイツ語【ラピッド】

【ラピッド】は速習コースで，文法中心の「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」のペアと会話中心の「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」のペアを同じ学期に履修する（週４回履修する）ことで，半期で「初級」を修了することができます。

■中級ドイツ語【ノーマル】

「初級」で学んだドイツ語の知識を土台としてさらにドイツ語能力を発展させます。そのために各担当者によってさまざまな教材を用いた多様な内容のクラスが設けられています。ドイツ語の力を磨きながら，ドイツの文化，歴史，社会等に親しみ，ドイツを身近なものとして捉えられるようにします。

なお，「中級Ⅰ・Ⅱ」はドイツ語母語話者の講師によってコミュニケーション・ドイツ語を主体とした授業が行いますので，必要な学生はぜひ受講して下さい。「中級Ⅲ・Ⅳ」は日本人講師によって文法を主体とした授業が行います。なお，「中級」はクラスごとに異なる教科書を使用します。

■中級ドイツ語【ラピッド】

【ラピッド】は速習コースで，文法中心の「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」のペアと会話中心の「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」のペアを同じ学期に履修する（週４回履修する）ことで，半期で「中級」を修了することができ，「初級」と合わせて１年間で高いレベルの言語の能力を身につけることができます。

■上級ドイツ語

ドイツ語能力にいっそう磨きをかけながら，ドイツの文化や歴史，政治・経済，社会事情等について，深く切り込んだ授業が行われます。このクラスの修了者が近年続けてドイツ語圏に留学しています。ドイツ語に興味を持つ人，ドイツについて知りたい人，将来ドイツで学びたい人等の積極的な参加を期待します。

■特修ドイツ語

「上級」の内容に沿って行われますが，「特修」は語学能力検定試験や留学準備のためのクラスで，コミュニケーションを主体とした授業が行われます。また，語学能力検定試験（ドイツ語検定，ゲーテ・インスティトュート・ドイツ語検定）や留学準備の指導もおこないます。

■ドイツ語検定及びゲーテ・インスティトュート・ドイツ語検定について

本学ではドイツ語技能検定（財団法人ドイツ語学文学振興会主催）４級以上の合格者に対して，外国語科目の卒業要件単位として，２単位以上を認定しています。また，グローバルな資格試験であるゲーテ・インスティトュート・ドイツ語検定は東京ドイツ文化センター（東京青山）で開催されており，「初級」・「中級」を修了したみなさんで，特にドイツ語圏への留学を希望している人は，こちらの試験にもぜひトライしてみてください。

５　「フランス語」について

フランス語は私たちの生活の中にけっこう入りこんでいる言語です。料理やお菓子の名前（ガトー・オ・ショコラ＝チョコ・ケーキ）や，ファッション，芸術を語る言葉もフランス語由来のものが少なくありません。あなたが今借りているアパートの名前にも，「メゾン（家）」や「ファミール（家族。本当はファミーユと発音します）」といったフランス語が使われているかもしれませんね。

フランス語は発音の美しい言語というイメージもあるでしょう。ただそのぶん発音をマスターするのが難しそう…と心配してしまうかもしれません。確かに覚えなければいけないルールは多いですが，一回マスターしてしまえばむしろ英語よりも簡単だと思います。フランス語は英語に比べて例外がとても少ない言語で，理屈好きな人（？）にはぴったりの言語と言えるでしょう。

また英語とほとんど同じ単語もよく出てきます。それはフランス語が英語の影響を受けたからではなくて，逆に英語がフランス語の支配を受けたからなのです。例えば英語の beef はフランス語の boeuf（ブッフ）という言葉から生まれた言葉ですが，beef が「牛肉」だけを表すのに，boeuf は「牛肉」も，まだ生きている（？）「牛」も表すのです。どうしてこのような意味のズレが生じたのでしょうか？　まずは自分で考えてみましょう。

そしてフランス語には姉妹とも呼べる存在がいて，スペイン語やイタリア語がその代表です（なぜ兄弟ではなく姉妹なのでしょうか？　それはフランス語で「言語 langue」が女性名詞だからです）。ラテン語という共通の母親をもつこれらの言語は互いに似ているところも多く，スペイン人とフランス人がお互いの言語で何とか意志疎通している姿を見かけることも少なくありません。

また言葉だけでなくフランスやフランス人に対して憧れを持つ人も少なくないでしょう。パリジャン・パリジェンヌ，流行の発信地，パティシエの修行の場，エッフェル塔やモン・サン＝ミシェルといった観光地…。確かにフランスは今も昔も世界中の人をひきつけてやまない魅力あふれる国であると思います。

しかしこのような目立つ部分だけでなく，フランスに生きる普通の人々のライフスタイルや価値観にも注目する必要があるでしょう。現在のフランスは移民と共存する社会であり，葛藤を抱えつつ，とことんまで議論することで理想の社会を模索している段階と言えます。このような「リアルな」フランスを見ていくことは，大げさではなく，これからの日本を考える上でも重要なのではないでしょうか。

さらに言えば，フランス語を話すのはフランスだけではありません。ベルギーやスイスといったヨーロッパの地域だけではなく，カナダのケベック地方や，アフリカの多くの国がフランス語を使用しています（アフリカに人道支援に行く人の必須の言語とも言われています)。そこに植民地という過去を見るのと同時に，英語やスペイン語と同様に国際語となっているフランス語の多様な姿も確認できるでしょう。アフリカに興味があるからフランス語を勉強するという選択もよく見られるものです。

フランス語を通して，流行やブランドだけではなく，フランス人の独創的な価値観に触れること，そしてアメリカとはかなり異なるヨーロッパの考え方や，アフリカへの視点を獲得すること――，世界に対するもう一つの見方を，ぜひフランス語を勉強することで発見してみてください。

フランス語の授業はABCD（アベセデ）から始めて複雑な表現へ，順序をもって教えていきます。特に「初級」の段階では，前の授業の内容が理解できていないと次の授業の内容についていくのは難しいです。「初級フランス語」【ノーマル】では，前半（ａ）の単位をとってから後半（ｂ）の授業を履修するようにしてください。

「中級」の授業を履修しようとする場合には，「初級フランス語」を勉強して得た力が求められるので，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」を合わせて２単位とる，あるいは，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」を合わせて２単位とることが必要です。また，「初級フランス語」は，「初級Ⅰ・Ⅱ」（あるいは「初級Ⅲ・Ⅳ」）で一組になっているので，合わせて受講することが望まれます。なお，「初級フランス語」は全学部対象の共通教養外国語科目であり，国際日本学部国際文化交流学科の専攻科目である「入門フランス語」とは異なるので，間違えないようにしてください。

■初級フランス語【ノーマル】

「初級」のうち，「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」は文法中心の授業，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」を会話中心の授業です。

「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」の文法中心の授業では，コミュニケーションのために必要な文法知識を学び，フランス語で書かれた簡単な文を読み，聞き取り，理解することができるようになることをめざします。

「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」の会話中心の授業では，学習者が実際にフランス語を話したり聞いたりする練習をします。日常会話の基本的な表現ができるようになることをめざします。

【ノーマル】では，「初級Ⅰ」及び「初級Ⅱ」はそれぞれ週１回授業となります。「文法」と「会話」は合わせて学習すると効果的なので，週２回受講すること（例えば，前学期には「初級Ⅰａ」と「初級Ⅱａ」をそれぞれ１つずつ，後学期には「初級Ⅰｂ」と「初級Ⅱｂ」をそれぞれ１つずつ受講すること）が望まれます。

「初級Ⅲ・Ⅳ」は，後学期で「初級Ⅰ」の内容を，前学期で「初級Ⅱ」の内容を扱う逆順科目です。「初級Ⅲａ・Ⅲｂ」は文法中心の授業，「初級Ⅳａ・Ⅳｂ」は会話中心の授業でとなります。

■初級フランス語【ラピッド】

【ラピッド】は速習コースで，文法中心の「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」のペアと会話中心の「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」のペアを同じ学期に履修する（週４回履修する）ことで，半期で「初級」を修了することができます。

■中級フランス語【ノーマル】

中級には，「中級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」があります。文法を学びながらフランス文化を理解したり，会話を中心としたりするなど，それぞれ特色のある授業を行っているので，２つ履修する場合には，「中級Ⅰ・Ⅱ」，「中級Ⅱ・Ⅲ」，「中級Ⅲ・Ⅳ」などの，ローマ数字の異なる科目を選択します。

「中級Ⅰ」：文法・講読を学びながら，フランス文化を理解する。

「中級Ⅱ」：文法事項の復習を中心に，運用力を高めていく。

「中級Ⅲ」：会話を中心とした授業を行う。

「中級Ⅳ」：文法・講読を学びながら，フランスの文化や社会についての知識を深める。

【ノーマル】では，４つの科目はそれぞれ週１回授業となります。週２回受講すること（例えば，前学期には「中級Ⅰａ」と「中級Ⅲａ」をそれぞれ１つずつ，後学期には「中級Ⅰｂ」と「中級Ⅲｂ」をそれぞれ１つずつ受講すること等）が望まれます。

■中級フランス語【ラピッド】

【ラピッド】は速習コースで，文法中心の「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」のペアと会話中心の「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」のペアを同じ学期に履修する（週４回履修する）ことで，半期で「中級」を修了することができ，「初級」と合わせて１年間で高いレベルの言語の能力を身につけることができます。

■上級フランス語

「初級」,「中級」よりさらに進んだフランス語の運用能力を養うことをめざします。文学，思想，歴史，社会などに関する文章を読んだり，複雑なことを伝える会話のトレーニングをしたり，フランス文化・社会をより高度なレベルにおいて理解することをめざします。フランス語の検定試験に合格したい人，留学を準備している人は必ず受講するようにしてください。

■特修フランス語

「初級」以上を修了した学生を対象とします。語学能力検定試験や留学準備のために語学力を鍛えます。「特修Ⅰ・Ⅱ」どちらからでも履修することができ，「中級」・「上級」との並行履修も可能です。フランス語の検定試験に合格したい人，留学を準備している人は必ず受講するようにしてください。

■フランス語技能検定試験について

本学では，フランス語技能検定試験（フランス語教育振興協会主催）の１級，準１級，２級，準２級，３級，４級及びDelf，DalfのＡ１以上の合格者に対して，単位を認定しています。フランス語を勉強する上での目標として，検定試験による客観的評価を得ておくことも一つの選択肢でしょう。

※フランス語の履修について不明な点がある場合には，みなとみらいキャンパス熊谷研究室（17008），あるいはft101822gq@kanagawa-u.ac.jp（熊谷）まで相談してください。

６　「ロシア語」について

ロシア語はロシア連邦の国家語（連邦全土での公用語）である他に，かつてソビエト連邦の一員であった国々でも公用語の一つになっていたり，実際にロシア語が使われていたりします。また，国連でも公用語の一つです。母語話者の数は一億人を超え，第二言語として用いることのできる人を加えるとさらにロシア語話者は増えることになります。

ロシア語はインド・ヨーロッパ語族の一つで，英語などとも歴史的なつながりがあり，いわば「親戚」です。文法や語彙でヨーロッパの諸言語と共通するところがたくさんあります。使われる文字がキリル文字で，ローマ字（ラテン文字）とは異なるので，ずいぶん違うように思えるかもしれませんが，単語を発音してみると，ヨーロッパの他の言語に近い単語がたくさんあることがわかるでしょう。ロシア語の文字は規則的で，数回学べばわかるようになるでしょう。文法事項には英語にはないものもあって，戸惑うことがあるかもしれません。とは言え，ロシア語の文法の方が簡単なところもあります。例えば，冠詞がないとか，時制の一致がないとかです。まずは，優しい表現を覚えて，使える言葉を増やしていきましょう。

ロシアは，日本海とオホーツク海を隔てていますが，日本の隣の国です。そう思えば，ロシア語も少し身近に感じることができるかもしれません。

神奈川大学では，ロシア語を勉強するための留学や語学研修の制度も整っており，授業ではロシア語検定についての指導もします。留学生とロシア語で交流することもできるようになるでしょう。

【注意】ロシア語の開講キャンパスについて

以下の科目は，みなとみらいキャンパスのみで開講されます。

横浜キャンパス所属学部の学生が履修を希望する場合は，みなとみらいキャンパス開講の授業を対面あるいは遠隔（ハイフレックス）で受講してください。

・「初級」ノーマル方式の一部科目
・「初級」ラピッド方式
・「中級」ノーマル方式の一部科目
・「初級」ラピッド方式
・「上級」の一部科目
・「特修」

■初級ロシア語【ノーマル】

「初級」ははじめて学ぶ人を対象とします。はじめに文字と発音を学び，その後，簡単な表現を覚えながら，文法の基礎を習得していきます。必要に応じて，音声教材やビデオ教材などを活用するほか，ロシアやロシア語が使われている地域についての解説も行い，生きたロシア語に親しんでいきます。

文法・表現を総合的に学ぶ「初級Ⅰ・Ⅳ」と，オーラルコミュニケーションを中心に学ぶ「初級Ⅱ・Ⅲ」があり，それぞれ１コマずつ（週２コマ）を受講することを基本とします。なお，いずれか１コマのみの受講も可能ですが，週２コマ受講の方がより効率的に学ぶことができるでしょう。

■初級ロシア語【ラピッド】

【ラピッド】は速習コースで，週２回のリレー式で開講します。

「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」は会話・作文能力の習得に特化した授業で，ロシア語のアルファベット（キリル文字）に始まり，基本的な動詞の変化まで学習します。また，ロシアの文化・歴史についての紹介も行い，体系的に知識を構築していきます。

「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」は文法知識の徹底習得を目的とした入門書を一年間かけて学んでいき，ロシア語のアルファベット（キリル文字）に始まり，動詞の用法までを学習します。

■中級ロシア語【ノーマル】

「初級」で学んだ基本的な力を土台にして，より高い語学力を身につけることを目指します。オーラルコミュニケーションの面では実用的な表現を中心に学習しながら，会話能力を向上させ，リーディングについては辞書を使っての文章の読解ができるように指導していきます。

「中級」でも，文法・表現を総合的に学ぶ「中級Ⅰ・Ⅳ」と，オーラルコミュニケーションを中心に学ぶ「中級Ⅱ・Ⅲ」がありますので，組み合わせて履修してください。「中級」では，より高度な文法事項や表現を覚える必要がありますが，着実にステップを踏むことで習得していくように学習していきます。

■中級ロシア語【ラピッド】

【ラピッド】は速習コースで，週２回のリレー式で開講します。

「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」の続きです。「中級Ⅰａ・Ⅰｂ」は会話・作文能力の習得に特化した授業で，前置詞の用法や名詞と形容詞の変化，数詞を学習します。また，ロシアの文化・歴史についての紹介も行い，体系的に知識を構築していきます。

「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」の続きです。「中級Ⅱａ・Ⅱｂ」は文法知識の徹底習得を目的とした入門書を一年間かけて学んでいき，移動の動詞から形容分詞といった比較的高度な文法項目を学習します。

■上級ロシア語

「初級」・「中級」で学んだロシア語の語学力をもとに，読解力や会話力など実際に運用する力のさらなる充実をはかっていきます。履修者の関心に応じて，実践的な学習を進めていきます。ロシアなどロシア語が行われている諸地域についての話題も豊富に紹介し，より専門的な知識を深めていくことができます。

■特修ロシア語

「初級」を終えた程度のロシア語力がある人を対象とします。大学でのロシア語の学習内容は，高校までの英語の学習内容より多いので，「初級」や「中級」の学習内容を補う学習を行って，語学力の確実な定着を目指します。語彙・会話・文法・読解の基本的ながら実践的な力を付ける学習をおこないますので，特に検定受験を考えている人にお勧めします。

■ロシア語の検定について

ロシア語の検定は，次のふたつがあります。どちらも単位認定および報奨制度の対象となっています（各級・レベルは低い順に並べています）。

ロシア語能力検定試験（ロシア語能力検定委員会）　４級，３級，２級，１級

ロシア語検定試験（ロシア連邦教育科学省）　入門レベル，基礎レベル，第１レベル，第２レベル，第３レベル，第４レベル

学習到達度のひとつの目安として検定を受験するのもよいでしょう。検定については，「特修」で取り上げる他に各教員が相談に応じます。

日本語について　（対象：外国人留学生，外国高等学校在学経験者〔帰国生徒等〕）

（2020年度入学者から適用）

この講座は,日本語を学習言語として学ぶ学生を対象にしています。既習の日本語の確認,運用を行いつつ,より高度なレベルの日本語を習得することが目的です。

留学生や外国高等学校に在学した経験を持つ皆さんの発想やアイデアには，時に斬新であり，刺激的で，強く訴えかけてくるものがあります。しかし，言語化の過程において,意図した内容と異なる日本語になってしまうことがあります。これは非常にもったいないことです。原因は,文法の間違いや，漢字の読み間違い，発音の問題などさまざまです。言語面での問題ではなく，論理立てに矛盾がある場合もあります。

日本語の授業では，根気の必要な文法の勉強，地道に書く作文の練習もともないますから，辛いと思う人もいるかもしれません。しかし，みなさんの表現したいことを理解するためには必要な道のりです。外国人留学生，外国高等学校在学経験者の皆さんの強みを生かし，他の学生に刺激を与えてほしいと願います。

日本語科目は，習熟度別クラスになっています。さらに,「読む」,「書く」,「聞く」,「話す」の技術に特化したクラスになっています。履修可能なクラスは，入学時のオリエンテーションで行われるプレイスメントテストで決定されます。各科目の内容をシラバスで確認した上で授業に参加してください。

新入留学生の日本語科目の履修登録の詳細は，オリエンテーションで指示します。２年次以上の学生はWeB St@tionで履修登録ができますが，経営学部以外の学生が「日本語Ⅰａ・Ⅰｂ」「日本語Ⅱａ・Ⅱｂ」を履修する場合は，習熟度の再確認が必要です。

●日本語Ⅰａ・Ⅰｂ

「書く」ことを集中して行うクラスです。レポートの書き方を学びます。何かを書くためには，何かを読む作業も必要になりますので,「読む」練習も加わります。

●日本語Ⅱａ・Ⅱｂ

「読む，聞く，書く，話す」の４技能の向上を目指す科目で,基礎的な内容を中心とします。大学の授業に不安を感じる場合は，この科目から履修してください。

●日本語Ⅲａ・Ⅲｂ

「話す」「聞く」練習を中心とします。大学の授業やゼミでの発表を想定した内容です。

●日本語Ⅳａ・Ⅳｂ

日本語「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」より高度な応用練習を行うための授業です。事象の具体的な叙述や抽象的な語彙を使用しての意見陳述,複段落で論理的に話す練習を行います。

●日本語特別演習Ａ（基礎）（知識）（作文）（応用）（理解）Ⅰ・Ⅱ

中・短期間の留学生のための日本語のクラスです。

●日本語演習Ⅰ・Ⅱ

中国語が母語相当のレベルにある学生を対象としたクラスです。人文，社会系の文章を翻訳する練習を通じつつ，専門分野のレポートの執筆ができることを目指します。大学院に進学を希望するみなさんには特に受講を勧めます。「Ⅰ」は中日翻訳,「Ⅱ」は日中翻訳です。

●日本語演習Ⅲ

インターンシップへの参加，就職活動のための日本語を勉強する科目です。自己PRをする，アポイントメントを取る，Ｅメールでやり取りをするなど，様々な場面を想定した練習を行います。また，問題を発見し，解決方法を考え，議論する力を養います。

●日本語Ⅰａ・Ⅰｂ，日本語Ⅱａ・Ⅱｂ，日本語Ⅲａ・Ⅲｂ，日本語Ⅳａ・Ⅳｂ（経営学部生用クラス）

経営学の留学生は専用クラスがあります。前学期に日本語Ⅰａ・Ⅰｂ，日本語Ⅱａ・Ⅱｂを，後学期に日本語Ⅲａ・Ⅲｂ，日本語Ⅳａ・Ⅳｂを履修してください。各授業で「読む，聞く，書く，話す」の４技能の向上を目指します。

授業科目の名称					配当期	授業を行う年次	単位数	対象学部・学科等
共通教養科目	共通基盤科目	外国語科目	英語	英語Ⅰ（基礎）	(前)(後)	1	2	経営学部，理学部を対象とした習熟度別クラス英語
				英語Ⅰ（初級）	(前)(後)	1	2	
				英語Ⅰ（中級）	(前)(後)	1	2	
				英語Ⅰ（上級）	(前)(後)	1	2	
				英語Ⅱ（基礎）	(前)(後)	1	2	経営学部，理学部を対象とした習熟度別クラス英語
				英語Ⅱ（初級）	(前)(後)	1	2	
				英語Ⅱ（中級）	(前)(後)	1	2	
				英語Ⅱ（上級）	(前)(後)	1	2	
				英語Ⅲ（基礎）	(前)(後)	1･2	2	経営学部，理学部を対象とした習熟度別クラス英語
				英語Ⅲ（初級）	(前)(後)	1･2	2	
				英語Ⅲ（中級）	(前)(後)	1･2	2	
				英語Ⅲ（上級）	(前)(後)	1･2	2	
				英語Ⅳ（基礎）	(前)(後)	1･2	2	経営学部，理学部を対象とした習熟度別クラス英語
				英語Ⅳ（初級）	(前)(後)	1･2	2	
				英語Ⅳ（中級）	(前)(後)	1･2	2	
				英語Ⅳ（上級）	(前)(後)	1･2	2	
				英語Ⅰ（Listening）	(前)	1	1	法学部，経済学部，外国語学部（英語英文学科を除く），国際日本学部，人間科学部，工学部（応用物理学科を除く），建築学部，化学生命学部，情報学部を対象とした習熟度別クラス英語
				英語Ⅱ（Listening）	(後)	1	1	
				英語Ⅰ（Speaking）	(前)	1	1	法学部，経済学部，外国語学部（英語英文学科を除く），国際日本学部，人間科学部，工学部（応用物理学科を除く），建築学部，化学生命学部，情報学部を対象とした習熟度別クラス英語
				英語Ⅱ（Speaking）	(後)	1	1	
				英語Ⅰ（Reading）	(前)	2	1	法学部，経済学部，外国語学部（英語英文学科を除く），国際日本学部，人間科学部，電気電子情報工学科，計算機科学科，先端情報領域プログラム，建築学部を対象とした習熟度別クラス英語
				英語Ⅱ（Reading）	(後)	2	1	
				英語Ⅰ（Writing）	(前)	1･2	1	法学部，経済学部，外国語学部（英語英文学科を除く），国際日本学部，人間科学部，電気電子情報工学科，計算機科学科，先端情報領域プログラム，建築学部を対象とした習熟度別クラス英語
				英語Ⅱ（Writing）	(後)	1･2	1	
				英語Ⅰ（総合）	(前)	1	2	応用物理学科を対象とした習熟度別クラス英語
				英語Ⅱ（総合）	(後)	1	2	
				英語Ⅲ（総合）	(前)	2	2	
				英語Ⅳ（総合）	(後)	2	2	
				英語Ⅰ（再入門）	(前)(後)	2･3･4	1	英語Ⅰ（Listening），英語Ⅱ（Listening）の再履修科目
				英語Ⅱ（再入門）	(前)(後)	2･3･4	1	英語Ⅰ（Speaking），英語Ⅱ（Speaking）の再履修科目
				英語Ⅲ（再入門）	(前)(後)	2･3･4	1	英語Ⅰ（Reading），英語Ⅱ（Reading）の再履修科目
				英語Ⅳ（再入門）	(前)(後)	2･3･4	1	英語Ⅰ（Writing），英語Ⅱ（Writing）の再履修科目
				実用英語Ⅰ	(前)	2	1	機械工学科，経営工学科，システム数理学科を対象としたクラス英語
				実用英語Ⅱ	(後)	2	1	
				実用英語Ⅲ	(前)	3	1	
				実用英語Ⅳ	(後)	3	1	
				科学技術英語Ⅰ	(前)	2	2	化学生命学部を対象としたクラス英語
				科学技術英語Ⅱ	(後)	2	2	
				英語会話（初級Ⅰ）	(前)	1･2･3･4	1	選択英語 全学部（英語英文学科を除く）を対象とした科目
				英語会話（初級Ⅱ）	(後)	1･2･3･4	1	
				英語会話（中級Ⅰ）	(前)	1･2･3･4	1	
				英語会話（中級Ⅱ）	(後)	1･2･3･4	1	
				英語会話（上級Ⅰ）	(前)	1･2･3･4	1	
				英語会話（上級Ⅱ）	(後)	1･2･3･4	1	
				ＴＯＥＩＣ演習（初級Ⅰ）	(前)	1･2･3･4	1	
				ＴＯＥＩＣ演習（初級Ⅱ）	(後)	1･2･3･4	1	
				ＴＯＥＩＣ演習（中級Ⅰ）	(前)	1･2･3･4	1	
				ＴＯＥＩＣ演習（中級Ⅱ）	(後)	1･2･3･4	1	
				ＴＯＥＩＣ演習（上級Ⅰ）	(前)	1･2･3･4	1	
				ＴＯＥＩＣ演習（上級Ⅱ）	(後)	1･2･3･4	1	
				ＴＯＥＦＬ演習（初級Ⅰ）	(前)	1･2･3･4	1	
				ＴＯＥＦＬ演習（初級Ⅱ）	(後)	1･2･3･4	1	
				特修英語（中級Ⅰ）	(前)	2･3･4	1	選択英語 全学部（英語英文学科を除く）を対象とした科目
				特修英語（中級Ⅱ）	(前)	2･3･4	1	
				特修英語（中級Ⅲ）	(後)	2･3･4	1	
				特修英語（中級Ⅳ）	(後)	2･3･4	1	
				特修英語（上級Ⅰ）	(前)	2･3･4	1	
				特修英語（上級Ⅱ）	(前)	2･3･4	1	
				特修英語（上級Ⅲ）	(後)	2･3･4	1	
				特修英語（上級Ⅳ）	(後)	2･3･4	1	
				留学英語準備講座Ⅰ	(前)	1･2･3･4	2	選択英語 全学部を対象とした科目。ただし，プレイスメントテスト上位者等から選抜され受講を希望する者が対象。
				留学英語準備講座Ⅱ	(前)	1･2･3･4	2	
				留学英語準備講座Ⅲ	(後)	1･2･3･4	2	
				留学英語準備講座Ⅳ	(後)	1･2･3･4	2	

〔備　考〕

1　外国語科目の卒業要件単位数を含め，履修全般について「外国語科目の履修要領」を参照のこと。

2　視覚・聴覚障がい等のために必修の英語科目の受講が困難な者には，他の英語科目に代替することができる。

授業科目の名称					配当期	授業を行う年次	単位数	対象学部・学科等
共通教養科目	共通基盤科目	外国語科目	韓国語	初級韓国語Ⅰa	(前)(後)	1・2・3・4	1	全学部を対象とした科目 ただし，「スペイン語」はスペイン語学科を除く 「中国語」は中国語学科を除く 「初級韓国語Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb」，「初級スペイン語Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb」，「初級中国語Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb」，「初級ドイツ語Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb」，「初級フランス語Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb」，「初級ロシア語Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb」は理学部，工学部，建築学部，化学生命学部，情報学部を除く
				初級韓国語Ⅰb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級韓国語Ⅱa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級韓国語Ⅱb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級韓国語Ⅲa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級韓国語Ⅲb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級韓国語Ⅳa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級韓国語Ⅳb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語Ⅰa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語Ⅰb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語Ⅱa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語Ⅱb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語Ⅲa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語Ⅲb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語Ⅳa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語Ⅳb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				上級韓国語Ⅰ	(前)	2・3・4	1	
				上級韓国語Ⅱ	(前)	2・3・4	1	
				上級韓国語Ⅲ	(後)	2・3・4	1	
				上級韓国語Ⅳ	(後)	2・3・4	1	
				特修韓国語Ⅰ	(後)	1・2・3・4	1	
				特修韓国語Ⅱ	(前)	2・3・4	1	
			スペイン語	初級スペイン語Ⅰa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語Ⅰb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語Ⅱa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語Ⅱb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語Ⅲa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語Ⅲb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語Ⅳa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語Ⅳb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語Ⅰa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語Ⅰb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語Ⅱa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語Ⅱb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語Ⅲa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語Ⅲb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語Ⅳa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語Ⅳb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				上級スペイン語Ⅰ	(前)	2・3・4	1	
				上級スペイン語Ⅱ	(前)	2・3・4	1	
				上級スペイン語Ⅲ	(後)	2・3・4	1	
				上級スペイン語Ⅳ	(後)	2・3・4	1	
				特修スペイン語Ⅰ	(後)	1・2・3・4	1	
				特修スペイン語Ⅱ	(前)	2・3・4	1	
			中国語	初級中国語Ⅰa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級中国語Ⅰb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級中国語Ⅱa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級中国語Ⅱb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級中国語Ⅲa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級中国語Ⅲb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級中国語Ⅳa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級中国語Ⅳb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級中国語Ⅰa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級中国語Ⅰb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級中国語Ⅱa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級中国語Ⅱb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級中国語Ⅲa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級中国語Ⅲb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級中国語Ⅳa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級中国語Ⅳb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				上級中国語Ⅰ	(前)	2・3・4	1	
				上級中国語Ⅱ	(前)	2・3・4	1	
				上級中国語Ⅲ	(後)	2・3・4	1	
				上級中国語Ⅳ	(後)	2・3・4	1	
				特修中国語Ⅰ	(後)	1・2・3・4	1	
				特修中国語Ⅱ	(前)	2・3・4	1	

授業科目の名称					配当期	授業を行う年次	単位数	対象学部・学科等
共通教養科目	共通基盤科目	外国語科目	ドイツ語	初級ドイツ語Ⅰa	(前)(後)	1・2・3・4	1	全学部を対象とした科目 ただし，「スペイン語」はスペイン語学科を除く 「中国語」は中国語学科を除く 「初級韓国語Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb」，「初級スペイン語Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb」，「初級中国語Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb」，「初級ドイツ語Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb」，「初級フランス語Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb」，「初級ロシア語Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb」は理学部，工学部，建築学部，化学生命学部，情報学部を除く
				初級ドイツ語Ⅰb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級ドイツ語Ⅱa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級ドイツ語Ⅱb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級ドイツ語Ⅲa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級ドイツ語Ⅲb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級ドイツ語Ⅳa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級ドイツ語Ⅳb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ドイツ語Ⅰa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ドイツ語Ⅰb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ドイツ語Ⅱa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ドイツ語Ⅱb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ドイツ語Ⅲa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ドイツ語Ⅲb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ドイツ語Ⅳa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ドイツ語Ⅳb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				上級ドイツ語Ⅰ	(前)	2・3・4	1	
				上級ドイツ語Ⅱ	(前)	2・3・4	1	
				上級ドイツ語Ⅲ	(後)	2・3・4	1	
				上級ドイツ語Ⅳ	(後)	2・3・4	1	
				特修ドイツ語Ⅰ	(後)	1・2・3・4	1	
				特修ドイツ語Ⅱ	(前)	2・3・4	1	
			フランス語	初級フランス語Ⅰa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級フランス語Ⅰb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級フランス語Ⅱa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級フランス語Ⅱb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級フランス語Ⅲa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級フランス語Ⅲb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級フランス語Ⅳa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級フランス語Ⅳb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級フランス語Ⅰa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級フランス語Ⅰb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級フランス語Ⅱa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級フランス語Ⅱb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級フランス語Ⅲa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級フランス語Ⅲb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級フランス語Ⅳa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級フランス語Ⅳb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				上級フランス語Ⅰ	(前)	2・3・4	1	
				上級フランス語Ⅱ	(前)	2・3・4	1	
				上級フランス語Ⅲ	(後)	2・3・4	1	
				上級フランス語Ⅳ	(後)	2・3・4	1	
				特修フランス語Ⅰ	(後)	1・2・3・4	1	
				特修フランス語Ⅱ	(前)	2・3・4	1	
			ロシア語	初級ロシア語Ⅰa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級ロシア語Ⅰb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級ロシア語Ⅱa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級ロシア語Ⅱb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級ロシア語Ⅲa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級ロシア語Ⅲb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級ロシア語Ⅳa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級ロシア語Ⅳb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ロシア語Ⅰa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ロシア語Ⅰb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ロシア語Ⅱa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ロシア語Ⅱb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ロシア語Ⅲa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ロシア語Ⅲb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ロシア語Ⅳa	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級ロシア語Ⅳb	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				上級ロシア語Ⅰ	(前)	2・3・4	1	
				上級ロシア語Ⅱ	(前)	2・3・4	1	
				上級ロシア語Ⅲ	(後)	2・3・4	1	
				上級ロシア語Ⅳ	(後)	2・3・4	1	
				特修ロシア語Ⅰ	(後)	1・2・3・4	1	
				特修ロシア語Ⅱ	(前)	2・3・4	1	

〔備　考〕

1　外国語科目の卒業要件単位数を含め，履修全般について「外国語科目の履修要領」を参照のこと。

2　視覚・聴覚障がい等のために必修の英語科目の受講が困難な者には，他の英語科目に代替することができる。

2023年度　共通教養科目　教育課程表（別表 外国語科目）（2023年度入学者から適用）

授業科目の名称					配当期	授業を行う年次	単位数	対象学部・学科等
共通教養科目	共通基盤科目	外国語科目	日本語	＊　日本語Ⅰa	(前)(後)	1･2･3･4	1	外国人留学生［外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）を含む］（国際文化交流学科を除く）を対象とした科目
				＊　日本語Ⅰb	(前)(後)	1･2･3･4	1	
				＊　日本語Ⅱa	(前)(後)	1･2･3･4	1	
				＊　日本語Ⅱb	(前)(後)	1･2･3･4	1	
				＊　日本語Ⅲa	(前)(後)	1･2･3･4	1	
				＊　日本語Ⅲb	(前)(後)	1･2･3･4	1	
				＊　日本語Ⅳa	(前)(後)	1･2･3･4	1	
				＊　日本語Ⅳb	(前)(後)	1･2･3･4	1	
				＊　日本語演習Ⅰ	(前)	2･3･4	1	
				＊　日本語演習Ⅱ	(後)	2･3･4	1	
				＊　日本語演習Ⅲ	(前)(後)	2･3･4	1	
				☆　日本語特別演習（基礎）ＡⅠ	(前)	1･2･3･4	1	受入交換留学生を対象とした科目
				☆　日本語特別演習（基礎）ＡⅡ	(後)	1･2･3･4	1	
				☆　日本語特別演習（作文）ＡⅠ	(前)	1･2･3･4	1	
				☆　日本語特別演習（作文）ＡⅡ	(後)	1･2･3･4	1	
				☆　日本語特別演習（応用）ＡⅠ	(前)	1･2･3･4	1	
				☆　日本語特別演習（応用）ＡⅡ	(後)	1･2･3･4	1	
				☆　日本語特別演習（知識）ＡⅠ	(前)	1･2･3･4	1	
				☆　日本語特別演習（知識）ＡⅡ	(後)	1･2･3･4	1	
				☆　日本語特別演習（理解）ＡⅠ	(前)	1･2･3･4	1	
				☆　日本語特別演習（理解）ＡⅡ	(後)	1･2･3･4	1	

〔備　考〕

1　外国語科目の卒業要件単位数を含め，履修全般について「外国語科目の履修要領」を参照のこと。
2　＊印は外国人留学生［外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）を含む］を対象とした科目である。
3　☆印は受入交換留学生を対象とした科目である。
4　視覚・聴覚障がい等のために必修の英語科目の受講が困難な者には，他の英語科目に代替することができる。

4　履修案内

経営学部
●国際経営学科

KU 神奈川大学

経営学部の教育課程について

——学部長からのメッセージ——

経営学部長　真鍋　明裕

みなさんは、将来どのような職種で、どのように働くことを考えていますか。もちろん、それは人によりさまざまだと思いますが、何らかの形でビジネスと関わりをもつ人は多いのではないでしょうか。本学部が中心に据える経営学は、ビジネスに関する概念、制度、方法などについて科学的に考える学問です。

経営学は、社会科学の一つです。社会科学とは、「社会現象がどのようなメカニズムで起きているのか」を解き明かす学問です。経営学は、社会現象のうち、とくに企業経営に注目して、その秘密を解明しようとするものであるといえます。たとえば、業績好調な企業がどのような経営を行っているか、ということには、多くの人が興味を持つのではないでしょうか。このとき、ここでいう「経営」には色々な要素が関係していると考えられます。参入する市場の選定、経営計画の立案、予算配分、商品開発、マーケティング、人材の育成など、他にもたくさんあるでしょう。そして、そのそれぞれに専門的な理論が存在し、現在も活発に研究が続けられています。また、学問的な研究成果が実際のビジネスに応用されることも珍しくありません。したがって、将来、ビジネスの世界で活躍するためには、経営学及びその周辺領域の知識を身につけることが不可欠であるといえます。

経営学部では、みなさんが効果的かつ体系的に学修をすすめられるよう、カリキュラムを編成しています。みなさんが履修する科目は、大きく分けて共通教養科目と専攻科目から成り立っています。共通教養科目は、経営学のどのような分野を専門的に学ぶとしても全員に必要とされるような、知識・スキルの基盤を提供するものです。FYS や外国語科目のほか、人文・社会の分野、および自然の分野等に関する科目が配置されています。そして、専攻科目では、共通教養科目で得た知識を基礎としつつ、みなさんが専門とする経営学を中心とした科目を学んでいきます。経営学を構成する領域ごとにショップが設定されており、各ショップにおいて専門知識を身につけられるほか、2021年度からのカリキュラムでは、より実践的・集中的に学ぶことのできるプログラムも用意されています。

みなさんが経営学部での学びを通じて、幅広い知識と視野を獲得し、社会を発展させる人物となっていかれることを期待しています。

学部・学科の教育研究上の目的及び基本方針

学部・学科の教育研究上の目的及び基本方針

経営学部　国際経営学科

教育研究上の目的

本学部は，個人の人格と学問の自由を尊重しつつ，世界各国のさまざまな経営風土において活躍するために必要な教養と経営学に関する学識を身に付け，国際社会で求められる問題解決能力とコミュニケーション能力を有する実力ある人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学部の教育研究上の目的等を踏まえ，経営学部国際経営学科では，グローバル化する経済社会においてこれから真に国際人として活躍できる人材を育成するために，初年度教育の強化，語学学習の習熟度別集中授業展開，少人数ゼミナールの必修化，双方向授業の拡充，専攻科目の英語による授業開講数の増大，時代のニーズに即した講義科目の設置，そして海外大学での長短期にわたる学修機会の多様化と海外からの留学生の受け入れ強化をとおして，経営学に関する広範な学識をもとに，世界各地の異なる経営風土のなかで発生する諸問題の的確な把握と分析力を身につけると同時に，問題解決に向けて国際社会のさまざまな場所で人々の協働を発意し，うながすことのできる実践力とコミュニケーション能力を身につけることを教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー　（学位授与の方針）

本学科のカリキュラムにおいて，授業科目や卒業論文を含む演習科目を合わせて４年間に所定の卒業要件単位を修得した者は，次に掲げる知識や能力を身につけていると判断し，学士（国際経営学）の学位が授与されます。

１．自立した良識ある市民としての判断力と実践力

（１）複雑多様な問題の本質を究明し，自己の意見を形成し，主体的に行動する態度を身につけている。

（２）創造的・主体的に問題解決にあたる実践的能力を身につけている。

２．国際的感性とコミュニケーション能力

（１）世界各国のさまざまな文化的・社会的多様性を理解できる能力を身につけている。

（２）世界で活躍するに必要な，教養と語学力に裏付けられたコミュニケーション能力を身につけている。

３．時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

（１）経営学全般にわたる専門的知識を身につけている。

（２）世界各国の経営風土を理解できる，「国際経営」に関する専門的知識を身につけている。

（３）創造的な問題解決能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー　（教育課程編成・実施の方針）

本学科では，経営学の学識と世界各国で活躍するために必要となる教養を備え，問題解決能力とコミュニケーション能力を有する実力ある人材を育成するために，多彩な教育スタッフによって計画的・組織的に，以下に示した方針で教育課程の編成と評価を行っています。

１．教育課程の編成・実施

（１）経営学の入門科目から実践的な専門科目まで体系的な学びができるようにカリキュラムを編成しています。本学科の教育課程は，必修科目群と選択必修科目群，選択科目群の３群から構成されます。必修科目群は大学入学初年次生を対象に，本学科で学ぶことになる国際経営に関する基礎的な科目群（「国際経営基礎科目（必修）」）と，２年次演習，３・４年次生対象の専門演習Ⅰ～Ⅳから構成されています。必修の「演習」（ゼミナール）における少人数指導によって，さらに専門的知識を深め，問題の本質を究明し解決する実践力とプレゼンテーション能力を涵養します。

（２）選択必修科目群は，経営学に関する基礎的な知識を身につけるために，マネジメントや会計，マーケティング・デザイン経営など基礎的な専門科目（「国際経営基礎科目（選択必修）」）で構成されています。

（３）選択科目は，「ショップ」という科目群とプログラム科目，関連科目から構成されています。ショップには，マネジメント，会計，マーケティング・デザイン経営，国際理解という４つの分野があり，卒業するまでにそれらのショ

ップから一定程度の複数の科目を履修し，修得することが求められます。

２．教育の方法と評価

（１）学生は，個人個人の将来のキャリアを設計する中で，それに相応しい専門ショップを選択して，そのショップのなかの科目を履修することになります。これらの科目は非系統的な履修とならないよう，選択ショップの必要最低修得単位数を設定し，専門性と体系性を深めていけるようにしています。

（２）初年次ゼミの「ファースト･イヤー・セミナー（FYS)」および経営学部独自の「２年次演習」を通じて，論理的思考力やコミュニケーションスキルなどの基礎的なスキルを学ぶとともに日常的な学修活動のサポートを行っています。

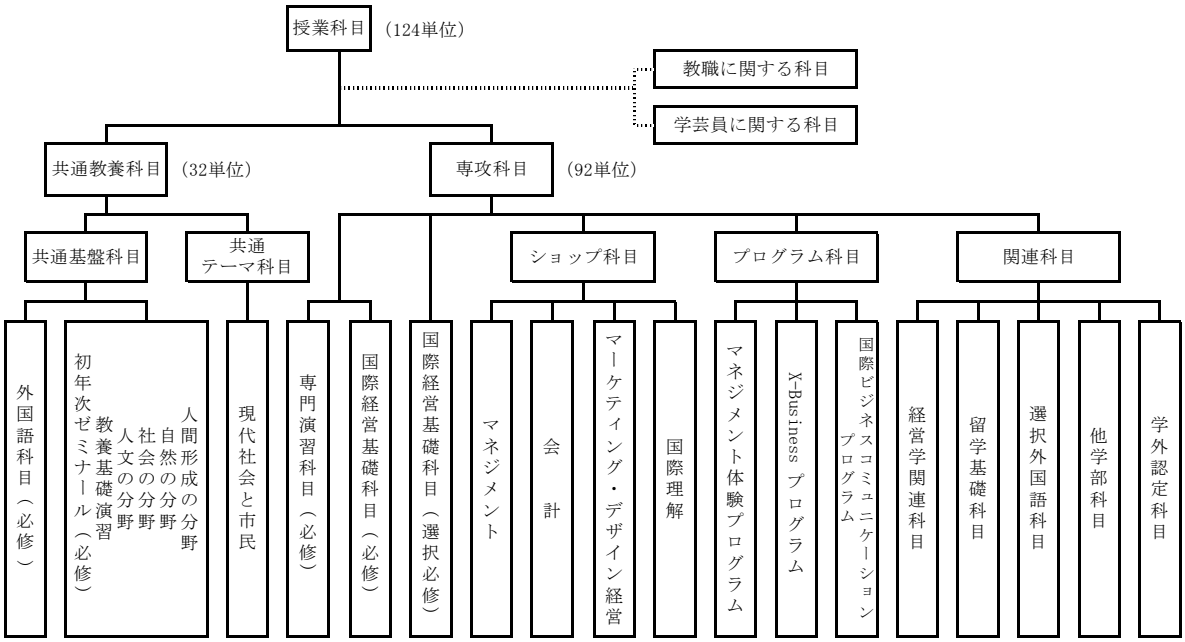
（３）単位制度の実質化を図るため，成績評価の方法及び基準を明確化し，成績評価を厳格化しています。

国際経営学科のカリキュラム　（2021年度入学者から適用）

経営学部国際経営学科のカリキュラムは，共通教養科目と経営学部の専攻科目によって構成されています。共通教養科目は，国際社会において活躍できる幅広い教養を身につけた国際人の養成のための科目群であり，共通基盤科目と共通テーマ科目から成ります。共通基盤科目は，幅広い分野における教養，基礎学力，ジェネリックスキルの育成を目的としています。共通テーマ科目は，新たな知や価値の創造に挑戦し，学際的な物の見方や考え方について知識を深めるための科目です。

国際経営学科の専攻科目は，卒業までに必ず履修する国際経営基礎科目（必修），専門演習科目と，選択して履修する国際経営基礎科目（選択必修），ショップ科目，プログラム科目，及び関連科目によって構成されています。

＜図表１　国際経営学科のカリキュラム体系＞



＜図表２　共通教養科目の卒業要件＞

授業科目／入学年度	共通教養科目								共通教養科目　合計
	共通基盤科目							共通テーマ科目	
	初年次ゼミナール（必修）	外国語科目（必修）	教養基礎演習	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	現代社会と市民	
2021年度以降入学者	2	8		4	4	4	2	2	３２
			6						

〈図表３　専攻科目の卒業要件〉

授業科目／入学年度	専攻科目																
	専門演習科目（必修）	国際経営基礎科目（必修）	国際経営基礎科目（選択必修）	ショップ科目				プログラム科目			関連科目					専攻科目　合計
				マネジメント	会計	マーケティング・デザイン経営	国際理解	マネジメント体験プログラム	X-Businessプログラム	国際ビジネスコミュニケーションプログラム	経営学関連科目	留学基礎科目	選択外国語科目	他学部科目	学外認定科目	
2021年度以降入学者	１０	１０	１０	４０												９２
			２２													

経営学部国際経営学科では，1989 年の創設当初より，一般の経営学部で教授されるマネジメントの専門性に加えて，国際性及び国際経営を取り巻く経営環境の研究に力点を置いて教育内容を充実させてきたという歴史があります。

具体的には，国際経営を機能，環境，そして地域という分類から立体的に捉えた教育プログラムを実践してきました。その第１は，マネジメントに直接関連する分野（経営戦略，経営組織，購買，生産，マーケティング，研究開発，人的資源，財務，会計，法務などの経営諸機能），第２は，経営組織を取り巻く経営環境面に関する分野（政治，経済，法律，技術，社会，文化，スポーツなど，経営の外部及び内部環境）です。そして，第３に，地理的領域を捉え，事業展開を行う国ないし地域に関係する分野，及びコミュニケーションに関わる分野として国際経営の領域的側面を把握するものです。

経営学部では，創立以来これら３つを基軸としながらも，時代のニーズに応える形でカリキュラムを作ってきました。2021 年４月には，「みなとみらい」にキャンパスを移転することを機に，みなさんが世界や日本を代表する企業が集まる「みなとみらい」の立地を活かした学修を進められるよう，「マネジメント」「会計」「マーケティグ・デザイン経営」「国際理解」の４つの専門科目群からなるキャリア・ショップシステムを導入するに至りました。このようなカリキュラムの改変においても，経営学部国際経営学科のもつ専門性と国際性，そして経営環境の重要性への配慮という理念は創立以来一貫しています。

さて，最新のキャリア・ショップシステムの特徴としては，経営学の基礎的な知識の学修に加え，「マネジメント」「会計」「マーケティグ・デザイン経営」「国際理解」という４つの専門科目群（ショップ）を組み合わせて，自分の進路にあった学びを自分で組み立てることができるという点にあります。たとえば，世界で活躍するビジネスパーソンを目指すなら，「マネジメント」と「国際理解」という２つのショップ内にある科目を多く学んでみましょう。また，会計のスペシャリストになりたければ，「会計」と「マネジメント」というショップを組み合わせるとよいでしょう。

そのほか，経営学の専門的な知識を教室で授業として学ぶだけでなく，アクティブに学ぶことのできるプログラムが３つ用意されていますので，より実践的な学びを体験することもできます。このように経営学部のカリキュラムは，「経営学」という専門的分野の知識をより一層深め，それを体系的に学修できるようになっています。

Ⅻ　学修相談について

入学してから卒業までの間，何事もなく無事に過ごすのが当たり前と思う人が多いでしょうが，それでも高校と大学との学修環境の違いから，いろいろ戸惑うことがあると思います。そうした場合に，各学部・学科ごとに学生一人ひとりの相談に応じられる制度を設けています。この相談には専任教員全員があたり，学生のみなさん一人ひとりが有意義な大学生活を送れるための手助けをします。

経営学部では「アドバイザー制度」を設けています。学修及び学生生活の全般にわたって相談に応じたいと思います。積極的にこの制度を活用し，学生生活を豊かなものにしてください。

経営学部ではこの制度を効果的に実施するため，専任教員全員がそれぞれ「オフィス・アワー」を設け，この時間を研究室での学生諸君との面談に充てています。学期の始めにこの「オフィス・アワー」の時間が発表されますので，大いに利用してください。

１．クラス担任は置きません。

２．アドバイザー

(1)　１年次生：「ＦＹＳ」の担当教員がアドバイザーとなります。新入生オリエンテーションにおいて発表します。

(2)　２年次生：「２年次演習」の担当教員がアドバイザーとなります。

(3)　３年次生：各自履修の「演習Ⅰ・Ⅱ」の担当教員がアドバイザーとなります。

(4)　４年次生：各自履修の「演習Ⅲ・Ⅳ（含む卒業論文）」の担当教員がアドバイザーとなります。

4　履修案内
共通教養科目

（2020 年度入学者から適用）

共通基盤科目　外国語科目の特徴と履修

(1) 外国語科目の履修方法及び進級要件・卒業要件単位数

外国語の運用能力は，現代社会を生き抜く国際人に要求される素養のなかでも，もっとも基本的で不可欠なものです。経営学部では，８つの言語〔英語，ドイツ語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語，韓国語，日本語（留学生向け)〕の科目を設けています。その中から，すべての学生が自らの学修の関心に応じ，１つ以上の外国語を選択し，そのうちの１外国語科目については８単位を「卒業要件単位数」として必ず履修する必要があります。

複数の外国語を履修することや，選択した外国語に関して８単位を超えて履修することは自由であり，そのようにして修得した単位は，専攻科目の「選択外国語科目」として卒業要件単位数に算入することができます。

〔履修方法について〕

①日本語を母語とする者は，日本語を除く７外国語の科目から，１年次前学期に４単位以上及び１年次後学期に４単位以上，履修することを推奨します。

②日本語以外の言語を母語とする者は，日本語を１年次前学期に４単位及び１年次後学期に４単位履修しなければならず，さらに母語以外の外国語科目も履修することができます。ただし，能力検定試験等で一定の水準以上の日本語能力を有すると認められた場合は，母語及び日本語以外の外国語科目を履修することができます。この履修方法は，外国人留学生及び外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）に適用されます。

〔「卒業要件単位数」の８単位について〕

複数の外国語を選択しても，同一言語の指定された科目で最低８単位を修得しなければ卒業できません。２つ以上の言語にまたがって修得した単位の合計が８単位であっても，「卒業要件単位数」を充足したとはみなされません。

〔３年次への「進級要件」に関わる単位数について〕

２年次から３年次への進級要件を充足するためには，複数言語で８単位以上を修得しても構いません。

いずれの外国語でも前学期と後学期にそれぞれ４単位ずつ履修することが望ましく，例えば，ドイツ語（ラピッド方式）を選択した学生は，通常であれば前学期に「初級ドイツ語Ⅰａ・Ⅰｂ」と「初級ドイツ語Ⅱａ・Ⅱｂ」を履修し，後学期には「中級ドイツ語Ⅰａ・Ⅰｂ」と「中級ドイツ語Ⅱａ・Ⅱｂ」を履修することになります。学生のみなさんには，１年次において前学期・後学期とも，最低週４回の外国語の授業を受講することが望まれます。

また，日本語を除く７外国語には，２年次配当の外国語科目（例えば，「特修英語（上級)」や「上級ドイツ語」）が設けられています。これらの科目は，英語では原則的に「卒業要件単位数」の８単位を充足した上で，さらに外国語の学習を続けることを希望するみなさんのために設けられています。これら「上級外国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の中から好きな科目を必要な分だけ履修することができます。

ドイツ語，フランス語，スペイン語，中国語，韓国語及びロシア語には特修外国語が開講され，修得した学生がさらなる語学の向上を目指す学習の場を提供するばかりでなく，学修の到達レベルを示す材料として，語学能力検定受験の準備も兼ねています。

ここまでは，主に，どの外国語にも共通の特徴を述べてきました。以下では，選択する外国語によって履修の仕方が異なる点や，特別な制限のある個別の特徴について述べます。

(2) 英語科目の履修の特徴と注意事項

「クラス英語」（卒業要件単位数の８単位）について

英語は，多くの学生のみなさんが既に６年間以上学習してきた言語であり，海外経験の有無などをも考慮すると，各学生の必要とする教育内容にはかなりの幅があると思われます。経営学部には，各学生の関心と能力にできるだけきめ細かに対応した授業を行うために，**習熟度別**の英語科目を設置しています。英語を選択する学生は，前学期・後学期それぞれの学期にむけて行われる**プレイスメントテスト**を受験し，その結果にもとづき，「英語（基礎)」「英語（初

級)」「英語（中級)」「英語（上級)」のいずれかの授業科目が各自の履修可能な科目として指定されます。従って，プレイスメントテストの受験が履修の条件です（図表５参照)。英語を選択するみなさんは，まず履修登録期間前の指定された期間にプレイスメントテストを受験してください。後日，その成績により履修すべき授業料目と所属すべきクラスが発表されます。(例 :「英語Ⅰ（上級ａ)」や「英語Ⅱ（中級ｄ)」のように，各レベル内のクラスが学籍番号と共に示される。）みなさんは，自分の指定されたクラスと担当教員を確認して最初の授業に出席した後に，履修登録を行います。プレイスメントテストを受験せず，クラス指定を受けないまま履修登録をしても，正規の履修登録とは認められません。仮に，履修を希望するにもかかわらず，プレイスメントテストを受験できない正当な理由のある場合は，速やかに教務課へ相談してください。

習熟度別の授業科目を設置するのは，学生のみなさんが常に習熟度のより高い授業科目へと飛躍する意欲をもって，自分の着実な進歩を意識しながら学習に励んでもらいたいからです。次の例に示すように，みなさんの履修する英語科目は，プレイスメントテストの結果により前学期と後学期で変化する可能性があります。

ある学生Ｓさんが，入学時のプレイスメントテストで「英語（中級)」に相当する得点を取った場合，Ｓさんは１年次前学期に「英語Ⅰ（中級)（週２回・２単位)」と「英語Ⅱ（中級)（週２回・２単位)」を受講し，英語の授業は合計週４回で４単位分受講することになります。Ｓさんは１年次前学期の終わりに再度プレイスメントテストを受け，その得点に対応する授業科目を後学期に履修します。前学期と同じ習熟度の授業科目（この場合,「英語（中級)」）のⅢ・Ⅳを履修する場合もありますし，前学期より習熟度の高い科目（この場合,「英語（上級)」）のⅢ・Ⅳを履修する場合もあります。反対に，前学期より習熟度の低い科目（この場合,「英語（初級)」又は「英語（基礎)」）のⅢ・Ⅳを履修することになる場合もあります。

１年次で「卒業要件単位数」の８単位はすべて修得できますが，２年次以降も英語科目（英語Ⅰ～Ⅳ（基礎)・(初級)・(中級)・(上級)）をさらに履修する学生は，決められた日時（WeB St@tion 等で通知する）に再度プレイスメントテストを受験し，その成績が１年次に既に履修済みの科目より高い習熟度の科目に相当する場合，その授業科目の受講資格を得ることになります。その場合，Ⅰ・Ⅱの２科目（後学期ならばⅢ・Ⅳの２科目）のうち，２科目とも履修しても良いし，どちらか一方だけを履修しても構いません。

大学の成績として記録に残すことを考えれば，最終的には「英語（上級)」まで履修することが理想的でしょう（成績証明書には,「(基礎)」「(初級)」「(中級)」「(上級)」といった習熟度を表す科目名が明記されるので，同じ単位数であっても社会的な評価は異なることに注意し，少しでも上位グレードの授業科目を履修し，単位修得できるように努力してください)。

もちろん，どの習熟度の授業科目を履修するにしても，着実に進歩すべく努力することが重要です。また，専攻科目が多くなる２・３・４年次になると，時間割の重複などにより履修選択が大変困難になるので，本来の配当年次・学期に必要な単位を履修するべきです。何らかの理由により，１年次において「卒業要件単位数」の８単位を履修できなかったみなさんは，単位修得のできなかった不足分の単位を２年次に再度履修しなければなりません。ただし，１年次に履修して単位を修得済みの科目と，同一名称の科目を再度履修することはできないので注意してください。再履修が必要である場合は，プレイスメントテストを受験する必要があります。

なお,「IBC プログラム」に出願し，配属が決定した学生はプレイスメントテストの得点に応じて「英語Ⅰ～Ⅳ（上級 IBC English)」もしくは「英語Ⅰ～Ⅳ（中級 Pre-IBC English)」を履修します。詳細については「IBC プログラム」を参照して下さい。

また，パソコンでの学習はもちろん，タブレットやスマホでも学習が可能な「英語 e ラーニング・システム」が導入され，学内・学外を問わず，オンラインで英語の自主学習ができます。本学在学中，無料で使用できますので TOEIC® や TOEFL®のスコアアップなど，授業以外でも積極的に利用し，大いに活用して力を伸ばしてください。

詳細はこちらのＱＲコードより確認してください。

「選択英語」について

言語は継続して学習に取り組むことで，より高度な運用能力が身につきます。卒業に必要な8単位の英語科目の修得で満足することなく，ぜひ継続して，あるいは並行してさらに英語の学習に取り組んでください。そのために用意されているのが「選択英語」です。以下の選択英語科目はそれぞれ週１回開講される１単位の科目です。

選択英語では，力を伸ばしたい分野を選べるようになっています。また，いつくかのレベルで授業を開講していますから，自分の力にふさわしいレベルを選んで効果を上げてください。

●「英語会話（初級）～（上級）」

「英語会話（初級）」の到達目標は，日常会話ができるようになることです。「英語会話（中級）」では，一般的な事柄について会話ができるようになること，「英語会話（上級）」では専門的な事柄についても一応の受け答えができるようになることが目標です。

●「TOEIC 演習（初級）～（上級）」

TOEIC®テストのスコアを伸ばすことを目標とした科目です。「TOEIC 演習」の到達目標スコアは，概ね（初級）は500点，（中級）は600点，（上級）は700点以上です。

●「TOEFL 演習（初級）」

初めて TOEFL®を受験する人向けに，４技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）を問う TOEFL iBT®に対応し，テスト対策，及び留学時に必要な基礎的能力の育成を目指します。

●特修英語（中級）I【前期：リーディング】・III 【後期：４技能】

異文化における出来事を記述した英文を使用し，読解力を様々なタスク（語彙の推測，英文構造理解，英文法理解，要約など）を通して構築していきます。同時にグローバル社会における多様性の中でどのように生きるかを考える活動も行います。後期は4技能全てを伸ばす演習を行い，それぞれの能力向上のためのコツをつかむ授業とします。

●特修英語（中級）II【前期】・ IV【後期】: TOEIC®対策とニュース聞き取り

リスニング，速読のリーディング，文法問題を，テキストを用いながら総合的に練習していきます。リスニングは TOEIC®の問題にとどまることなく，少し長いバイリンガルニュースなどの聞き取りの練習も行います。目安として TOEIC®スコア650点の獲得を目指します。

●特修英語（上級）I【前期】・ III【後期】: English Communication

自分の意図を効果的かつ説得力を持って伝えるための様々なストラテジーに焦点を当て，ペアワークやディスカッション，演習を通じて実践的な英語力の向上を目指します。また，状況に応じて口語表現を適切に使い分ける練習もしていきます。中・上級レベルのクラス英語を履修中あるいは履修済みの学生におすすめです。

●特修英語（上級）II【前期】・ IV【後期】：プレゼンテーション

効果的な英語プレゼンテーションを行うための伝達方法（姿勢，ボディーランゲージ，発声等），視覚資料の作成方法，文章の構成方法の基本を，実践を通じて体得します。授業で扱うスキルは英語のみならず，日本語を含む他言語におけるプレゼンテーションにも応用できるものです。中・上級レベルのクラス英語を履修中あるいは履修済みの学生におすすめです。

なお，上記の選択英語科目の多くは「履修制限科目」で，履修者の定員数が決まっています。応募者が定員数を超えた場合は，抽選の結果で履修が決定します。

●「留学英語準備講座」

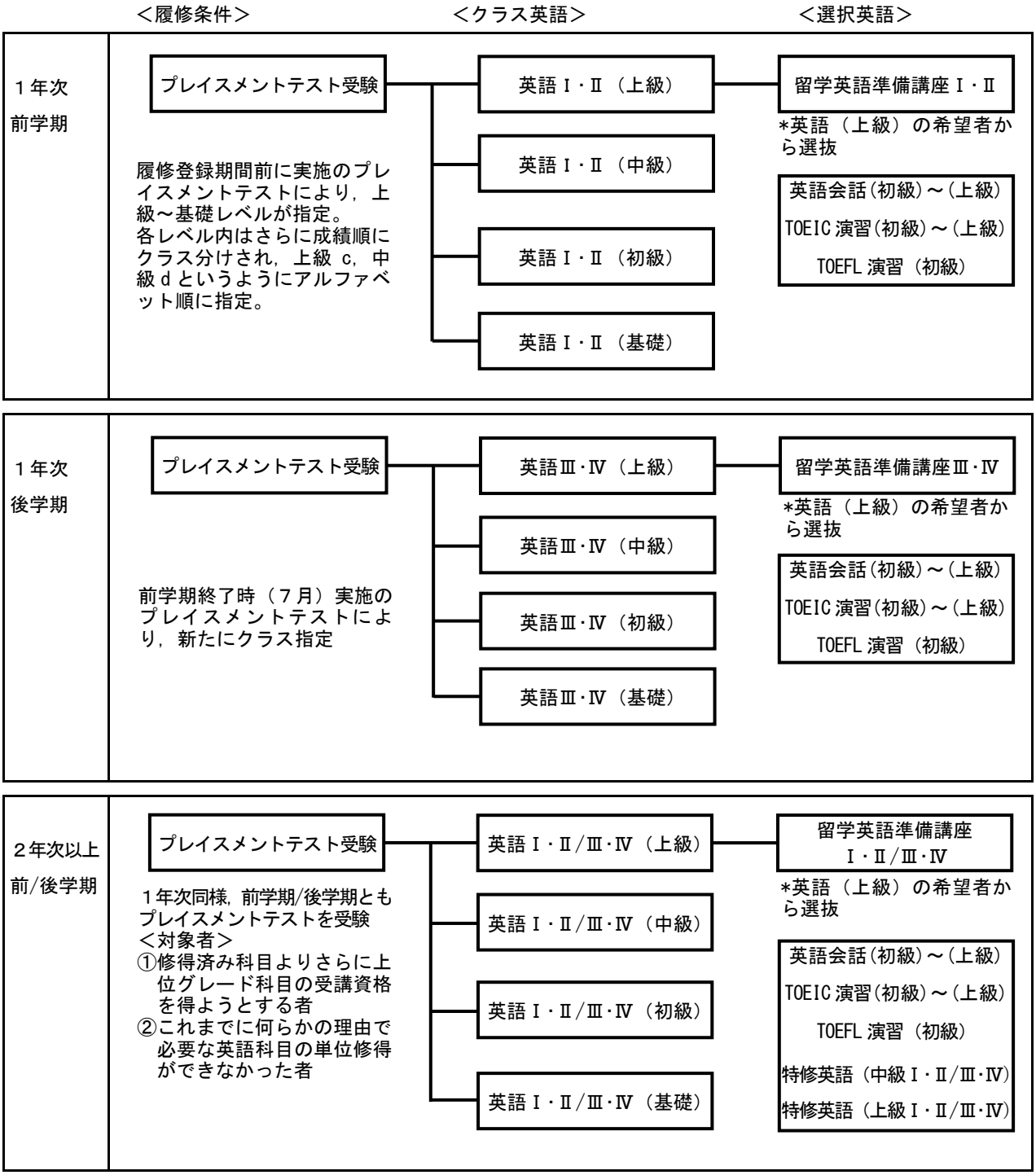
「留学英語準備講座 I・II」（前学期），「留学英語準備講座 III・IV」（後学期)は，グローバル人材育成を目的とした留学を支援するために，派遣の条件となる TOEFL®などの資格試験のスコアアップを主な目的とした科目で，１年次より開講されます。受講資格は，原則としてプレイスメントテストの結果により「英語（上級）」の判定を受けた希望者の中から，プレイスメントテストの成績順に選抜します。I～IV のそれぞれが週２回授業を行う科目ですが，学習

効果を高めるために週４回の受講を推奨します。受講生には，学習効果を計るために学内で実施されている TOEFL ITP®(有料)を数回受験することが義務付けられます。受講に関する詳しい内容は，オリエンテーション期間中に開催される「留学英語準備講座Ⅰ～Ⅳ」説明会にてお知らせしますので，その指示に従ってください。留学英語準備講座は大学の特別な支援を受けて長期留学プログラムと連動した形で運営され，選抜された学生だけが受講の機会を得るという特別な授業のため，原則として全回出席が求められます。真剣に将来国際舞台におけるキャリアを考える学生を対象とした授業科目です。なお，留学英語準備講座は卒業要件単位数として必要な「１外国語８単位（必修)」にはならないので，注意してください。

(3) 英語以外の外国語科目

共通教養科目「地域言語（英語以外の外国語）について」のページを確認してください。

＜図表５　英語の履修条件と履修可能な科目＞



外国語科目の履修要領・教育課程表　（2020年度入学者から適用）

国際経営学科

<table>
<tr><td colspan="2">必修科目としての外国語</td><td>英語，韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，日本語から一外国語を選び，その外国語を８単位修得しなければならない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">選択科目としての外国語
（必修以外に外国語を履修した場合）</td><td>必修科目の外国語以外に，外国語を修得した場合，その単位は卒業要件中の「関連科目（選択外国語科目）」に算入する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">英語の履修方法</td><td rowspan="2">必修科目としての英語</td><td>必修科目の英語は，プレイスメントテストに基づいたクラス編成(基礎・初級・中級・上級)を行う。
原則として，指定されたクラスの授業を履修しなければならない。

１年次では
英語Ⅰ（前）
英語Ⅱ（前）
英語Ⅲ（後）
英語Ⅳ（後）
４科目　計８単位を履修しなければならない。</td></tr>
<tr><td>再履修の方法
上記の授業科目を修得できなかった場合，プレイスメントテストを再受験のうえ，当該科目を再履修しなければならない。</td></tr>
<tr><td>選択科目としての英語</td><td>「共通教養科目教育課程表（別表　外国語科目)」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。修得した単位は卒業要件中の「関連科目（選択外国語科目)」に算入する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">英語以外の外国語の履修方法
（日本語を除く）</td><td colspan="2">①履修可能な言語
韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語がある。
②開講クラス
「初級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」,「中級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」,「上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」，「特修Ⅰ・Ⅱ」に分かれる。
③授業運営方式
週１回のノーマル方式［標準］と，週２回リレー式のラピッド方式［速習］がある。学期ごとに方式を変えることもできる。
例①「初級」をノーマル方式で履修した後、「中級」をラピッド方式で履修する。
例②「初級」をラピッド方式で履修した後、「中級」をノーマル方式で履修する。
④履修の原則
原則として，ノーマル方式は「初級ａ」と「初級ｂ」を連続で履修すること。ラピッド方式は「初級」と「中級」を連続で履修すること。
⑤特修の履修条件
「特修」を履修する場合は「初級」程度の学修を終えている必要がある。
⑥中級の履修条件（ノーマル方式)
「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」，「初級Ⅲａ・Ⅲｂ」，「初級Ⅳａ・Ⅳｂ」いずれかの組み合わせで，２単位を修得していなければならない。
スペイン語については，原則として初級４単位を修得していなければ中級を履修することはできない。
⑦中級の履修条件（ラピッド方式)
「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」または「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」の組み合わせで，２単位を修得していなければならない。
⑧既習者の履修方法
本学入学以前に「初級」程度以上の語学力をもっている者は,「中級」および「上級」から履修してもよい。ただし，あらかじめ授業担当者の許可を得て履修すること。</td></tr>
<tr><td colspan="2">再履修の方法
履修した科目の単位を修得できなかった場合は、次学期以降に再履修することができる。再履修にあたって方式を変えることもできる。
例①「初(中)級」をノーマル方式で履修したが、再履修ではラピッド方式で履修する。
例②「初(中)級」をラピッド方式で履修したが、再履修ではノーマル方式で履修する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">日本語の履修方法</td><td>①日本語は「外国人留学生」及び「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等)」で，日本語以外の言語を母語とする学生を対象とした科目です。
②日本語Ⅰａ・Ⅰｂと Ⅱａ・Ⅱｂは前学期のみ，日本語Ⅲａ・Ⅲｂ とⅣａ・Ⅳｂは後学期のみに開講します。</td></tr>
</table>

国際経営学科の専攻科目について　（2021年度入学者から適用）

1　国際経営基幹科目（必修）

国際経営基礎科目（必修）は，国際経営学科に入学した学生の皆さんすべてが共通に学ぶべき科目として位置づけられています。国際経営学科の専攻科目の履修にあたって基礎学力修得を目的として，その単位をすべて修得することが義務づけられている科目です。

科目としては，「経営の基礎」「会計の基礎」「経営学総論」「マーケティング論」「国際経営論」の合計 5 科目 10 単位です。以下，それぞれの科目について簡単に紹介します。

「経営の基礎」は，経営学の全般的な理解を得るために経営学が培ってきたさまざまな理論やアプローチを学びます。企業を主たる研究対象として，企業がなぜ，どのようにして，いかなる活動をするのか，といった問題について理解を深めることを目的とします。

「会計の基礎」では，会計学の基礎科目として会計に関する基礎的概念や現代簿記の基本的知識を理解するとともに，技術的な記帳・計算・報告の処理能力を修得することを目的とします。

「経営学総論」は，経営戦略とそれを遂行する組織，またマーケティングや人的資源管理，モティベーションとリーダーシップなど，経営学各論の基本について学修します。

「マーケティング論」では，マーケティングの基本的な考え方を学び，誰に対して，どのような価値を提供するかを決定するための市場の細分化，標的市場の設定，製品のポジショニング，さらに顧客に提供する価値を具現化する商品・価格・流通・プロモーションを中心とするマーケティング・ミックスについて理解を深めていきます。

「国際経営論」では，１年次で学んだ経営学や経済学の基礎を前提に，国際的な事業展開を行っている企業が直面する，海外事業運営上のさまざまな課題について学んでいきます。

2　国際経営基幹科目（選択必修）

選択必修科目群は，経営学に関する基礎的な知識を身につけるために，マネジメントや会計，マーケティング・デザイン経営などの基礎的専門科目から成り立っています。これら選択必修科目は，経営における基本的な考え方を示す「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の４要素を踏まえて各年次に配置され，より専門性の高い「ショップ」と呼ばれる経営学部独自の科目群に配置される選択科目にスムーズにつなげていくことができるように構成され，合計 10 単位以上を修得することが義務づけられています。こうした選択必修科目群は，マネジメント，会計，マーケティング・デザイン経営，国際理解という各分野のショップへのステッピング・ストーンとなります。

たとえば，１年次，まだ経営についてほとんど知らないアタマの柔らかいうちに「デザイン経営論」という科目で，私たちユーザー自身も気づかない欲求，すなわち「こんなものが欲しかった！」という思いに機能と形を与え，商品としてデザインして世の中に送り出すといった未来形の経営のあり方を，身近な事例から学んで経営学に興味をもつことも可能です。また，外国の事情をよく知り，やがては海外で活躍したいという夢は「異文化間コミュニケーション」を学ぶことによってその第一歩を踏み出すことができます。いまや経営は世界に拡がるグローバル化が当たり前の時代ですから，コミュニケーションは経営管理全般，すなわち，マネジメントそのものに適用される基本的要素でもあります。そして「簿記原理」は，企業で扱うお金の出入りをきちんと把握する手法を学ぶ基礎的専門科目です。企業の資産や損益に対する考え方の基本を身につけることは，将来のプロフェッショナルなビジネス感覚を養う重要な基盤となります。

２年次以降は，「経営管理論」や「経営戦略論」，そして「マーケティング戦略論」など，会社経営の仕組みやその運用のマネジメントを理解するのに欠かせない科目群が配置されています。卒業とともに近い将来ビジネス・パーソンとして企業に就職する場合にも，また，自ら起業しようという希望を持つ人たちにとっても，ビジネスの常識を身につける上で大切な基本的専門科目です。さらには「会計学原理」を学ぶことで，自分の会社を立ち上げたり，経営コンサルティングには必須の経営診断の基本を修得したり，また，より専門性ある公認会計士などの仕事に就こうとする場合の基礎づくりをスタートさせることも可能です。

３年次に配置される「経営組織論」「人的資源管理論」は，それぞれ組織のあり方とその構成員，すなわち会社員や公務員といった人々が，集団あるいは個々人の能力を最大限に活かし，組織目的を達成することを通して，組織も，そこで働く人々も，より幸せに活動していくことのできるようなビジネス社会を構築できるかを考える基礎的専門科目としての役割を担っています。

以上のように，経営の要素がぎゅっと凝縮された選択必修科目の履修によって，自分の目指す将来へのステップを確かなものにすることができるのです。履修の手引きとしては，まず自分の方向性を定め，それに多少の幅をもたせた考え方の中で，１年次から順に関連性のある科目の単位を着実に取得していくことが重要です。そして，上位年次に配当されるより専門性の高い科目群に余裕をもって臨むことができれば，あなたの将来設計はより確実なものとなるでしょう。

3　ショップ科目

【マネジメントショップ】

企業は，ヒト・モノ・カネ・情報といった経営の４要素，つまり，労働力，原材料・機械設備，資金，技術・特許・情報といった経営資源を外部から調達・収集し，これらを結合・変換して製品やサービスをつくり出し，市場を通じて必要とする人々に届けるという活動を継続して行っています。現実の企業は，さまざまに変化する外部環境を見極め，これに対して自らの内部組織を変革しながら，主体的にビジネスを展開しています。さらに企業が存続するためには利益を上げることが重要ですが，儲かるからといって何をしてもよいという道理はありません。企業は，利益追求の過程で社会的責任を果たさなければなりません。消費者や株主，従業員，取引先，政府，地域住民など，その企業を取り巻く利害関係者の期待に対し，自主的に応答することが求められています。このように，マネジメント・ショップでは，経営学を学ぶ学生が「経営とは何か」を総合的に理解できるように科目が配置されていますが，マネジメント・ショップでの学修を自身のキャリアと関連付けてもらうために，まずは「キャリア形成論」を履修することをお勧めします。

日本的な経営の特徴は人材の扱い方に強く表れますが，そうした背景を時系列的に歴史から学ぶ「経営史」や「日本経営史」は将来の日本のビジネスを考える上でも重要です。企業の社会的責任の考え方や企業倫理全般については「企業の社会的責任論」や「コーポレート・ガバナンス論」のなかで学修します。これから自分でビジネスを立ち上げようと考えている人にとっては「ベンチャー論」は不可欠でしょう。また企業にとって経営戦略を実行に移す際の実践的な知識として「経営計画論」も外せません。

グローバルな事業活動では，経営組織の形態，人事管理の手法，生産管理戦略，研究開発戦略，国際財務戦略などさまざまな課題がありますが，世界各国の地域性や企業の特性を比較しながら学んでいく「国際比較経営論」や，世界の市場で活躍する主要企業の動向を学ぶ「グローバル企業論」は今後ますます重視されていくでしょうし，これまで日本企業の競争優秀性を支えてきた「生産管理論」は古くて新しいテーマとして注目を集めています。また国際ビジネスの法律面を基礎から学ぶ「国際法務」や「国際ビジネスと契約」の知識も国際経営においては必須となるでしょう。

さらに経営環境を深く理解するうえで，「マクロ経済学」や「ミクロ経済学」は欠かすことができません。公共・地域マネジメントを学んで社会や人々の役に立ちたいと考える人は，「自治体経営論」や「NPO マネジメント」を学修して地域を活性化するための知識を身につけていきましょう。こうした領域は，公務員を志望する人はもとより，一般企業の SPI，各社独自の入社試験などでも数多く出題されています。

【会計ショップ】

会計ショップは，企業経営にとって重要な経営資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の中で「カネ」に関わる領域を扱う専門科目群で，「会計」と「ファイナンス」の２つの領域を学ぶことができます。

会計とは，企業などの経済主体の活動を貨幣価値で表す技術のことで，財務会計や管理会計，簿記，監査など様々な領域があります。将来，どのような進路に進んだとしても必ず必要とされる会計の基礎力を身につけるための科目が用意されています。

まず，会計制度や財務諸表の構造など会計の基本を理解するための科目として「会計学原理Ⅰ・Ⅱ」があります。また，基本的な取引の記帳処理と帳簿作成能力を身につけるために「簿記原理」や「中級簿記」，「上級簿記」といった科目があ

ります。

経営計画の立案や業績管理のための，より発展的な手法を学ぶ「管理会計総論」「現代管理会計論」，製品ごとの製造原価がどこで，どのように生じているのかを知ることができ，経営管理を行うための基礎的知識を得ることできる「原価計算入門」「原価計算の基礎」といった科目もあります。「経営分析の基礎」「経営分析の応用」では，会計情報を使って企業の収益性や安全性，成長性などを分析するための知識を身につける事ができます。

そのほか，財務情報の適正性を各種利害関係者に対して保証する仕組みについては，「会計監査総論」「会計監査基準論」，特殊法人やNPOなど非営利組織体に適用される会計は「非営利企業会計論」，企業が抱えるさまざまなリスクをコントロールする「リスクマネジメント論」，税の体系・原則と各種税金については「税法」，会社設立・運営管理について定めた「会社法Ⅰ・Ⅱ」など会計全般を学ぶ事ができます。

ファイナンスでは，「金融論」「国際金融論」をコア科目とし，そのほか「銀行論」「コーポレート・ファイナンス」，「証券市場論」といった科目が用意されています。企業経営において，この経済学・ファイナンス領域は大変重要な分野の一つとなっています。また，就職活動の際も金融機関はもとより，金融以外の一般企業でもSPIなどの入社試験にこの分野から数多く出題されています。

【マーケティング・デザイン経営ショップ】

マーケティング・デザイン経営ショップは価値を生み出し，売れる仕組みづくりを扱う専門科目群です。

マーケティングとは，大きく捉えれば，“顧客を満足させるための全社的取り組み”や“売れる仕組みづくり”を意味します。まず，マーケティングの基礎を理解するために「マーケティング論」が設定されています。さらに，マーケティングを企業の戦略と関連づけて捉えた「マーケティング戦略論」，消費者の購買行動に関する意思決定プロセスなどに着目した「消費者行動論」，流通業者の役割や機能，小売業態の特性に着目した「流通論」が中心的な科目となります。上記科目に加え，商品開発などにおいて重要となる「マーケティングリサーチ」，広告やPRに関連する「マーケティング・コミュニケーション」，企業の社会的責任（CSR）やCSV（共通価値）を意識した「ソーシャル・マーケティング」，進展するサービス経済化と関わる「サービス・マーケティング」，グローバル化した現代社会において重要な「国際マーケティング論」など，バラエティ豊かなマーケティング関連科目が充実しています。

一方，デザイン経営とは，デザイン的な思考を経営に活用して根本的な課題を発見し，改善を繰り返しながら柔軟な発想で価値を生み出す経営スタイルです。デザイン経営分野の科目としてはデザイン的な思考を理解するための「デザイン経営論」，「ヒューマンセンタードデザイン」，3Dプリンターなどを用いた商品プロトタイピング技術を扱う「デジタルファブリケーション」，イラストや写真などの視覚表現のデジタル加工技術を扱う「デジタルグラフィクス」，Web上での情報発信技術を扱う「情報デザイン」，映像編集技術を扱う「映像メディアデザイン」，プログラミング技術を扱う「プログラミング演習」「Webプログラミング」，映像表象の分析技術を身につける「映像メディアとコミュニケーション」，AIなど最新の技術を扱う「ビジネスとテクノロジー」など，価値を生み出すプロセスにおける思考やスキルを扱う科目が充実しています。

【国際理解ショップ】

国際理解ショップには，世界各地の事情，文化，生活などを幅広く，かつ，深く学ぶことのできる科目が揃っています。配当された各科目では，高等学校の諸科目で学んだ知識を確認しつつ，各地の社会事情や政治経済動向を学び，文化的な多様性や歴史的展開などについて知識を深めます。また，関心に応じて複数の地域についても学ぶことができます。このショップの科目を学ぶことにより，様々な地域の言語，文化，社会，政治経済の具体的事例や理論的視点へと，学習の対象がさらに広がるので，経営学を学ぶ上でも大いに役に立ちます。

「国際関係論」，「国際社会論」では国と国との関係を多角的に学び，「多文化社会論」では異なる文化を理解し，自分の生活と思考を広い視野から見つめ直すことができます。

「地理学（含地誌）」「国際政治学Ⅰ・Ⅱ」「国際地域論」では，国内のみならず地球規模で生じている諸問題について，自然や経済・政治，社会，文化等との関係から考察します。「社会学概論」は，人々がつくる社会に生起する諸現象と人々

の行為について考察することをめざし，「ジェンダーと社会」では，ジェンダーという視点から社会に起きている諸問題について人と人の関わりから分析し，私たちの「いま」を議論します。

国際社会に生きるということは，国と国，国と人との複雑な関係の中で生きることであり，異文化や他者への理解が求められます。このショップでは，「人と人」「国と国」「文化と文化」という様々な関わりから国際社会と異文化を学ぶことができます。

このショップでは，キャンパスでの授業のみならず，約１ヶ月間にわたって海外の大学で語学を学び，その地域の人々と交流するプログラム，すなわち「スタディー・アブロード・プログラム」（SA）に参加するための科目「スタディー・アブロードⅠ・Ⅱ」も用意されています。

国を超え，様々な文化的背景をもつ人たちと接触しながら活躍することをめざす学生は，このショップを通して，国際社会に生きる人間としての自覚と教養が養われるでしょう。

4　プログラム科目

経営学部の特色あるプログラムとして，３つのプログラムを用意しています。プログラムの参加にはそれぞれ選考や条件があります。下記のプログラム別の説明をよく読んでチャレンジしてください。ただし，２つ以上のプログラムを履修することはできないので注意してください。

【マネジメント体験プログラム】

○プログラムの概要

このプログラムは，創造的ビジネスパーソン育成を目的とした実践型科目です。専攻科目のなかでも特に「マネジメントショップ」を中心に，学修した知識を社会の諸問題解決に活かしていくスキルを身につけることを目標として，マネジメントに関する諸問題を体験的に学修できるように２つのコース（ベーシックコースとアドバンスコース）が配置されています。「マネジメントプログラム入門」では，事前に提示された課題を解決するプロセスが重視され，「マネジメントプログラムⅠ・Ⅱ」ではマネジメントに関する問題そのものを自ら発見し，それを解決するための方法を導き出します。マネジメント体験プログラムでは，企業や団体の課題に実践的にアプローチし，実際のマネジメントの面白さと難しさの双方を理解します。なお「マネジメントプログラム（アドバンスコース）」を修了した学生には「修了証」を授与するので，学修の動機づけにしてください。

○プログラム修了と認めるために修得しなければいけない科目

マネジメント体験プログラム（マネプロ）履修モデル

	1年前学期	1年後学期	2年前学期	2年後学期	
【ベーシックコース履修者】 履修モデル		マネジメントプログラム入門	マネジメントプログラムⅠ （ベーシック）		
【アドバンスコース履修者】 履修モデル		マネジメントプログラム入門	マネジメントプログラムⅠ （アドバンス）	マネジメントプログラムⅡ （アドバンス）	「修了証」 授与

○プログラム出願・配属

① マネジメント体験プログラムは，マネジメントを体験的に学修したいという意欲のある学生に広く履修してもらいたいと考えています。そこで本プログラムの入門科目である「マネジメントプログラム入門」については履修希望学生を最大限受け入れられるようにしたいと思いますが，希望人数が上限を超えた場合は抽選科目となる場合もあります。

② 「マネジメントプログラムⅠ」の履修希望人数が多い場合は，「マネジメントプログラム入門」の取り組み状況および通算 GPA の総合評価で選抜します。

○プログラムの履修上の注意

① マネジメント体験プログラムでは，「ベーシックコース」と「アドバンスコース」の 2 つのコースがあります。

② ベーシックコースならびにアドバンスコースのいずれも 1 年次後学期に「マネジメントプログラム入門」を履修し，単位を修得することが必須となります。

③ 「マネジメントプログラムⅠ（アドバンスコース）」を履修する者は，「マネジメントプログラムⅡ（アドバンスコース）」も連続して履修することが条件となります。「マネジメントプログラムⅠ（アドバンスコース）」と「マネジメントプログラムⅡ（アドバンスコース）」はセットであり，どちらかのみを履修することはできません。また，「マネジメントプログラムⅡ（アドバンスコース）」は「マネジメントプログラムⅠ（アドバンスコース）」を履修し，単位を修得した後でなければ履修することができません。

④ 「マネジメントプログラム（アドバンスコース）」履修者で，「マネジメントショップ」および「マーケティング・デザイン経営ショップ」をコアショップとしたうえで，3 年後学期終了までの通算 GPA が所定の水準を上回ったものには，学生からの申請により「マネジメントプログラム（アドバンスコース）修了証」を授与します（授与時期は 3 年後期の成績確定以降になります）。

【X-Business（エクス・ビジネス）プログラム】

○プログラムの概要

このプログラムは将来，社会起業家（社会課題を事業により解決する者）や独創的なアイディアを持った起業家，ベンチャー企業やスタートアップ企業への参画，企業での商品企画など，世の中に存在する問題をクリエイティブに解決するキャリアを考えている学生に向けたプログラムです。プログラム参加者のみが受講できるデザイン演習Ⅰ～Ⅴは 1,2 年次に配置されており，デザイン演習Ⅰ・Ⅱでは文化人類学的な観察力と共感力，オープンイノベーションに参加するための基礎的なデジタル技術，デザイン演習Ⅲ・Ⅳでは工学的な創造力とプロトタイピング技術，デザイン演習Ⅴでは起業のための資金調達，起業の方法などを学びます。その他，マーケティング・デザイン経営，マネジメントショップの科目の中から関連する科目を学び，3,4 年生のゼミでは各自が設定したプロジェクトを実施します。

○プログラム修了と認めるために修得しなければいけない科目

本プログラムでは下記のプログラム必須科目と選択科目の単位を修得した者に修了証を授与します。

■必須科目（下記の 10 科目の全ての単位を修得）

デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ，デザイン経営論，デジタルファブリケーション，映像メディアとコミュニケーション，異文化間コミュニケーション，ビジネスとテクノロジー

■選択科目（下記の科目から 6 科目以上の単位を修得）

グローバル企業論，ビジネスモデル入門，映像メディアデザイン，情報デザイン

ヒューマンセンタードデザイン，知的財産と情報倫理，デジタルグラフィクス，プログラミング演習，マーケティング・コミュニケーション，ソーシャルマーケティング，ベンチャー論，Web プログラミング，情報メディア論

	区分	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期
プログラム必須科目	プログラム科目		デザイン演習Ⅰ・Ⅱ	デザイン演習Ⅲ・Ⅳ	デザイン演習Ⅴ		
	国際経営基礎科目(選択必修)	デザイン経営論 異文化間コミュニケーション					
	マーケティング デザイン経営		デジタルファブリケーション			映像メディアとコミュニケーション ビジネスとテクノロジー	
プログラム選択科目	マネジメント					グローバル企業論	ベンチャー論
	マーケティング デザイン経営	知的財産権と情報倫理	ビジネスモデル入門 情報デザイン	ヒューマンセンタードデザイン デジタルグラフィクス Webプログラミング	マーケティング・コミュニケーション 映像メディアデザイン	ソーシャルマーケティング プログラミング演習	情報メディア論

3、4年次のゼミ（演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）で各自が設定したプロジェクトを実施

○プログラム出願・配属

プログラムの出願は 1 年次の 6 月頃に行い，希望者が多数の場合は 1 年次の 7 月頃に選考を行います。定員の目安は 50 名となります。本プログラムに申し込む可能性がある学生は 1 年次前学期にデザイン経営論，異文化間コミュニケーションを履修するようにしてください。

【国際ビジネスコミュニケーションプログラム（IBC プログラム）】

国際ビジネスコミュニケーション（IBC）プログラムは，留学を念頭に置き，4 年間かけて平易なレベルから段階的に英語を使って国際社会や国際ビジネスについて学ぶことにより，語学力に加えてこれからのグローバル社会を生き抜くために必要な批判的・創造的思考力，問題解決能力，コミュニケーション能力を身に付けるプログラムです。

○プログラム修了要件

1. Level A 認定：
   「英語Ⅰ（基礎/初級/中級/上級/中級 Pre-IBC English/上級 IBC English）
   「英語Ⅱ（基礎/初級/中級/上級/中級 Pre-IBC English/上級 IBC English）」
   「英語Ⅲ（中級 Pre-IBC English/上級 IBC English）」
   「英語Ⅳ（中級 Pre-IBC English/上級 IBC English）」
   「IBC 演習」
   「IBC Bridge」
   - 1 年次終了までに TOEFL ITP®450 点以上取得
   - 英語で開講される経営学部専攻科目 10 単位（もしくは TOEFL ITP®500 点以上取得＋英語で開講される科目 6 単位）の修得
   - 経営学部中長期留学プログラムもしくは全学派遣交換留学プログラムの修了
2. Level B 認定：
   「英語Ⅰ（基礎/初級/中級/上級/中級 Pre-IBC English/上級 IBC English）」
   「英語Ⅱ（基礎/初級/中級/上級/中級 Pre-IBC English/上級 IBC English）」
   「英語Ⅲ（中級 Pre-IBC English/上級 IBC English）」
   「英語Ⅳ（中級 Pre-IBC English/上級 IBC English）」
   「IBC 演習」
   「IBC Bridge」
   - 1 年次終了までに TOEFL ITP®450 点以上取得
   - 英語で開講される経営学部専攻科目 10 単位の修得
3. Level C 認定：
   「英語Ⅰ（基礎/初級/中級/上級/中級 Pre-IBC English/上級 IBC English）」
   「英語Ⅱ（基礎/初級/中級/上級/中級 Pre-IBC English/上級 IBC English）」
   「英語Ⅲ（中級 Pre-IBC English）」

「英語Ⅳ（中級 Pre-IBC English）」
「Pre-IBC 演習」
経営学部 SA プログラム（短期）・経営学部中長期留学プログラム・全学派遣交換留学プログラムのいずれかの修了
● 1 年次終了までに TOEFL ITP®380 点以上取得

国際ビジネスコミュニケーション（IBC）プログラム履修モデル

	1年次前期	1 年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期
開講科目	英語Ⅰ・Ⅱ（中級Pre-IBC English)* 英語Ⅰ・Ⅱ（上級IBC English ）*	英語Ⅲ・Ⅳ(中級Pre-IBC English)* 英語Ⅲ・Ⅳ(上級IBC English)* IBC Bridge IBC演習	IBC Bridge IBC演習 Pre-IBC演習		Business Communication International Work Environments	Business Communication
【例1】 Level A 認定 TOEFL450点以上	英語Ⅰ・Ⅱ（上級IBC English ）	英語Ⅲ・Ⅳ（上級IBC English ）	IBC Bridge IBC演習 EMI科目***	派遣交換留学等**		EMI科目*** EMI科目*** TOEFL 500点
【例2】 Level B 認定 TOEFL450点以上	英語Ⅰ・Ⅱ（上級IBC English ）	英語Ⅲ・Ⅳ（上級IBC English ）	IBC Bridge IBC演習	EMI科目*** EMI科目***	EMI科目*** EMI科目***	EMI科目***
【例3】 Level C 認定 TOEFL380点以上 450点未満	英語Ⅰ・Ⅱ（中級Pre-IBC English）	英語Ⅲ・Ⅳ（中級Pre-IBC English）	Pre-IBC演習 スタディー・アブロードⅠ** スタディー・アブロードⅡ （認定科目） 外国語（SA）（認定科目）			

*「英語Ⅰ～Ⅳ」は共通教養科目
**留学に行く時期は異なる場合もある

***英語で開講される専攻科目【EMI （English-Medium Instruction）科目】一覧（2023年度の例）

前期開講科目		後期開講科目	
英語科目名	日本語科目名	英語科目名	日本語科目名
Cross-Cultural Communication	異文化間コミュニケーション	Introduction to Business Administrations	経営学総論
Management Strategy	経営戦略論	International Society	国際社会論
International Political Science Ⅰ	国際政治学Ⅰ	Marketing Strategy	マーケティング戦略論
Area Studies (North America)	国際地域論（北アメリカ）	Japanese Business History	日本経営史
Japanese Culture	日本文化論	International Relations	国際関係論
Human Resources Management	人的資源管理論	International Political Science Ⅱ	国際政治学Ⅱ
Business Communication[前・後期]		Area Studies (Southeast Asia)	国際地域論（東南アジア）
International Work Environments		Introductory Major Seminar	専門入門演習
		Organization Theory	経営組織論
		Comparative International Management	国際比較経営論
		Entrepreneurship	ベンチャー論
		International Marketing	国際マーケティング論
		Multicultural Society	多文化社会論
		Business Communication[前・後期]	

【プログラム出願・配属について】

IBC プログラムの参加希望者は，1 年次前期授業開始前に実施されるプレイスメントテスト受験時にプログラムへの出願を行い，テストの得点に応じて IBC プログラムに仮配属されます。仮配属後はまず 1 年次前期に共通教養科目の「英語Ⅰ（上級 IBC English)」「英語Ⅱ（上級 IBC English)」もしくは「英語Ⅰ(中級 Pre-IBC English)」「英語Ⅱ（中級 Pre-IBC English)」を受講し，英語で専門講義を受けるために必要な基礎的アカデミック・イングリッシュを身につけた上で TOEFL-ITP®を受験します。その後，7 月に実施されるプレイスメントテストで一定の成績を修めた学生は，1 年次後期に IBC プログラムの「IBC コース」もしくは「Pre-IBC コース」に本配属となります。

【IBC コースについて】

「IBC コース」に本配属となった学生は，1 年次後期に共通教養科目の「英語Ⅲ（上級 IBC English）」「英語Ⅳ（上級 IBC English）」を受講し，アカデミック・イングリッシュを発展させた上で，1 年次終了までに TOEFL ITP®450 点以上の取得を目指します。また，2 年次前期からの中長期留学プログラム・全学派遣交換留学プログラム参加を希望する学生は，経営学部専攻科目の IBC プログラム科目「IBC Bridge」（平易な英語で経営学を学ぶ科目）と「IBC 演習」（「IBC Bridge」における英語での学びをサポートする科目）をセットで履修し，英語で経営学を学ぶ準備をします（2 年次後期以降に中長期留学プログラム・全学の派遣交換留学プログラムの参加を希望する学生は 2 年次前期以降に「IBC Bridge」と「IBC 演習」をセットで受講します）。上記科目修得に加え，1 年次終了までに TOEFL ITP®450 点以上を取得し，卒業までに英語で開講される経営学部専攻科目（EMI 科目）を 5 科目 10 単位以上修得した学生は「IBC プログラム Level B」認定を受けることができます。また，上記科目修得に加え，1 年次終了までに TOEFL ITP®450 点以上を取得した上で卒業までに経営学部中長期プログラムもしくは全学派遣交換留学プログラムを修了した学生は「IBC プログラム Level A」認定を受けることができます（但し「Level A」認定にあたっては TOEFL ITP®500 点以上取得で EMI 科目 4 単位分の修得を免除する）。

【Pre-IBC コースについて】

「Pre-IBC コース」に本配属となった学生は，1 年次後期に共通教養科目「英語Ⅲ（中級 Pre-IBC English）」「英語Ⅳ（中級 Pre-IBC English）」を受講してアカデミック・イングリッシュを発展させます。さらに，2 年次前期には経営学部専攻科目の IBC プログラム科目「Pre-IBC 演習」を履修し，国際ビジネス，経営，国際社会の諸問題について比較的平易な英語で学びます。上記の科目修得に加え，1 年次終了までに TOEFL ITP®380 点以上を取得した上で卒業までに経営学部の短期留学プログラムである「スタディー・アブロード（SA）プログラム」（短期）・全学推薦語学研修（短期）・経営学部中長期プログラム・全学派遣交換留学プログラムのいずれかを修了した学生は，「IBC プログラム Level C」認定を受けることができます。

【1 年次後期からのプログラム出願・コース変更について】

尚，1 年次前期に IBC English・Pre-IBC English 以外のレベルの「英語Ⅰ」・「英語Ⅱ」を履修した学生で 1 年次後期から IBC プログラムへの参加を希望する学生や，プログラム内でコース変更を希望する学生は，7 月のプレイスメントテストで一定の成績を修めることで各コースへの出願資格を得るものとします。

【2 年次前期からの IBC コースへの変更について】

また，1 年次後期に「中級英語Ⅲ・Ⅳ（Pre-IBC English）」を修得した学生で，1 年次終了時までに TOEFL ITP®450 点以上を取得した学生は，2 年次前期から IBC コースに進み，「IBC Bridge」「IBC 演習」を履修して Level A・Level B 認定を目指すことができます。IBC コースへの変更を希望する学生は，1 年次後期終了時までに所定の書式を用いて英語担当教員宛に 2 年次前期の「IBC Bridge」「IBC 演習」履修希望申請を出してください。

5　関連科目

関連科目は，経営学部の専門性を重視した国際経営基礎科目やショップ科目と異なり，経営学部の専門である経営学の学修に「関連する科目」が配置されています。この関連科目には，①「経営学関連科目」，②「留学基礎科目」，③「選択外国語科目・他学部科目」，④「学外認定科目」の 4 つカテゴリーがあります。

① 経営学関連科目

ここでは，経営学についての専門的な科目ではなく，経営学を学ぶ上で様々な観点から関連する科目が配置されています。たとえば「日本史概論Ⅰ・Ⅱ」「哲学概論Ⅰ・Ⅱ」「宗教学概論Ⅰ・Ⅱ」は，経営学の学びを支える幅広い教

養の一部であり，かつ，教職課程における教科に関する科目にもなっています。

「スポーツ経営論」「健康経営論」「コーチング論」「チームビルディング演習」は，健康管理の観点から経営学を学ぶ機会を提供します。

「キャリアモデル研究」「ライフコース論」は，学生が自らのキャリアを考える上で役立つ科目です。

② 留学基礎科目

海外留学によって取得した単位については，所定の手続を経て，この「留学基礎科目Ⅰ～Ⅹ」（1科目2単位，上限10科目20単位）として，本学部において認定することができます。

③ 選択外国語科目・他学部科目

留学先の大学において，その滞在先国の言語（英語，中国語，ドイツ語，フランス語，韓国語，スペイン語他）を履修して単位取得した場合，所定の手続を経て，ここに配置されている「特習外国語Ⅰ～Ⅵ」（1科目2単位，上限6科目12単位）として本学部において単位を認定することができます。

また，必修となっている1外国語8単位以外に，さらに外国語を履修する場合は，「選択外国語科目」として単位を認定します。

他学部の科目を履修し，単位を修得した場合は20単位までを本学部の専攻科目として認定することができます。

④ 学外認定科目

神奈川大学が提携している国内外の大学において所定の手続きを経て科目を履修し単位を修得した場合，それを本学部の専攻科目として認定することができます。

専攻科目の履修について　（2021年度入学者から適用）

1　キャリア・ショップシステムでの履修について

キャリア・ショップシステムでの専攻科目の履修は，学生のみなさんの進路や目標に合わせて専攻科目群に配置してあるキャリア・ショップの中から自分で選んだ科目を履修することによって行われます。1 ショップ 20 単位を修得すると 1 コア・ショップが成立します。【マネジメント】,【会計】,【マーケティング・デザイン経営】,【国際理解】の４つから２つ選んでください。コア・ショップの組合せは自由です。また，1 コア・ショップで 20 単位以上履修することも可能で，20 単位以上修得した場合は，関連科目として卒業要件単位に組み入れることが可能です。

２つのコア・ショップの組合せで専攻科目を 40 単位修得し，単位の組み合わせ（選択必修科目「国際経営基礎科目（選択必修)」の卒業要件単位数を超えて修得した単位，コア・ショップの卒業要件単位数を超えて修得した単位，コア・ショップ以外のショップから修得した単位，プログラム科目から修得した単位，関連科目から修得した単位）で 22 単位を修得すれば，共通教養科目 32 単位と 2 年次から 4 年次までに配当している演習科目 10 単位，「国際経営基礎科目（必修)」10 単位，「国際経営基礎科目（選択必修)」の 10 単位を合わせて卒業要件を充足することとなります。例えば，中長期留学プログラムや派遣交換留学への参加など海外で履修し修得してきた単位は，20 単位を上限に関連科目（留学基礎科目）として組み入れることができます。

キャリア・ショップの具体的な履修方法としては，例えば，世界の人々を相手に大きなビジネスに挑戦したいと考えている場合には，【マネジメント】【国際理解】という組み合わせが考えられます。また，会計や経理のスペシャリストを目指す場合には，【マネジメント】【会計】ショップを組み合わせるのも良いでしょう。

また，本学科では学んだ知識を，実践を通じてスキルを磨くため特別なプログラムとして，「マネジメント体験プログラム」と「X-Business プログラム」,「国際ビジネスコミュニケーションプログラム」の３つのプログラムを用意しています。

そのほか「関連科目」は，経営学部の専門性を重視した国際経営基礎科目やショップ科目と異なり，経営学部の専門である経営学の学修に「関連する」科目が配置されています。この「関連科目」には，①「経営学関連科目」，②「留学基礎科目」，③「選択外国語科目・他学部科目」，④「学外認定科目」の 4 つカテゴリーがあり，修得した単位は卒業要件単位に組み込むことができます。

このようにキャリア・ショップシステムを中心とした専攻科目においては，学生個人による選好という自主性を重んじながら，ショップやプログラム選択を通じて自ずとまとまりのある科目群の履修が可能となり，総じてそれらが国際経営学科での学修の方向性をサポートする事になります。実際のショップ・プログラム及び履修科目選択に際しては，特に 2 年次の「2 年次演習」の担当教員と相談の上，できる限り自分の将来を意識した科目群の履修の組合せを実現してください。それによって，このキャリア・ショップシステムが学生個々人に寄り添うサポートシステムとして機能することを期待しています。

2　履修のルール

【履修要件】

①1 年次及び 2 年次は，原則として上位年次の授業科目は履修できません。

②同一の授業科目を重複して履修することはできません。

③年間の履修単位数は，共通教養科目及び専攻科目をあわせて 44 単位を上限とし，半期の履修単位数は 24 単位を上限とします。ただし，資格教育課程(教職課程など)の科目は履修制限の枠外とします。

④成績優秀者(直前の学期の GPA が 3.2 以上の者)は，半期 6 単位，年間 12 単位まで履修単位数の制限を超えて履修登録することができます。この場合は学期開始当初に学部長に申請してください。

⑤プログラム科目（「マネジメント体験プログラム」「X-Business プログラム」「国際ビジネスコミュニケーションプログラム」）のいずれか一つのプログラムを履修した場合は，他のプログラム科目を履修することはできません。

⑥プログラム科目に配当されている「マネジメントプログラム I」「デザイン演習 I」「IBC 演習」「Pre-IBC 演習」，専門演習科目「2 年次演習」のいずれも，同時履修及び重複単位修得は認められません。

【専攻科目の卒業要件単位数】

①必修科目については，「専門演習科目（必修）」から 10 単位と「国際経営基礎科目（必修）」10 単位を修得しなければなりません。

②選択必修科目については，「国際経営基礎科目（選択必修）」から 10 単位を習得しなければなりません。

③選択科目のショップ科目は，1 つのショップの中から 20 単位修得したショップをコア・ショップとし，マネジメントショップ，会計ショップ，マーケティング・デザイン経営ショップ，国際理解ショップからコア・ショップを 2 つ形成し，ショップ科目から合わせて 40 単位以上修得しなければなりません。

④以下の（1）～（5）から 22 単位以上修得する必要があります。

(1) 選択必修科目「国際経営基礎科目（選択必修）」の卒業要件単位数を超えて修得した単位

(2) コア・ショップの卒業要件単位数を超えて修得した単位

(3) コア・ショップ以外のショップから修得した単位

(4) プログラム科目から修得した単位

(5) 関連科目から修得した単位

3　進級及び卒業の要件

【進級要件（2 年次から 3 年次）】

経営学部では，2 年次から 3 年次に進級する段階で，必要な単位を修得していなければ進級できない制度を採っています。この制度は，自己の科目履修計画に従って着実に学修が進んでいるかを確認し，必要に応じて履修計画の見直しや学修生活の改善を図るために設けられているものです。

進級要件は，2 年次終了時までに，次の単位を含めて学則所定の「卒業要件単位数」のうち 50 単位以上を修得しなければなりません。この 50 単位のうちには，共通教養科目の「初年次ゼミナール（FYS）」の他に，共通教養科目の「外国語科目」，専攻科目の「国際経営基礎科目（必修）」「国際経営基礎科目（選択必修）」のうちから 14 単位以上が含まれている必要があります。

もし，この要件を満たすことができず 3 年次に進級できなくなった場合には，大学を 4 年間で卒業できないという事態になります。さらには，在学 4 年を超えて進級要件を満たすことができない場合は除籍されることになりますので，1 年次から進級要件を確認しながら履修計画を立て，必要な科目は最優先で確実に履修することが大切です。

【卒業要件】

本学部を卒業して学士（国際経営学）の学位を取得するためには，本学に 4 年以上在学し，学則に定める卒業要件単位数 124 単位を修得しなければなりません。この 124 単位は卒業する上で必要な最小限の要件であり，各人の希望と必要によりそれ以上の科目履修と単位修得ができます。確実に卒業できるよう，ある程度の余裕をもって科目履修を行うことが求められます。

【卒業見込証明書発行基準】

４年次に在学し，下記の単位を修得した者，又は条件を満たした者について発行される。

(1)　（４月１日現在）学則所定の「卒業要件単位数」の３／４以上を修得した者

(2)　（10 月１日現在）学則所定の「卒業要件単位数」の７／８以上を修得した者
（ただし，４月１日現在で３／４の条件を満たした者を除く）

〔前学期〕

卒業要件単位数	卒業見込証明書発行単位数
124	93 以上

発行不可
92 以下

〔後学期〕

卒業要件単位数	卒業見込証明書発行単位数
124	109 以上

発行不可
108 以下

2023年度　経営学部　専攻科目　教育課程表(2021年度入学者から適用)

			1年				2年			
			1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専攻科目	専門演習科目（必修）						２年次演習	2		
	国際経営基礎科目（必修）		経営の基礎	2	経営学総論	2			国際経営論	2
			会計の基礎	2			マーケティング論	2		
	国際経営基礎科目（選択必修）						会計学原理Ⅰ	2		
			デザイン経営論	2	簿記原理	2	経営管理論	2	マーケティング戦略論	2
			異文化間コミュニケーション	2	異文化間コミュニケーション	2	経営戦略論	2		
	ショップ科目	マネジメント	事例研究Ⅰ	2	マクロ経済学	2	経営史	2	日本経営史	2
					ミクロ経済学	2				
			キャリア形成論	2					事例研究Ⅲ	2
									コーポレート・ガバナンス論	2
							政府と財政	2	自治体経営論	2
							民法Ⅰ	2	民法Ⅱ	2
							生産管理論	2	経営計画論	2
									経済法	2
		会計			事例研究Ⅱ	2	会計監査総論	2	会計監査基準論	2
									会計学原理Ⅱ	2
							原価計算入門	2	原価計算の基礎	2
							中級簿記	2	上級簿記	2
							管理会計総論	2	現代管理会計論	2
							金融論	2	非営利企業会計論	2
							銀行論	2	コーポレート・ファイナンス	2
		マーケティング・デザイン経営	知的財産権と情報倫理	2	ビジネスモデル入門	2	マーケティングリサーチ	2	流通論	2
									消費者行動論	2
									マーケティング・コミュニケーション	2
			コンピュータ演習	2	コンピュータ演習	2	デジタルグラフィックス	2		
					ビジネス統計	2	ヒューマンセンタードデザイン	2	データ分析論	2
					デジタルファブリケーション	2	Webプログラミング	2	映像メディアデザイン	2
					情報デザイン	2				
		国際理解			国際社会論	2	社会学概論	2	国際関係論	2
					政治学概説	2	国際政治学Ⅰ	2	国際政治学Ⅱ	2
			スタディー・アブロードⅠ	2	スタディー・アブロードⅠ	2	国際地域論（オセアニア）	2	国際地域論（東南アジア）	2
			スタディー・アブロードⅡ	2	スタディー・アブロードⅡ	2	国際地域論（北アメリカ）	2	国際地域論（ヨーロッパ）	2
							国際地域論（東アジア）	2	国際地域論（ラテンアメリカ）	2
					地理学（含地誌）	2	外国史概論A	2	外国史概論B	2
							日本文化論	2		
							ジェンダーと社会	2		
	プログラム科目	経営学部の特色あるプログラム群（特プロ）：マネジメント体験プログラム			マネジメントプログラム入門	2	マネジメントプログラムⅠ	2	マネジメントプログラムⅡ	2
		経営学部の特色あるプログラム群（特プロ）：X-Businessプログラム			デザイン演習Ⅰ	2	デザイン演習Ⅲ	2	デザイン演習Ⅴ	2
					デザイン演習Ⅱ	2	デザイン演習Ⅳ	2		
		経営学部の特色あるプログラム群（特プロ）：国際ビジネスコミュニケーションプログラム			IBC Bridge	2	IBC Bridge	2		
					IBC演習	2	IBC演習	2		
							Pre-IBC演習	2		
	関連科目	経営学関連科目			スポーツ経営論	2	健康経営論	2	コーチング論	2
									チームビルディング演習	2
			日本史概論Ⅰ	2	日本史概論Ⅱ	2	哲学概論Ⅰ	2	哲学概論Ⅱ	2
							宗教学概論Ⅰ	2	宗教学概論Ⅱ	2
							キャリアモデル研究	2	ライフコース論	2
									専門入門演習	2
		留学基礎科目	留学基礎Ⅰ、留学基礎Ⅱ、留学基礎Ⅲ、留学基礎Ⅳ、留学基礎Ⅴ、留学基礎Ⅵ、							
		選択外国語科目	特習外国語Ⅰ、特習外国語Ⅱ、特習外国語Ⅲ、							
		他学部科目	共通教養科目として必要とされる1言語8単位以外に修得した外国語科目、英語(SA)、							
		学外認定科目								

3年				4年				卒業要件単位	
5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター			
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
演習Ⅰ	2	演習Ⅱ	2	演習Ⅲ	2	演習Ⅳ(含む卒業論文)	2	10	
								10	
人的資源管理論	2	経営組織論	2					10	
グローバル企業論	2	国際比較経営論	2						
中小企業論	2								
企業の社会的責任論	2								
地方財政	2								
NPOマネジメント	2								
国際ビジネスと契約	2	ベンチャー論	2						
国際法務	2								
経営分析の基礎	2	経営分析の応用	2						
国際会計総論	2	国際会計基準論	2						
リスクマネジメント論	2								
会社法Ⅰ	2	会社法Ⅱ	2						
税法	2								
国際金融論	2								
証券市場論	2								
ソーシャル・マーケティング	2	国際マーケティング論	2					40	
サービス・マーケティング	2								
経営工学概論	2								
経営情報論	2	産業社会論	2						
映像メディアとコミュニケーション	2	サプライチェーン・マネジメント	2						
プログラミング演習	2	映像メディアとコミュニケーション	2						
ビジネスとテクノロジー	2	情報メディア論	2						92
国際地域論（ロシア・中央アジア）	2	国際地域論（南アジア）	2						
		国際地域論（中東・アフリカ）	2						
		多文化社会論	2						
Business Communication	2	Business Communication	2						
International Work Environments	2								
								22	
留学基礎Ⅶ、留学基礎Ⅷ、留学基礎Ⅸ、留学基礎Ⅹ									
特習外国語Ⅳ、特習外国語Ⅴ、特習外国語Ⅵ									
韓国語(SA)、中国語(SA)、スペイン語(SA)、ドイツ語(SA)、フランス語(SA)									

〔履修要件〕

1　原則として上位年次の授業科目は履修できない。

2　同一授業科目を重複して履修することはできない。

3　年間の履修単位数は，共通教養科目及び専攻科目をあわせて 44 単位を上限とし，半期の履修単位数は 24 単位を上限とする。ただし，資格教育課程（教職課程等）の科目は履修制限の枠外とする。

　なお，成績優良者（直前の学期のＧＰＡが 3.2 以上の者）は，半期 6 単位，年間 12 単位まで履修単位数の上限を超えて履修することができる。この場合は，学期開始当初に学部長に申請しなければならない。

4　プログラム科目（「マネジメント体験プログラム」「X-Business プログラム」「国際ビジネスコミュニケーションプログラム」）のいずれか一つのプログラムを履修した場合は，他のプログラム科目を履修することはできない。

5　プログラム科目に配当されている「マネジメントプログラム I」「デザイン演習 I」「IBC 演習」「Pre-IBC 演習」，専門演習科目「2 年次演習」のいずれも同時履修及び重複単位修得は認められない。

〔学外単位認定制度〕

学則第 13 条及び第 13 条の 2 に基づく次の単位は，本学における授業科目の履修とみなし，卒業要件単位に算入することができる。なお，横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は，各セメスターの履修制限単位数に含める。

1　本学が主催または推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。

2　文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で，本学における所定の手続きにより認定された単位。

3　横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で，本学の授業科目として認定された単位。

〔進級要件〕（2 年次から 3 年次）

2 年次終了時までに，次の単位を含めて学則所定の「卒業要件単位数」のうち 50 単位以上を修得しなければならない。

1　共通教養科目の「初年次ゼミナール（ＦＹＳ）」

2　共通教養科目の「外国語科目」，専攻科目の「国際経営基礎科目（必修）」「国際経営基礎科目（選択必修）」のうちから 14 単位以上。

〔卒業要件〕

4 年以上在学し，次の学則所定の「卒業要件単位数」を修得しなければならない。

授業科目／入学年度	共通教養科目								共通教養科目　合計
	共通基盤科目							共通テーマ科目	
	初年次ゼミナール	外国語科目	教養基礎演習	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	現代社会と市民	
2021 年度以降入学者	2	8		4	4	4	2	2	３２
			6						

授業科目／入学年度	専攻科目														専攻科目　合計
	専門演習科目（必修）	国際経営基礎科目（必修）	国際経営基礎科目（選択必修）	ショップ科目				プログラム科目			関連科目					
				マネジメント	会計	マーケティング・デザイン経営	国際理解	マネジメント体験プログラム	X-Businessプログラム	国際ビジネスコミュニケーションプログラム	経営学関連科目	留学基礎科目	選択外国語科目	他学部科目	学外認定科目	
2021年度以降入学者	１０	１０	１０	４０※1												９２
			２２※2													

共通教養科目	専攻科目	合計
３２	９２	１２４

〔共通教養科目卒業要件単位数〕

共通教養科目の「卒業要件単位数」は，次の単位を含めて 32 単位以上修得しなければならない。

1　初年次ゼミナール（ＦＹＳ）2 単位（必修）
2　一外国語を 8 単位以上。ただし，「日本語」は外国人留学生及び外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）が申請により選択することができる。
3　人文・社会・自然の各分野からそれぞれ 4 単位以上
4　人間形成の分野から 2 単位以上
5　共通テーマ科目から 2 単位以上
6　教養基礎演習，人文・社会・自然・人間形成の各分野及び共通テーマ科目から規定の単位数を超えて 6 単位以上
7　社会の分野の「経営学」を卒業要件単位数に算入することはできない。

〔専攻科目卒業要件単位数〕

専攻科目の「卒業要件単位数」は，次の単位を含めて 92 単位以上修得しなければならない。

1　「専門演習科目（必修）」を 10 単位
　なお，プログラム科目に配当されている入門的な演習のうち，下記に挙げた科目の修得単位は「専門演習科目（必修）」の「２年次演習」に代えて卒業要件単位数として算入する。その場合プログラム科目としての修得単位数に含めない。
　・マネジメント体験プログラム「マネジメントプログラムⅠ」
　・X-Business プログラム「デザイン演習Ⅰ」
　・国際ビジネスコミュニケーションプログラム「IBC 演習」「Pre-IBC 演習」
2　「国際経営基礎科目（必修）」を 10 単位
3　「国際経営基礎科目（選択必修）」から 10 単位
4　ショップ科目から 40 単位
　ショップ科目は 1 つのショップの中から 20 単位修得したショップをコア・ショップ（左記図※1）とし，マネジメントショップ，会計ショップ，マーケティング・デザイン経営ショップ，国際理解ショップからコア・ショップを２つ形成しなければならない。
5　以下の（1）～（5）から 22 単位以上（左記図※2）
(1) 選択必修科目「国際経営基礎科目（選択必修）」の卒業要件単位数を超えて修得した単位
(2) コア・ショップの卒業要件単位数を超えて修得した単位
(3) コア・ショップ以外のショップから修得した単位
(4) プログラム科目から修得した単位
(5) 関連科目から修得した単位

◎関連科目として卒業要件単位数に算入できるものは次のとおりとする。
○経営学関連科目から修得した単位
○中長期留学プログラム，派遣交換留学の留学により修得（認定）した留学基礎科目及び語学科目の単位
‣中長期留学プログラム，派遣交換留学により修得した語学以外の単位は，「留学基礎Ⅰ」「留学基礎Ⅱ」「留学基礎Ⅲ」「留学基礎Ⅳ」「留学基礎Ⅴ」「留学基礎Ⅵ」「留学基礎Ⅶ」「留学基礎Ⅷ」「留学基礎Ⅸ」「留学基礎Ⅹ」」（各 2 単位，上限 20 単位）として認定できる。
‣中長期留学プログラム，派遣交換留学における語学科目の修得単位については，「特習外国語Ⅰ」「特習外国語Ⅱ」「特習外国語Ⅲ」「特習外国語Ⅳ」「特習外国語Ⅴ」「特習外国語Ⅵ」（各 2 単位，上限 12 単位）として認定する。
○共通基盤科目の外国語科目の卒業要件単位数（1 つの言語で 8 単位）を超えて修得した選択外国語科目の単位
○スタディー･アブロード（SA）プログラムの留学により修得（認定）した選択外国語科目の単位
‣スタディー･アブロード（SA）プログラムにおいて学習した外国語については，プログラム実施地域の言語に応じて，「英語(SA)」「韓国語(SA)」「中国語(SA)」「スペイン語(SA)」「ドイツ語(SA)」「フランス語(SA)」（各 2 単位，上限 12 単位）として認定する。
○他学部他学科開講の専攻科目の単位（上限 20 単位）。ただし，経営学部開講の授業科目と同一の科目の履修は認められない。
○本学が主催または推薦する「海外語学研修制度」及び横浜市内大学間の単位互換による修得単位(上限 12 単位)

語学研修及び留学プログラムについて

語学研修及び留学プログラムについて

経営学部では，経営学についての研究・教育を中核としながら，国際社会で活躍できる人材を育成することを教育目標の一つに掲げています。外国語の学習はもちろん，異なる習慣や生活の仕方を学び，異文化を理解し，視野をひろげることが重要な課題です。そのような国際教育の一環として，本学部では短期及び中・長期の海外留学の機会を学生に提供しています。

【スタディー・アブロード・プログラム】

スタディー・アブロード・プログラム（SA プログラム）とは，約１ヶ月間，海外に滞在し，その地域の言語と文化を現地の大学で学ぶ短期留学プログラムです。SA プログラムは基本的に６ヵ国（フランス，メキシコ，中国，オーストラリア，アメリカ，韓国）で実施されています。

滞在中，午前は主に言語の学習，午後はさまざまな活動を通して，現地の人々と交流し，ホームステイなどを通じて現地の社会や文化を学びます。

SA プログラムは，推薦語学研修等とは異なり，本学部のカリキュラムの一部として位置づけられています。SA プログラムに参加するためには，経営学部の「国際理解ショップ」内の科目を履修することが前提となっています。

なお，SA プログラムは時期によって派遣地域が異なり，前学期（夏季休業中に実施）は，アメリカ，後学期（春季休業中に実施）は，フランス，メキシコ，台湾，韓国・オーストラリアです。

SA プログラムに参加するためには，SA プログラムに参加する学期以前に，希望する地域の言語(外国語科目)を，原則として４単位以上修得していなければなりません。SA プログラムへの参加には費用がかかるため，入学段階より履修計画を立てて準備する必要があります。

外国語科目の修得（履修）を前提として，次に，経営学部専攻科目の以下の３科目を同じ学期に履修します。

「異文化間コミュニケーション」（２単位）→　本学での学習

「スタディー・アブロードⅠ」（２単位）→　本学での学習

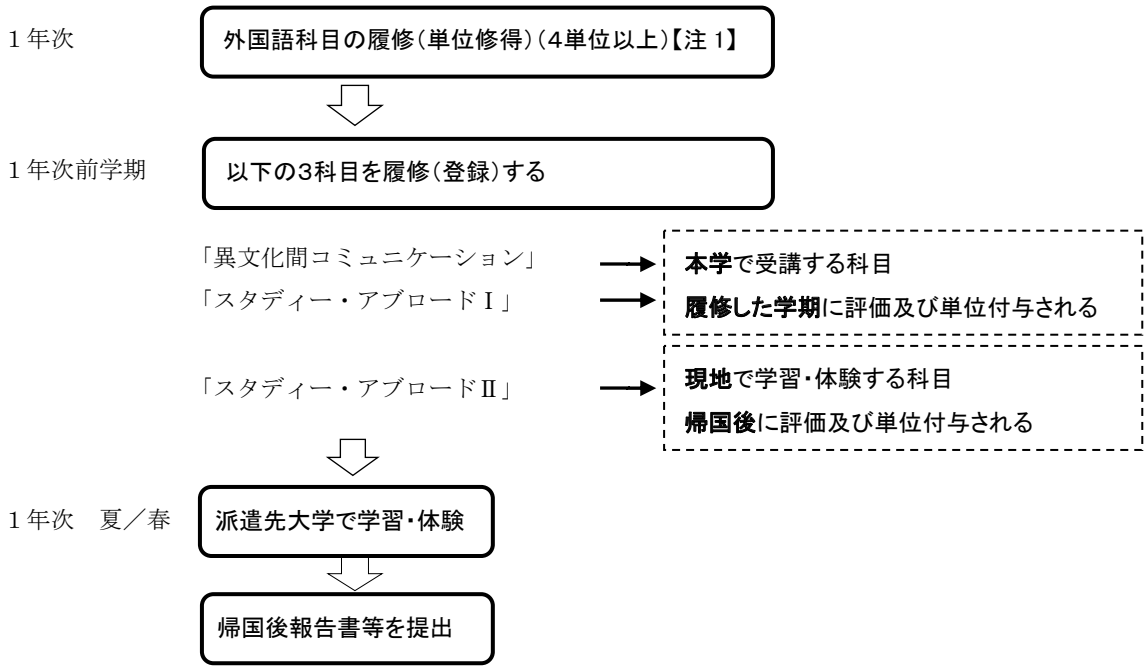
「スタディー・アブロードⅡ」（２単位）→　現地での学習

なお，SA プログラムにおいて学習した言語については，「外国語（SA)」（２単位）として単位認定されます（「外国語」の部分は実際に学んだ言語名称となる)。この「外国語（SA)」は経営学部専攻科目の選択外国語科目として単位認定され，卒業要件単位に含まれます。

履修と単位修得については，以下のような流れになります。

＜履修の流れ＞

〔例〕　**１年次に** SA プログラムに参加する場合



＜修得可能な単位＞　※各科目の授業内容については『シラバス』を参照すること

・「異文化間コミュニケーション」（２単位）

・「スタディー・アブロードⅠ」（２単位）

・「スタディー・アブロードⅡ」（２単位）

・「英語（SA）」（２単位）（たとえば英語圏の場合）

注１：　SA プログラム参加学期までに希望先言語の外国語科目（４単位以上）について単位を修得していない場合は教務課に申し出てください。

注２：　前学期の SA プログラムに参加する場合には前学期開講科目の履修（登録），後学期に参加する場合には後学期開講科目の履修（登録）が必要です。

注３：　３年次以上の学生も SA プログラムに参加可能ですが，その前提となる単位修得・履修については上記注１・注２と同様です。

注４：　SA プログラムの詳細な内容や単位修得については，本履修要覧の〔専攻科目卒業要件単位数〕，経営学部の「SA プログラム募集要項」（教務課で配付）をあわせて参照してください。

スタディー・アブロード・プログラム（SA プログラム）

国	大学名	学習内容	実施時期
イギリス	調整中	確定次第，SA プログラム説明会にてお知らせいたします。	調整中
オーストリア	調整中	確定次第，SA プログラム説明会にてお知らせいたします。	調整中
フランス	リヨン・カトリック大学 Universitè Catholique de Lyon	リヨン・カトリック大学のあるリヨン市は、フランス南東部に位置する第二の都市で、山や平野など変化に富んだ地形に恵まれ、チーズやワインに代表される農業、そして絹や薬、電気などの工業においても有名です。また、古くはローマ帝国の時代からヨーロッパ有数の交易市として栄えた都市で、昔の街並みを残した都市建築はユネスコにより世界遺産都市として指定されています。 リヨン・カトリック大学が実施する夏期フランス語学・文化講座プログラムでは、このような歴史的・文化的に恵まれた環境の中での課外活動を含め、外国人への教育経験豊富な講師により、ビデオ、新聞、マンガ、文学などを使用した多様な語学教育が提供されます。また研修期間中には、パリ小旅行も実施可能です。	出発は2月中で、約30日間滞在する。
カナダ	調整中	確定次第，SA プログラム説明会にてお知らせいたします。	調整中
メキシコ	メキシコ国際大学 Universidad Internacional	スペイン語及びスペイン語圏の文化を外国人に教える為の語学教育施設として1980年に創設され、現在では、大学をはじめ小学校、中学校、高校と国際的な人材を育てる教育機関として発展しています。附属語学学校では、各大使館やグローバル企業から多くの学生を受け入れており、教員の質や教授法に定評のある学校です。1クラス5名以下と少人数制を徹底し、1日6時間週5日間と集中してリスニング、会話、読解、ライティング、発音と各分野をバランスよく学びます。ワークショップや課外活動も行われ、メキシコおよびラテンアメリカの文化をより深く理解する環境が整えられています。滞在はホームステイとし、習得したスペイン語を日常生活内にて活用することで生きたスペイン語に親しみ、授業と並行してスペイン語のさらなる上達を目指します。	出発は2月中で、約30日間滞在する。
アメリカ	ノースウエスト大学 Northwest University カンザス大学 University of Kansas	1934年創立されたシアトル郊外にある私立大学です。シアトルから16キロ東のワシントン湖のほとりに56エーカーの美しいキャンパスが広がっています。午前中に他国からの留学生と一緒に語学研修が行われ、グループプロジェクトや宿題においても積極的に参加するようにカリキュラムが組まれています。午後には、現地大学生との交流や授業、課外活動が行われます。大学があるシアトル近郊には、世界的有名な企業が多数あるため、研修中には有名企業への訪問や現地で活躍している日本人の方から講義等が行われます。週末は、ホストファミリーといっしょに過ごし、アメリカ人の生活・習慣に親しむことも可能です。 午前中は少人数制のクラスで英語やアメリカの文化・社会について学び、午後はローレンス市内の施設見学や地域の方たちと交流するイベントなどを通して、アメリカの文化を肌で感じ取ることができます。滞在は、キャンパス内の学生寮でカンザス大学の学生がルームメイトとなります。また、期間中にホームステイもあり、アメリカの家庭生活も体験することができます。週末には州内の都市等への小旅行があり、また、全米学生バスケットボールの強豪チームとして有名なカンザス大学のゲーム観戦に参加するチャンスもあります。	出発は8月初旬で、約60日間滞在する。
台湾	国立台湾師範大学 National Taiwan Normal University	午前中は中国語学習、午後は種々の体験学習を行います。 中国語学習は、中国語のレベル分けテストを行い、学生のレベルに合わせ初級・中級・上級のクラスに分かれ授業を行います。クラスは欧米アジア各国の学生と合同の授業を受けます。また、現地の台湾人学生との交流の機会もあります。台湾滞在中は、参加者各自のテーマに沿って、台北市内で調査などを行います。さらに現地で活躍する OB を訪問したり、日系企業のオフィスや工場への見学を行い、台湾でのビジネスについて学ぶ機会をもうけます。午後の活動内容は参加者の希望を反映させて決めます。	出発は2月中で、約30日間滞在する。
オーストラリア	クイーンズランド工科大学 Queensland University of Technology	クイーンズランド工科大学のあるブリスベンは、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた大変治安の良い町です。どこへ行くにも交通の便の良い市内には、植物園、動物園、美術館、劇場などがあり、オーストラリアの文化、歴史、自然を学ぶのにも最適の場所です。午前、午後とも英語の授業があり、午後には課外活動を通して生きた英語を学ぶ機会もあります。オーストラリアの自然等に親しむため、動物公園等への日帰り旅行を学生が計画し、実行します。	出発は2月中旬で、約30日間滞在する。
韓国	東西大学校 Dongseo University	東西大学校のある釜山は、ソウルに次ぐ大都市で、韓国の中でも代表的な国際都市です。国際貿易港としての機能も果たしているだけでなく、歴史ある寺院や美しい海などがあり、観光地としても有名です。東西大学校は1965年に東西学院として創立され、現在では、14学部1万人の学生を擁する総合大学で、世界21カ国80大学と学術交流協定を結んでいます。研修では、午前・午後に韓国語の授業、授業終了後また週末を利用して韓国文化とふれあう活動に参加する予定です。この研修は、東西大学校が世界中に募集するオープンプログラムに参加する形をとっているため、あらゆる国の学生と触れ合うことができます。また、研修期間中には慶州・ソウルへの小旅行なども実施する予定です。	出発は3月上旬で、約30日間滞在する。

※過年度のプログラム内容のため，今後変更になる可能性があります。

【中長期留学プログラム（2021 年度以降入学者向け）/ビジネス・スタディー・アブロード・プログラム（2020 年度以前の入学者向け）】

中長期留学プログラム（2021 年度以降入学者向け），ビジネス・スタディー・アブロード・プログラム（2020 年度までの入学者向け）は，経営学部が提携する海外大学，主としてマレーシアの大学への半年間にわたる長期派遣プログラムです。英語を学ぶことはもちろん，英語で広く経営学を学ぶことを目的としています。

プログラム参加には語学力，学業成績，面接などの学部内審査があり，合格した学生が参加できます。派遣先で修得した単位は，本学の卒業要件単位として認定され，派遣期間を含め４年間で卒業することが可能です（ただし４年次後期に渡航した場合には，帰国後半学期，在籍する必要があります)。

マレーシアは親日国家であり，穏やかな国民性と多民族国家ならではの国際性，グローバルな人材が各国から集まるアジア新興国の一つです。多国籍の教員や学生が共通語としての英語を用いて努力しながら交流する大学キャンパスは，グローバル人材に必須の資質である国際感覚を養うために最良の場と言えます。また，学生寮での生活は，真の意味で異文化を理解するチャンスになるでしょう。緊急時には日本語での対応も用意されており安心です。

派遣先の大学寮に入り，現地授業料，渡航費，寮費，食費等を含めた半年間の滞在費用は全て個人負担となりますが，現地への支払いは神奈川大学を通じて行われます。留学期間中の神奈川大学への授業料負担はありませんが，別途，留学在籍料（５万円）が発生しますので十分に注意してください。

派遣のタイミングは，春季と秋季ですが，派遣先の学年暦，ビザ発給のタイミングにより派遣時期には多少のずれが生じることもあります。１年次生の場合は秋季派遣のみですが，2 年次生以上は，本人の単位修得状況と学修の関心に応じて，どちらの派遣時期を選んでも構いません。

TOEFL®のスコア，学業成績，面接結果を総合評価することにより派遣学生を選考します。TOEFL-ITP®のスコアの派遣目安基準は 500 点程度です。春季，秋季いずれの派遣においても，目安のスコアを取得していない学生が出願した場合には，その基準を満たすまで事前に語学研修を受講することが必須となります。また，現地渡航後も，目安基準をクリアした学生を含めて派遣先での英語コースを受けることになります。

＊2022 年度秋季は５名，2023 年度春季は３名の学生が派遣され，勉学に一生懸命励んでいます。

＜提携大学紹介＞

（春季派遣）

●AIMST大学　AIMST University　［URL］http:// www.aimst.edu.my/

―ペナンから陸路で約１時間　ケダ州の大自然のなかで学ぶ―

キャンパスのあるケダ州はマレー半島北部の西側の州（州都アロー・スター）で，最寄りの都市は日系企業も多く進出するスンガイ・ペタニ。隣接するペナン州の州都ペナンからは，高速道路経由，約１時間でアクセスできます。

創立者で総長を務めていた，故・サミー・ヴェル博士はインド系マレーシア人で，中央政府の重鎮として著名な政治家でもありました。大学は貧困層を含めた幅広い層に高等教育を提供するという趣旨で 2001 年に設立され，医学や薬学などサイエンス系を中心にビジネス＆マーケティングなど計 26 コースの幅広い専攻を備えています。

キャンパスの国際化にも熱心で，神奈川大学をはじめ英国やオーストラリア，さらにはパキスタンなどからの留学生が学んでいます。学生総数 4,000 名に占める留学生は，約 26 か国から 100 名以上です。

（秋季派遣）

●マルチメディア大学（MMU）Multimedia University　［URL］ http://www.mmu.edu.my/

―IT 企業が集まるサイバージャヤとマレーシア発祥の古都マラッカで学ぶ―

欧米諸国ではなく日本や韓国の経済成長に範を求めた「東方政策 LookEastPolicy」。提唱者のマハティール元首相は一方で，国内向けに「マルチメディア・スーパー・コリドー（MSC）計画」を推進。IT 産業育成により，従来の労働集約型産業から知識集約産業へ産業構造を転換，2020 年の先進国入りをめざすというものです。その一環で整備された新興都市サイバージャヤに 1999 年，国内通信最大手のテレコム・マレーシアが設立したのが MMU です。

サイバージャヤはクアラルンプール（KL）中心部と KL 国際空港の間に位置するインテリジェント都市（新行政首都プト

ラジャヤに隣接）。世界各国から名だたるIT企業が集まっています。

MMUはマラッカにもキャンパスを擁し，IT関連を中心にビジネス＆ローなど幅広いコースを展開。学生総数18,000名に占める留学生は，約85か国から1,800名以上です。

外国語学部

- ●英語英文学科
- ●スペイン語学科
- ●中国語学科

KU 神奈川大学

外国語学部学生のみなさんへ

この履修要覧には，みなさんが履修計画を立てる上で必要なことが記載されているという実際的な重要性がありますが，それだけではありません。それぞれの授業での学びが別の授業での学びへとつながっていくこと，みなさんが大学で新たな世界や様々な知見に出会い，思索し，成長することの可能性を表したものでもあります。大学での学修をとおして，自分の世界を拡げ，生涯を通じ自己を高めるために学ぶ力を身につけてください。

まずは，この履修要覧に書かれていることを十分に理解し，４年間を通して，どのような科目をいつ履修すべきかを考え，計画的に学修に取り組みましょう。大学での学修は，高等学校までとは異なり，自分で履修計画を立てることから始まります。自分の関心や将来の希望をふまえて，条件の中で自由に履修計画を立てることができます。しかし，このような自由には，自己の選択についての責任を伴うことを理解しなくてはなりません。教員や事務職員への相談の機会を利用しながら，履修計画の作成，履修登録は自らの責任において慎重に行う必要があります。

多様な知が融合し，最先端の研究が行われる大学での学びは，社会や世界のありようが急速に変化する新しい時代を切り拓く力を磨く機会と刺激に溢れています。外国語学部の専攻科目では，外国語の実践的コミュニケーション能力，世界のさまざまな地域，異文化についての専門的知識を学びます。加えて，本学の他学部の学生や留学生と共に学ぶ共通教養科目の学修は，多様な価値観，幅広い教養，国際的感性を身につける大切な機会であり，これらを通して専門的な技能や知識をどのように活かすべきかを考えることにもつながるはずです。

４年の間にはさまざまなことを経験し，考えや関心が大きく変わることも考えられます。折あるごとにこれまでの学修を振り返り，学修計画を再確認しましょう。みなさんがそれぞれの目標のために主体的に学び，それぞれが自立した学生として互いに協働し，豊かな学びの経験をされることを願っています。

外国語学部長　　佐藤　裕美

学部・学科の教育研究上の目的及び基本方針

学部・学科の教育研究上の目的及び基本方針

外国語学部

教育研究上の目的

本学部は，国際都市横浜に立地する学部として，外国語の実践的な運用能力を高め，諸外国の社会及び歴史等，異文化についての理解を深めるとともに，異文化間の相互理解と文化交流を行える国際的な教養を身に付けた人材の育成を目的とする。

教育目標

外国語学部では，本学の教育目標及び本学部の教育研究上の目的等を踏まえ，実践的な外国語運用能力と対象地域の諸分野に関する知識の獲得を目指した専門教育を展開し，それらと初年次教育，キャリア教育，教養教育，言語教育を含む全学共通の基礎教育とを有機的に連関させることにより，国際的な文化交流の場で活躍し得る有為な人材の育成を目指します。

本学部の専門教育の特徴として挙げられる，少人数教育，双方向型教育，習熟度別クラス編成を活用して，国際的な場で行動する際に必須な情報収集と発信能力，およびコミュニケーション能力を涵養します。また，対象地域の言語・文化・社会・歴史の各分野について優れた研究業績と豊富な教育経験を有する教員の指導により，急速に変化する国際情勢にも柔軟に対応可能な，幅広い教養体系の構築を図ります。以上を教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー　（学位授与の方針）

本学部のカリキュラム（全学共通の教養・外国語科目を含む）において，所定の卒業要件単位を修得した者は，次のような人物であると判断し，学士（文学）の学位を授与します。

１．自立した良識ある市民としての判断力と実践力

（１）文化の異なる人々ともその違いを乗り越えて互いに尊重し，協調し合う態度を身につけている。

２．国際的感性とコミュニケーション能力

（１）外国語の実践的な運用能力を身につけている。

（２）異文化コミュニケーション能力を身につけている。

（３）国際的な感性と幅広い教養を身につけている。

３．時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

（１）世界諸地域の言語・文化・社会・歴史についての専門的知識を備えている。

（２）情報収集と情報発信（プレゼンテーション）の能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー　（教育課程編成・実施の方針）

本学部は，外国語の実践的な運用能力，異文化コミュニケーション能力，国際社会に通用する専門的知識と幅広い教養，協調的な態度を総合的に修得することができるように，以下のような教育課程を編成しています。

１．教育課程の編成・実施

（１）少人数による数多くの外国語演習を編成し，実施しています。

（２）世界諸地域の言語・文化・社会・歴史についての専門的知識を修得する専攻科目ならびにゼミナール・卒業研究を配置しています。

（３）初年次教育，キャリア教育を含む全学共通の教養教育と本学部の教育が有機的に連関するよう体系的な教育課程を編成し，実施しています。

２．教育の方法と評価

（１）外国語教育やゼミナールにおいて，少人数教育，双方向型教育を実施しています。

（２）外国語教育においては，習熟度別にクラスを編成し，個に応じた教育を実施しています。

（３）単位制度の実質化を図るため，成績評価の方法及び基準を明確化し，成績評価を厳格化しています。

外国語学部　英語英文学科

教育研究上の目的

英語英文学科は，英語の実践的な運用能力を高め，英語圏の言語・文化・社会・歴史などについての理解を深めるとともに，異文化間の相互理解・文化交流，多文化共生に尽力し得る国際的な教養を身に付けた人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学科の教育研究上の目的等を踏まえ，外国語学部英語英文学科では，異文化間の相互理解と経済・文化交流の促進，また英語教育において活躍できる人材を育成するために，初年次教育，キャリア教育，教養教育と関連させた段階的・体系的なコミュニケーション重視の課程を編成し，４年間の学修を通じて新たな知識を得て教養を深め，自己表現のツールとして英語を使えるようになるための高い英語運用能力を涵養します。

本学科が展開する専門教育では，英語学，英語教育，英語圏文学，英語圏文化の４領域を網羅した課程に基づき，英語圏の言語・文化・社会・歴史について深く理解するとともに，言語や文化の多様性と普遍性についての見識を高めます。また，少人数による専門研究を通して，情報リテラシーとプレゼンテーション能力を高め，国際化の環境の中で学びの成果を総合して様々な課題に取り組み，自らの考えを発信することができる能力を涵養します。以上を教育目標と定めます。

ディプロマ・ポリシー　（学位授与の方針）

本学科のカリキュラム（全学共通の教養・外国語科目を含む）において，所定の卒業要件単位を修得した者は，次に掲げる能力や知識・教養を身につけていると判断し，学士（文学）の学位が授与されます。

１．自立した良識ある市民としての判断力と実践力

（１）思考とコミュニケーションの基盤である言語の本質を理解し，社会生活において効果的な言語活動を行い，グローバル社会の市民として経済活動，異文化コミュニケーション，国際協力の現場で橋渡しの役割を果たすことができる能力を身につけている。

（２）母語のみならず英語を主とした外国語の実践的運用能力を用いた情報収集と，事実を客観的に分析し，判断することができる批判的思考力を基にした情報発信能力を身につけている。

（３）知識を応用し実践する問題解決力と経験から学び成長することができる柔軟な思考力を身につけている。

２．国際的感性とコミュニケーション能力

（１）文化的背景の異なる人々と協働して問題解決を図るための国際共通語としての英語の高度な運用能力を身につけている。

（２）文化や価値観の多様性を受容できる柔軟な思考力と幅広い教養をもち，様々な環境で自分の考えを効果的に発信し社会参加することができるコミュニケーション能力を身につけている。

（３）英語以外の外国語の基本的な日常生活に必要なコミュニケーション能力を身につけている。

３．時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

（１）英語や英語圏の文化・社会・歴史についての専門的学修を通して，人類の普遍性と多様性について深い洞察力を持ち，グローバル化の中で責任ある役割を果たすことができる能力を身につけている。

（２）英語教育や異文化間交流の推進に必要な知識と技能を身につけている。

（３）国際的共通語としての英語の多様性と柔軟性，グローバル化における英語の影響についての専門知識をもち，ことばと社会，歴史との関わりについての専門的知見を踏まえて多様な他者と協働して問題解決を行う能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー　（教育課程編成・実施の方針）

本学科は，文化の多様性を受容し，世界の人々と問題解決に向けて協働することができる柔軟な思考力，英語の実践的な運用能力，異文化コミュニケーション能力，グローバル社会の市民に求められ，活用できる専門的知識，技能と幅広い教養を総合的に修得することができるように，以下のような学修・教育課程を編成しています。

１．教育課程の編成・実施

（１）１，２年次には，ネイティブ・スピーカーによる英語運用能力の向上を目指した少人数編成の授業を通して，専

門分野の学修を支える英語の基礎的なコミュニケーション能力を養成する。
（２）学科教育目標，カリキュラム・ポリシーと合致する長期，短期の様々な留学プログラムと連携した柔軟なカリキュラムにより，多様な言語・文化的背景の人々が英語を用いて共生する社会での実践的学修を４年の在学期間のなかで十分に行うことを可能としている。
（３）３，４年次には，英語による表現能力のさらなる向上を図りながら，「英語学・英語教育」，「英語圏文学・文化」，あるいは世界共通語としての英語の現状に焦点を当て，世界の文学，文化，社会とコミュニケーションの関わりなど自己の興味に合った分野を選択し，様々な講義科目，演習科目を通して，グローバル化する社会で有用な専門的知識・技能を育成する。
（４）英語以外の外国語も２年間学び，異文化についてより深い関心と理解を育成する。
（５）英語英文学科の共通科目，外国語学部共通科目，国際日本学部との共通科目，全学共通の教養・外国語科目を幅広く学ぶことで，国際的な視野と教養を養成する。
２．教育の方法と評価
（１）英語運用能力の向上を主たる目的とした１，２年次の専門基礎科目では習熟度に合わせた教育内容とし，科目責任者を中心に全クラス共通の到達目標と成績評価の基準を定め，成績評価の基準を明らかにしている。
（２）英語運用能力の向上を目的とした専門基礎科目での成果を発展させ，英語を用いて専門分野の学修を行う。
（３）１年次の「FYS（初年次ゼミナール）」から４年次まで，ゼミナール導入科目，「専門研究」/「Advanced Seminar」，「卒業論文」/「Graduation Project」を通して少人数教育を徹底し，学生が自らのテーマについてプレゼンテーションや議論をする活動の中で，問題発見能力，思考力，発信力，実践力を培う。また，３，４年次のゼミナール「専門研究」/「Advanced Seminar」，「卒業論文」/「Graduation Project」では，同一教員が継続して少人数編成の専門研究指導を行うことで，個々の学修段階をふまえ着実に専門知識・技能を育成する。
（４）単位制度の実質化を図るため，成績評価の方法及び基準を明確化し，成績評価を厳格化しています。

外国語学部　スペイン語学科

教育研究上の目的

スペイン語学科は，スペイン語とスペイン語圏の言語・文化・社会・歴史などに関する専門的知識を身につけ，広い視野と柔軟な思考力で多文化共生社会に寄与することができる人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標および本学科の教育研究上の目的等を踏まえ，外国語学部スペイン語学科では少人数編成を徹底し，ネイティブ教員を多数配置して，双方向的かつきめ細やかなスペイン語教育を目指すとともに，スペインとラテンアメリカ諸国の文化を体験的に学ぶための場を提供することを教育目標として定めます。スペイン語は，スペインおよびラテンアメリカ諸国のみならず，アメリカ合衆国にも多くの話者を有し，その使用人口は５億を超える重要な言語であることから，スペイン語を使ってグローバルに活躍できる人物を育てることを第一義とします。そのため，スペイン語の読む・書く・聞く・話す力の鍛錬に加え，スペインとラテンアメリカの双方を視野に収めた言語・文学・歴史・文化・政治・経済等の講義を充実させてバランスよく配置し，広範な知識の吸収を促すとともに，物事を多面的に捉える視座を養います。また，英語運用能力の重要性も高いことから，「英語コミュニケーション特修副専攻」を設け，英語力を積極的に向上させるよう奨励しています。

ディプロマ・ポリシー　（学位授与の方針）

本学科のカリキュラムにおいて，所定の卒業要件単位を修得した者は，次に掲げる能力や知識・教養を身につけていると判断し，学士（文学）の学位が授与されます。

１．自立した良識ある市民としての判断力と実践力
（１）社会で生きていくために必要な幅広い知識と教養を身につけている。
（２）社会に対する知的関心および多角的な視点を身につけている。
２．国際的感性とコミュニケーション能力
（１）外国語の運用能力と異文化理解の能力を身につけている。
（２）社会に対応する情報収集および発信・表現（プレゼンテーション）の能力を身につけている。
３．時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
（１）スペイン語の実践的運用能力を身につけている。
（２）スペイン語圏の言語・文化・社会・歴史等に関する専門的知識を身につけている。

カリキュラム・ポリシー　（教育課程編成・実施の方針）

本学科では，スペイン語の実践的運用能力，スペイン語圏の文化・社会・歴史等についての専門的知識と幅広い教養を総合的に修得することができるように，以下のような学修・教育課程を編成しています。

１．教育課程の編成・実施
（１）スペイン語を体系的かつ実践的に修得するため，少人数制や習熟度別クラスを取り入れ，日本人教員とネイティブ教員の協力により運営される演習科目群
（２）スペイン語圏の言語・文化・社会・歴史等に関する理解を深めるための専門科目群とゼミナール群
（３）スペイン語の実践的運用能力を鍛えつつ，スペイン語の諸特徴や他言語との関係などを学ぶ「言語文化コース」と，スペイン語圏諸国の文化や社会・地域事情などを学ぶ「地域文化コース」の２つから成るコース制
（４）「英語コミュニケーション特修副専攻」による英語力強化のための科目群
（５）諸問題を整理し考察する能力を養成する教養系科目群
２．教育の方法と評価
（１）FYS（初年次ゼミナール）および演習科目から2年次以降4年次までの演習科目，講義科目およびゼミナールにおいて，順次性に配慮しつつ，少人数教育の徹底を図ります。
（２）学生の理解力や問題発見能力の向上を図ります。
（３）単位制度の実質化を図るため，成績評価の方法及び基準を明確化し，成績評価を厳格化しています。

外国語学部　中国語学科

教育研究上の目的

中国語学科は，高度な中国語運用能力を身に付けるとともに，中国の言語・社会・文化・歴史について深く専門的に学び，アジアの経済と文化交流の場で活躍できる人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学科の教育研究上の目的等を踏まえ，外国語学部中国語学科では，多様かつ体系的に構成された課程に基づき，実践的な中国語運用能力と中国の諸分野に関する知識の獲得を目指した専門教育を展開しつつ，初年次教育，キャリア教育，教養教育，言語教育を含む全学共通の基礎教育と有機的に連関させることにより，4年間の学習を通じて習得した能力と知識を活用して，日中およびアジア間の経済・文化交流の場で活躍し得る有為な人材を育成します。

本学科で展開する専門教育では，外国語学部における教育の特徴である，少人数教育，双方向型教育，習熟度別クラス編成によって，社会での活躍のために必須となる表現能力およびコミュニケーション能力を涵養します。また，中国の言語・社会・文化・歴史の各分野について優れた研究業績と豊富な教育経験を有する教員の指導により，ダイナミックに変化する世界の中で，日本と中国の関係を巨視的観点から捉えるための幅広い教養体系の構築を図ります。以上を教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー　（学位授与の方針）

本学科のカリキュラム（全学共通の教養・外国語科目を含む）において，所定の卒業要件単位を修得した者は，次に掲げる能力や知識・教養を身につけていると判断し，学士(文学)が授与されます。

１．自立した良識ある市民としての判断力と実践力

（１）幅広い知識・教養を修得し，良識ある市民としての判断力を身につけている。

（２）自立した市民として行動できる実践力を身につけている。

２．国際的感性とコミュニケーション能力。

（１）世界の中での日本と中国という視点を持ち，両国間さらにはアジアの経済と文化交流の場で活躍できる素養を身につけている。

（２）中国と日本の歴史的な深い関係を踏まえ，アジアの発展に資するコミュニケーション能力を身につけている。

３．時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

（１）中国の言語・社会・文化・歴史・政治・経済のいずれか，もしくは複数の分野に関する専門的な知識を身につけている。

（２）中国語の実践的な運用能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー　（教育課程編成・実施の方針）

本学科は，中国語の実践的な運用能力，中国に関連する専門知識，日本と中国，アジアに関連する教養を総合的に修得することができるように，以下に掲げる方針に基づき，教育課程を編成し，教育にあたっています。

１．教育課程の編成・実施

（１）中国語の運用能力を効率よく高めるために，１年次から体系立った中国語演習科目を提供します。

（２）中国の言語・社会・文化・歴史・政治・経済に関連する専門知識を修得するために，基礎的方面として概説科目を１～２年次で，発展的方面として特講科目を３～４年次で提供します。

（３）４年間を通じた中国語および中国に関する専門知識の総合的学習を企図して，卒業論文を必修科目として設置します。

（４）多様な学生の受け入れを考慮し，１年次から初習者クラス・既習者クラスを設け，２年次から言語コース・社会文化コースを設置します。

（５）幅広い教養を身につけるために，「FYS（初年次ゼミナール）」やキャリア教育を含む共通教養教育を組み込みます。

２．教育の方法と評価

（１）中国語演習科目は少人数によるクラスを編成し，運用能力およびコミュニケーション能力の向上をはかります。

（２）概説・特講の講義科目は，中国およびアジアに関連する専門知識の修得過程において求められるレポートの作成および口頭による表現能力を涵養します。
（３）卒業論文においては，学科専任教員が開講する専門ゼミナールに3年次から所属し，指導教員の指導の下，情報の収集・整理・分析，調査報告，議論等の研究の基礎を養います。
（４）海外実習，スピーチコンテスト等，カリキュラム外のプログラムを活用し，カリキュラムによって獲得できる各能力をさらに積み上げる機会を提供します。
（５）単位制度の実質化を図るため，成績評価の方法及び基準を明確化し，成績評価を厳格化しています。成績評価を公正にするため，前後期各学期末に，成績判定会議を行うなど，教員間の合意形成をはかります。

4　履修案内
共通教養科目

（2020 年度入学者から適用）

英語について　（2020年度入学者から適用）

1　スペイン語学科・中国語学科の「クラス英語」

習熟度別のクラス編成になっています。

（1）１年次生
クラスは，みなさんが４月初旬に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に決定されます。クラス決定後は，それぞれのレベルの「英語Ⅰ（Listening)」と「英語Ⅰ（Speaking)」を前学期に履修し，「英語Ⅱ（Listening)」と「英語Ⅱ（Speaking)」を後学期に履修します。

「英語（Listening)」では，主に，リスニングに重きを置きながら，英語コミュニケーション能力の育成を目指した指導が行われます。
「英語（Speaking)」では，英語ネイティブスピーカーの教員により，実践的な英会話の指導が行われます。

（2）２年次生
みなさんが１年次の後学期定期試験後に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に再編成されるクラスで，「英語Ⅰ（Reading)」と「英語Ⅰ（Writing)」を前学期に履修し，「英語Ⅱ（Reading)」と「英語Ⅱ（Writing)」を後学期に履修します。

「英語（Reading)」では，主に，英文の読解に重きを置いた指導が行われます。
「英語（Writing)」では，英語ネイティブスピーカーの教員により，実践的な英作文の指導が行われます。

なお，「クラス英語」においては，授業回数の４分の３以上の出席が単位修得の必須条件となっていますので，きちんと出席してください。

2　選択英語

「クラス英語」だけでは学習時間が足りません。その不足を補いながら，さらに実力を伸ばすための授業科目です。
「選択英語」では，力を伸ばしたい分野を選べるようになっています。また，いくつかのレベルで授業を開講していますから，自分の力にふさわしいレベルを選んで効果を上げてください。
「選択英語」は，系統的・段階的に履修することができます。

- 特定の英語スキルを重点的に取り組んでさらに伸ばしたい。
  →「特修英語（中級）～（上級)」を履修する。
- 英語で話せるようになりたい。
  →「英語会話（初級）～（上級)」を履修する。
- TOEIC®テストのスコアを伸ばしたい。
  →「TOEIC 演習（初級）～（上級)」を履修する。
- TOEFL®テストを受け，海外留学をしたい。
  →「TOEFL 演習（初級)」・「留学英語準備講座」を履修する。

「特修英語（中級）～（上級)」は，クラス英語で培った英語力を基に，あるいは並行して，さらに実用的な英語スキルを身につけることを目的としています。

- 特修英語（中級）Ⅰ【前期：リーディング】・Ⅲ　【後期：４技能】

異文化における出来事を記述した英文を使用し，読解力を様々なタスク（語彙の推測，英文構造理解，英文法理解，要約など）を通して構築していきます。同時にグローバル社会における多様性の中でどのように生きるかを考える活

動も行います。後期は4技能全てを伸ばす演習を行い，それぞれの能力向上のためのコツをつかむ授業とします。

● 特修英語（中級）II【前期】・ IV【後期】: TOEIC®対策とニュース聞き取り
リスニング,速読のリーディング,文法問題を,テキストを用いながら総合的に練習していきます。リスニングはTOEIC®の問題にとどまることなく，少し長いバイリンガルニュースなどの聞き取りの練習も行います。目安としてTOEIC®スコア650点の獲得を目指します。

● 特修英語（上級）I【前期】・ III【後期】: English Communication
自分の意図を効果的かつ説得力を持って伝えるための様々なストラテジーに焦点を当て，ペアワークやディスカッション，演習を通じて実践的な英語力の向上を目指します。また，状況に応じて口語表現を適切に使い分ける練習もしていきます。中・上級レベルのクラス英語を履修中あるいは履修済みの学生におすすめです。

● 特修英語（上級）II【前期】・ IV【後期】: プレゼンテーション
効果的な英語プレゼンテーションを行うための伝達方法(姿勢,ボディーランゲージ,発声等),視覚資料の作成方法,文章の構成方法の基本を，実践を通じて体得します。授業で扱うスキルは英語のみならず，日本語を含む他言語におけるプレゼンテーションにも応用できるものです。中・上級レベルのクラス英語を履修中あるいは履修済みの学生におすすめです。

「英語会話（初級)」の到達目標は，日常会話ができるようになることです。「英会話（中級)」では，一般的な事柄について会話ができるようになること,「英語会話（上級)」では専門的な事柄についても一応の受け答えができるようになることが目標です。
「TOEIC 演習」の到達目標スコアは，概ね（初級）は500点,（中級）は600点,（上級）は700点以上です。
「TOEFL 演習（初級)」は，初めてTOEFL®を受験する人向けに，４技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）を問うTOEFL iBT®に対応し，テスト対策，及び留学時に必要な基礎的能力の育成を目指します。

また,「留学準備英語講座」は，TOEFL®・IELTS™のスコアアップを目標とし，同時に留学先の大学の講義に対応できる英語力を身に付けることを目指します。上級レベルの学生で，明確な留学計画があり，かつ週４回の受講（前期はⅠ・Ⅱ，後期はⅢ・Ⅳのセット受講）が可能であることが履修条件です。これらの科目の受講に関する詳しい内容は，オリエンテーション期間中に開催される「留学英語準備講座Ⅰ～Ⅳ」説明会にてお知らせしますので，その指示に従ってください。

また，選択英語の科目の多くは「履修制限科目」で，履修者の定員数が決まっています。通常の履修登録に先立ち応募し，応募者が定員数を超えた場合は，抽選の結果で履修が決定します。

最後になりますが，選択英語も，クラス英語同様，授業回数の４分の３以上の出席（ただし,「留学英語準備講座」,「特修英語」は別途指定）が単位認定の必須条件となっていますので，きちんと出席してください。

３ 「クラス英語」の再履修

「クラス英語」の再履修者のための授業として「英語Ⅰ～Ⅳ（再入門)」があります。授業回数の４分の３以上出席した人たちだけが評価の対象になります。

外国語科目の履修要領・教育課程表　（2020年度入学者から適用）

英語英文学科

	ＩＥＳプログラム	ＧＥＣプログラム
必修科目としての外国語	韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，日本語から一外国語を選び，その外国語を８単位修得しなければならない。 ただし，日本語については「日本語の履修方法」を参照のこと。	① 韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，日本語から一外国語又は二つ外国語を選び，その外国語を８単位修得しなければならない。 ただし，日本語については「日本語の履修方法」を参照のこと。 ② 二つの外国語で８単位を満たす場合は，一外国語につき４単位以上修得しなければならない。
選択科目としての外国語（必修以外に外国語を履修した場合）	必修科目の外国語以外に，外国語（留学英語準備講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを含む）を修得した場合，その単位は卒業要件中の「関連科目」に算入する。	
英語の履修方法	必修科目，選択科目ともに英語の科目は履修できない。ただし、留学英語準備講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを除く。 留学英語準備講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを修得した場合は，卒業要件中の「関連科目」に算入する。	
英語以外の外国語の履修方法（日本語を除く）	①履修可能な言語 韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語がある。 ②開講クラス 「初級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」，「中級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」，「上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」，「特修Ⅰ・Ⅱ」に分かれる。 必修の外国語として選択した場合，必修８単位は初級４単位と中級４単位をもって充当する。 （ＧＥＣプログラムの学生で二つの外国語で必修８単位を満たす場合は，各言語の初級をもって充当する。） ③授業運営方式 週１回のノーマル方式［標準］と，週２回リレー式のラピッド方式［速習］がある。学期ごとに方式を変えることもできる。 例①「初級」をノーマル方式で履修した後、「中級」をラピッド方式で履修する。 例②「初級」をラピッド方式で履修した後、「中級」をノーマル方式で履修する。 ④履修の原則 原則として，ノーマル方式は「初級ａ」と「初級ｂ」を連続で履修すること。ラピッド方式は「初級」と「中級」を連続で履修すること。 ⑤特修の履修条件 「特修」を履修する場合は「初級」程度の学修を終えている必要がある。 ⑥中級の履修条件（ノーマル方式） 「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」，「初級Ⅲａ・Ⅲｂ」，「初級Ⅳａ・Ⅳｂ」いずれかの組み合わせで，２単位を修得していなければならない。 スペイン語については，原則として初級４単位を修得していなければ中級を履修することはできない。 ⑦中級の履修条件（ラピッド方式） 「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」または「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」の組み合わせで，２単位を修得していなければならない。 ⑧既習者の履修方法 本学入学以前に「初級」程度以上の語学力をもっている者は，「中級」および「上級」から履修してもよい。必修の外国語として選択した場合，必修８単位は中級４単位と上級４単位でもよい。ただし，あらかじめ授業担当者の許可を得て履修すること。	
	再履修の方法 履修した科目の単位を修得できなかった場合は、次学期以降に再履修することができる。再履修にあたって方式を変えることもできる。 例①「初(中)級」をノーマル方式で履修したが、再履修ではラピッド方式で履修する。 例②「初(中)級」をラピッド方式で履修したが、再履修ではノーマル方式で履修する。	
日本語の履修方法	①日本語は「外国人留学生」及び「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）」対象の外国語である。履修するためには，必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 ②日本語を必修の外国語とする場合，日本語科目８単位を修得すること。 ③原則として，それぞれの科目は前学期と後学期（ａ・ｂ）を通年で履修しなければならない。	

スペイン語学科

<table>
<tr><td colspan="2">必修科目としての外国語</td><td>英語８単位を修得しなければならない。
ただし，外国人留学生及び外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）は申請により，「英語」に換えて，４～６単位を「日本語」とすることができる。日本語については「日本語の履修方法」を参照のこと。</td></tr>
<tr><td colspan="2">選択科目としての外国語
（必修以外に外国語を履修した場合）</td><td>必修科目の外国語以外に，外国語を修得した場合，その単位は卒業要件中の「関連科目」に算入する。
（選択科目としての英語については，下記の英語の履修方法を参照のこと）。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">英語の履修方法</td><td rowspan="2">必修科目としての英語</td><td>必修科目の英語は，プレイスメントテストに基づいたクラス編成を行う。
原則として，前学期と後学期（Ⅰ・Ⅱ）は指定されたクラスの授業を履修しなければならない。
なお，プレイスメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。

１年次では
英語Ⅰ（Listening）（前）
英語Ⅱ（Listening）（後）
英語Ⅰ（Speaking）（前）
英語Ⅱ（Speaking）（後）
} ４科目　計４単位を履修しなければならない。

２年次では
英語Ⅰ（Reading）（前）
英語Ⅱ（Reading）（後）
英語Ⅰ（Writing）（前）
英語Ⅱ（Writing）（後）
} ４科目　計４単位を履修しなければならない。</td></tr>
<tr><td>再履修の方法
上記の授業科目を修得できなかった場合，英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（再入門）（各１単位）を不足単位分履修しなければならない。各技能に対応する再履修科目は次のとおり。
英語Ⅰ（Listening），英語Ⅱ（Listening）・・・英語Ⅰ　（再入門）
英語Ⅰ（Speaking），英語Ⅱ（Speaking）・・・英語Ⅱ　（再入門）
英語Ⅰ（Reading），英語Ⅱ（Reading）・・・英語Ⅲ　（再入門）
英語Ⅰ（Writing），英語Ⅱ（Writing）・・・英語Ⅳ　（再入門）
ただし，履修する年度で同じ教員の同じ授業科目を複数履修することはできない。</td></tr>
<tr><td>選択科目としての英語</td><td>「共通教養科目教育課程表（別表　外国語科目）」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。修得した単位は卒業要件中の「関連科目」に算入する。</td></tr>
</table>

英語以外の外国語の履修方法（日本語を除く）	①履修可能な言語 韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語がある。 ただし，スペイン語学科の学生は，スペイン語を履修できない。 ②開講クラス 「初級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」,「中級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」,「上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」,「特修Ⅰ・Ⅱ」に分かれる。 ③授業運営方式 週１回のノーマル方式［標準］と，週２回リレー式のラピッド方式［速習］がある。学期ごとに方式を変えることもできる。 例①「初級」をノーマル方式で履修した後、「中級」をラピッド方式で履修する。 例②「初級」をラピッド方式で履修した後、「中級」をノーマル方式で履修する。 ④履修の原則 原則として，ノーマル方式は「初級ａ」と「初級ｂ」を連続で履修すること。ラピッド方式は「初級」と「中級」を連続で履修すること。 ⑤特修の履修条件 「特修」を履修する場合は「初級」程度の学修を終えている必要がある。 ⑥中級の履修条件（ノーマル方式） 「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」,「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」,「初級Ⅲａ・Ⅲｂ」,「初級Ⅳａ・Ⅳｂ」いずれかの組み合わせで，２単位を修得していなければならない。 ⑦中級の履修条件（ラピッド方式） 「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」または「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」の組み合わせで，２単位を修得していなければならない。 ⑧既習者の履修方法 本学入学以前に「初級」程度以上の語学力をもっている者は,「中級」および「上級」から履修してもよい。ただし，あらかじめ授業担当者の許可を得て履修すること。
	再履修の方法 履修した科目の単位を修得できなかった場合は、次学期以降に再履修することができる。再履修にあたって方式を変えることもできる。 例①「初(中)級」をノーマル方式で履修したが、再履修ではラピッド方式で履修する。 例②「初(中)級」をラピッド方式で履修したが、再履修ではノーマル方式で履修する。
日本語の履修方法	①日本語は「外国人留学生」及び「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等)」対象の外国語である。履修するためには，必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 ②日本語を必修の外国語とする場合，日本語科目４～６単位を修得することとし，８単位に不足する単位は「英語」で補うものとする。 ③原則として，それぞれの科目は前学期と後学期（ａ・ｂ）を通年で履修しなければならない。

中国語学科

<table>
<tr><td colspan="2">必修科目としての外国語</td><td>英語８単位を修得しなければならない。
ただし，外国人留学生及び外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）は申請により，「英語」に換えて，４～６単位を「日本語」とすることができる。日本語については「日本語の履修方法」を参照のこと。</td></tr>
<tr><td colspan="2">選択科目としての外国語
（必修以外に外国語を履修した場合）</td><td>必修科目の外国語以外に，外国語を修得した場合，その単位は卒業要件中の「関連科目」に算入する。
（選択科目としての英語については，下記の英語の履修方法を参照のこと）。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">英語の履修方法</td><td rowspan="2">必修科目としての英語</td><td>必修科目の英語は，プレイスメントテストに基づいたクラス編成を行う。
原則として，指定されたクラスの授業を履修しなければならない。
なお，プレイスメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。

１年次では
英語Ⅰ（Listening）（前）
英語Ⅱ（Listening）（後）
英語Ⅰ（Speaking）（前）
英語Ⅱ（Speaking）（後）
｝４科目　計４単位を履修しなければならない。

２年次では
英語Ⅰ（Reading）（前）
英語Ⅱ（Reading）（後）
英語Ⅰ（Writing）（前）
英語Ⅱ（Writing）（後）
｝４科目　計４単位を履修しなければならない。</td></tr>
<tr><td>再履修の方法
上記の授業科目を修得できなかった場合，英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（再入門）（各１単位）を不足単位分履修しなければならない。各技能に対応する再履修科目は次のとおり。
英語Ⅰ（Listening），英語Ⅱ（Listening）・・・英語Ⅰ（再入門）
英語Ⅰ（Speaking），英語Ⅱ（Speaking）・・・英語Ⅱ（再入門）
英語Ⅰ（Reading），英語Ⅱ（Reading）・・・英語Ⅲ（再入門）
英語Ⅰ（Writing），英語Ⅱ（Writing）・・・英語Ⅳ（再入門）
ただし，履修する年度で同じ教員の同じ授業科目を複数履修することはできない。</td></tr>
<tr><td>選択科目としての英語</td><td>「共通教養科目教育課程表（別表　外国語科目）」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。修得した単位は卒業要件中の「関連科目」に算入する。</td></tr>
</table>

英語以外の外国語の履修方法（日本語を除く）	①履修可能な言語 韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語がある。 ただし，中国語学科の学生は，中国語を履修できない。 ②開講クラス 「初級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」，「中級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」，「上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」，「特修Ⅰ・Ⅱ」に分かれる。 ③授業運営方式 週１回のノーマル方式［標準］と，週２回リレー式のラピッド方式［速習］がある。学期ごとに方式を変えることもできる。 例①「初級」をノーマル方式で履修した後、「中級」をラピッド方式で履修する。 例②「初級」をラピッド方式で履修した後、「中級」をノーマル方式で履修する。 ④履修の原則 原則として，ノーマル方式は「初級ａ」と「初級ｂ」を連続で履修すること。ラピッド方式は「初級」と「中級」を連続で履修すること。 ⑤特修の履修条件 「特修」を履修する場合は「初級」程度の学修を終えている必要がある。 ⑥中級の履修条件（ノーマル方式） 「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」，「初級Ⅲａ・Ⅲｂ」，「初級Ⅳａ・Ⅳｂ」いずれかの組み合わせで，２単位を修得していなければならない。 スペイン語については，原則として初級４単位を修得していなければ中級を履修することはできない。 ⑦中級の履修条件（ラピッド方式） 「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」または「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」の組み合わせで，２単位を修得していなければならない。 ⑧既習者の履修方法 本学入学以前に「初級」程度以上の語学力をもっている者は，「中級」および「上級」から履修してもよい。ただし，あらかじめ授業担当者の許可を得て履修すること。
	再履修の方法 履修した科目の単位を修得できなかった場合は、次学期以降に再履修することができる。再履修にあたって方式を変えることもできる。 例①「初(中)級」をノーマル方式で履修したが、再履修ではラピッド方式で履修する。 例②「初(中)級」をラピッド方式で履修したが、再履修ではノーマル方式で履修する。
日本語の履修方法	①日本語は「外国人留学生」及び「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）」対象の外国語である。履修するためには，必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 ②日本語を必修の外国語とする場合，日本語科目４～６単位を修得することとし，８単位に不足する単位は「英語」で補うものとする。 ③原則として，それぞれの科目は前学期と後学期（ａ・ｂ）を通年で履修しなければならない。

４　履修案内
専攻科目

英語英文学科

英 語 英 文 学 科 履 修 案 内

（2020年度入学者から適用）

【英語英文学科の教育目標】

国という枠組みを超えて人と人とがつながり，情報が行き交う現代。私たちが世界のさまざまな情報を手に入れ，世界に向けて情報を発信するために，英語を学ぶ重要性はさらに大きくなっている。英語英文学科では「英語」という言語を軸に，英語圏の文化，文学，社会，言葉，コミュニケーションなどについて学びを深め，多様な文化的背景を持つ人々と共に新しい価値を創造できる国際性に富んだ人材を育成する。

【カリキュラムの概要と特色】

英語英文学科のカリキュラムは以下に示す２つの科目群から成り立っている。卒業するためには，それぞれの科目群より指定された単位数を修得し，合計128単位以上を修得しなければならない。

１．専攻科目（計96単位以上）
　専門基礎科目（20単位以上），選択必修科目，選択科目，及び関連科目

２．共通教養科目（計32単位以上）
　初年次ゼミナール（２単位必修），外国語科目（８単位以上），共通基盤科目，及び共通テーマ科目

英語英文学科は Integrated English Studies（IES）及び Global English Communication（GEC）の二つのプログラムからなり，それぞれのプログラムのカリキュラムの概要と特色は以下の通りである。

●Integrated English Studies（IES）

Integrated English Studies（IES）プログラムでは，言語としての英語と，英語圏の文学・文化・コミュニケーションを統合的に学ぶ。この統合的学修を通じて，異文化を理解すると共に，人間の多様性と普遍性について考える。英語教員を目指す学生は，１年次より段階的に用意された教職関連専門科目群の履修が可能である。中学，高校英語教員養成の専門家による教員養成特修科目群の履修を通して教職に必要な知識と技能を身につけ，教員免許の取得が可能である。

IES プログラムでは，１年次より英語圏の文化，文学，社会，歴史，また，言語の仕組み，コミュニケーションに関わる各種入門科目で，各分野における基礎知識を身につける。そして，３年次より「言語コミュニケーション・英語教育コース」と「英語圏文学・文化コース」の２つのコースから１つを選択し，各自の研究テーマに沿って学ぶ。研究テーマとの関連や興味に応じて，所属コース以外の科目も履修が可能である。

希望者には半年～１年間の派遣交換留学や，授業と連動した海外留学プログラム（Study English Abroad 1・2）も用意されている。学部共通科目として，中国語圏やスペイン語圏の文化についても学ぶことができる。

●Global English Communication（GEC）

Global English Communication（GEC）プログラムでは，世界の共通語である英語を用いて，世界の多様な人々の文化と社会について学ぶ。多様な他者との協働・共生における課題を議論する中で発信力を高め，グローバル社会に創造的な貢献をする力を養う。また，学科のほとんどすべての専攻科目の授業を英語で学ぶことにより，実用的英語力を高める。

GEC プログラムでは，１年次には専門分野への導入科目，Introduction to World Literature / Global Culture / Global Communication で専門的な学修のために必要な基礎知識を身につける。また，English Communication for Global Studies Ⅰ・Ⅱのプロジェクト型の授業では，知識を活用し実践的な学修を行う。そして，各自が取り組むべき問題を定義し課題の設定を行うと共に，２年次前期必修の Study Abroad の準備をする。Study Abroad では，英語コミュニケーション力をさらにブラッシュアップするだけでなく，異文化の中で実際の生活を経験する中で，自ら設定した課題について実践の場から考察する。Study Abroad での経験を活かし，帰国後の２年次後学期以降のセミナー，Graduation Project などでさらに学修の発展に取り組み，実践的な成果として発信することを目標とする。

【専攻科目の履修要項】

１．専門基礎科目

１・２年次開講の英語スキル科目。演習形式で，聴く，話す，読む，書くという英語の基礎運用能力の強化・充実をはかり，英語による情報収集，発表等の能力の素地を身につけることを目的とする。First Year English の各クラスは IES・GEC 共通開講科目である。

IES プログラムの２年次生は Second Year English を中心とする各種英語クラスを履修する。GEC プログラムの２年次生は前期に GEC Study Abroad（1セメスターの海外留学）を，留学帰国後の後期に Reading/Writing の授業を履修し留学先での学修を発展させる。

専門基礎科目からは，卒業要件として20単位以上を修得しなければならないが，２年次終了時までに専門基礎科目の修得単位数が12単位未満の者は，３・４年次配当の選択必修科目を履修できないため特に注意が必要である。

２．選択必修科目

１年次から４年次にかけて開講される英語英文学科生対象の専門クラス。英語英文学科における各専門コースの入門（概論）から応用（演習）まで，学習段階に応じてクラスが配置されている。IES・GEC それぞれのプログラムにおける選択必修科目の概要は以下の通り。

●Integrated English Studies（IES）

（ｉ）言語コミュニケーション・英語教育

「言語というシステムやそれを使用する人間について」の知識を深める為の科目が配置されている。英語という言語の音声，構造と意味，コミュニケーションの仕組みに関わる理論を深く学び，広く言語と人間についての理解を深める。

また，将来，中学校・高等学校英語科教員免許状の取得などをめざす学生のために「英語教育学概論」（１年次前学期，教職課程仮登録者のみ履修可能）や３・４年次開講の各種英語教育学関連科目を提供し，教員に必要な専門知識と技能の習得をはかる。

（ⅱ）英語圏文学・文化

英語圏文学では，英語で書かれた詩，小説，演劇などの文学作品や文学批評の読解と分析を通して，英語圏の文学についての理解を深めることを目的とする科目が配置されている。作品が生み出された文化的・歴史的背景の研究や，日本を含む他の文化圏の文学との比較研究も本分野に含まれる。古典から現代に至るまでの英語圏の多様な文学作品の研究を通して，ことばへの感性を高め批判的思考力を養う。

英語圏文化では，英語圏の文化に関する理解力・洞察力を養うことを目的とする授業が配置されている。具体的な研究分野は多岐にわたり，特定の国・社会の制度・歴史・思想などを考察する地域研究に加え，国家間に生じる問題を取り扱う国際関係論や他文化との比較研究も範囲に含まれる。また，文化間の交流に焦点をあてた異文化コミュニケーション研究や映画などの文化表象の批評も射程に入る。

（ⅲ）共通科目

上記のコースのいずれを選択した場合にも必要な英語の高度な表現力を養成するための科目群が配置されている。表現力を音声言語（Presentation and Discussion，通訳演習）と文字言語（Essay Writing，翻訳演習）の両面から強化し，英語によるより高度な実践的コミュニケーション能力を育成することを目的とする。

（ⅳ）専門研究

自分の興味にあった分野について少人数のゼミ形式で学び，卒業論文を完成させることを目標とする科目群が配置されている。

３年次の「専門研究」では，２年次の専門基礎科目「Research and Presentation」や，各分野の選択必修科目で修得した英文読解力，リサーチスキル，論文作成法，プレゼンテーションスキル等をさらに発展させる。また，「専門研究」の履修を通して自身の興味にあった課題に取り組み，卒業論文で取り組む「課題」を見つける。

４年次の「卒業論文」では，「専門研究」の履修を通して自らが設定した「課題」について研究を深め，４年間の学修の集大成ともいうべき卒業論文を完成させることを目的とする。

なお，(小)・中・高の教員を第一志望とする学生には，２年次開講の「教職基礎研究」から３年次の「専門研究」・４年次の「卒業論文」まで，英語教育学・教師教育を専門とする専任教員が３年間の指導計画に基づく少人数のゼ

ミ指導を通じて，理論と実践的指導力を合わせ持つプロの英語教員を育成する「英語教員養成特修ゼミ」も用意されている。

「専門研究」や「卒業論文」は必修ではないが，学科カリキュラムの基幹として位置づけられており，多くの学生の履修が望まれる。

●Global English Communication (GEC)

（ｉ）Study Abroad

「GEC Study Abroad,Studies on Literature, Cultures & Communication」という科目が配置されている。Study Abroad に伴う留学先で履修する授業には，英語学習と共に多文化共生が進展するそれぞれの国や地域の文化，社会などがテーマとなるものが含まれる。そのため２年次専門基礎科目「GEC Study Abroad （Intensive English)」と共に，この科目についても履修登録を行う。また，留学前に１年次開講の専門基礎科目「English Communication for Global Studies」での指導に沿い，留学終了後のプロジェクトの準備として，研究計画を立て，資料収集を行うが，その成果も成績評価に含まれる。

（ⅱ）グローバル英語コミュニケーション

World Literature, Global Culture, Global Communication の３領域について専門的に学びを深めることを目的とする科目群が配置されている。３領域は相互に関連しているため，配当されている授業をバランス良く履修して総合力を高めると共に，自身の関心のあるテーマについて多角的に学修することができる。

１年次前期の各領域の Introduction Ⅰは３科目全てを履修し，各領域を概観する。１年次後期の Introduction Ⅱは，３科目の全てを履修する必要はないが，自身の関心と学修計画に合わせて１～２領域を履修すること。
留学後の２年次後期以降の World Literature/Global Culture/Global Communication 各領域の配当授業については，３つの領域のうち１つを選び，学びを総合し実践するプロジェクトに取り組むこととなる。

４年次では，それぞれの領域の担当者が指導する Graduation Project ゼミナールの１つに所属する。多様な言語・文化的背景の人々が共生する社会での留学経験を含め，１年次からのプロジェクト型学修の集大成として，ゼミナールごとに学修成果をウェブサイトや印刷物で発信する。

（ⅲ）Advanced Communication and Japanese Studies

１～２年次の専門基礎科目に引き続き，英語によるコミュニケーション力を一層高め，英語で必要な情報を得，考えを発信するなど，生活やキャリアで実践する英語コミュニケーション力を養う科目が配置されている。日本の文化，社会について英語を通して理解し，発信する科目で構成される。高い英語コミュニケーション力を養成することに加え，各自の視野を広げること，研究テーマと関連する学修をより深めることが目的である。

３．選択科目（IES・GEC 共通）

（ｉ）英語留学プログラム

英語圏への留学成果を神奈川大学での単位として認定するための科目が配置されている。神奈川大学が学生交換協定を結んだ世界中の約200の大学への派遣交換留学をはじめ（「派遣交換留学 Ⅰ～XVI」），英語英文学科の短期留学プログラムである SEA1・SEA2（「Study English Abroad (SEA) 1・2」）、英語圏への推薦語学研修等に参加し，留学により本学科の教育目標に沿った成果を修めた場合に申請し単位が認定される。各自の学修計画に合わせて留学を組み入れ，4年間で卒業することが可能である。（なお、推薦語学研修の英語の単位認定は，１年次のみ学科専攻科目の「海外英語研修Ａ」「海外英語研修Ｂ」に個別認定され，２年次以降は関連科目として認定される。）

（ⅱ）外国語学部共通科目

外国語学部中国語学科，スペイン語学科の授業のうち，英語英文学科生に履修が認められた授業が配置されている。世界中で共通語として用いられている英語による高いコミュニケーション力を生かし，多様な人々の社会，文化について理解を深めることは英語英文学科が掲げる目標の１つである。さらに英語と並んでスペイン語，中国語は，世界の広い範囲で使用されているため，英語英文学科の専門的学修の奥行きを広げる，新たな気づきを提供することが期待される。

（ⅲ）外国語学部キャリアデザイン科目

外国語学部生に関心の高い業界からのゲストスピーカーによる講義とディスカション，グループワークを中心とする授業，及びボランティアを目的とする海外留学に対し単位を認定するための科目が配置されている。外国語学部が教育目標に掲げる，高度な外国語運用能力と異文化理解力，多様な他者と協働することができる力を卒業後の職業，キャリアの中でどのように生かすことが可能であるかについて理解を深め，大学での学びとキャリアの接続について意識し，大学での学修により目的意識をもって取り組むことを目的とする。

４．関連科目

卒業には，関連科目として「情報処理Ⅰ・Ⅱ」・「卒業要件単位数」を超える専攻科目・共通教養科目，他プログラムの科目，「教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）」，他学部他学科開講の専攻科目から20単位以上を修得しなければならない。

※大学が定める所定の手続きを経て海外留学が許可された者の履修方法については，別途「留学生に関する取扱内規」に従うこと。

【共通教養科目の履修要領】

「初年次ゼミナール」は２単位必修，外国語科目はドイツ語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語，韓国語のうち，各自が選んだ１外国語８単位が必修である。必修８単位は初級４単位と中級４単位をもって充当する。（GEC 生は，２つの外国語を選択して，初級４単位×２も可能。）さらに高度な運用能力の修得を希望する者は上級を履修することができる。（英語英文学科では英語を除いた上記のものを外国語科目として扱う。）共通基盤科目・共通テーマ科目は，合計32単位以上を履修しなければならない。ただし，この32単位の中には最低，共通基盤科目のうち「人文の分野」，「社会の分野」，「自然の分野」の３分野からそれぞれ４単位，共通基盤科目「人間形成の分野」，共通テーマ科目から２単位ずつ，それら以外に両科目全体の中から６単位が含まれていなければならない。

【GEC プログラム生の教職科目履修について】

中学校・高等学校の英語教員養成は，IES プログラムのカリキュラムが対応している。GEC プログラム生が教職課程に登録し，所定の教職科目等を履修して「英語教員免許状」を取得することは可能だが，一部の共通開講科目を除き，免許状取得に必要な「教科に関する専門的事項」（英語英文学科の専攻科目）のほとんどが IES プログラム設置科目であるため，IES 生よりも多くの単位修得が必要となり学修上の負担が増える。このため，英語教員として生徒を指導するために必要な IES の専門基礎科目や選択必修科目を十分に履修できない可能性が高い。また，「教科教育法」など教職専門科目の本格的履修が始まる２年次前期に Study Abroad により全員が留学するため，教員免許状取得のための履修計画が IES 生よりも遅れ，卒業時に免許状が取得できない場合がある。（この場合，卒業後，科目等履修生として免許状取得に必要な科目の履修を続ける必要が生じる。）詳細は，学科の英語教育コース担当教員に確認すること。

【履修単位の上限】

一年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする（通年科目を履修した場合には，その科目の単位数を二分割し，前学期・後学期それぞれの学期の単位数として換算する）。なお，卒業要件単位に算入されない各種課程に関する科目の単位数はこの枠外とする。

英語英文学科(IES)

Department of English

英語コミュニケーション能力養成科目

●1, 2年次：ネイティブ・スピーカーによる少人数編成授業等を通して基礎的コミュニケーション能力を身につける。

●3, 4年次：英語による表現能力をさらに向上させる。

専門分野修得科目

●言語としての英語と、英語圏の文学・文化・コミュニケーションを統合的に学ぶ。異文化を理解すると共に、人間の多様性と普遍性について考える。

●「英語コミュニケーション・英語教育コース」「英語圏文学・文化コース」から興味に合ったコースを選択し、専門的な知識・技能を身につける。

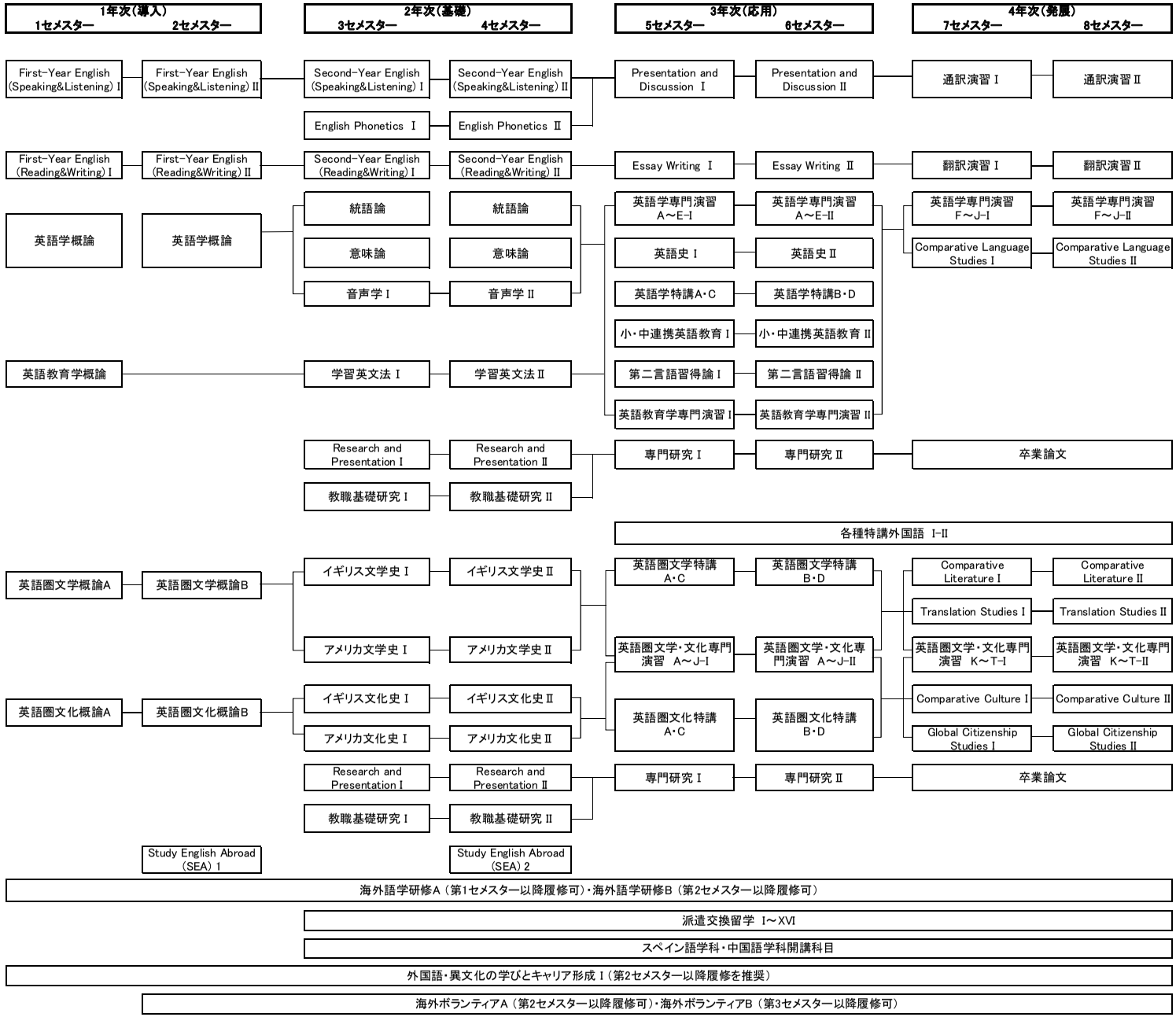
●4年間の学修の集大成として「卒業論文」の執筆に向け、少人数のゼミ形式で研究する。

●英語教員志望者は、上記専門コースの所属先にかかわらず、教職関連専門科目（英語教員養成特修科目群）を履修可能。

選択科目

●SEA1・2、派遣交換留学、推薦語学研修等による多様な留学体験を通し、広い視野を身につける。

●キャリアデザイン科目や海外ボランティアで、多様な人々との交流や、将来のキャリアについて考える。



英語英文学科(GEC)
Department of English

英語コミュニケーション能力養成科目

●1, 2年次：ネイティブ・スピーカーによる少人数編成授業等を通して基礎的コミュニケーション能力を身につける。

●3, 4年次：英語による表現能力をさらに向上させる。

専門分野修得科目

●世界の共通語である英語を用いて、世界の多様な人々の文化と社会について学ぶ。多様な他者との協働・共生における課題を議論する中で発信力を高め、グローバル社会に創造的な貢献をする力を養う。

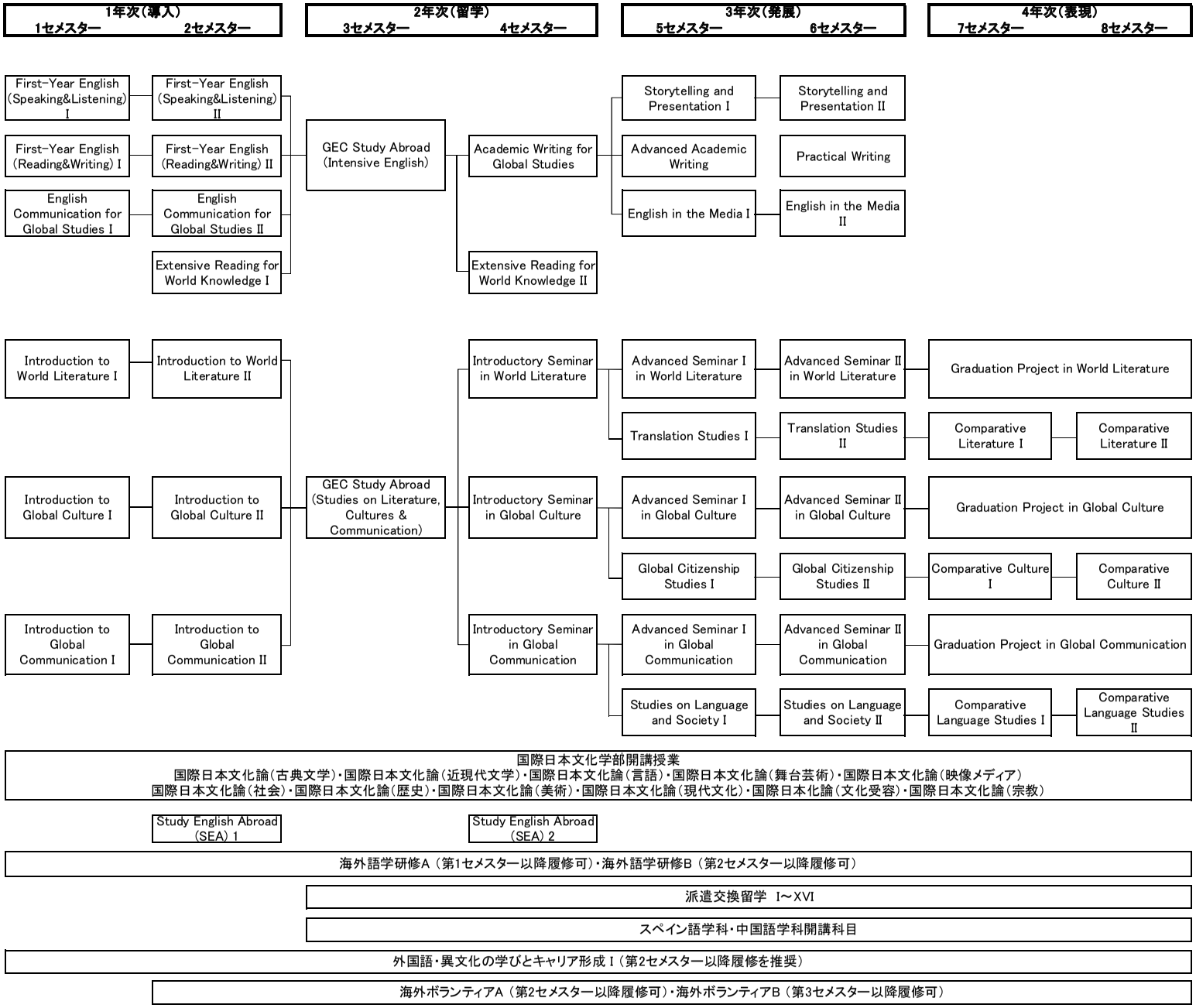
●World Literature・Global Culture・Global Communicationから興味に合った領域を選択し、専門的な知識・技能を身につける。4年次には選択した領域についての学修の集大成であるGraduation Projectを完成させる。

●国際日本学部で開講されている日本文化に関する様々な授業を履修し、各自の視野を広げ、研究テーマと関連する学修をより深める。

選択科目

●SEA1・2、派遣交換留学、推薦語学研修等による多様な留学体験を通し、広い視野を身につける。

●キャリアデザイン科目や海外ボランティアで、多様な人々との交流や、将来のキャリアについて考える。



2023年度　外国語学部英語英文学科　教育課程表（2020年度入学者から適用）　Integrated English Studiesプログラム

（学年は標準年次を示す）

		1年次 1セメスター 授業科目	単位	1年次 2セメスター 授業科目	単位	2年次 3セメスター 授業科目	単位	2年次 4セメスター 授業科目	単位	3年次 5セメスター 授業科目	単位	3年次 6セメスター 授業科目	単位	4年次 7セメスター 授業科目	単位	4年次 8セメスター 授業科目	単位	卒業要件単位数	
専攻科目	専門基礎科目	☆First-Year English (Speaking&Listening) Ⅰ	2	☆First-Year English (Speaking&Listening) Ⅱ	2														
		☆First-Year English (Reading&Writing) Ⅰ	2	☆First-Year English (Reading&Writing) Ⅱ	2														
						Research and Presentation Ⅰ	2	Research and Presentation Ⅱ	2									20	
						☆Second-Year English (Speaking&Listening) Ⅰ	2	☆Second-Year English (Speaking&Listening) Ⅱ	2										
						☆Second-Year English (Reading&Writing) Ⅰ	2	☆Second-Year English (Reading&Writing) Ⅱ	2										
						学習英文法Ⅰ	1	学習英文法Ⅱ	1										
						English Phonetics Ⅰ	1	English Phonetics Ⅱ	1										
	選択必修科目 言語コミュニケーション・英語教育	英語学概論	2	英語学概論	2	統語論	2	統語論	2	英語学専門演習A-Ⅰ	2	英語学専門演習A-Ⅱ	2	英語学専門演習F-Ⅰ	2	英語学専門演習F-Ⅱ	2	12（各自登録コース8以上・他コース4以上）	40
						意味論	2	意味論	2	英語学専門演習B-Ⅰ	2	英語学専門演習B-Ⅱ	2	英語学専門演習G-Ⅰ	2	英語学専門演習G-Ⅱ	2		
						音声学Ⅰ	2	音声学Ⅱ	2	英語学専門演習C-Ⅰ	2	英語学専門演習C-Ⅱ	2	英語学専門演習H-Ⅰ	2	英語学専門演習H-Ⅱ	2		
										英語学専門演習D-Ⅰ	2	英語学専門演習D-Ⅱ	2	英語学専門演習Ⅰ-Ⅰ	2	英語学専門演習Ⅰ-Ⅱ	2		
										英語学専門演習E-Ⅰ	2	英語学専門演習E-Ⅱ	2	英語学専門演習Ｊ-Ⅰ	2	英語学専門演習Ｊ-Ⅱ	2		
										特講イタリア語Ⅰ	2	特講イタリア語Ⅱ	2	特講中国語Ⅰ	2	特講中国語Ⅱ	2		
										特講韓国語Ⅰ	2	特講韓国語Ⅱ	2	特講ドイツ語Ⅰ	2	特講ドイツ語Ⅱ	2		
										特講スペイン語Ⅰ	2	特講スペイン語Ⅱ	2	特講フランス語Ⅰ	2	特講フランス語Ⅱ	2		
														特講ロシア語Ⅰ	2	特講ロシア語Ⅱ	2		
										英語史Ⅰ	2	英語史Ⅱ	2	Comparative Language Studies Ⅰ	2	Comparative Language Studies Ⅱ	2		
										英語学特講A	2	英語学特講B	2						
										英語学特講C	2	英語学特講D	2						
		英語教育学概論	2							小・中連携英語教育Ⅰ	2	小・中連携英語教育Ⅱ	2						
										第二言語習得論Ⅰ	2	第二言語習得論Ⅱ	2						
										英語教育学専門演習Ⅰ	2	英語教育学専門演習Ⅱ	2						
	選択必修科目 英語圏文学・文化	英語圏文学概論A	2	英語圏文学概論B	2	イギリス文学史Ⅰ	2	イギリス文学史Ⅱ	2	英語圏文学特講A	2	英語圏文学特講B	2	Comparative Literature Ⅰ	2	Comparative Literature Ⅱ	2		
						アメリカ文学史Ⅰ	2	アメリカ文学史Ⅱ	2	英語圏文学特講C	2	英語圏文学特講D	2	Translation Studies Ⅰ	2	Translation Studies Ⅱ	2		
		英語圏文化概論A	2	英語圏文化概論B	2	イギリス文化史Ⅰ	2	イギリス文化史Ⅱ	2	英語圏文化特講A	2	英語圏文化特講B	2	Comparative Culture Ⅰ	2	Comparative Culture Ⅱ	2		
						アメリカ文化史Ⅰ	2	アメリカ文化史Ⅱ	2	英語圏文化特講C	2	英語圏文化特講D	2	Global Citizenship Studies Ⅰ	2	Global Citizenship Studies Ⅱ	2		
										英語圏文学・文化専門演習A-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習A-Ⅱ	2	英語圏文学・文化専門演習K-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習K-Ⅱ	2		
										英語圏文学・文化専門演習B-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習B-Ⅱ	2	英語圏文学・文化専門演習L-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習L-Ⅱ	2		
										英語圏文学・文化専門演習C-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習C-Ⅱ	2	英語圏文学・文化専門演習M-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習M-Ⅱ	2		
										英語圏文学・文化専門演習D-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習D-Ⅱ	2	英語圏文学・文化専門演習N-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習N-Ⅱ	2		
										英語圏文学・文化専門演習E-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習E-Ⅱ	2	英語圏文学・文化専門演習O-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習O-Ⅱ	2		
										英語圏文学・文化専門演習F-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習F-Ⅱ	2	英語圏文学・文化専門演習P-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習P-Ⅱ	2		
										英語圏文学・文化専門演習G-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習G-Ⅱ	2	英語圏文学・文化専門演習Q-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習Q-Ⅱ	2		
										英語圏文学・文化専門演習H-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習H-Ⅱ	2	英語圏文学・文化専門演習R-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習R-Ⅱ	2		
										英語圏文学・文化専門演習I-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習I-Ⅱ	2	英語圏文学・文化専門演習S-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習S-Ⅱ	2		
										英語圏文学・文化専門演習J-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習J-Ⅱ	2	英語圏文学・文化専門演習T-Ⅰ	2	英語圏文学・文化専門演習T-Ⅱ	2		
	選択必修科目 共通科目									Presentation and Discussion Ⅰ	2	Presentation and Discussion Ⅱ	2	通訳演習Ⅰ	2	通訳演習Ⅱ	2	4	
										Essay Writing Ⅰ	2	Essay Writing Ⅱ	2	翻訳演習Ⅰ	2	翻訳演習Ⅱ	2		
	選択必修科目 専門研究					教職基礎研究Ⅰ	2	教職基礎研究Ⅱ	2	専門研究Ⅰ	2	専門研究Ⅱ	2	卒業論文			6		
	選択科目 英語留学プログラム	○海外英語研修A	2	Study English Abroad(SEA) 1	5			Study English Abroad(SEA) 2	3										
				○海外英語研修B	2														
						派遣交換留学Ⅰ	2	派遣交換留学Ⅴ	2	派遣交換留学Ⅸ	2	派遣交換留学XⅢ	2						
						派遣交換留学Ⅱ	2	派遣交換留学Ⅵ	2	派遣交換留学Ⅹ	2	派遣交換留学XⅣ	2						
						派遣交換留学Ⅲ	2	派遣交換留学Ⅶ	2	派遣交換留学XⅠ	2	派遣交換留学XV	2						
						派遣交換留学Ⅳ	2	派遣交換留学Ⅷ	2	派遣交換留学XⅡ	2	派遣交換留学XⅥ	2						
	選択科目 外国語学部共通科目					総合講座・中国と世界	2	日中関係講義	2										
						中国地域文化講義	2	日中比較文化講義	2										
						スペイン史Ⅰ	2	スペイン史Ⅱ	2										
						ラテンアメリカ史Ⅰ	2	ラテンアメリカ史Ⅱ	2										
						スペイン現代研究Ⅰ	2	スペイン現代研究Ⅱ	2										
						ラテンアメリカ現代研究Ⅰ	2	ラテンアメリカ現代研究Ⅱ	2										
	選択科目 外国語学部キャリアデザイン科目	外国語・異文化の学びとキャリア形成Ⅰ	2																
				○海外ボランティアA	2	○海外ボランティアB	2												
	関連科目	情報処理Ⅰ	2	情報処理Ⅱ	2	「卒業要件単位数」を超える専攻科目・共通教養科目，GECプログラムの科目，「教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）」，他学部他学科開講の専攻科目												20	

2023年度　外国語学部英語英文学科　教育課程表（2020年度入学者から適用）　Global English Communicationプログラム

（学年は標準年次を示す）

		1年次 1セメスター 授業科目	単位	1年次 2セメスター 授業科目	単位	2年次 3セメスター 授業科目	単位	2年次 4セメスター 授業科目	単位	3年次 5セメスター 授業科目	単位	3年次 6セメスター 授業科目	単位	4年次 7セメスター 授業科目	単位	4年次 8セメスター 授業科目	単位	卒業要件単位数
専攻科目	専門基礎科目	☆First-Year English (Speaking&Listening) Ⅰ	2	☆First-Year English (Speaking&Listening) Ⅱ	2													20
		☆First-Year English (Reading&Writing) Ⅰ	2	☆First-Year English (Reading&Writing) Ⅱ	2													
		English Communication for Global Studies Ⅰ	2	English Communication for Global Studies Ⅱ	2	GEC Study Abroad（Intensive English）	10	Extensive Reading for World Knowledge Ⅱ	2									
				Extensive Reading for World Knowledge Ⅰ	2			Academic Writing for Global Studies	2									
	選択必修科目 Study Abroad					GEC Study Abroad Studies on Literature, Cultures & Communication	10											10
	選択必修科目 グローバル英語コミュニケーション	Introduction to World Literature Ⅰ	2	Introduction to World Literature Ⅱ	2			Introductory Seminar in World Literature	2	Advanced Seminar Ⅰ in World Literature	2	Advanced Seminar Ⅱ in World Literature	2	Graduation Project in World Literature			6	12（Graduation Project含む）
										Translation Studies Ⅰ	2	Translation Studies Ⅱ	2	Comparative Literature Ⅰ	2	Comparative Literature Ⅱ	2	
		Introduction to Global Culture Ⅰ	2	Introduction to Global Culture Ⅱ	2			Introductory Seminar in Global Culture	2	Advanced Seminar Ⅰ in Global Culture	2	Advanced Seminar Ⅱ in Global Culture	2	Graduation Project in Global Culture			6	
										Global Citizenship Studies Ⅰ	2	Global Citizenship Studies Ⅱ	2	Comparative Culture Ⅰ	2	Comparative Culture Ⅱ	2	
		Introduction to Global Communication Ⅰ	2	Introduction to Global Communication Ⅱ	2			Introductory Seminar in Global Communication	2	Advanced Seminar Ⅰ in Global Communication	2	Advanced Seminar Ⅱ in Global Communication	2	Graduation Project in Global Communication			6	
										Studies on Language and Society Ⅰ	2	Studies on Language and Society Ⅱ	2	Comparative Language Studies Ⅰ	2	Comparative Language Studies Ⅱ	2	
	選択必修科目 Advanced Communication and Japanese Studies	国際日本文化論（古典文学） 2 国際日本文化論（近現代文学） 2 国際日本文化論（言語） 2 国際日本文化論（舞台芸術） 2 国際日本文化論（映像メディア） 2 国際日本文化論（社会） 2 国際日本文化論（歴史） 2 国際日本文化論（美術） 2 国際日本文化論（現代文化） 2 国際日本文化論（文化受容） 2 国際日本文化論（宗教） 2								Advanced Academic Writing	2	Practical Writing	2					34
										English in the Media Ⅰ	2	English in the Media Ⅱ	2					
										Storytelling and Presentation Ⅰ	2	Storytelling and Presentation Ⅱ	2					
	選択科目 英語留学プログラム	○海外英語研修A	2	Study English Abroad(SEA) 1	5			Study English Abroad(SEA) 2	3									
				○海外英語研修B	2													
						派遣交換留学Ⅰ	2	派遣交換留学Ⅴ	2	派遣交換留学Ⅸ	2	派遣交換留学XIII	2					
						派遣交換留学Ⅱ	2	派遣交換留学Ⅵ	2	派遣交換留学Ⅹ	2	派遣交換留学XIV	2					
						派遣交換留学Ⅲ	2	派遣交換留学Ⅶ	2	派遣交換留学XI	2	派遣交換留学XV	2					
						派遣交換留学Ⅳ	2	派遣交換留学Ⅷ	2	派遣交換留学XII	2	派遣交換留学XVI	2					
	選択科目 外国語学部共通科目	英語学概論	2	英語圏文学概論B	2	総合講座・中国と世界	2	日中関係講義	2									
		英語圏文学概論A	2	英語圏文化概論B	2	中国地域文化講義	2	日中比較文化講義	2									
		英語圏文化概論A	2			スペイン史Ⅰ	2	スペイン史Ⅱ	2									
						ラテンアメリカ史Ⅰ	2	ラテンアメリカ史Ⅱ	2									
						スペイン現代研究Ⅰ	2	スペイン現代研究Ⅱ	2									
						ラテンアメリカ現代研究Ⅰ	2	ラテンアメリカ現代研究Ⅱ	2									
	選択科目 外国語学部キャリアデザイン科目	外国語・異文化の学びとキャリア形成Ⅰ	2															
				○海外ボランティアA	2	○海外ボランティアB	2											
	関連科目	情報処理Ⅰ	2	情報処理Ⅱ	2	「卒業要件単位数」を超える専攻科目・共通教養科目，IESプログラムの科目，「教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）」，他学部他学科開講の専攻科目												20

〔備　　考〕
1　☆印は受講するクラスが指定される授業科目を示す。
2　○印は単位認定科目を示す。

〔履修要件〕
1　同一授業科目は，重複して履修することはできない。
2　一年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする（通年科目を履修した場合は，その科目の単位数を二分割し，前学期・後学期それぞれの学期の単位数として換算する）。
なお，卒業要件単位数に算入されない資格教育課程に関する科目の単位数はこの枠外とする。
3　２年次終了時までに専門基礎科目の修得単位数が12単位未満の者は，３・４年次配当の選択必修科目を履修できない。
4　「Study English Abroad (SEA)1」及び「Study English Abroad (SEA)2」は,外国語学部の学生を対象とし，他学部の学生は,履修することができない。
5　専攻科目の中には履修資格や人数を制限する科目がある。専門基礎科目と選択必修科目については，それぞれが所属するプログラム(Integrated English Studies(IES)又はGlobal English Communication(GEC)) に指定された授業科目を履修しなくてはならない。それぞれの授業科目，プログラムで定められた条件を満たす場合，所属プログラム以外の授業科目を履修することができる。その単位は関連科目に算入される。
6　派遣交換留学によって派遣先の大学で修得した単位は，授業内容が英語英文学科カリキュラムポリシーに沿ったものであると認定された場合，「派遣交換留学」として単位認定を申請することができる。

〔プログラム制・コース制〕
1　英語英文学科に所属する学生は，１年次前学期よりIntegrated English Studies (IES) 又はGlobal English Communication (GEC)のいずれかのプログラムに所属し，履修要件・卒業要件は各プログラムの指示に従い行うものとする。
2　IESプログラムのコース制について
（１）２年次後期（第４セメスター）に,学科所定の手続きにより，「言語コミュニケーション・英語教育コース」又は「英語圏文学・文化コース」のいずれかのコースを選択し登録しなければならない。
（２）コースの変更は、原則として認めない。
3　IESプログラムの専門研究・卒業論文について
（１）「専門研究Ⅰ・Ⅱ」及び「卒業論文」を２年間継続して履修することを原則とする。ただし，英語科教員養成に関わる指定された「専門研究Ⅰ・Ⅱ」及び「卒業論文」については，「教職基礎研究Ⅰ・Ⅱ」を２年次に履修し，３年間の継続履修となる。
（２）「専門研究Ⅰ」の履修を希望する者は，学科所定の『専門研究・コース決定要項』に基づき，２年次後期（第４セメスター）に履修希望届を提出して，３年次前期（第５セメスター）に履修登録をする。『専門研究・コース決定要項』については別途指示する。
（３）他学部・他学科の学生は「教職基礎研究Ⅰ・Ⅱ」「専門研究Ⅰ・Ⅱ」及び「卒業論文」を履修することができない。
4　GECプログラムの留学単位の取扱いについて
GECプログラムでは２年次前期（第３セメスター）に必修として定められた留学に参加し，留学先のプログラムで専攻基礎科目「GEC Study Abroad (Intensive English)」10単位，選択必修「GEC Study Abroad Studies on Literature, Cultures & Communication」10単位，合計20単位に相当する学修を行い，帰国後に単位認定を行う。
5　GECプログラム　Advanced Seminar及びGraduation Projectについて
自己が選択したテーマのAdvanced SeminarⅠ・Ⅱ，Graduation Projectを継続して履修する。

〔学外単位認定制度〕
学則第13条及び第13条の２に基づく次の単位は，本学における授業科目の履修とみなし，卒業要件単位に算入することができる。なお,横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は,各セメスターの履修制限単位数に含める。
1　本学が主催又は推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
2　文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で，本学における所定の手続きにより認定された単位。
3　横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で，本学の授業科目として認定された単位。

〔卒業要件〕

1　４年以上在学し，学則所定の次表の「卒業要件単位数」を修得しなければならない。

Integrated English Studiesプログラム【言語コミュニケーション・英語教育コース】

授業科目／入学年度	共通教養科目									専攻科目										
	共通基盤科目							共通テーマ科目	共通教養科目合計	専門基礎科目	選択必修科目				選択科目			関連科目	専攻科目合計	合計
	初年次ゼミナール	外国語科目	教養基礎演習	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	現代社会と市民			言語コミュニケーション・英語教育	英語圏文学・文化	共通科目	専門研究	英語留学プログラム	外国語学部共通科目	外国語学部キャリアデザイン科目			
2020年度以降入学	2	8		4	4	4	2	2	32	20	8	4	4					20	96	128
			6								40									

Integrated English Studiesプログラム【英語圏文学・文化コース】

授業科目／入学年度	共通教養科目									専攻科目										
	共通基盤科目							共通テーマ科目	共通教養科目合計	専門基礎科目	選択必修科目				選択科目			関連科目	専攻科目合計	合計
	初年次ゼミナール	外国語科目	教養基礎演習	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	現代社会と市民			言語コミュニケーション・英語教育	英語圏文学・文化	共通科目	専門研究	英語留学プログラム	外国語学部共通科目	外国語学部キャリアデザイン科目			
2020年度以降入学	2	8		4	4	4	2	2	32	20	4	8	4					20	96	128
			6								40									

Global English Communication プログラム

授業科目／入学年度	共通教養科目									専攻科目										
	共通基盤科目							共通テーマ科目	共通教養科目合計	専門基礎科目	選択必修科目				選択科目			関連科目	専攻科目合計	合計
	初年次ゼミナール	外国語科目	教養基礎演習	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	現代社会と市民			Study Abroad	Graduation Project	グローバル英語コミュニケーション	Advanced Communication and Japanese Studies	英語留学プログラム	外国語学部共通科目	外国語学部キャリアデザイン科目			
2020年度以降入学	2	8		4	4	4	2	2	32	20	10	6	6					20	96	128
			6								34									

2　共通教養科目については，次の単位を含めて32単位以上修得すること。
（１）初年次ゼミナール２単位（必修）。
（２）一外国語を８単位以上。ただし，「日本語」は外国人留学生及び外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）が申請により選択することができる。なお，GECプログラムに所属する者に限り，８単位を二つの外国語によって満たすことができる。その場合，一外国語につき４単位以上修得すること。
（３）人文・社会・自然の各分野からそれぞれ４単位以上。
（４）人間形成の分野から２単位以上。
（５）共通テーマ科目から２単位以上。
（６）教養基礎演習，人文・社会・自然・人間形成の各分野及び共通テーマ科目から規定の単位数を超えて６単位以上。
3　専攻科目から次の単位を含めて修得すること。
（１）専門基礎科目から20単位以上。
（２）IESプログラムの場合，「選択必修科目（言語コミュニケーション・英語教育）」「選択必修科目（英語圏文学・文化）」の２分野のうち登録したコースの科目から８単位以上，ほかのコースの科目から４単位以上，「共通科目」から４単位以上を含め，選択必修科目及び選択科目から56単位以上。
（３）GECプログラムの場合，「選択必修（Study Abroad）」から10単位以上，「選択必修（グローバル英語コミュニケーション）」から12単位以上を含め，選択必修科目及び選択科目から56単位以上。
なお「Graduation Project in World Literature」「Graduation Project in Global Culture」「Graduation Project in Global Communication」のいずれか６単位を修得しなければならない。
4　外国語学部共通科目（選択科目）は，８単位まで卒業要件単位数に算入することができる。
5　関連科目から20単位以上を修得すること。
関連科目の単位として算入できるものは次のとおりとする。
（１）共通教養科目，自己が所属するプログラムの専門基礎科目，選択必修科目，選択科目の「卒業要件単位数」を超える単位。
（２）教職課程登録者が修得した「教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）」の単位。（上限６単位）
（３）自己が所属するプログラム（IES又はGEC）以外の専攻科目の単位。
（４）他学部他学科開講の専攻科目の単位。ただし，他学部・他学科が受講を認めない科目については，履修することができない。

教育課程における標準年次の区切線について

①　標準年次が実線（――）で区切られている場合，原則として上位年次の授業科目は履修できません。
②　標準年次が破線（……）で区切られている場合，原則として上位年次の授業科目は履修できますが，［履修要件］等にしたがって履修できない授業科目もありますので注意してください。

４　履修案内
専攻科目

スペイン語学科

スペイン語学科履修案内

（2020年度入学者から適用）

【スペイン語学科の教育目標】

スペイン語学科は，スペイン語の運用能力とスペイン語を通して修得した教養を武器に，世界で活躍できる人材を育成することを目標としている。その基本方針は，スペイン語を十分に身につけるとともに，スペイン語圏諸国の社会，文化，政治，経済などについての理解を深めることにある。スペイン語圏の現状を学ぶことで，問題を様々な立場から考察し，グローバル化の進行とともに多様化する社会に柔軟に対応できる力をつけることを目指す。さらに，英語が国際言語として重要な役割を果たしていることから，本学科ではスペイン語とともに英語の能力を高めるための英語コミュニケーション特修副専攻コースを設けている。

【カリキュラムの概要と特色】

スペイン語の学修については文法，講読，作文などのほかに，ネイティブ教員によるコミュニケーションの授業にも力を注ぎ，総合的なスペイン語の運用能力を修得することを目標としている。特に１年次，２年次の学修はスペイン語の習得が中心になるが，同時にスペイン語圏の特徴と現状についても広く学ぶことになる。

３年次からは「言語文化コース」又は「地域文化コース」のいずれかのコースに進んで，スペイン語のスキルを一層強化するとともに，スペイン語圏諸国の諸事情についてより深く学ぶ。各コースの特色に合わせて，スペイン語科目に加え，言語学，文学，地域事情，歴史，国際関係など，多彩な科目が設けられている。また，幅広い教養を備えた社会人の育成を目指し，他学部・他学科の開講科目も履修することができるようになっている。

本学科は海外留学にも力を入れている。スペイン語学科独自の制度としては，スペイン語圏の指定された大学で研修を行う２種類の「スペイン語圏留学プログラム」制度が準備されている。

①中期留学：２年次後期に４か月の研修を行う。派遣先の大学で学科が定める成果を収めた学生には，「スペイン語圏留学プログラム A～C」の単位が卒業要件単位として認められる。

②短期留学：１年次後期から４年次前期までの間に，春休みや夏休みを利用して１か月の研修を行う。派遣先の大学で学科が定める成果を収めた学生には，「スペイン語圏短期留学プログラム」の単位が卒業要件単位として認められる。

また，大学の派遣交換留学制度を利用した場合，留学先の大学で修得した単位は，所定の手続きを行うことにより，内容に応じて「派遣交換留学」の単位が卒業要件単位として認められる。

このように，各自の関心や将来の目標にしたがい，スペイン語の修得をベースにしながら，４年間の学修計画が自由に設計できるようになっているので，できるだけ早く方針を定め，意識的に履修科目を決定してほしい。

本学科ではセメスター制（半期制）が採られている。これは４年を８学期に分け，半期ごとに成績がつく制度であるが，科目により異なるので，シラバス（講義要項）をよく読むこと。

本学科の科目は，スペイン語演習科目，選択必修科目（学年及びコースごとに定められたスペイン語圏の言語，文化，社会などの研究のための科目），自由選択科目，関連科目から構成される。

スペイン語演習科目はスペイン語の修得のための科目であり，基本的にはすべて必修科目である（ただし，２年次後期については，「スペイン語圏留学プログラム A」の単位で振り替えることが可能である）。選択必修科目は各自の関心に基づき履修科目を選ぶことができる。たとえばコミュニケーション能力を特に向上させたい学生は会話の科目を中心に履修したり，あるいは読解力を高めたい学生は講読科目や通訳・翻訳講座を中心に履修したりするなどの方法がある。また同時に，スペイン語圏の言語文化，地域文化に関する講義も開講される。１，２年次には，３年次からのコース選択に向けて，偏りなく様々な研究分野の講義を受講することを勧める。

３年次からは「言語文化コース」及び「地域文化コース」の２つのコースに分かれ，スペイン語科目に加え，言語学，文学，地域研究などの科目の中から，各自の関心にしたがい履修科目を選択する。地域研究については，スペインとラテンアメリカの両地域の科目が設けられている。基本的に自身が所属するコースの設置科目の単位が卒業要件単位に算入されるが，自身の興味や目標に応じて，もう一方のコースの科目からも履修することができる。その場合には，自由選択科目として６単位までが卒業要件単位に算入される。

外国語学部キャリアデザイン科目，外国語学部共通科目，及び他学部・他学科の専攻科目は関連科目として履修が可能である。卒業後の進路を考慮して，たとえば英語科目，その他の外国語科目，他学部・他学科で開講される経済や法律，国際関係の講義科目など，自由に履修科目を構成することができる。また，英語コミュニケーション特修副専攻コースの

科目も,この関連科目に含められる。その他に，全学の副専攻コースで開講される他学部・他学科の科目を履修した場合にも，この関連科目の卒業単位として認められる。

（1）英語コミュニケーション特修副専攻コースについて

〔教育目標〕

この副専攻コースでは，高校までに学習してきた英語のコミュニケーション能力をいっそう高め，より専門的かつ実践的な英語スキルを身につけた人材を育成することを目指す。

世界には５億人にのぼるスペイン語話者がいる。さらに今日，そのスペイン語話者の分布は，スペインやラテンアメリカ諸国だけでなく，米国やアジアなど世界中に広がっている。世界の人々と交流し，理解し合うために，スペイン語の果たす役割は非常に大きい。したがって，スペイン語学科の学生としては，まずスペイン語をしっかりと身につけ，スペイン語圏諸国の社会，文化，政治，経済などについて理解を深めることが最優先である。しかし，世界の共通語としての英語の重要性も依然として高い。スペイン語に加えて，英語の実践的能力も身につけることができれば，国際社会における活躍の場がさらに広がることは言うまでもない。スペイン語学科の専攻科目と両立しながらの修了は決して容易ではないため，高い目標と堅実な学修計画をもって臨んでほしい。

〔履修についての注意〕

１．外国語学部英語英文学科及び国際日本学部国際文化交流学科の専攻科目，並びに外国語科目の英語科目のうち，スペイン語学科が副専攻コース科目として指定する科目を20単位以上修得した場合に，修了証書が授与される。

２．副専攻の登録は，１年次後学期（１年次修了時）に行う。詳細は４月のガイダンスで説明する。

３．履修資格や人数に制約がある科目もあるので，履修にあたっては各科目のシラバス（講義要項）をよく読み，掲示等にも十分注意すること。

４．副専攻科目として指定された科目の修得単位は，関連科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。これは修得単位数が合計20単位に満たない場合も同様である。

「英語コミュニケーション特修副専攻」指定科目は次表のとおり。

科目名	科目提供学部・学科等	配当年次	単位数
Business Communication Ⅰ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Business Communication Ⅱ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Advanced Reading Ⅰ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Advanced Reading Ⅱ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Advanced Speaking Ⅰ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Advanced Speaking Ⅱ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Advanced Listening Ⅰ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Advanced Listening Ⅱ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Practicum in Proficiency Tests Ⅰ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Practicum in Proficiency Tests Ⅱ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Practicum in Intercultural Communication Ⅰ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Practicum in Intercultural Communication Ⅱ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Discussion & Debate　Ⅰ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1

科目名	科目提供学部・学科等	配当年次	単位数
Discussion & Debate Ⅱ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
English Learning Strategies Ⅰ	国際日本学部・国際文化交流学科	1	1
English Learning Strategies Ⅱ	国際日本学部・国際文化交流学科	1	1
Vocabulary Skills Ⅰ	国際日本学部・国際文化交流学科	1	1
Vocabulary Skills Ⅱ	国際日本学部・国際文化交流学科	1	1
English for Professional Purposes	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
English for the Tourism Industry A	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	2
English for the Tourism Industry B	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	2
Communication Skills in Business	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	2
Presentation and Discussion Ⅰ	外国語学部・英語英文学科	3	2
Presentation and Discussion Ⅱ	外国語学部・英語英文学科	3	2
Essay Writing Ⅰ	外国語学部・英語英文学科	3	2
Essay Writing Ⅱ	外国語学部・英語英文学科	3	2
通訳演習Ⅰ	外国語学部・英語英文学科	4	2
通訳演習Ⅱ	外国語学部・英語英文学科	4	2
翻訳演習Ⅰ	外国語学部・英語英文学科	4	2
翻訳演習Ⅱ	外国語学部・英語英文学科	4	2
海外語学研修（英語）A	—	1～4	2
英語会話（中級Ⅰ）	外国語科目	1～4	1
英語会話（中級Ⅱ）	外国語科目	1～4	1
英語会話（上級Ⅰ）	外国語科目	1～4	1
英語会話（上級Ⅱ）	外国語科目	1～4	1
TOEIC 演習（中級Ⅰ）	外国語科目	1～4	1
TOEIC 演習（中級Ⅱ）	外国語科目	1～4	1
TOEIC 演習（上級Ⅰ）	外国語科目	1～4	1
TOEIC 演習（上級Ⅱ）	外国語科目	1～4	1

（2）日本語教員養成課程の履修について（本課程について詳しくは資格教育課程の履修要覧を参照のこと）

日本語教員養成課程とは，日本語を母語としない人々に日本語を教える教員の免許状を取得するための課程である。

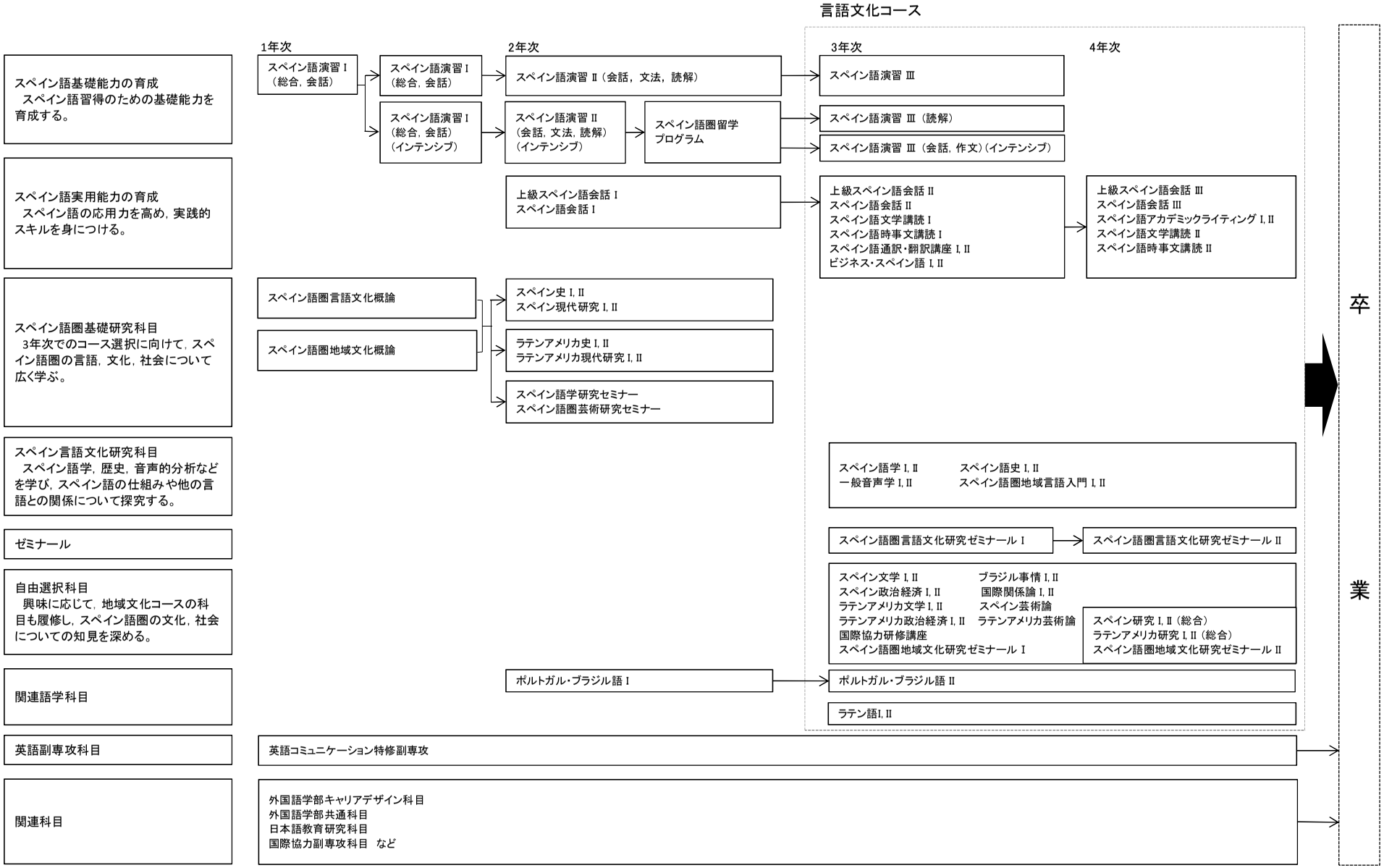
近年のグローバル化に伴い，スペイン語圏から来日し，日本で生活をする人々が増えているが，こうした人々にとって日本語の習得が重要な課題となっている。一方，スペイン語圏諸国でも日本語に対する関心がかつてないほどに高ま

っている。今後，日本語教員の需要はますます増していくものと思われる。スペイン語をきちんと習得した上で，日本語教員の資格をもつことができれば，国際交流や国際協力事業に貢献できる機会がさらに増えることだろう。

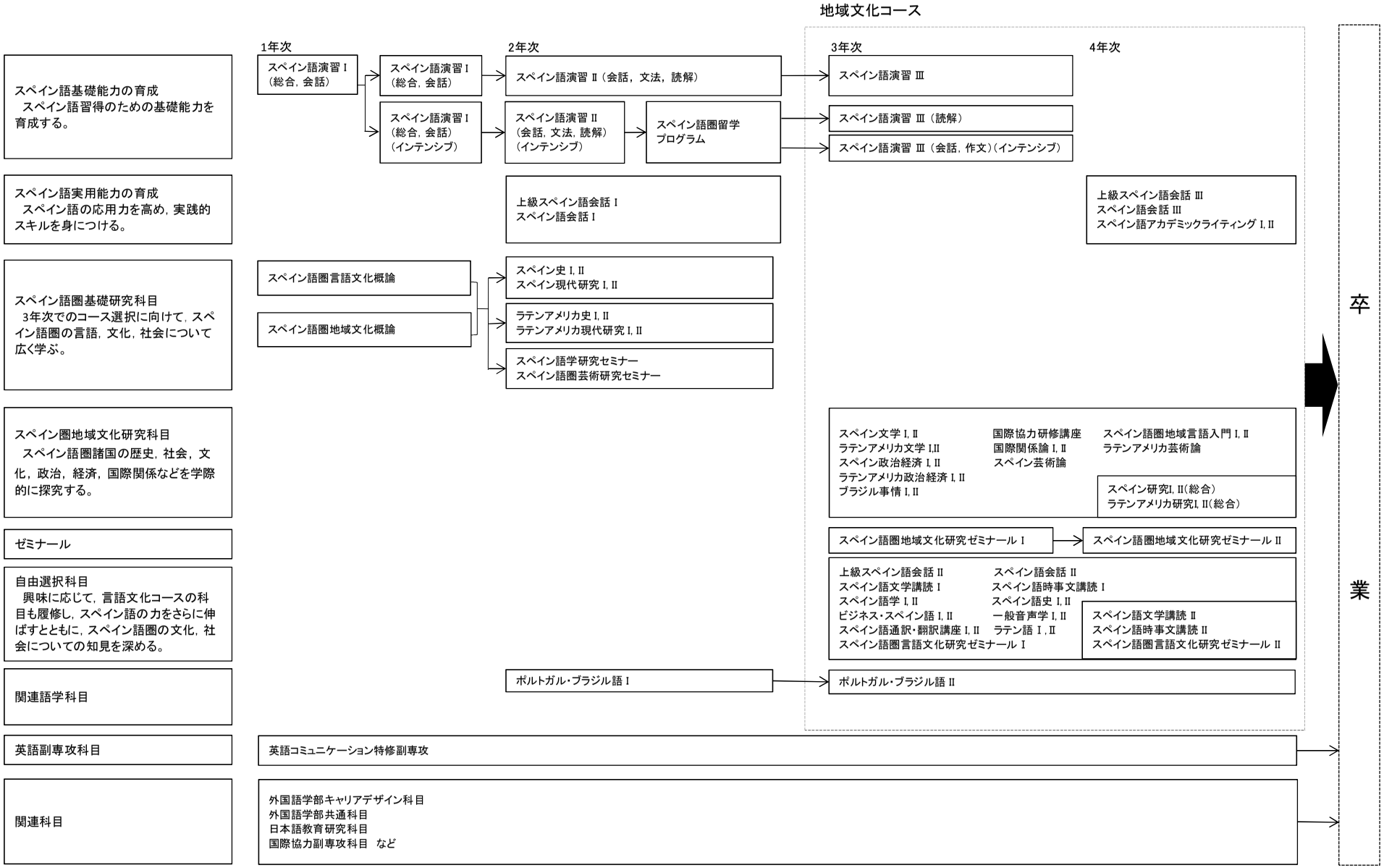
【履修要領】

（１）**卒業要件単位数は126単位である。**
（２）２年次修了までにスペイン語演習科目から18単位以上，選択必修科目（共通）から10単位以上を修得しなければならない。それに満たない学生には，原則として３年次への進級が認められない。
（３）原則として，スペイン語演習科目は配当セメスターで必ず履修登録しなければならない。なお未修得者・再履修者は，次に開講される学期で必ず履修登録しなければならない。
（４）選択必修科目（共通），及びゼミナールについては，原則として下位年次に配当されているものは履修することができない。
（５）専攻科目の他に，「初年次ゼミナール」２単位，「外国語科目」８単位を含む共通教養科目から，32単位以上を修得しなければならない。
（６）外国語科目は原則として英語８単位を修得しなければならない。

スペイン語学科
Department of Spanish Language and Studies



スペイン語学科
Department of Spanish Language and Studies



2023年度　外国語学部スペイン語学科（言語文化コース）　教育課程表（2020年度入学者から適用）

（学年は標準年次を示す）

		1年次 1セメスター 授業科目	単位	1年次 2セメスター 授業科目	単位	2年次 3セメスター 授業科目	単位	2年次 4セメスター 授業科目	単位	3年次 5セメスター 授業科目	単位	3年次 6セメスター 授業科目	単位	4年次 7セメスター 授業科目	単位	4年次 8セメスター 授業科目	単位	卒業要件単位数	
専攻科目	スペイン語演習科目	スペイン語演習Ⅰ-1（会話）	2	スペイン語演習Ⅰ-2（会話）	2	スペイン語演習Ⅱ-1（会話）	2	スペイン語演習Ⅱ-2（会話）	2	スペイン語演習Ⅲ-1（会話）	1	スペイン語演習Ⅲ-2（会話）	1					30	
		スペイン語演習Ⅰ-1（総合）	4	スペイン語演習Ⅰ-2（総合）	4	スペイン語演習Ⅱ-1（文法）	2	スペイン語演習Ⅱ-2（文法）	2	スペイン語演習Ⅲ-1（作文）	1	スペイン語演習Ⅲ-2（作文）	1						
						スペイン語演習Ⅱ-1（読解）	2	スペイン語演習Ⅱ-2（読解）	2	スペイン語演習Ⅲ-1（読解）	1	スペイン語演習Ⅲ-2（読解）	1						
										スペイン語演習Ⅲ-1（会話）（インテンシブ）	1	スペイン語演習Ⅲ-2（会話）（インテンシブ）	1						
				スペイン語演習Ⅰ-2（総合）（インテンシブ）	4	スペイン語演習Ⅱ-1（文法）（インテンシブ）	2	スペイン語圏留学プログラム A	6	スペイン語演習Ⅲ-1（作文）（インテンシブ）	1	スペイン語演習Ⅲ-2（作文）（インテンシブ）	1						
						スペイン語演習Ⅱ-1（読解）（インテンシブ）	2												
								スペイン語圏派遣交換留学 A-1	6	スペイン語圏派遣交換留学 B-1	3	スペイン語圏派遣交換留学 C-1	3						
	選択必修科目（共通）	スペイン語圏言語文化概論	2	スペイン語圏言語文化概論	2	上級スペイン語会話Ⅰ-1	1	上級スペイン語会話Ⅰ-2	1									10	6
		スペイン語圏地域文化概論	2	スペイン語圏地域文化概論	2	スペイン語会話Ⅰ-1	1	スペイン語会話Ⅰ-2	1										
						スペイン史Ⅰ	2	スペイン史Ⅱ	2										
						ラテンアメリカ史Ⅰ	2	ラテンアメリカ史Ⅱ	2										
						スペイン現代研究Ⅰ	2	スペイン現代研究Ⅱ	2										
						ラテンアメリカ現代研究Ⅰ	2	ラテンアメリカ現代研究Ⅱ	2										
						スペイン語学研究セミナー	2	スペイン語学研究セミナー	2										
						スペイン語圏芸術研究セミナー	2	スペイン語圏芸術研究セミナー	2										
						ポルトガル・ブラジル語Ⅰ-1	1	ポルトガル・ブラジル語Ⅰ-2	1										
								スペイン語圏留学プログラムB	6										
								スペイン語圏派遣交換留学 A-2	2										
								スペイン語圏派遣交換留学 A-3	2										
								スペイン語圏派遣交換留学 A-4	2										
								スペイン語圏派遣交換留学 A-5	2										
								スペイン語圏派遣交換留学 A-6	2										
	選択必修科目A									上級スペイン語会話Ⅱ-1	1	上級スペイン語会話Ⅱ-2	1	ラテン語Ⅰ	1	ラテン語Ⅱ	1	22	
										スペイン語会話Ⅱ-1	1	スペイン語会話Ⅱ-2	1	スペイン語史Ⅰ	2	スペイン語史Ⅱ	2		
										スペイン語文学講読Ⅰ-1	2	スペイン語文学講読Ⅰ-2	2	スペイン語学Ⅰ	2	スペイン語学Ⅱ	2		
										スペイン語時事文講読Ⅰ-1	2	スペイン語時事文講読Ⅰ-2	2	一般音声学Ⅰ	2	一般音声学Ⅱ	2		
										スペイン語通訳・翻訳講座Ⅰ	2	スペイン語通訳・翻訳講座Ⅱ	2	ポルトガル・ブラジル語Ⅱ-1	1	ポルトガル・ブラジル語Ⅱ-2	1		
										ビジネス・スペイン語Ⅰ	1	ビジネス・スペイン語Ⅱ	1	スペイン語圏地域言語入門Ⅰ	2	スペイン語圏地域言語入門Ⅱ	2		
										スペイン語圏派遣交換留学 B-2	2	スペイン語圏派遣交換留学 C-2	2						
										スペイン語圏派遣交換留学 B-3	2	スペイン語圏派遣交換留学 C-3	2						
										スペイン語圏派遣交換留学 B-4	2	スペイン語圏派遣交換留学 C-4	2						
										スペイン語圏派遣交換留学 B-5	2	スペイン語圏派遣交換留学 C-5	2						
										スペイン語圏派遣交換留学 B-6	2	スペイン語圏派遣交換留学 C-6	2						
										スペイン語圏派遣交換留学 B-7	2	スペイン語圏派遣交換留学 C-7	2						
										スペイン語圏言語文化研究ゼミナールⅠ	4								
	選択必修科目B													上級スペイン語会話Ⅲ-1	1	上級スペイン語会話Ⅲ-2	1	6	
														スペイン語会話Ⅲ-1	1	スペイン語会話Ⅲ-2	1		
														スペイン語アカデミックライティングⅠ	1	スペイン語アカデミックライティングⅡ	1		
														スペイン語文学講読Ⅱ-1	2	スペイン語文学講読Ⅱ-2	2		
														スペイン語時事文講読Ⅱ-1	2	スペイン語時事文講読Ⅱ-2	2		
														スペイン語圏派遣交換留学 D-1	2	スペイン語圏派遣交換留学 E	2		
														スペイン語圏派遣交換留学 D-2	2				
														スペイン語圏言語文化研究ゼミナールⅡ	4				
	自由選択科目									スペイン文学Ⅰ	2	スペイン文学Ⅱ	2	ブラジル事情Ⅰ	2	ブラジル事情Ⅱ	2		
										ラテンアメリカ文学Ⅰ	2	ラテンアメリカ文学Ⅱ	2	国際関係論Ⅰ	2	国際関係論Ⅱ	2		
										スペイン政治経済Ⅰ	2	スペイン政治経済Ⅱ	2	スペイン芸術論	2	ラテンアメリカ芸術論	2		
										ラテンアメリカ政治経済Ⅰ	2	ラテンアメリカ政治経済Ⅱ	2	国際協力研修講座	2				
														スペイン研究Ⅰ（総合）	2	スペイン研究Ⅱ（総合）	2		
														ラテンアメリカ研究Ⅰ（総合）	2	ラテンアメリカ研究Ⅱ（総合）	2		
										スペイン語圏地域文化研究ゼミナールⅠ	4			スペイン語圏地域文化研究ゼミナールⅡ	4				
関連科目	外国語学部キャリアデザイン科目	外国語・異文化の学びとキャリア形成Ⅰ	2															20	
	外国語学部共通科目					英語学概論	2	英語学概論	2										
						英語圏文学概論A	2	英語圏文学概論B	2										
						英語圏文化概論A	2	英語圏文化概論B	2										
						総合講座･中国と世界	2	日中関係講義	2										
						中国地域文化講義	2	日中比較文化講義	2										
		情報処理Ⅰ	2	情報処理Ⅱ	2			スペイン語圏留学プログラム C	8										
		スペイン語圏短期留学プログラム	3																

共通教養科目及び専攻科目の「卒業要件単位数」を超える単位　「英語コミュニケーション特修副専攻」で修得した単位
日本語教員養成課程登録者が修得した「国際日本学部国際文化交流学科開講の日本語教育研究科目群」の単位
他学部他学科開講の専攻科目および「教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）」の単位

2023年度　外国語学部スペイン語学科（地域文化コース）　教育課程表（2020年度入学者から適用）

（学年は標準年次を示す）

		1年次 1セメスター 授業科目	単位	1年次 2セメスター 授業科目	単位	2年次 3セメスター 授業科目	単位	2年次 4セメスター 授業科目	単位	3年次 5セメスター 授業科目	単位	3年次 6セメスター 授業科目	単位	4年次 7セメスター 授業科目	単位	4年次 8セメスター 授業科目	単位	卒業要件単位数	
専攻科目	スペイン語演習科目	スペイン語演習Ⅰ-1（会話）	2	スペイン語演習Ⅰ-2（会話）	2	スペイン語演習Ⅱ-1（会話）	2	スペイン語演習Ⅱ-2（会話）	2	スペイン語演習Ⅲ-1（会話）	1	スペイン語演習Ⅲ-2（会話）	1					30	
		スペイン語演習Ⅰ-1（総合）	4	スペイン語演習Ⅰ-2（総合）	4	スペイン語演習Ⅱ-1（文法）	2	スペイン語演習Ⅱ-2（文法）	2	スペイン語演習Ⅲ-1（作文）	1	スペイン語演習Ⅲ-2（作文）	1						
						スペイン語演習Ⅱ-1（読解）	2	スペイン語演習Ⅱ-2（読解）	2	スペイン語演習Ⅲ-1（読解）	1	スペイン語演習Ⅲ-2（読解）	1						
										スペイン語演習Ⅲ-1（会話）（インテンシブ）	1	スペイン語演習Ⅲ-2（会話）（インテンシブ）	1						
				スペイン語演習Ⅰ-2（総合）（インテンシブ）	4	スペイン語演習Ⅱ-1（文法）（インテンシブ）	2	スペイン語圏留学プログラム A	6	スペイン語演習Ⅲ-1（作文）（インテンシブ）	1	スペイン語演習Ⅲ-2（作文）（インテンシブ）	1						
						スペイン語演習Ⅱ-1（読解）（インテンシブ）	2												
								スペイン語圏派遣交換留学 A-1	6	スペイン語圏派遣交換留学 B-1	3	スペイン語圏派遣交換留学 C-1	3						
	選択必修科目（共通）	スペイン語圏言語文化概論	2	スペイン語圏言語文化概論	2	上級スペイン語会話Ⅰ-1	1	上級スペイン語会話Ⅰ-2	1									10	6
		スペイン語圏地域文化概論	2	スペイン語圏地域文化概論	2	スペイン語会話Ⅰ-1	1	スペイン語会話Ⅰ-2	1										
						スペイン史Ⅰ	2	スペイン史Ⅱ	2										
						ラテンアメリカ史Ⅰ	2	ラテンアメリカ史Ⅱ	2										
						スペイン現代研究Ⅰ	2	スペイン現代研究Ⅱ	2										
						ラテンアメリカ現代研究Ⅰ	2	ラテンアメリカ現代研究Ⅱ	2										
						スペイン語学研究セミナー	2	スペイン語学研究セミナー	2										
						スペイン語圏芸術研究セミナー	2	スペイン語圏芸術研究セミナー	2										
						ポルトガル・ブラジル語Ⅰ-1	1	ポルトガル・ブラジル語Ⅰ-2	1										
								スペイン語圏留学プログラム B	6										
								スペイン語圏派遣交換留学 A-2	2										
								スペイン語圏派遣交換留学 A-3	2										
								スペイン語圏派遣交換留学 A-4	2										
								スペイン語圏派遣交換留学 A-5	2										
								スペイン語圏派遣交換留学 A-6	2										
	選択必修科目A									スペイン文学Ⅰ	2	スペイン文学Ⅱ	2	国際関係論Ⅰ	2	国際関係論Ⅱ	2	22	
										ラテンアメリカ文学Ⅰ	2	ラテンアメリカ文学Ⅱ	2	スペイン芸術論	2	ラテンアメリカ芸術論	2		
										スペイン政治経済Ⅰ	2	スペイン政治経済Ⅱ	2	ポルトガル・ブラジル語Ⅱ-1	1	ポルトガル・ブラジル語Ⅱ-2	1		
										ラテンアメリカ政治経済Ⅰ	2	ラテンアメリカ政治経済Ⅱ	2	スペイン語圏地域言語入門Ⅰ	2	スペイン語圏地域言語入門Ⅱ	2		
										ブラジル事情Ⅰ	2	ブラジル事情Ⅱ	2	国際協力研修講座	2				
										スペイン語圏派遣交換留学 B-2	2	スペイン語圏派遣交換留学 C-2	2						
										スペイン語圏派遣交換留学 B-3	2	スペイン語圏派遣交換留学 C-3	2						
										スペイン語圏派遣交換留学 B-4	2	スペイン語圏派遣交換留学 C-4	2						
										スペイン語圏派遣交換留学 B-5	2	スペイン語圏派遣交換留学 C-5	2						
										スペイン語圏派遣交換留学 B-6	2	スペイン語圏派遣交換留学 C-6	2						
										スペイン語圏派遣交換留学 B-7	2	スペイン語圏派遣交換留学 C-7	2						
										スペイン語圏地域文化研究ゼミナールⅠ			4						
	選択必修科目B													上級スペイン語会話Ⅲ-1	1	上級スペイン語会話Ⅲ-2	1	6	
														スペイン語会話Ⅲ-1	1	スペイン語会話Ⅲ-2	1		
														スペイン語アカデミックライティングⅠ	1	スペイン語アカデミックライティングⅡ	1		
														スペイン研究Ⅰ（総合）	2	スペイン研究Ⅱ（総合）	2		
														ラテンアメリカ研究Ⅰ（総合）	2	ラテンアメリカ研究Ⅱ（総合）	2		
														スペイン語圏派遣交換留学 D-1	2	スペイン語圏派遣交換留学 E	2		
														スペイン語圏派遣交換留学 D-2	2				
														スペイン語圏地域文化研究ゼミナールⅡ			4		
	自由選択科目									上級スペイン語会話Ⅱ-1	1	上級スペイン語会話Ⅱ-2	1	ラテン語Ⅰ	1	ラテン語Ⅱ	1		
										スペイン語会話Ⅱ-1	1	スペイン語会話Ⅱ-2	1	スペイン語史Ⅰ	2	スペイン語史Ⅱ	2		
										スペイン語文学講読Ⅰ-1	2	スペイン語文学講読Ⅰ-2	2	スペイン語学Ⅰ	2	スペイン語学Ⅱ	2		
										スペイン語時事文講読Ⅰ-1	2	スペイン語時事文講読Ⅰ-2	2	一般音声学Ⅰ	2	一般音声学Ⅱ	2		
										スペイン語通訳・翻訳講座Ⅰ	2	スペイン語通訳・翻訳講座Ⅱ	2	ビジネス・スペイン語Ⅰ	1	ビジネス・スペイン語Ⅱ	1		
														スペイン語文学講読Ⅱ-1	2	スペイン語文学講読Ⅱ-2	2		
														スペイン語時事文講読Ⅱ-1	2	スペイン語時事文講読Ⅱ-2	2		
										スペイン語圏言語文化研究ゼミナールⅠ			4	スペイン語圏言語文化研究ゼミナールⅡ			4		
関連科目	外国語学部キャリアデザイン科目	外国語・異文化の学びとキャリア形成Ⅰ	2															20	
	外国語学部共通科目					英語学概論	2	英語学概論	2										
						英語圏文学概論A	2	英語圏文学概論B	2										
						英語圏文化概論A	2	英語圏文化概論B	2										
						総合講座・中国と世界	2	日中関係講義	2										
						中国地域文化講義	2	日中比較文化講義	2										
		情報処理Ⅰ	2	情報処理Ⅱ	2			スペイン語圏留学プログラム C	8										
		スペイン語圏短期留学プログラム	3																

共通教養科目及び専攻科目の「卒業要件単位数」を超える単位　　「英語コミュニケーション特修副専攻」で修得した単位
日本語教員養成課程登録者が修得した「国際日本学部国際文化交流学科開講の日本語教育研究科目群」の単位
他学部他学科開講の専攻科目および「教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）」の単位

〔履修要件〕
1　同一授業科目は，重複して履修することはできない。
2　一年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする（通年科目を履修した場合は，その科目の単位数を二分割し，前学期・後学期それぞれの学期の単位数として換算する）。
　なお，卒業要件単位数に算入されない資格教育課程に関する科目の単位数はこの枠外とする。
3　専攻科目の中には履修資格や人数を制限する科目がある。
4　派遣交換留学によって派遣先の大学で修得した単位は，授業内容がスペイン語学科のカリキュラムポリシーに沿ったものであると認定された場合，「スペイン語圏派遣交換留学」として単位認定を申請することができる。

〔コース制〕
1　３年次より，学科所定の手続きにより，「言語文化コース」又は「地域文化コース」のいずれかを選択しなければならない。
2　原則として中途でのコース変更は認められない。

〔進級要件〕
（２年次から３年次）
1　２年次終了までに，次の単位を修得しなければならない。
　（1）スペイン語演習科目より18単位以上。
　（2）選択必修科目（共通）より10単位以上。
2　本学の派遣交換留学制度又はスペイン語学科の留学プログラムによる海外留学のため進級要件を満たせない場合は，学科所定の手続きにより進級を認められることがある。

〔学外単位認定制度〕
学則第13条及び第13条の２に基づく次の単位は，本学における授業科目の履修とみなし，卒業要件単位に算入することができる。なお,横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は,各セメスターの履修制限単位数に含める。
1　本学が主催又は推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
2　文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で，本学における所定の手続きにより認定された単位。
3　横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で，本学の授業科目として認定された単位。

〔卒業要件〕
1　４年以上在学し，学則所定の次表の「卒業要件単位数」を修得しなければならない。

授業科目／入学年度	共通教養科目									専攻科目							合計
	共通基盤科目							共通テーマ科目	共通教養科目合計							専攻科目合計	
	初年次ゼミナール	外国語科目	教養基礎演習	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	現代社会と市民		スペイン語演習科目	選択必修科目（共通）	選択必修科目A	選択必修科目B	自由選択科目	関連科目		
2020年度以降入学	2	8	6	4	4	4	2	2	32	30	10	22	6		20	94	126
											6						

2　共通教養科目については，次の単位を含めて32単位以上修得すること。
　（1）初年次ゼミナール２単位（必修）。
　（2）外国語科目は英語８単位を修得すること。ただし，外国人留学者及び外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）は申請により，英語に換えて，４～６単位を日本語とすることができる。なお，８単位に不足する単位は英語で補うものとする。
　（3）人文・社会・自然の各分野からそれぞれ４単位以上。
　（4）人間形成の分野から２単位以上。
　（5）共通テーマ科目から２単位以上。
　（6）教養基礎演習，人文・社会・自然・人間形成の各分野及び共通テーマ科目から規定の単位数を超えて６単位以上。
3　専攻科目（関連科目を除く）から，次の単位を含めて74単位以上を修得すること。
　（1）スペイン語演習科目30単位。
　（2）選択必修科目から以下の（3）（4）（5）の単位を含めて44単位以上。
　（3）選択必修科目（共通）から10単位以上。
　（4）選択必修科目Aから22単位以上。
　（5）選択必修科目Bから６単位以上。
4　関連科目から20単位以上を修得すること。
　関連科目の単位として算入できるものは次のとおりとする。
　（1）共通教養科目及び専攻科目の「卒業要件単位数」を超える単位。
　（2）教職課程登録者が修得した「教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）」の単位。（上限６単位）
　（3）外国語学部キャリアデザイン科目，外国語学部共通科目の単位。
　（4）「英語コミュニケーション特修副専攻」登録者が修得した指定科目の単位。
　（5）日本語教員養成課程登録者が修得した国際文化交流学科開講の「言語・メディア科目群」と「日本語教育研究科目群」の日本語教員養成課程の科目の単位。
　（6）他学部他学科開講の専攻科目の単位。ただし，他学部・他学科が受講を認めない科目については，履修することができない。

教育課程における標準年次の区切線について
①　標準年次が実線（――― ）で区切られている場合，原則として上位年次の授業科目は履修できません。
②　標準年次が破線（…… ）で区切られている場合，原則として上位年次の授業科目は履修できますが，［履修要件］等にしたがって履修できない授業科目もありますので注意してください。

４　履修案内
専攻科目

中国語学科

中　国　語　学　科　履　修　案　内

（2020 年度入学者から適用）

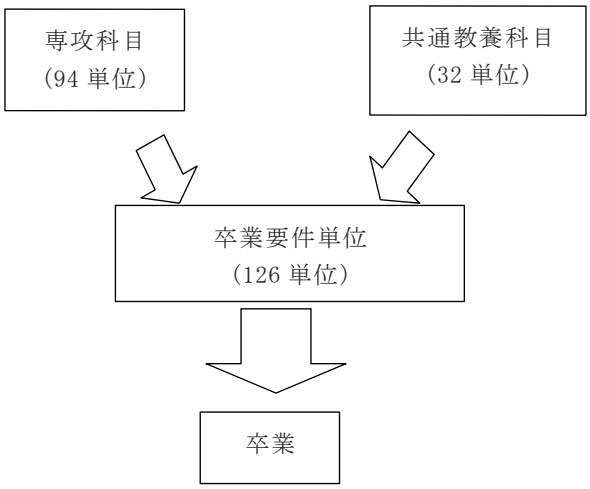
【中国語学科の教育目標】

中国語学科は，高度な中国語運用能力を身につけるとともに，中国の社会・文化についても深く専門的に学び，修得したそれらの能力・知識によって，日中間の経済・文化交流の場で活躍し得る有為な人材を育成することを教育目標としています。

【カリキュラムの概要と特色】

これから中国語学科のカリキュラムについて全体像と特徴を説明します。この履修案内を参考に「中国語学科教育課程表」に基づいて，履修計画を立て，履修登録を進めましょう。

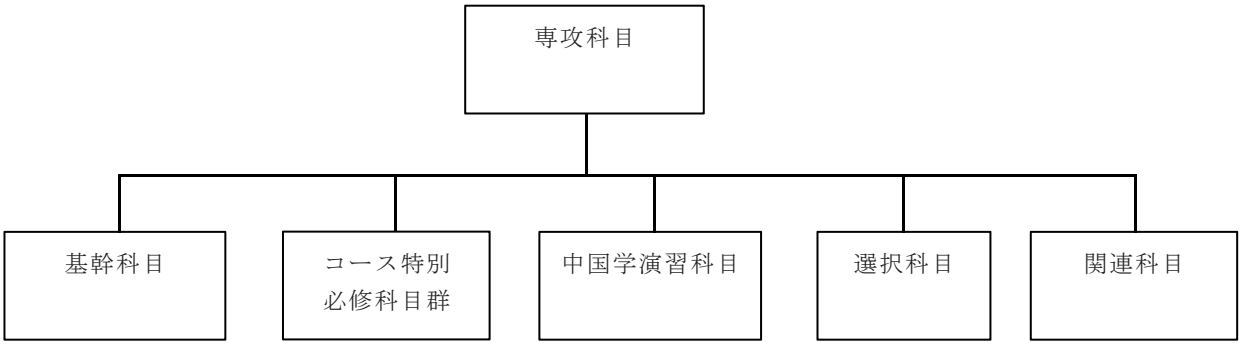
中国語学科の卒業のためには，「専攻科目（94 単位）」と「共通教養科目（32 単位）」の合計 126 単位を修得しなければなりません。カリキュラムの枠組み及び科目の種類について理解し，効率的かつバランスよく４年間の履修計画を立てましょう。



a. 専攻科目

専攻科目は中国語学科生向けに開講されている「基幹科目」，「コース特別必修科目群」，「中国学演習科目」，及び「選択科目」があります。このほか自分の専攻分野や興味・関心に応じて自由に選択できる「関連科目」があります（各科目についての詳細は後述します）。

これらの科目は授業形態によって，少人数のクラスで語学力を身につける「語学演習形式」，講義によって専門知識を学ぶ「講義形式」，この双方の学習を踏まえて，各指導教員の下で語学力と専門知識を総合的に鍛える「ゼミナール形式」の三種類に大別されます。



①基幹科目

基幹科目は，卒業するためにすべての中国語学科生が修得しなければならない科目です。基幹科目については，大学入学以前の中国語の修得状況に応じてクラス分けを行い，大学で初めて中国語を学ぶ学生（初習者）は「初習中国語専修科目」を，入学時にすでに一定の中国語能力を有する学生（既習者）は「既習中国語専修科目」を修得しなくてはなりません。「既習中国語専修科目」は，さらに「必修科目」（高級中国語専修，中日翻訳演習など）と「選択科目」（日本文化論）に分かれています。

②コース特別必修科目群

すべての中国語学科生は，２年次から，学生個々の能力と特性に応じ，「言語コース」と「社会文化コース」に分かれ，それぞれのコースごとの「コース特別必修科目群」を修得しなければなりません。各コースともコース特別必修科目群の要件単位数は 10 単位ですが，年次ごとに配当される単位数が異なる点に注意しましょう。

各コースの特徴は次のとおりです。

1年次終了

言語コース：

意欲的に中国語を学び，高度な中国語運用能力を身につけることを目的とします。言語コースに進んだ学生はコース特別必修科目として２～４年次にかけて 10 科目（10 単位）の中国語演習を履修します。授業内容は特に「聴く」，「話す」能力の向上に重点を置いて進めていきます。一部の授業では，中国で出版されている優れた対外中国語教育用の教科書を採用しているので，中国で学ぶ留学生と同じく，中国の言語，社会，文化，歴史，政治，経済，日中ビジネスなど幅広い分野の高度な内容を学習し，理解を深めることができます。

社会文化コース：

標準的な中国語運用能力を身につけると同時に，中国の言語，社会，文化，歴史，政治，経済などについての広くかつ深い知識を身につけることを主眼に置いています。

社会文化コースを選択した学生は，中国地域文化講義，日中関係講義，中国学フィールド演習などの科目を履修します。中国地域文化講義は現代中国を理解するために必要な中国の地域文化に関連する知識について，日中関係講義は近代以降の日本と中国の関わりについてそれぞれ学びます。また，中国学フィールド演習では日本と中国に関連が深い施設（博物館，図書館など）や会社などを訪問し，学校で勉強した知識が実社会でどのように活用されるのかに触れます。

③「中国学演習科目」，「選択科目」

「中国学演習科目」は，３，４年次にすべての中国語学科生が修得しなくてはならない科目で，「ゼミナール形式」で行われます。

「選択科目」には，「概説」，「特講」，「表現法演習」の三種類の科目群があり，そこから各自の興味・関心に応じて選択できます。それぞれの科目群で一定の単位数を修得することが求められます。

④関連科目

専攻分野に関連して，更に幅広く，時により深く，また体系的に知識を身に付けていくために，学生が各自の関心に合わせて，卒業単位を超えて履修した共通教養科目（外国語科目・共通基盤科目・共通テーマ科目）と中国語学科の選択科目，他学部他学科開講の専攻科目などから自由に選択できるのが関連科目です。コースに関係なく，24 単位以上修得する必要があります。

b. 共通教養科目

「共通教養科目」は『履修要覧』の「卒業要件」の表と各科目群の履修案内を参照して下さい。ここではそれぞれの科目の履修要件について大まかに説明します。

上で説明した「専攻科目」とは別に卒業までに「共通教養科目」を 32 単位修得しなければなりません。「共通教養科目」には「初年次ゼミナール」,「教養系科目」,「外国語科目」があります。

共通教養科目（32 単位）			
共通基盤科目			共通テーマ科目
初年次ゼミナール （２単位）	外国語科目（英語） １年次（４単位） ２年次（４単位） （計８単位）	（１）人文の分野 （２）社会の分野 （３）自然の分野 （４）人間形成の分野	現代社会と市民

①初年次ゼミナール

大学生として身につけるべき，学習・生活上の基本的知識を学習します。本学に入学した新入生全員に履修が義務づけられており，１年次の前学期に履修します。

②外国語科目

１年次・２年次において合計８単位を修得しなければなりません。国際化した社会においては，話し手の最も多い中国語と，広く国際語として使用されている英語は，最も社会的需要の大きい言語です。そこで，専門の言語である中国語の他に，必ず英語を履修することとし，国際社会のあらゆる場面で活躍できる人材の育成を目指しています。

③共通基盤科目・共通テーマ科目

共通基盤科目･共通テーマ科目は合計 22 単位以上を履修しなければなりません。ただし，この 22 単位の中には最低，共通基盤科目のうち（１）人文の分野，（２）社会の分野，（３）自然の分野の３分野からそれぞれ４単位，（４）人間形成の分野から２単位，共通テーマ科目から２単位，それら以外に両科目全体の中から６単位が含まれていなければなりません。

共通必修科目，特別必修科目及び選択必修科目は共通教養科目とリンクしながら履修することによって，専門知識を効率的に身に付け，ひいては語学力向上の土台を造り上げることができます。従って，共通教養科目を重視し，共通必修科目，特別必修科目及び選択必修科目とのバランスをとりながら履修していくことが望まれます。

【専攻科目の履修要領】

ａ．語学演習形式

①必修の語学演習形式科目（中国語演習，高級中国語演習など）

．初習中国語クラスでは，「基幹科目」内の「中国語演習」を，１年次・２年次各８単位，３年次４単位修得しなくてはならず（計 20 単位），すべての学生に基礎的な会話力と専門文献の読解能力を身に付けることが求められます。２年次以降で言語コースを選択した場合は，このほかに「コース特別必修科目群」内の「中国語演習」を，２・３年次各４単位，４年次２単位修得しなくてはならず（計 10 単位），中国語の運用能力をより応用的に発展させることが求められます。

既習中国語クラスでは，「基幹科目」内の「高級中国語演習」などの必修科目を，１・２年次各４単位，３年次２単位習得しなくてはならず（計 10 単位），中日・日中翻訳などにおいて，中国語の運用能力をより高度で実践的なものに発展させることが求められます。２年次以降で言語コースを選択した場合は，このほかに「コース特別必修科目」内の「中国語演習」を，２・３年次各４単位，４年次２単位修得しなくてはなりません（計 10 単位）。

なお，語学演習形式の科目の科目名に付けられたローマ数字（Ⅰ～Ⅳ）は，１年次はⅠ，２年次はⅡというように，各科目の配当年次を表します（表現法演習科目も同様）。

②表現法演習科目（後述の特講科目と合わせて 16 単位以上）

語学演習形式の科目は，必修科目以外に，選択科目の「表現法演習」科目が２・３・４年次を対象に開講されます。「商用会話」や「読解応用」，中国留学を意識した「ＨＳＫ入門応用」など，少人数によるトレーニングを通して，より専門的な中国語の表現力を身につけることができます。

必修の語学演習形式科目と違い，「表現法演習」科目は半期２単位となっていますが，その分，予習や復習により多くの時間を必要とします。

また，言語コースを選択した学生は，「特講」，「表現法演習」を合わせた 16 単位の中に，３・４年次に配当されている「表現法演習Ⅲ」から２単位以上を含めなければなりません。

（選択３単位）

本学科主催の「中国留学プログラム」を履修し，出発前の事前学習，帰国後の事後学習も含め，所定の時間学習した場合，表現法演習科目３単位分に相当するものと認定します。「中国留学プログラム」は２年次以降履修可能になります。

ｂ．講義形式

①基幹科目・コース特別必修科目内の講義形式の科目（既習者クラス，社会文化コースのみ）

既習中国語クラスの学生は，「基幹科目」内の語学演習形式の「必修科目」が少ない代わりに，講義形式の「選択科目」（「日本文化論」）を 10 単位履修し，日本と中国・アジアの文化交流の場で活躍できる教養を身につけることが求められます。４年間の内，いつ履修するかは自由に決められますが，３・４年次に負担が大きくならないように，計画的に履修することが望まれます。

既習者，初習者ともに，２年次以降社会文化コースを選択した場合は，「コース特別必修科目群」として，中国の文化・歴史・社会などについてのより深い知識を身につけるための講義形式科目を，２年次に８単位，３年次にはそれらの知識を社会的にどのように活用するかを学ぶ「中国学フィールド演習」２単位を履修しなくてはなりません。

②概説科目（12 単位以上）

中国の言語，歴史，文学，社会，政治・経済に関する講義科目として，１・２年次対象の概説科目が用意されています。中国に関して幅広く厚みのある知識を身に付けるために，直接関心のあるテーマだけでなく，卒業要件単位数を超えて履修することが望まれます。

③特講科目（表現法演習科目を含め 16 単位以上）

１・２年次の概説科目で学んだ基礎知識をもとに，さらに深く専門的に学ぶための科目です。中国の言語，社会，文化，歴史，政治・経済に関する講義科目として，３・４年次対象の特講科目が用意されています。概説科目と同様，直接関心のあるテーマだけでなく，卒業要件単位数を超えて履修することが望まれます。

ｃ．ゼミナール形式

①中国学演習（必修４単位）

３年次対象の必修科目で，各指導教員のゼミナール（ゼミ）に分属し，各専門分野についての文献輪読やディスカッション，調査を通して，高度で専門的な知識・研究方法を修得することを目指します。同時に，図書館やインターネットを利用した文献検索の方法，現地調査やインタビューの方法，書物や論文のまとめ方，プレゼンテーションや討論の方法，ハンドアウトやレポートの書き方など，社会で必要とされる技術を修得します。

②中国学卒論演習（必修８単位）

中国学卒論演習は，中国学演習Ａ及びＢの履修者がそのまま持ち上がり履修するもので，原則として中国学演習Ａ及びＢの履修修了を要件とします。ゼミでの討論，卒業論文の作成，口述試験をその内容とし，４年間の学びの集大成を卒業論文という形でまとめあげることをその目的とします。

〔進級要件〕（２年次から３年次）

３年次に進級するためには，２年次終了までに，次の単位を含めて学則所定の「卒業要件単位数」のうち，60 単位以上修得しなければならない。

（１）外国語科目（英語）４単位以上。

（２）中国語初習者の言語コース履修者は，１・２年次の初習中国語専修科目及びコース特別必修科目群（言語コース）から 15 単位以上。

（３）中国語初習者の社会文化コース履修者は，１・２年次の初習中国語専修科目から 12 単位以上。

（４）中国語既習者の言語コース履修者は，１・２年次の既習中国語専修科目（必修科目）及びコース特別必修科目群（言語コース）から９単位以上。

（５）中国語既習者の社会文化コース履修者は，１・２年次の既習中国語専修科目（必修科目）から６単位以上。

（６）本学の派遣交換留学制度による海外留学のため進級要件を満たせない場合は，学科所定の手続きにより進級を認められることがある。

中国語学科
Department of Chinese Studies

（初習者クラス）

必修科目　コース特別必修科目　選択必修科目

基礎的中国語運用力

専門的中国語学習者として求められる発音と文法の基本をしっかりと身につける。また段階的に「聴く」・「話す」・「読む」・「書く」の四技能のレベルを向上させ，専門知識の獲得に活用できる。

応用的中国語運用力

基礎段階で獲得した中国語運用能力をコミュニカティブ，かつ実践的に発展・応用し，高度なレベルの運用能力を獲得することができる。

体系的な専門知識の基礎能力

中国の各分野（言語・文学・歴史・社会・政治経済）に関する基本的専門知識を学び，理解することで，体系的な学習・研究の礎を築く。

体系的な専門知識の応用能力

中国の各分野（言語・文化・歴史・社会・政治経済）に関する基本的専門知識を背景に，発展的・応用的専門知識を学び，理解を深めながら，自らの研究分野やテーマと関連づけて，体系的な学習・研究を展開することができる。

専門知識統合力と表現力

ゼミナール形式の授業を通じ，これまで学んできた専門知識を統合する。その成果としてレポート，論文，口頭発表の形で実現することができる。

1年次

- 中国語演習ⅠA　a(基礎)　b(基礎)　c(リスニング)　d(会話)
- 中国語演習ⅠB　a(基礎)　b(基礎)　c(リスニング)　d(会話)
- 中国歴史概説A
- 中国社会概説A
- 中国政治経済概説A
- 中国歴史概説B
- 中国社会概説B
- 中国政治経済概説B
- 中国学概説[夏期集中講義]

2年次

- 中国語演習ⅡA　a(総合)　b(作文)　c(リスニング)　d(コミュニケーション)
- 中国語演習ⅡB　a(総合)　b(作文)　c(リスニング)　d(コミュニケーション)
- 中国語演習ⅡA　e(コミュニケーション)　f(翻訳)
- 中国語演習ⅡB　e(コミュニケーション)　f(翻訳)
- 中国語表現法演習ⅡA
- 中国語表現法演習ⅡB
- 中国言語概説A
- 中国文学概説A
- 中国言語概説B
- 中国文学概説B
- 総合講座・中国と世界
- 中国地域文化講義
- 日中関係講義
- 日中比較文化講義

3年次

- 中国語演習ⅢA　a(総合)　b(コミュニケーション)
- 中国語演習ⅢB　a(総合)　b(コミュニケーション)
- 中国語演習ⅢA　c(リスニング)　d(翻訳)
- 中国語演習ⅢB　c(リスニング)　d(翻訳)
- 中国語表現法演習ⅢA
- 中国語表現法演習ⅢC
- 中国語表現法演習ⅢB
- 中国語表現法演習ⅢD
- 中国留学プログラム
- 中国言語特講ⅠA・C
- 中国言語特講ⅡA・C
- 中国文学特講A・C
- 中国歴史特講A・C
- 中国社会特講A・C
- 中国政治経済特講A・C
- 中国言語特講ⅠB・D
- 中国言語特講ⅡB・D
- 中国文学特講B・D
- 中国歴史特講B・D
- 中国社会特講B・D
- 中国政治経済特講B・D
- 中国学特講[夏期集中講義]
- 中国学フィールド演習
- 中国語演習ⅢA　e(社会事情)
- 中国学演習A
- 中国学演習B

4年次

- 中国語演習ⅣA　(総合)
- 中国語演習ⅣB　(総合)
- 中国学卒論演習A
- 中国学卒論演習B

中国語学科
Department of Chinese Studies

（既習者クラス）

必修科目　コース特別必修科目　選択必修科目

高度な中国語運用力／日本語―中国語双方向の発信力

中国語の運用能力をより高度で実践的なものに発展させつつ、日本と中国・アジアの文化交流の場で活躍できる教養を身につけることができる。

応用的中国語運用力

基礎段階で獲得した中国語運用能力をコミュニカティブ，かつ実践的に発展・応用し，高度なレベルの運用能力を獲得することができる。

体系的な専門知識の基礎能力

中国の各分野（言語・文学・歴史・社会・政治経済）に関する基本的専門知識を学び，理解することで，体系的な学習・研究の礎を築く。

体系的な専門知識の応用能力

中国の各分野（言語・文化・歴史・社会・政治経済）に関する基本的専門知識を背景に，発展的・応用的専門知識を学び，理解を深めながら，自らの研究分野やテーマと関連づけて，体系的な学習・研究を展開することができる。

専門知識統合力と表現力

ゼミナール形式の授業を通じ，これまで学んできた専門知識を統合する。その成果としてレポート，論文，口頭発表の形で実現することができる。

1年次

- 高級中国語演習ⅠA（基礎）　中日翻訳演習Ⅰ（基礎）
- 高級中国語演習ⅠB（基礎）　日中翻訳演習Ⅰ（基礎）
- 中国歴史概説A　中国社会概説A　中国政治経済概説A
- 中国歴史概説B　中国社会概説B　中国政治経済概説B　中国学概説［夏期集中講義］

2年次

- 高級中国語演習ⅡA（応用）　中日翻訳演習Ⅱ（応用）
- 高級中国語演習ⅡB（応用）　日中翻訳演習Ⅱ（応用）
- 中国語演習ⅡA　e（コミュニケーション）　f（翻訳）
- 中国語演習ⅡB　e（コミュニケーション）　f（翻訳）
- 中国語表現法演習ⅡA
- 中国語表現法演習ⅡB
- 中国言語概説A　中国文学概説A
- 中国言語概説B　中国文学概説B
- 総合講座・中国と世界　中国地域文化講義
- 日中関係講義　日中比較文化講義

3年次

- 高級中国語演習ⅢA（ビジネス）
- 高級中国語演習ⅢB（ビジネス）
- 中国語演習ⅢA　c（リスニング）　d（翻訳）
- 中国語演習ⅢB　c（リスニング）　d（翻訳）
- 中国語表現法演習ⅢA　中国語表現法演習ⅢC
- 中国語表現法演習ⅢB　中国語表現法演習ⅢD
- 中国言語特講ⅠA・C　中国言語特講ⅡA・C　中国文学特講A・C　中国歴史特講A・C　中国社会特講A・C　中国政治経済特講A・C
- 中国言語特講ⅠB・D　中国言語特講ⅡB・D　中国文学特講B・D　中国歴史特講B・D　中国社会特講B・D　中国政治経済特講B・D　中国学特講［夏期集中講義］
- 中国学フィールド演習　中国語演習ⅢA　e（社会事情）
- 中国学演習A
- 中国学演習B

4年次

- 中国語演習ⅣA（総合）
- 中国語演習ⅣB（総合）
- 中国学卒論演習A
- 中国学卒論演習B

日本文化論（言語）　日本文化論（宗教）　日本文化論（歴史）　日本文化論（現代文化）　日本文化論（社会）　日本文化論（近現代文学）　日本文化論（古典文学）　日本文化論（舞台芸術）　日本文化論（美術）　日本文化論（古典芸能）

中国留学プログラム

2023年度　外国語学部中国語学科　教育課程表（2020年度入学者から適用）

			1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件単位数
			1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター		
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
専攻科目	中国学演習科目										中国学演習A	2	中国学演習B	2	中国学卒論演習A 中国学卒論演習B	4 4	中国学卒論演習B 中国学卒論演習A	4 4	12
専攻科目	基幹科目	初習中国語専修科目	☆中国語演習Ⅰa(基礎)A ☆中国語演習Ⅰb(基礎)A ☆中国語演習Ⅰc(リスニング)A ☆中国語演習Ⅰd(会話)A	1 1 1 1	☆中国語演習Ⅰa(基礎)B ☆中国語演習Ⅰb(基礎)B ☆中国語演習Ⅰc(リスニング)B ☆中国語演習Ⅰd(会話)B	1 1 1 1	☆中国語演習Ⅱa(総合)A ☆中国語演習Ⅱb(作文)A ☆中国語演習Ⅱc(リスニング)A ☆中国語演習Ⅱd(コミュニケーション)A	1 1 1 1	☆中国語演習Ⅱa(総合)B ☆中国語演習Ⅱb(作文)B ☆中国語演習Ⅱc(リスニング)B ☆中国語演習Ⅱd(コミュニケーション)B	1 1 1 1	☆中国語演習Ⅲa(総合)A 中国語演習Ⅲb(コミュニケーション)A	1 1	☆中国語演習Ⅲa(総合)B 中国語演習Ⅲb(コミュニケーション)B	1 1					20
専攻科目	基幹科目	既習中国語専修科目 必修科目	☆高級中国語演習Ⅰ(基礎)A ☆中日翻訳演習Ⅰ(基礎)	1 1	☆高級中国語演習Ⅰ(基礎)B ☆日中翻訳演習Ⅰ(基礎)	1 1	☆高級中国語演習Ⅱ(応用)A ☆中日翻訳演習Ⅱ(応用)	1 1	☆高級中国語演習Ⅱ(応用)B ☆日中翻訳演習Ⅱ(応用)	1 1	☆高級中国語演習Ⅲ(ビジネス)A	1	☆高級中国語演習Ⅲ(ビジネス)B	1					
専攻科目	基幹科目	既習中国語専修科目 選択科目	日本文化論（言語） 日本文化論（歴史）	2 2	日本文化論（宗教） 日本文化論（現代文化）	2 2	日本文化論（社会） 日本文化論（古典文学）	2 2	日本文化論（近現代文学） 日本文化論（舞台芸術）	2 2	日本文化論（美術） 日本文化論（古典芸能）	2 2							
専攻科目	コース特別必修科目群	言語コース					中国語演習Ⅱe(コミュニケーション)A 中国語演習Ⅱf(翻訳)A	1 1	中国語演習Ⅱe(コミュニケーション)B 中国語演習Ⅱf(翻訳)B	1 1	中国語演習Ⅲc(リスニング)A 中国語演習Ⅲd(翻訳)A	1 1	中国語演習Ⅲc(リスニング)B 中国語演習Ⅲd(翻訳)B	1 1	中国語演習Ⅳ(総合)A	1	中国語演習Ⅳ(総合)B	1	10
専攻科目	コース特別必修科目群	社会文化コース					総合講座・中国と世界 中国地域文化講義	2 2	日中関係講義 日中比較文化講義	2 2	中国学フィールド演習	2							
専攻科目	選択科目	概説	中国政治経済概説A 中国社会概説A 中国歴史概説A	2 2 2	中国政治経済概説B 中国社会概説B 中国歴史概説B ◆中国学概説[夏期集中講義]	2 2 2 2	中国言語概説A 中国文学概説A	2 2	中国言語概説B 中国文学概説B	2 2									12
専攻科目	選択科目	特講									◆中国言語特講ⅠA ◆中国言語特講ⅡA ◆中国文化特講A ◆中国歴史特講A ◆中国社会特講A ◆中国政治経済特講A	2 2 2 2 2 2	◆中国言語特講ⅠB ◆中国言語特講ⅡB ◆中国文化特講B ◆中国歴史特講B ◆中国社会特講B ◆中国政治経済特講B ◆中国学特講[夏期集中講義]	2 2 2 2 2 2 2	◆中国言語特講ⅠC ◆中国言語特講ⅡC ◆中国文化特講C ◆中国歴史特講C ◆中国社会特講C ◆中国政治経済特講C	2 2 2 2 2 2	◆中国言語特講ⅠD ◆中国言語特講ⅡD ◆中国文化特講D ◆中国歴史特講D ◆中国社会特講D ◆中国政治経済特講D	2 2 2 2 2 2	16
専攻科目	選択科目	表現法演習					中国語表現法演習Ⅱ(HSK基礎)A	2	中国語表現法演習Ⅱ(HSK基礎)B	2	◆中国語表現法演習Ⅲa(読解応用)A ◆中国語表現法演習Ⅲb(商用会話)A	2 2	◆中国語表現法演習Ⅲa(読解応用)B ◆中国語表現法演習Ⅲb(商用会話)B	2 2	◆中国語表現法演習Ⅲa(HSK応用)C ◆中国語表現法演習Ⅲb(翻訳)C	2 2	◆中国語表現法演習Ⅲa(HSK応用)D ◆中国語表現法演習Ⅲb(翻訳)D	2 2	
専攻科目	選択科目						中国留学プログラム	3											
専攻科目	関連科目		情報処理Ⅰ	2	情報処理Ⅱ	2													24
専攻科目	関連科目		専攻科目（選択科目）の卒業要件単位数を超える単位、共通教養科目、「教育の基礎的理解に関する科目等（各学科の指導法を含む）」、他学部他学科開講の専攻科目																
専攻科目	関連科目	外国語学部共通科目					英語学概論 英語圏文学概論A 英語圏文化概論A スペイン史Ⅰ ラテンアメリカ史Ⅰ スペイン現代研究Ⅰ ラテンアメリカ現代研究Ⅰ	2 2 2 2 2 2 2	英語圏文学概論B 英語圏文化概論B スペイン史Ⅱ ラテンアメリカ史Ⅱ スペイン現代研究Ⅱ ラテンアメリカ現代研究Ⅱ	2 2 2 2 2 2									
専攻科目	関連科目	外国語学部キャリアデザイン科目	外国語・異文化の学びとキャリア形成Ⅰ	2															

〔備　　考〕
1　☆印は受講するクラスが指定される授業科目，◆は隔年開講科目を示す。

〔履修要件〕
1　同一授業科目は，重複して履修することはできない。
2　一年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする（通年科目を履修した場合は，その科目の単位数を二分割し，前学期・後学期それぞれの学期の単位数として換算する）。
　なお，卒業要件単位数に算入されない資格教育課程に関する科目の単位数はこの枠外とする。
3　専攻科目の中には履修資格や人数を制限する科目がある。
4　「中国学卒論演習Ｂ」は，原則として「中国学卒論演習Ａ」を未修得のものは履修できない。
5　専攻科目のうち演習科目については，原則として他学部他学科の学生は履修することができない。ただし，学科及び担当教員の認めた場合はこの限りではない。
6　学科所定の手続きにより中国語初習者と認められたものは，「初習中国語専修科目」を履修できる。
7　学科所定の手続きにより中国語既習者と認められたものは，「既習中国語専修科目」を履修できる。
8　「既習中国語専修科目」の選択科目は，関連科目として換算する場合も含み，原則として前期・後期各学期に２単位を上限として履修することができる。

〔コース制〕
1　２年次で学科所定の手続きにより，「言語コース」又は「社会文化コース」のいずれかのコースを選択しなければならない。

〔進級要件〕
（２年次から３年次）
1　２年次終了までに，次の単位を含めて学則所定の「卒業要件単位数」のうち，60単位以上修得しなければならない。
　（１）　外国語科目（英語）４単位以上。
　（２）　中国語初習者の言語コース履修者は，１・２年次の初習中国語専修科目及びコース特別必修科目群（言語コース）から15単位以上。
　（３）　中国語初習者の社会文化コース履修者は，１・２年次の初習中国語専修科目から12単位以上。
　（４）　中国語既習者の言語コース履修者は，１・２年次の既習中国語専修科目（必修科目）及びコース特別必修科目群（言語コース）から９単位以上。
　（５）　中国語既習者の社会文化コース履修者は，１・２年次の既習中国語専修科目（必修科目）から６単位以上。
　（６）　本学の派遣交換留学制度による海外留学のため進級要件を満たせない場合は，学科所定の手続きにより進級を認められることがある。

〔学外単位認定制度〕
　学則第13条及び第13条の２に基づく次の単位は，本学における授業科目の履修とみなし，卒業要件単位に算入することができる。
　なお,横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は,各セメスターの履修制限単位数に含める。
1　本学が主催又は推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
2　文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で，本学における所定の手続きにより認定された単位。
3　横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で，本学の授業科目として認定された単位。

〔卒業要件〕
1　４年以上在学し，学則所定の次表の「卒業要件単位数」を修得しなければならない。

【中国語初習者】

授業科目／入学年度	共通教養科目									専攻科目								合計
	初年次ゼミナール	外国語科目	共通基盤科目					共通テーマ科目	共通教養科目合計	中国学演習科目	基幹科目	コース特別必修科目群（言語コース・社会文化コース）	選択科目			関連科目	専攻科目合計	
			教養基礎演習	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	現代社会と市民			初習中国語専修科目		概説	特講	表現法演習			
2020年度以降入学者	2	8		4	4	4	2	2	32	12	20	10	12	16		24	94	126
			6															

【中国語既習者】

授業科目／入学年度	共通教養科目									専攻科目								合計
	初年次ゼミナール	外国語科目	共通基盤科目					共通テーマ科目	共通教養科目合計	中国学演習科目	基幹科目		コース特別必修科目群（言語コース・社会文化コース）	選択科目			関連科目	専攻科目合計	
											既習中国語専修科目								
			教養基礎演習	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	現代社会と市民			必修科目	選択科目		概説	特講	表現法演習			
2020年度以降入学者	2	8		4	4	4	2	2	32	12	10	10	10	12	16		24	94	126
			6																

2　共通教養科目については，次の単位を含めて32単位以上修得すること。
　（１）初年次ゼミナール２単位（必修）。
　（２）外国語科目は英語８単位を修得すること。ただし，外国人留学者及び外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）は申請により，英語に換えて，４～６単位を日本語とすることができる。なお，８単位に不足する単位は英語で補うものとする。
　（３）人文・社会・自然の各分野からそれぞれ４単位以上。
　（４）人間形成の分野から２単位以上。
　（５）共通テーマ科目から２単位以上。

（６）教養基礎演習，人文・社会・自然・人間形成の各分野及び共通テーマ科目から規定の単位数を超えて６単位以上。
（７）人間形成の分野のうち「キャリアデザイン」「海外インターンシップ」は２単位まで卒業要件単位数に算入することができる。「国内インターンシップ」は，卒業要件単位数に算入できない。

3　中国学演習科目12単位を修得すること。
4　中国語初習者は，基幹科目として初習中国語専修科目20単位を修得すること。
5　中国語既習者は，基幹科目として既習中国語専修科目の必修科目10単位を修得し，かつ既習中国語専修科目の選択科目から10単位以上を修得すること。
6　コース特別必修科目群10単位を修得すること。
7　選択科目の概説から12単位以上修得すること。
8　選択科目の特講・表現法演習から16単位以上修得すること。
9　「言語コース」履修者は，３年次（５セメスター，６セメスター）以上に配当されている選択科目・表現法演習から２単位以上修得すること。
10　関連科目から24単位以上修得すること。
関連科目の単位として算入できるものは次のとおりとする。
（１）共通教養科目，専攻科目（選択科目）の「卒業要件単位数」を超える単位。
（２）教職課程登録者が修得した「教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）」の単位。（上限６単位）
（３）他学部他学科開講の専攻科目の単位。ただし，他学部・他学科が受講を認めない科目については，履修することができない。
（４）外国語学部共通科目，外国語学部キャリアデザイン科目の修得した単位。

教育課程における標準年次の区切線について

①　標準年次が実線（―――　）で区切られている場合，原則として上位年次の授業科目は履修できません。
②　標準年次が破線（……　）で区切られている場合，原則として上位年次の授業科目は履修できますが，［履修要件］等にしたがって履修できない授業科目もありますので注意してください。

国際日本学部

- ●国際文化交流学科
- ●日本文化学科
- ●歴史民俗学科

KU 神奈川大学

国際日本学部学生のみなさんへ

国際日本学部へようこそ。国際日本学部は，世界と日本そして地域社会を結びつけて考える学部です。We all need roots and wings！ 私たちが生きる文化の根源を掘り起こし，世界に飛び立つ羽根を手に入れるために，たがいに切磋琢磨していきましょう。

そのためのステージとして，みなとみらいキャンパスが開設されました。幕末から世界へ船出してきた「みなと」で，みなさんといっしょに「みらい」を見晴るかすことができるのをうれしく思います。学生どうしの交流を通じて，また観光や地域プランナーなど社会とつながる経験をすることで，みなさんが 4 年後，世界－日本－地域の架け橋となることを願っています。

ただし，このようなプロジェクトを成し遂げるためには，地道な勉強が必要で，一つひとつの授業を計画立てて履修しなければなりません。この履修要覧は，そのためのガイドブックであると同時に，これからの学修生活のルールブックです。大学は高校までと違い，学生一人ひとりが関心にそって科目を選択できる「自由」を保障しています。一方，みなさんが 4 年間で無理なく力を身につけるためには，ガイドが必要であり，ルールを知らなければなりません。「128」や「進級要件」など，今は意味がよく分からない言葉も，すぐにその意味を理解することになると思います。それでも分からないことがあれば，友人や先輩，教員，事務のみなさんに遠慮せずに聞いてみてください。コミュニケーションもこの学部が大事としていることです。

国際日本学部で独自に用意している科目としては，学科を超えて学部生にとって必要な知識を身につける「学部教養科目」があります。世界と日本のものの考え方を比較したり，さまざまなメディアから発信されるメッセージを批判的に読みとる能力を身につけたりすることができます。

また 3 年次の「ゼミナール」では，学部の教員が開講するゼミナールから自由に選択して，専門的な研究に取り組むことができます。海外留学や実地で研修できるプログラムも充実しています。ぜひ，この国際日本学部という「みなと」で力を蓄えて，「みらい」へと船を漕ぎだしてみてください。

国際日本学部長　　熊　谷　謙　介

学部・学科の教育研究上の目的及び基本方針

学部・学科の教育研究上の目的及び基本方針

国際日本学部

教育研究上の目的

本学部は，世界の多様な文化を認識して広い視野を獲得し，日本文化について複眼的かつ広域的視野から考える力を身につけ，優れたコミュニケーション能力を併せ持って，文化交流ができ，文化の継承・創生と多文化共生社会の発展に寄与できる人間の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学部の教育研究上の目的等を踏まえ，国際日本学部では，学生が，
（1）外国語や日本語での実践的なコミュニケーション能力を身につけること
（2）世界の文化や歴史に関して複眼的な視点から理解する力を身につけること
（3）日本の文化や歴史に関して複眼的な視点から理解する力を身につけること
を，教育目標として定めます。
そして，これらの教育を通じて，複雑化する国際社会の情勢に柔軟に対応し，国籍や民族などが異なる人々とも尊重し合いながら共に生きていくことができる人間の育成を目指します。

ディプロマ・ポリシー　（学位授与の方針）

本学部のカリキュラムにおいて，所定の卒業要件単位を修得した者は，次に掲げる能力や知識・教養を身につけていると判断され，学士（文学）の学位が授与されます。
1．自立した良識ある市民としての判断力と実践力
（1）社会の変化に対応しながら問題を発見・解決することができる能力を身につけている。
（2）情報の収集・分析・発信の能力を身につけている。
2．国際的感性とコミュニケーション能力
（1）外国語もしくは日本語の運用能力を身につけている。
（2）世界や日本の諸文化について，広く深く理解するための幅広い教養を身につけている。
（3）文化を理解し適切に伝える文化間コミュニケーション能力を身につけている。
3．時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
（1）世界の文化・言語・社会・歴史・宗教等についての幅広い教養を身につけている。
（2）日本の文化・言語・歴史・民俗・宗教等についての幅広い教養を身につけている。
（3）多文化共生社会に寄与できる実践的能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー　（教育課程編成・実施の方針）

本学部は，世界や日本の諸文化について複眼的かつ広域的視野から考える力を身につけられるように，以下のような学修・教育課程を編成し，教育・評価を行っています。
1．教育課程の編成・実施
（1）世界や日本の現状を知り，多様な視点から考察することができる素養を身につける学部教養科目を配置しています。
（2）専門的知識を修得しつつ，自ら情報を収集・分析・発信する能力を育成する，少人数教育による双方向型の演習・ゼミナール科目を配置しています。
（3）外国語もしくは日本語の知識と実践的なコミュニケーション能力を身につけるとともに，日本をはじめとする世界諸地域の文化や歴史，言語，宗教，社会についての専門的知識を修得する専門科目を配置しています。
（4）初年次教育およびキャリア教育科目を配置するとともに，人間・社会・自然等にかかわる諸問題について広い視

野と知識を獲得する教養系科目を配置しています。

２．教育の方法と評価

（１）外国語教育や演習・ゼミナールでは，少人数・双方向型教育を実施しています。

（２）専門科目については，多くの実技・体験型教育を実施しています。

（３）単位制度の実質化を図るため，成績評価の方法及び基準を明確化し，成績評価を厳格化しています。

国際日本学部　国際文化交流学科

教育研究上の目的

国際文化交流学科は，「世界」や「世界における日本」についての深い知識と洞察力，外国語の実践的運用能力，多文化を理解する力を身につけた，文化間の交流に貢献できる人間の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学科の教育研究上の目的等を踏まえ，国際日本学部国際文化交流学科では，学生が，
（１）世界の文化・言語・社会・歴史・宗教等について広範な知識を得ること
（２）少人数クラスや実践を通じた授業により，外国語の運用能力およびコミュニケーション能力を伸張できること
（３）日本文化を含む多様な文化の共通点と相違点を理解すること
（４）さまざまな文化に寛容で，文化の相違を越えて意思疎通と交流ができること
（５）実践的な分野に応用できる力を備えること
を，教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー　（学位授与の方針）

本学科のカリキュラムにおいて，所定の卒業要件単位を修得した者は，次に掲げる能力や知識・教養を身につけていると判断され，学士（文学）の学位が授与されます。
１．自立した良識ある市民としての判断力と実践力
（１）社会の変化に対応しながら問題を発見・解決することができる能力を身につけている。
（２）情報の収集・分析・発信の能力を身につけている。
２．国際的感性とコミュニケーション能力
（１）外国語の運用能力を身につけている。
（２）日本語や英語での発表・論文作成などのアカデミックスキルを身につけている。
（３）文化を理解し適切に伝える文化間コミュニケーション能力を身につけている。
３．時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
（１）世界の文化・言語・社会・歴史・宗教等についての専門的知識を身につけている。
（２）文化交流，観光文化，言語・メディア，国際日本学という４つの専門的な知識のいずれかを身につけている。

カリキュラム・ポリシー　（教育課程編成・実施の方針）

本学科は，文化交流において国際社会に通用する素養を総合的に修得することができるように，以下のような学修・教育課程を編成し，教育・評価を行っています。
１．教育課程の編成・実施
（１）世界や日本の現状を知り，多様な視点から考察することができる素養を身につける学部教養科目
（２）専門的知識を修得しつつ，自ら情報を収集・分析・発信する能力を育成する，少人数教育による双方向型の演習・ゼミナール科目
（３）実践的なコミュニケーション能力を身につける外国語科目
（４）世界の文化・言語・社会・歴史・宗教等についての専門的知識を修得する専門科目（文化交流，観光文化，言語・メディア，国際日本学のうち，一つの専門を重点的かつ体系的に学修できるコース科目）
（５）人間・社会・自然等にかかわる諸問題について広い視野を獲得する教養系科目
２．教育の方法と評価
（１）演習・ゼミナールでは，少人数・双方向型教育を徹底し，１年次に「ＦＹＳ（ファースト・イヤー・セミナー）」，２年次に「コース演習」，３年次に「ゼミナール」，４年次に「卒業研究」を配置することによって，学生が専門的知識を段階的に修得できるように指導し，自ら情報を収集・分析・発信する能力を育成します。外国語科目群についても少人数教育を徹底し，実践的なコミュニケーション能力を育成します。
（２）４つのコースを設定し，学生がその中から一つ選択することで専門的かつ体系的な知識を得ることを可能にします。
（３）単位制度の実質化を図るため，成績評価の方法及び基準を明確化し，成績評価を厳格化しています。

国際日本学部　日本文化学科

教育研究上の目的

日本文化学科は，日本語の高度な運用能力，日本語や日本文化についての包括的な知見，さらには日本文化を世界的な視野のもとに位置づけることのできる国際的な教養を身につけた，多文化共生社会の担い手となる人間の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学科の教育研究上の目的等を踏まえ，国際日本学部日本文化学科では，学生が，
（1）日本語の構造や機能を理解し，その高度な運用能力を修得すること
（2）伝統文化から現代文化までの多彩な日本文化を包括的に理解すること
（3）国際的な教養を修得し，日本文化を世界的に位置づけられる広い視野を獲得すること
（4）異文化を理解し，多文化共生社会を築いていける豊かな人間性を身につけること
を，教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー　（学位授与の方針）

本学科のカリキュラムにおいて，所定の卒業要件単位を修得した者は，次に掲げる能力や知識・教養を身につけていると判断され，学士（文学）の学位が授与されます。
1．自立した良識ある市民としての判断力と実践力
（1）社会の変化に対応しながら問題を発見・解決することができる能力を身につけている。
（2）情報の収集・分析・発信のための高度な日本語の運用能力を身につけている。
2．国際的感性とコミュニケーション能力
（1）外国語の基礎的な運用能力を身につけている。
（2）日本文化をより広い視野のもとに位置づけることのできる国際的な教養と感性を身につけている。
（3）日本文化を理解し適切に伝える異文化間コミュニケーション能力を身につけている。
（4）多文化共生社会を築いていける豊かな人間性を身につけている。
3．時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
（1）日本語および日本文化についての専門的知識を身につけている。
（2）日本文化の担い手として，多文化共生社会に寄与できる専門的な知識と技能を身につけている。

カリキュラム・ポリシー　（教育課程編成・実施の方針）

本学科は，日本語の高度な運用能力と日本語・日本文化についての包括的な知見を修得するとともに，国際的な教養を身につけることができるように，以下のような学修・教育課程を編成し，教育・評価を行っています。
1．教育課程の編成・実施
（1）世界や日本の現状を知り，多様な視点から考察することができる素養を身につける学部教養科目
（2）さまざまな様態の日本文化について自らの力で学び研究していく能力を育成する，少人数教育による双方向型の演習・ゼミナール科目
（3）日本語・日本文学・日本文化に関する専門的知識を領域や時代を横断して幅広く修得しつつ，文化事象を批判的に解釈・分析する力を身につけるための日本語学科目，日本文学科目，文化・表象科目
（4）隣接領域の知識を深め，日本文化に関する知見を相対化するための日本文化発展科目
（5）人間・社会・自然等にかかわる諸問題について広い視野を獲得する教養系科目
2．教育の方法と評価
（1）演習・ゼミナールでは，少人数・双方向型教育を徹底し，１年次に「ＦＹＳ（ファースト・イヤー・セミナー）」と「文章表現演習」，２年次に「文献講読演習」，３年次に「日本語学・日本文学演習」と「ゼミナール」，４年次に「卒業研究」を配置することによって，学生が専門的知識を段階的に修得できるように指導し，自ら情報を収集・分析・発信する能力を育成します。
（2）日本語・日本文化について幅広く学ぶ展開科目では，領域や時代を横断した多角的な学びが可能になるように履

修指導を行い，また学生が積極的に学修に参加できるようアクティブ・ラーニングを実践します。
（３）単位制度の実質化を図るため，成績評価の方法及び基準を明確化し，成績評価を厳格化しています。

国際日本学部　歴史民俗学科

教育研究上の目的

歴史民俗学科は，日本の歴史と民俗に関する理解を深め，アジアを中心とした国際的な視点から位置づけるとともに，歴史民俗資料の収集・整理・保存及び活用を可能とする能力を身につけ，歴史と民俗の継承，地域文化の創生，地域社会の活性化に積極的に寄与する人間の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学科の教育研究上の目的等を踏まえ，国際日本学部歴史民俗学科では，学生が，
（1）資料実習やフィールドワークなどを通して日本の歴史と民俗を多角的かつ総合的に理解すること
（2）アジアを中心とした国際的な視点から日本の歴史と民俗を位置づけられること
（3）歴史民俗資料の収集・整理・保存及び活用の技能を身につけること
（4）歴史と民俗の継承，地域文化の創生，地域社会の活性化の担い手となること
を，教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー　（学位授与の方針）

本学科のカリキュラムにおいて，所定の卒業要件単位を修得した者は，次に掲げる能力や知識・教養を身につけていると判断され，学士（文学）の学位が授与されます。
1．自立した良識ある市民としての判断力と実践力
（1）社会の変化に対応しながら問題を発見・解決することができる能力を身につけている。
（2）情報の収集・分析・発信の能力を身につけている。
2．国際的感性とコミュニケーション能力
（1）外国語の基礎的な運用能力を身につけている。
（2）国際的な教養を身につけ，歴史と民俗を中心に日本の文化をより広い視野のもとに位置づける国際的感性を身につけている。
（3）歴史と民俗を中心に日本の文化を理解し適切に伝える文化間コミュニケーション能力を身につけている。
3．時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
（1）日本の歴史と民俗についての専門的知識を身につけている。
（2）歴史民俗資料を収集・整理・保存及び活用する専門的知識と技能を身につけている。
（3）日本の歴史と民俗の継承の担い手として地域社会の振興に寄与できる専門的な知識と技能を身につけている。

カリキュラム・ポリシー　（教育課程編成・実施の方針）

本学科は，日本の歴史と民俗を多角的かつ総合的に理解するとともに，歴史民俗資料の収集・整理・保存及び活用の技能を修得して地方文化の創生，地域社会の活性化に寄与できるように，以下のような学修・教育課程を編成し，教育・評価を行っています。
1．教育課程の編成・実施
（1）世界や日本の現状を知り，多様な視点から考察することができる素養を身につける学部教養科目
（2）日本の歴史と民俗についての専門的知識を修得しつつ，自ら歴史民俗資料を収集・分析・発信する能力を育成する，少人数教育による双方向型の演習・ゼミナール科目
（3）日本の歴史と民俗を客観的・実証的に理解するために，歴史民俗資料の整理・読解やフィールドワークを実践する実習科目
（4）日本の歴史と民俗に関する専門的知識を時代や領域を横断して幅広く修得し，多角的かつ総合的に分析・解釈する視点と方法を身につける歴史分野・民俗分野の展開科目
（5）歴史民俗資料を文化資源として地域社会の振興や文化交流など社会に活用する幅広い視点と多様な方法を身につける文化創生分野の展開科目。
（6）人間・社会・自然等にかかわる諸問題について広い視野を獲得する教養系科目

２．教育の方法と評価

（１）演習・ゼミナールでは，少人数・双方向型教育を徹底し，１年次に「ＦＹＳ（ファースト・イヤー・セミナー)」と「基礎演習」，２年次に「専門演習」と「プレゼミナール」，３年次に「ゼミナール」，４年次に「卒業研究」を配置することによって，学生が専門的知識を段階的に修得できるように指導し，歴史民俗資料を自ら収集・分析・発信する能力を育成します。

（２）実習科目では，１年次に「歴史民俗資料入門」，２年次以降に日本史の各時代を対象とする「歴史史料実習」，２・３年次に民俗調査の方法を学び調査を行う「民俗調査実習」を配置することによって，歴史民俗資料を収集・整理・保存及び活用するための実践的な能力を育成します。

（３）日本の歴史と民俗，その学知を文化資源として社会に活用する文化創生について，隣接諸分野も取り込んで幅広く学ぶ展開科目では，時代や領域を横断した多角的かつ総合的な学びが可能になるように履修指導を行い，またアクティブ・ラーニングを活用し，学生が積極的に参加できる方法を採ります。

（４）単位制度の実質化を図るため，成績評価の方法及び基準を明確化し，成績評価を厳格化しています。

4　履修案内
共通教養科目

（2020 年度入学者から適用）

英語について　（2020年度入学者から適用）

1　国際文化交流学科の「クラス英語」

習熟度別のクラス編成になっています。

（1）１年次生
クラスは，みなさんが４月初旬に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に決定されます。クラス決定後は，それぞれのレベルの「英語Ⅰ（Listening)」,「英語Ⅰ（Speaking)」,「英語Ⅰ（Writing)」を前学期に履修し，「英語Ⅱ（Listening)」,「英語Ⅱ（Speaking)」,「英語Ⅱ（Writing)」を後学期に履修します。
「英語（Listening)」では，主に，リスニングに重きを置きながら，英語コミュニケーション能力の育成を目指した指導が行われます。

「英語（Speaking)」では，英語ネイティブスピーカーの教員により，実践的な英会話の指導が行われます。
「英語（Writing)」では，英語ネイティブスピーカーの教員により，実践的な英作文の指導が行われます。

（2）２年次生
みなさんが１年次の後学期定期試験後に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に再編成されるクラスで，「英語Ⅰ（Reading)」を前学期に履修し，「英語Ⅱ（Reading)」を後学期に履修します。

「英語（Reading)」では，主に，英文の読解に重きを置いた指導が行われます。

なお，「クラス英語」においては，授業回数の４分の３以上の出席が単位修得の必須条件となっていますので，きちんと出席してください。

2　日本文化学科・歴史民俗学科の「クラス英語」

習熟度別のクラス編成になっています。

（1）１年次生
クラスは，みなさんが４月初旬に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に決定されます。クラス決定後は，それぞれのレベルの「英語Ⅰ（Listening)」と「英語Ⅰ（Speaking)」を前学期に履修し，「英語Ⅱ（Listening)」と「英語Ⅱ（Speaking)」を後学期に履修します。

「英語（Listening)」では，主に，リスニングに重きを置きながら，英語コミュニケーション能力の育成を目指した指導が行われます。
「英語（Speaking)」では，英語ネイティブスピーカーの教員により，実践的な英会話の指導が行われます。

（2）２年次生
みなさんが１年次の後学期定期試験後に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に再編成されるクラスで，「英語Ⅰ（Reading)」と「英語Ⅰ（Writing)」を前学期に履修し，「英語Ⅱ（Reading)」と「英語Ⅱ（Writing)」を後学期に履修します。

「英語（Reading)」では，主に，英文の読解に重きを置いた指導が行われます。
「英語（Writing)」では，英語ネイティブスピーカーの教員により，実践的な英作文の指導が行われます。

なお，「クラス英語」においては，授業回数の４分の３以上の出席が単位修得の必須条件となっていますので，きちんと出席してください。

3　選択英語

「クラス英語」だけでは学習時間が足りません。その不足を補いながら，さらに実力を伸ばすための授業科目です。

「選択英語」では，力を伸ばしたい分野を選べるようになっています。また，いくつかのレベルで授業を開講していますから，自分の力にふさわしいレベルを選んで効果を上げてください。

「選択英語」は，系統的・段階的に履修することができます。

- 特定の英語スキルを重点的に取り組んでさらに伸ばしたい。
  →「特修英語（中級）～（上級）」を履修する。
- 英語で話せるようになりたい。
  →「英語会話（初級）～（上級）」を履修する。
- TOEIC®テストのスコアを伸ばしたい。
  →「TOEIC 演習（初級）～（上級）」を履修する。
- TOEFL®テストを受け，海外留学をしたい。
  →「TOEFL 演習（初級）」・「留学英語準備講座」を履修する。

「特修英語（中級）～（上級）」は，クラス英語で培った英語力を基に，あるいは並行して，さらに実用的な英語スキルを身につけることを目的としています。

- 特修英語（中級）I【前期：リーディング】・III 【後期：４技能】

異文化における出来事を記述した英文を使用し，読解力を様々なタスク（語彙の推測，英文構造理解，英文法理解，要約など）を通して構築していきます。同時にグローバル社会における多様性の中でどのように生きるかを考える活動も行います。後期は4技能全てを伸ばす演習を行い，それぞれの能力向上のためのコツをつかむ授業とします。

- 特修英語（中級）II【前期】・ IV【後期】: TOEIC®対策とニュース聞き取り

リスニング,速読のリーディング,文法問題を,テキストを用いながら総合的に練習していきます。リスニングはTOEIC®の問題にとどまることなく，少し長いバイリンガルニュースなどの聞き取りの練習も行います。目安としてTOEIC®スコア650点の獲得を目指します。

- 特修英語（上級）I【前期】・ III【後期】: English Communication

自分の意図を効果的かつ説得力を持って伝えるための様々なストラテジーに焦点を当て，ペアワークやディスカッション，演習を通じて実践的な英語力の向上を目指します。また，状況に応じて口語表現を適切に使い分ける練習もしていきます。中・上級レベルのクラス英語を履修中あるいは履修済みの学生におすすめです。

- 特修英語（上級）II【前期】・ IV【後期】: プレゼンテーション

効果的な英語プレゼンテーションを行うための伝達方法(姿勢,ボディーランゲージ,発声等),視覚資料の作成方法,文章の構成方法の基本を，実践を通じて体得します。授業で扱うスキルは英語のみならず，日本語を含む他言語におけるプレゼンテーションにも応用できるものです。中・上級レベルのクラス英語を履修中あるいは履修済みの学生におすすめです。

「英語会話（初級）」の到達目標は，日常会話ができるようになることです。「英会話（中級）」では，一般的な事柄について会話ができるようになること，「英語会話（上級）」では専門的な事柄についても一応の受け答えができるようになることが目標です。

「TOEIC 演習」の到達目標スコアは，概ね（初級）は500点，（中級）は600点，（上級）は700点以上です。

「TOEFL 演習（初級）」は，初めてTOEFL®を受験する人向けに，４技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）を問うTOEFL iBT®に対応し，テスト対策，及び留学時に必要な基礎的能力の育成を目指します。

また，「留学準備英語講座」は，TOEFL®・IELTS™のスコアアップを目標とし，同時に留学先の大学の講義に対応できる英語力を身に付けることを目指します。上級レベルの学生で，明確な留学計画があり，かつ週４回の受講（前期はⅠ・Ⅱ，後期はⅢ・Ⅳのセット受講）が可能であることが履修条件です。これらの科目の受講に関する詳しい内容は，オリ

エンテーション期間中に開催される「留学英語準備講座Ⅰ～Ⅳ」説明会にてお知らせしますので，その指示に従ってください。

また，選択英語の科目の多くは「履修制限科目」で，履修者の定員数が決まっています。通常の履修登録に先立ち応募し，応募者が定員数を超えた場合は，抽選の結果で履修が決定します。

最後になりますが，選択英語も，クラス英語同様，授業回数の４分の３以上の出席（ただし，「留学英語準備講座」，「特修英語」は別途指定）が単位認定の必須条件となっていますので，きちんと出席してください。

4　「クラス英語」の再履修

「クラス英語」の再履修者のための授業として「英語Ⅰ～Ⅳ（再入門)」があります。授業回数の４分の３以上出席した人たちだけが評価の対象になります。

外国語科目の履修要領・教育課程表　（2020年度入学者から適用）

国際文化交流学科

<table>
<tr><td colspan="2">必修科目としての外国語</td><td>英語８単位を修得しなければならない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">選択科目としての外国語
（必修以外に外国語を履修した場合）</td><td>必修科目の外国語以外に，外国語（地域言語として選択している言語については「中級」「上級」「特修」。選択していない言語については「初級」「中級」「上級」「特修」）を修得した場合，その単位は，６単位を上限として卒業要件中の「関連科目」に算入する。
（選択科目としての英語については，下記の英語の履修方法を参照のこと）。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">英語の履修方法</td><td rowspan="2">必修科目としての英語</td><td>必修科目の英語は，プレイスメントテストに基づいたクラス編成を行う。
原則として，前学期と後学期（Ⅰ・Ⅱ）は指定されたクラスの授業を履修しなければならない。
なお，プレイスメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。

１年次では
英語Ⅰ（Listening）（前）
英語Ⅱ（Listening）（後）
英語Ⅰ（Speaking）（前）
英語Ⅱ（Speaking）（後）
英語Ⅰ（Writing）（前）
英語Ⅱ（Writing）（後）
６科目　計６単位を履修しなければならない。

２年次では
英語Ⅰ（Reading）（前）
英語Ⅱ（Reading）（後）
２科目　計２単位を履修しなければならない。</td></tr>
<tr><td>再履修の方法
上記の授業科目を修得できなかった場合，英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（再入門）（各１単位）を不足単位分履修しなければならない。各技能に対応する再履修科目は次のとおり。
英語Ⅰ（Listening），英語Ⅱ（Listening）・・・英語Ⅰ（再入門）
英語Ⅰ（Speaking），英語Ⅱ（Speaking）・・・英語Ⅱ（再入門）
英語Ⅰ（Reading），英語Ⅱ（Reading）・・・英語Ⅲ（再入門）
英語Ⅰ（Writing），英語Ⅱ（Writing）・・・英語Ⅳ（再入門）
ただし，履修する年度で同じ教員の同じ授業科目を複数履修することはできない。</td></tr>
<tr><td>選択科目としての英語</td><td>「共通教養科目教育課程表（別表　外国語科目）」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。修得した「中級」「上級」「留学英語準備講座」の単位は６単位まで「関連科目」に算入する。（「初級」の単位は算入しない）</td></tr>
</table>

英語以外の外国語の履修方法（日本語を除く）	①履修可能な言語 　韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語がある。 ②開講クラス 　「初級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」,「中級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」,「上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」，「特修Ⅰ・Ⅱ」に分かれる。 ③授業運営方式 　週１回のノーマル方式［標準］と，週２回リレー式のラピッド方式［速習］がある。学期ごとに方式を変えることもできる。 　例①「初級」をノーマル方式で履修した後、「中級」をラピッド方式で履修する。 　例②「初級」をラピッド方式で履修した後、「中級」をノーマル方式で履修する。 ④履修の原則 　原則として，ノーマル方式は「初級ａ」と「初級ｂ」を連続で履修すること。ラピッド方式は「初級」と「中級」を連続で履修すること。 ⑤特修の履修条件 　「特修」を履修する場合は「初級」程度の学修を終えている必要がある。 ⑥中級の履修条件（ノーマル方式） 　「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」，「初級Ⅲａ・Ⅲｂ」，「初級Ⅳａ・Ⅳｂ」いずれかの組み合わせで，２単位を修得していなければならない。 　スペイン語については，原則として初級４単位を修得していなければ中級を履修することはできない。 ⑦中級の履修条件（ラピッド方式） 　「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」または「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」の組み合わせで，２単位を修得していなければならない。 ⑧既習者の履修方法 　本学入学以前に「初級」程度以上の語学力をもっている者は，「中級」および「上級」から履修してもよい。ただし，あらかじめ授業担当者の許可を得て履修すること。
	再履修の方法 　履修した科目の単位を修得できなかった場合は、次学期以降に再履修することができる。再履修にあたって方式を変えることもできる。 　例①「初(中)級」をノーマル方式で履修したが、再履修ではラピッド方式で履修する。 　例②「初(中)級」をラピッド方式で履修したが、再履修ではノーマル方式で履修する。
日本語の履修方法	日本語の科目は、履修することができない。ただし、「日本語特別演習 A」のいずれかの科目は、日本語の専任教員の許可を得た場合に限り履修することができる。

日本文化学科

<table>
<tr><td colspan="2">必修科目としての外国語</td><td>①第一外国語として，英語，韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，日本語から一外国語（母語以外）を選び、その外国語を８単位修得しなければならない。
②第二外国語として，第一外国語以外の外国語（母語以外）４単位（同一言語）を修得しなければならない。
ただし，日本語については「日本語の履修方法」を参照のこと。
なお，卒業要件単位を超える単位は６単位まで卒業要件中の「関連科目」に算入する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">選択科目としての外国語
（必修以外に外国語を履修した場合）</td><td>第一外国語及び第二外国語として選択した言語以外の外国語を修得した場合、その単位は卒業要件単位に算入しない。（選択科目としての英語については，下記の英語の履修方法を参照のこと）。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">英語の履修方法</td><td rowspan="2">必修科目として英語を選択した場合</td><td>必修科目の英語は，プレイスメントテストに基づいたクラス編成を行う。
原則として，前学期と後学期（Ⅰ・Ⅱ）は指定されたクラスの授業を履修しなければならない。
プレイスメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。

１年次では
英語Ⅰ（Listening）（前）
英語Ⅱ（Listening）（後）
英語Ⅰ（Speaking）（前）
英語Ⅱ（Speaking）（後）
} ４科目　計４単位を履修しなければならない。

２年次では
英語Ⅰ（Reading）（前）
英語Ⅱ（Reading）（後）
英語Ⅰ（Writing）（前）
英語Ⅱ（Writing）（後）
} ４科目　計４単位を履修しなければならない。

なお、英語を第二外国語として選択した場合は、１年次のクラス英語４科目のみを履修するものとする。（ただし、２年次以降に第二外国語を英語に変更した場合は、２年次のクラス英語４科目を履修するものとする。）</td></tr>
<tr><td>再履修の方法
上記の授業科目を修得できなかった場合，英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（再入門）（各１単位）を不足単位分履修しなければならない。各技能に対応する再履修科目は次のとおり。
英語Ⅰ（Listening），英語Ⅱ（Listening）・・・英語Ⅰ（再入門）
英語Ⅰ（Speaking），英語Ⅱ（Speaking）・・・英語Ⅱ（再入門）
英語Ⅰ（Reading），英語Ⅱ（Reading）・・・英語Ⅲ（再入門）
英語Ⅰ（Writing），英語Ⅱ（Writing）・・・英語Ⅳ（再入門）
ただし，履修する年度で同じ教員の同じ授業科目を複数履修することはできない。</td></tr>
<tr><td>選択科目としての英語</td><td>「共通教養科目教育課程表（別表　外国語科目）」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。第一外国語及び第二外国語として英語を選択した場合、修得した単位は卒業要件中の「関連科目」に算入する。</td></tr>
</table>

英語以外の外国語の履修方法（日本語を除く）	①履修可能な言語 　韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語がある。 ②開講クラス 　「初級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」,「中級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」,「上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」，「特修Ⅰ・Ⅱ」に分かれる。 ③授業運営方式 　週１回のノーマル方式［標準］と，週２回リレー式のラピッド方式［速習］がある。学期ごとに方式を変えることもできる。 　例①「初級」をノーマル方式で履修した後、「中級」をラピッド方式で履修する。 　例②「初級」をラピッド方式で履修した後、「中級」をノーマル方式で履修する。 ④履修の原則 　原則として，ノーマル方式は「初級ａ」と「初級ｂ」を連続で履修すること。ラピッド方式は「初級」と「中級」を連続で履修すること。 ⑤特修の履修条件 　「特修」を履修する場合は「初級」程度の学修を終えている必要がある。 ⑥中級の履修条件（ノーマル方式） 　「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」，「初級Ⅲａ・Ⅲｂ」，「初級Ⅳａ・Ⅳｂ」いずれかの組み合わせで，２単位を修得していなければならない。 　スペイン語については，原則として初級４単位を修得していなければ中級を履修することはできない。 ⑦中級の履修条件（ラピッド方式） 　「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」または「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」の組み合わせで，２単位を修得していなければならない。 ⑧既習者の履修方法 　本学入学以前に「初級」程度以上の語学力をもっている者は，「中級」および「上級」から履修してもよい。ただし，あらかじめ授業担当者の許可を得て履修すること。
	再履修の方法 　履修した科目の単位を修得できなかった場合は、次学期以降に再履修することができる。再履修にあたって方式を変えることもできる。 　例①「初(中)級」をノーマル方式で履修したが、再履修ではラピッド方式で履修する。 　例②「初(中)級」をラピッド方式で履修したが、再履修ではノーマル方式で履修する。
日本語の履修方法	①日本語は「外国人留学生」及び「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）」対象の外国語である。履修するためには，必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 ②日本語を第一外国語とする場合，日本語科目８単位を修得すること。日本語を第二外国語とする場合，日本語科目４単位を修得すること。 ③原則として，それぞれの科目は前学期と後学期（a・b）を通年で履修しなければならない。

歴史民俗学科

<table>
<tr><td colspan="2">必修科目としての外国語</td><td>英語８単位を修得しなければならない。
ただし，外国人留学生及び外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）は申請により,「英語」に換えて，４～６単位を「日本語」とすることができる。日本語については「日本語の履修方法」を参照のこと。</td></tr>
<tr><td colspan="2">選択科目としての外国語
（必修以外に外国語を履修した場合）</td><td>必修科目の外国語以外に，外国語を修得した場合，その単位は卒業要件中の「関連科目」に算入する。
（選択科目としての英語については，下記の英語の履修方法を参照のこと）。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">英語の履修方法</td><td rowspan="2">必修科目としての英語</td><td>必修科目の英語は，プレイスメントテストに基づいたクラス編成を行う。
原則として，前学期と後学期（Ⅰ・Ⅱ）は指定されたクラスの授業を履修しなければならない。
なお，プレイスメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。

１年次では
英語Ⅰ（Listening）（前）
英語Ⅱ（Listening）（後）
英語Ⅰ（Speaking）（前）
英語Ⅱ（Speaking）（後）
} ４科目　計４単位を履修しなければならない。

２年次では
英語Ⅰ（Reading）（前）
英語Ⅱ（Reading）（後）
英語Ⅰ（Writing）（前）
英語Ⅱ（Writing）（後）
} ４科目　計４単位を履修しなければならない。</td></tr>
<tr><td>再履修の方法
上記の授業科目を修得できなかった場合，英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（再入門）（各１単位）を不足単位分履修しなければならない。各技能に対応する再履修科目は次のとおり。
英語Ⅰ（Listening），英語Ⅱ（Listening）・・・英語Ⅰ（再入門）
英語Ⅰ（Speaking），英語Ⅱ（Speaking）・・・英語Ⅱ（再入門）
英語Ⅰ（Reading），英語Ⅱ（Reading）・・・英語Ⅲ（再入門）
英語Ⅰ（Writing），英語Ⅱ（Writing）・・・英語Ⅳ（再入門）
ただし，履修する年度で同じ教員の同じ授業科目を複数履修することはできない。</td></tr>
<tr><td>選択科目としての英語</td><td>「共通教養科目教育課程表（別表　外国語科目）」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。修得した単位は卒業要件中の「関連科目」に算入する。</td></tr>
</table>

英語以外の外国語の履修方法（日本語を除く）	①履修可能な言語 　韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語がある。 ②開講クラス 　「初級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」,「中級Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ・Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ」,「上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」，「特修Ⅰ・Ⅱ」に分かれる。 ③授業運営方式 　週１回のノーマル方式［標準］と，週２回リレー式のラピッド方式［速習］がある。学期ごとに方式を変えることもできる。 　例①「初級」をノーマル方式で履修した後、「中級」をラピッド方式で履修する。 　例②「初級」をラピッド方式で履修した後、「中級」をノーマル方式で履修する。 ④履修の原則 　原則として，ノーマル方式は「初級ａ」と「初級ｂ」を連続で履修すること。ラピッド方式は「初級」と「中級」を連続で履修すること。 ⑤特修の履修条件 　「特修」を履修する場合は「初級」程度の学修を終えている必要がある。 ⑥中級の履修条件（ノーマル方式） 　「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」，「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」，「初級Ⅲａ・Ⅲｂ」，「初級Ⅳａ・Ⅳｂ」いずれかの組み合わせで，２単位を修得していなければならない。 　スペイン語については，原則として初級４単位を修得していなければ中級を履修することはできない。 ⑦中級の履修条件（ラピッド方式） 　「初級」を修得して「中級」を履修する場合，原則として「初級Ⅰａ・Ⅰｂ」または「初級Ⅱａ・Ⅱｂ」の組み合わせで，２単位を修得していなければならない。 ⑧既習者の履修方法 　本学入学以前に「初級」程度以上の語学力をもっている者は，「中級」および「上級」から履修してもよい。ただし，あらかじめ授業担当者の許可を得て履修すること。
	再履修の方法 　履修した科目の単位を修得できなかった場合は、次学期以降に再履修することができる。再履修にあたって方式を変えることもできる。 　例①「初(中)級」をノーマル方式で履修したが、再履修ではラピッド方式で履修する。 　例②「初(中)級」をラピッド方式で履修したが、再履修ではノーマル方式で履修する。
日本語の履修方法	①日本語は「外国人留学生」及び「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）」対象の外国語である。履修するためには，必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 ②日本語を必修の外国語とする場合，日本語科目４～６単位を修得することとし，８単位に不足する単位は「英語」で補うものとする。 ③原則として，それぞれの科目は前学期と後学期（a・b）を通年で履修しなければならない。

４　履修案内
専攻科目

国際文化交流学科

国際文化交流学科履修案内

（2020年度入学者から適用）

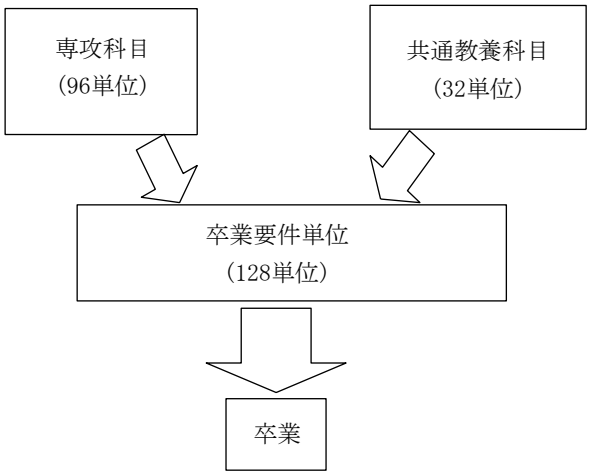
【国際文化交流学科の教育目標】

国際文化交流学科は，**「世界」**や**「世界における日本」**についての深い知識と洞察力，**外国語**の実践的運用能力，**多文化を理解**する力を身につけることを目標としています。この学科に入学したあなた方一人ひとりが，文化の異なる人たちと**共生**しながら，文化間の**交流**に貢献する人になることを目指しています。

世界の文化・言語・社会・歴史・宗教等について広く知り，日本文化を含む多様な文化の共通点と相違点を理解できる人，さまざまな文化に寛容で，文化の相違を越えてコミュニケーションと交流ができる人，こうした理念を実践的な分野に応用できる人。そのような人を育てるのが国際文化交流学科の願いです。

【カリキュラムの概要と特色】

国際文化交流学科を卒業するためには，学科科目である「専攻科目」を96単位，大学共通の科目である「共通教養科目」を32単位，合計128 単位を最低でも修得しなければなりません。



共通教養科目については本履修案内ですでに説明されているので，ここでは専攻科目について見ていきましょう。なお，教育課程表と卒業要件表もあわせて参照してください。国際文化交流学科の専攻科目は上述の教育目標を実現できるように組み立ててあります。

国際文化交流学科の専攻科目を大きく捉えれば，**〈基幹科目〉**，**〈外国語〉**，**〈コース科目〉**という３つの科目群が，三位一体として組み合わされています。これら３つの科目群をバランスよく履修することで，**〈国際文化交流力〉**を身につけることができます。個々の科目は，１年次から４年次へ進むにつれて，**導入 Start・コース選択 Select・専門 Specialize・総合 Synthesize** というルートに沿いながら配置されていて，無理なく力が養成されていくようになっています。

【コース】

国際文化交流学科はコース制をとっています。１年次からコース科目を履修しながら，自分がもっとも興味のあるコースはどれかを考えます。１年次終了時に次の４つのコースのうち１つを選択し，２年次当初に登録します。

（１）文化交流コース

世界のさまざまな文化を的確に理解し，比較によって自文化を相対化しながら，国際的な文化交流ができる人を育成します。

（２）観光文化コース

観光関連産業に従事するだけではなく，さまざまな分野で，草の根レベルでの国際的な相互理解を手助けするエキス

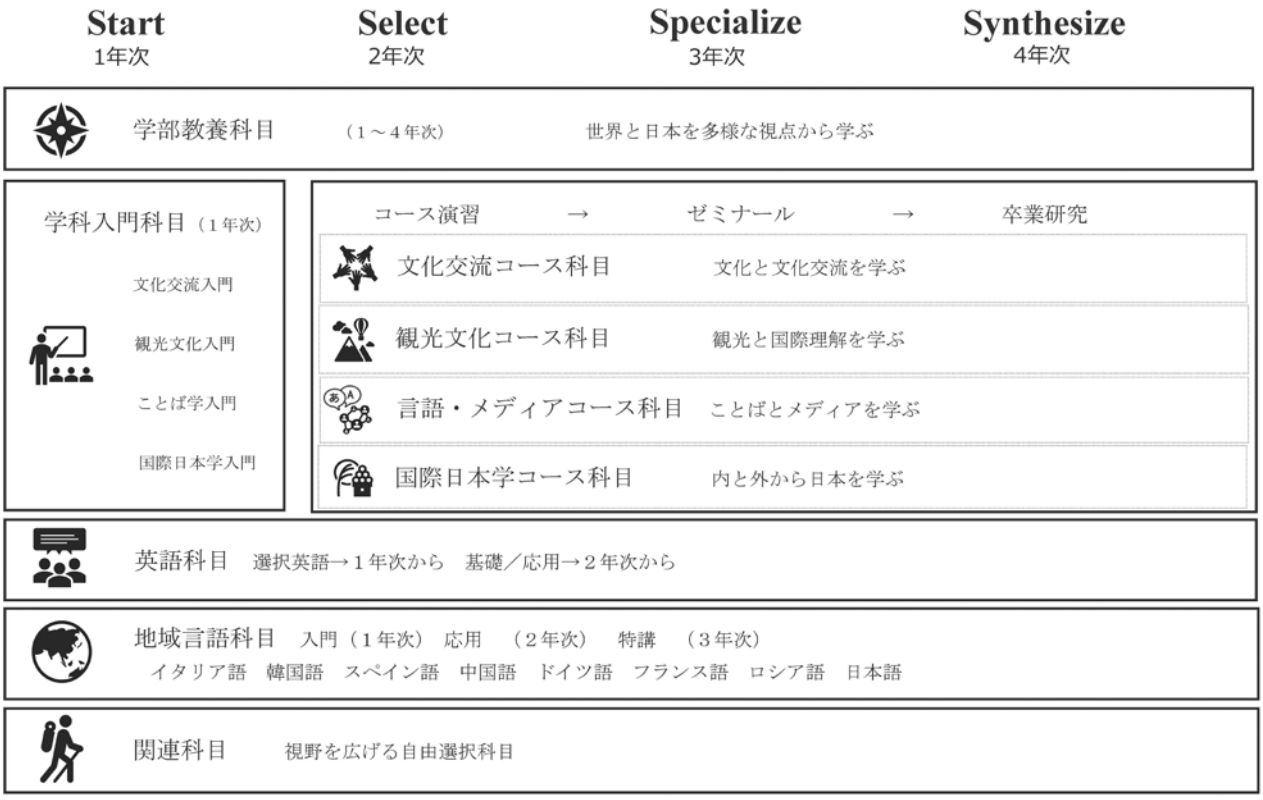
パートを目指します。

（３）言語・メディアコース

「ことば」を意識的かつ客観的に捉え使用できる人を育成します。「ことば力」の実践としてメディアについても学べます。また，日本語教員を目指す人も養成します。

（４）国際日本学コース

内と外から「日本」を見つめ直すことにより，日本文化を複眼的に理解して，日本でも世界でも活躍できる人を目指します。



１．基幹科目

基幹科目は，国際文化交流学科における学修の基本となる科目群であり，多くが**必修**科目となります。必修科目とは，卒業するためには必ず履修しなければならない科目という意味です。

（１）学部教養科目（10単位以上）（１～４年次）

国際日本学部生が共通して履修する科目群で，世界や日本を多様な視点から考察する素養を身につけます。

（２）学科入門科目（８単位）（１年次）

各コース科目への導入をおこなうとともに，コースを選択する参考にしてもらうための科目です。４科目すべてを修得する必要があります。

（３）演習・ゼミナール（８単位以上）（各年次）

少人数のクラスで，ディスカッションや学生による発表などを中心にした科目で，学科の学修の骨格となる科目です。必修科目は以下の通りです。

〇コース演習（２年次）　コースの専門領域における土台を身につけることを目指す必修科目です。

〇ゼミナール（３年次）　指導教員を選択し事前に許可を得た上で，履修する科目です。学生一人ひとりが自ら問題を立て，調査し，研究成果を発表して，ゼミナール全体でそれを共有し，議論していきます。

２．外国語

学科科目の中で専門に特化した「展開科目」のうち，語学の演習を中心とした科目です。

（１）英語（14単位以上）

自分に合ったレベルから始めて，４年間の学修や卒業後の仕事において英語を積極的に使うレベルを目指します。

必修の英語科目（６単位）は２年次から履修します。１年次終了時の TOEIC®スコアにもとづいて，「基礎」と「応用」の２つのレベルに分かれます。また，１年次から履修できる選択英語科目は，自分のニーズや目的に合わせて履修することができます（８単位以上）。１年次の前期では English Learning Strategies，Vocabulary Skills が，１年次の後期からはすべての選択科目も履修可能です。

（２）地域言語（英語以外の外国語）

①イタリア語，韓国語，スペイン語，中国語，ドイツ語，フランス語，ロシア語の７つの言語から１言語を選び，８単位以上修得する必要があります（国際日本学コースは４単位以上）。真の国際人の証しとも言える，多言語使用（日本語＋英語＋地域言語）」を目指します。

②日本語を母語としない場合には，**日本語**を８単位以上修得する必要があります（国際日本学コースは４単位以上）。

３．コース科目

学科科目の中で専門に特化した「展開科目」のうち，各コースの専門分野の学修を深めることを中心とした科目です。２年次当初に自分が登録したコースの科目（以下「自コース科目」）から14単位以上（国際日本学コースは自コース科目から18単位以上），他コース科目から14単位以上を修得する必要があります。他コースの科目も合わせて履修することで，国際文化交流学科としての総合的な知識を身につけます。

（１）文化交流コース

さまざまな領域における文化交流の現場を注目する「文化交流論」（クロス・カルチュラル・スタディーズ）と，世界の地域文化を見渡す「地域文化論」（エリア・スタディーズ）という２つの科目群があります。専門とする分野（学問領域・アプローチ）と地域とをクロスさせることで，学生一人ひとりが自分のテーマを見つけることができます。

（２）観光文化コース

観光学を本格的に学ぶために必要な科目群，観光を通じて国際的な文化理解を目指す科目群，観光インターンシップ（海外・国内）や翻訳・通訳，English for the Tourism Industry などの実践的な科目群があります。観光を知識や技術として学ぶだけでなく，実習等を通して交流の経験や共生に対する認識を獲得し，コミュニケーション力を鍛えることを目指します。

（３）言語・メディアコース

文化の中心である「ことば」を見つめなおす科目群と，コミュニケーションとしての「メディア」について理論と実践から考える科目群があります。ジャーナリズム，放送，広告，ソーシャルメディア等の核に「ことば」があるという認識のもと，ことばやメディアの本質について考えます。また本コースでは日本語教員養成課程（履修要覧「**資格教育課程**」参照）の科目群が多く設置されており，コース科目として履修し，卒業時に資格を取ることができます。

（４）国際日本学コース

グローバルな視点から日本文化を考える科目群（「国際日本文化論」）と，内からの眼で日本文化をとらえる科目群（「日本文化論」）が，一対一対応で編成されています。日本文化を複眼的に，さまざまな分野において認識できるようになります。「国際日本文化論」は，原則として英語使用科目とすることで，英語を学ぶのではなく「英語で」学ぶことができます。

４．関連科目（選択）

日本語教育養成課程のうちで上記言語・メディアコースに設置されているもの以外の科目や，２年次から履修できるゼミ科目であるプレゼミナール，国際日本学部の他学科の科目など，多様な科目が開講されており，すべて自由に選択できる科目です。専攻科目の卒業要件単位数を超える単位などを加えることもでき，あわせて20単位以上履修することが必要です（詳しくは教育課程表・卒業要件表を見てください）。

（１）日本語教育研究科目群（２，３年次）

国際文化交流学科では，日本語教員養成課程の一部をなす科目群が，学科の卒業単位に算入可能な科目として開講されています。「日本語教員」は，外国人（あるいは日本語を母語としない人）に日本語を教える教師を指しています。

（２）プレゼミナール（２年次～）

３年次の必修のゼミナールに先立ち，同様の少人数でのゼミナールをプレゼミナールとして開講しています。ゼミナールと同じく履修の前年度である１年次の後学期に開かれる説明会などを経て，登録をして履修します。募集に先立って，開講されるプレゼミの要項が公開されますので，良く読んで興味を持ったプレゼミに応募して下さい。３，４年次の履修も可能です。

（３）知識や視野を広げる科目（１～４年次）

現代人には必須の情報処理や，多様な外国語（東南アジア言語，アラビア語，ポルトガル語），国際文化交流学科に関連する日本文化や歴史民俗の知識を深める科目などを履修することができます。

なお，各科目群に**留学**に関する科目が設定されています。例えば，「英語」科目群の下にある「**派遣交換留学（語学）**A～D」並びに「コース」科目群の下にある「**派遣交換留学（専門）**A～D」は，英語圏の大学への派遣留学（履修要覧「**留学**」を参照）を行った際，現地の大学で取得した科目の単位を，本学が認定した単位として読み替えるために置かれた科目です。複数の教員による厳正な審査を経て単位を認定します。AからDまで，それぞれ１，２，４，８単位と設定しており，それらを組み合わせることによって，最大30単位まで認定することができます。

「**推薦語学研修**Ⅰ～Ⅳ」は，本学が指定する英語圏への推薦語学研修（履修要覧「**留学**」を参照）に参加，研修を修了し，所定の条件を満たす場合に単位を認定する科目です。留学に関する科目は，英語圏だけでなく他の地域への留学にも対応しており，内容に合わせて「語学」「専門」「実地研修」に分けて認定します。「**海外文化研修**」は，主として文化面の実地研修を目的として，海外に学生を派遣する科目です。

【履修モデル】

４年間の学修を計画するにあたって，つぎのような履修モデルを参考にするのもよいでしょう。

１．国際的な文化交流に携わりたい人へ（文化交流）

国際社会の中で世界の多様な地域の文化や社会を理解するとともに，異なる文化背景の人たちと交流，共生できる国際感覚豊かで創造性を持った人を目指します。

【将来の職業】
旅行・観光業，国際ビジネスを行う民間企業，地方自治体の国際業務部門，JICAなどの国際組織職員，社会貢献を目指すNPOのスタッフ，放送・新聞などのマスコミ，出版・編集，広告業，ホームページ制作，メディアコンテンツ制作，文化イベント企画制作など
【履修科目モデル】
学部教養科目から：国際文化交流論，多文化共生論，国際倫理学，国際宗教論，ことばと文化など
英語・地域言語から：英語はPracticum in Intercultural Communication, Business Communication, Preparation for Study Abroad, Intensive English Practicumまで，地域言語は特講まで
文化交流コースから：興味を感じた地域・テーマを中心とした，できるだけ多くの科目
観光文化コースから：観光交流論など
言語・メディアコースから：言語メディア論など
国際日本学コースから：（国際）日本文化論（社会），（国際）日本文化論（現代文化）など
他学部・他学科から：ボランティア論，国際関係概論，地域国際協力特論など

２．「観光業」を目指す人へ（観光文化）

狭い意味での旅行・観光業だけではなく，さまざまな場面で，草の根レベルでの国際的な相互理解を手助けするエキスパートを目指します。さまざまな状況を超えて「持続可能な観光」に寄与できる力を養います。

【将来の職業】
旅行会社，ホテル・旅館スタッフ，キャビンアテンダント，空港グランドスタッフ等航空会社地上スタッフ，公共交通機関スタッフ，旅行ガイド，添乗員，通訳，国家公務員又は地方公務員（観光関連部門を中心に），イベント・コンベンション運営会社，ブライダル，テーマパークスタッフ，広告代理店など。
【履修モデル】
学部教養科目から：横浜と観光，異文化コミュニケーション論，日本文化論など
英語・地域言語から：英語はBusiness Communication, English for Professional Purposes, Practicum in Intercultural Communication, Practicum in Proficiency Tests, Discussion & Debateまで。地域言語は中国語・韓国語を中心に
文化交流コースから：アジアを対象とした地域文化論，文化交流論（芸術），地域文化論（イスラーム圏）など

観光文化コースから：観光文化論など，できるだけ多くの科目
言語・メディアコースから：ことばと広告メディア，ことばとソーシャルメディアなど
国際日本学コースから：(国際）日本文化論（美術)，(国際）日本文化論（古典芸能，舞台芸術）など
他学部・他学科から：ボランティア論，建築史，地域創生論など

３．「ことば力」を身に付けて活躍したい人へ（言語・メディア）

国内外の様々な場面において，ことば力・コミュニケーション力が求められています。「言語」や「コミュニケーション」について学びながら，「ことば」の持つ力を知り，それを使いこなすエキスパートを育成します。ことば力の実践としてメディア関連科目を言語・メディアコース内に数多く設置し，放送・新聞などのマスコミ，雑誌・書籍などの出版・編集，広告，ソーシャルメディア，IT 業界での活躍を後押しします。また国際文化交流学科では日本語教員養成課程科目を多く設置しているので，言語・メディアコース科目及び関連科目を中心とした所定の科目を履修することによって，卒業時に無理なく日本語教員の資格が取れます。

【将来の職業】
国際ビジネスを行う民間企業，放送・新聞などのマスコミ，雑誌・書籍などの出版・編集，広告，ソーシャルメディア業界，IT 業界，日本語教員，語学学校（英語教育等)，旅行・観光業，JICA などの国際組織職員，社会貢献を目指す NPO のスタッフ，コミュニティ通訳・翻訳，外郭団体等での多文化共生の担い手など

【履修モデル】
学部教養科目から：異文化コミュニケーション論，ことばと文化，ことばとメディア，ことばと人間，メディア・リテラシーなど
英語・地域言語から：英語は Business Communication, English for Professional Purposes まで。多言語の違いを知るためにも，なるべく多くの異なる言語を学習してみること
文化交流コースから：文化交流論（文学)，文化交流論（現代文化）など
観光文化コースから：観光と情報メディア，観光翻訳論，観光通訳演習など
言語・メディアコースから：できるだけ多くの科目
国際日本学コースから：国際日本文化論（言語)，日本文化論（言語)，国際日本文化論（映像メディア)，日本文化論（映像メディア）など
他学部・他学科から：メディア関連業界を目指す人は，現代メディア論，広告論，社会と人間，実践メディア論など
日本語教員を目指す人は,日本語教育研究科目群，及び日本語教員養成課程から科目を多く履修すること

４．日本文化を世界に発信したい人へ（国際日本学）

国際的視野の中で「日本」の特殊性と普遍性を追究し，その魅力を世界に向けて発信できる人を目指します。

【将来の職業】
JICA などの国際組織職員，NPO スタッフ，自治体職員，文化イベント企画制作業，旅行・観光業，放送・新聞などのマスコミ，出版・編集など
【履修科目モデル】
学部教養科目から：日本文化論，観光文化論，国際文化交流論など
英語・地域言語から：英語は Discussion & Debate まで。１年次は中国語，韓国語などの地域言語も
文化交流コースから：文化交流論(芸術)，文化交流論(文学)，文化交流論(思想)など
観光文化コースから：観光地理学，観光と現代社会，人文観光資源論など
言語・メディアコースから：ことばとジャーナリズム，ことばとマス・メディア，ことばと放送メディアなど
国際日本学コースから：できるだけ多くの科目。但し，コースの履修規程に則ること
他学部・他学科から：ボランティア論，歴史民俗学科開講科目をできるだけ多く

5. 英語のスペシャリストとして活躍したい人へ（英語重点）

英語によるディスカッションやディベート，プレゼンテーション，文書作成などを通じ，実践的な英語運用能力を重点的に身につけることにより，国際社会の最前線で活躍できる人や社会の国際化に貢献できる人を目指します。

【将来の職業】

旅行・観光業，国際ビジネスを行う民間企業，地方自治体の国際業務部門，JICA などの国際組織職員，通訳・翻訳業，英会話スクールなどの教育関連業など

【履修科目モデル】

学部教養科目から：異文化コミュニケーション論，現代国際関係論，観光文化論，ことばと人間など

英語・地域言語から：できるだけ多くの応用レベルの科目(Critical Thinking，Public Speaking A，Academic Writing など)，及び選択英語科目（Discussion & Debate，English for Professional Purposes，Business Communication など)，英語で行うコース科目など

文化交流コースから：英語圏を対象とした地域文化論など

観光文化コースから：観光文化事業論，English for the Tourism Industry，観光翻訳論，観光通訳演習など

言語・メディアコースから：ことばの仕組み，ことばの比較，ことばの発達論，外国語の習得論など

国際日本学コースから：国際日本文化論（言語)，国際日本文化論（社会）など

他学部・他学科から：英語学演習，児童英語教育などの英語の教育に関する科目

6. 英語圏を超えて活躍したい人へ（二言語重点）

アジアやヨーロッパで，英語に加えもう一つの言語を武器にして，国際的な活躍を目指します。地域言語（**イタリア語**，**韓国語，スペイン語**，**中国語，ドイツ語**，**フランス語**，**ロシア語**）を必修の単位数を超えて学び，より高度な語学力を養成します。また，国際人としての素養を高めるには，言語だけではなく， その地域の文化や歴史などの多様な知識を身に付けることも必要です。英語圏以外にもさまざまな地域への派遣交換留学や推薦語学研修，海外文化研修が用意されているので，チャレンジしてみましょう。

【将来の職業】

海外（英語圏及び選択した言語の地域）に展開する商社・金融機関・製造業・サービス業，又は旅行業・観光業（日本からの海外旅行に関する業種，外国からの観光客の受け入れに関する業種)

【履修科目モデル】

学部教養科目から：国際倫理学，多文化共生論，国際宗教論，異文化コミュニケーション論，ことばと文化，現代国際関係論，世界地域論，国際文化交流論，比較思想論，観光文化論など

英語・地域言語から：英語は応用レベルを目指し，地域言語は特講まで

文化交流コースから：関心のある地域の地域文化論，文化交流論

観光文化コースから：国際観光論，観光地理学，観光文化事業論など

言語・メディアコースから：ことばとヒト・コミュニケーションなど

国際日本学コースから：国際日本文化論の各科目

他学部・他学科から：関心のある地域に関連する科目

【その他の注意事項】

1．本学科を卒業するためには合計128単位以上の修得が必要ですが，科目群ごとに最小限の履修単位が定められているので，卒業要件表をよく参照してください。

2．２年次から３年次へ進級するためには，「初年次ゼミナール（ＦＹＳ)」２単位，「学科入門科目」４単位，共通教養科目「外国語科目」と専攻科目「英語」のうち10単位以上を修得しなければなりません。

3．「外国語科目」としては英語を必修としています。学科専攻科目としての英語とあわせ，全体として22単位の英語科目の修得が必要です。

4．TOEIC®を３回学内で受験することになっています。その成績によって６単位まで認定される制度もあるので，積極的にチャレンジしてください（「各種検定合格者の単位認定に関する規程」参照)。

5．TOEIC®のほかにも，TOEFL®，実用英語技能検定，実用フランス語技能検定，ドイツ語技能検定，ロシア語能力検定，DELE：スペイン語検定，スペイン語技能検定，ハングル能力検定，漢語水平考試，実用イタリア語検定試験などの単位認定制

度があります（「各種検定試験合格者の単位認定に関する規程」参照）。

6．英語の教職課程を履修する場合，「教科に関する専門的事項」は外国語学部英語英文学科の開講科目を履修することになりますが，20単位を上限として，国際文化交流学科の関連科目に算入できます。

以上

国際文化交流学科

Department of Cross-Cultural Studies

多様な観点、入門、そしてゼミ

学部教養科目では世界や日本を多様な観点から考察する。また学科のコースに関する入門知識を学び、幅広い知識を得る。1 年次から絶え間なく開講されるゼミでは、専門知識を深めると共に、少人数クラスでディスカッションや発表する力を磨く。

英語

自分に合ったレベルから始めて、4 年間の学修や卒業後の仕事において英語を積極的に使えるレベルを目指す。文化理解・発信・交流に不可欠な伝達手段である英語力を身に付ける。

地域言語

イタリア語、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語の 7 言語から選択して学ぶ。日本語、英語と合わせて「3 言語話者」を目指す。

専門知識

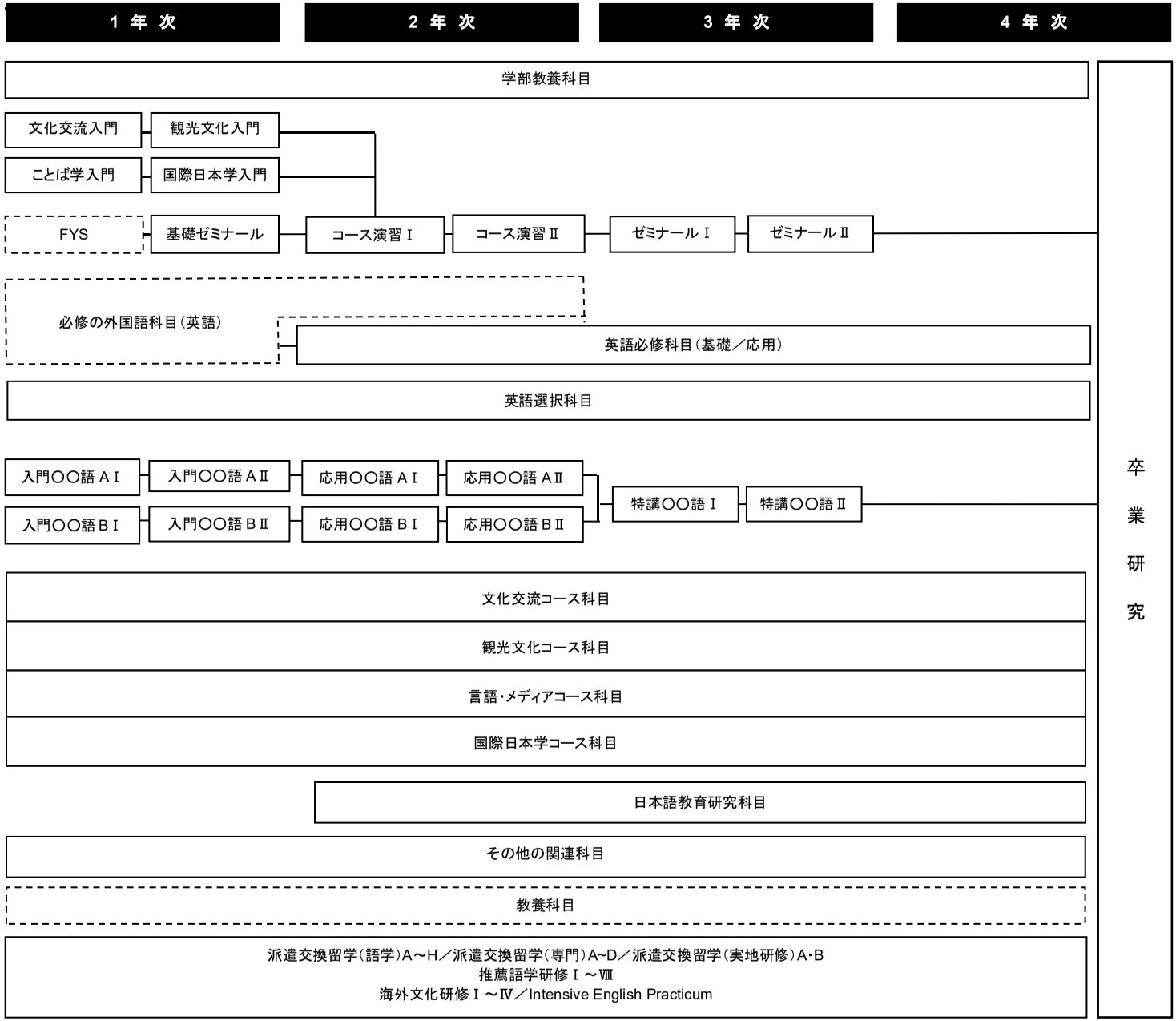
1 年次での学修を踏まえ、2 年次当初に自分の専門分野となるコースに登録する。自コースから 14 単位ないしは 18 単位学ぶが、他コースからも 14 単位学ぶ必要があり、自らの専門知識を深めるとともに、他の分野においても広い知識を身に付ける。

幅広い知識と教養

日本語教員養成課程科目のうち、言語・メディアコースに設置されているもの以外の科目や、国際日本学部の他学科の科目など、多様な科目が開講されている。

留学

留学単位を振り替えたり、留学を促進するための科目が多く開講されている。



＊実線は学科専攻科目、破線は共通教養科目

2023年度　国際文化交流学科　教育課程表（2020年度入学者から適用）

○は必修科目、☆は2年次から履修可の科目、★は日本語教員養成課程との共同開講科目（2年次から履修可）、■は学芸員課程科目（2年次から履修可）を示す。

科目群名		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件（最低）単位
		1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター		
		授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	
基幹科目	学部教養科目	国際倫理学	2	世界地域論	2	メディア・リテラシー	2	ことばと文化	2	ことばとメディア	2	ことばと人間	2	比較思想論	2			10
		国際宗教論	2	戦争と歴史認識	2	国際文化交流論	2	多文化共生論	2	異文化コミュニケーション論	2	ジェンダー文化論	2	日本文化論	2			
		現代国際関係論	2	国際平和論	2	観光文化論	2	横浜と観光	2	横浜の歴史と民俗A	2	オリエンタリズム論	2	文化とアイデンティティ	2			
	演習・ゼミナール			基礎ゼミナール	2	○コース演習I	2	○コース演習II	2	○ゼミナールⅠ	2	○ゼミナールⅡ	2	卒業研究Ⅰ	2	卒業研究Ⅱ	2	8
														卒業論文			4	
	学科入門科目	○文化交流入門	2	○国際日本学入門	2													8
		○ことば学入門	2	○観光文化入門	2													
展開科目	英語（応用）					Critical Thinking Ⅰ	1	Critical Thinking Ⅱ	1									6
						Academic Writing Ⅰ	1	Academic Writing Ⅱ	1									
						Public SpeakingAI	1	Public SpeakingAII	1									
	英語（基礎）					Reading in Content Areas Ⅰ	1	Reading in Content Areas Ⅱ	1									
						Intermediate Composition	1	Intro to Academic Writing	1									
						Public SpeakingBI	1	Public SpeakingBII	1									
	英語（選択）	English Learning Strategies Ⅰ	1	English Learning Strategies Ⅱ	1	Practicum in Intercultural Communication Ⅰ	1	Practicum in Intercultural Communication Ⅱ	1	Advanced Listening Ⅰ	1	Advanced Listening Ⅱ	1					8
		Vocabulary Skills Ⅰ	1	Vocabulary Skills Ⅱ	1	Practicum in Proficiency Tests Ⅰ	1	Practicum in Proficiency Tests Ⅱ	1	Advanced Reading Ⅰ	1	Advanced Reading Ⅱ	1					
				English for Professional Purposes	1	Business Communication Ⅰ	1	Business Communication Ⅱ	1	Advanced Speaking Ⅰ	1	Advanced Speaking Ⅱ	1					
				Intensive English Practicum	4	Preparation for Study Abroad Ⅰ	1	Preparation for Study Abroad Ⅱ	1	Discussion & Debate Ⅰ	1	Discussion & Debate Ⅱ	1					
	英語（留学）	派遣交換留学（語学）A	1	派遣交換留学（語学）B	2	派遣交換留学（語学）C	4	派遣交換留学（語学）D	8									
		推薦語学研修I	2	推薦語学研修II	2	推薦語学研修III	2	推薦語学研修IV	2									
	英語以外の外国語（地域言語）	入門イタリア語ＡⅠ	1	入門イタリア語ＡⅡ	1	応用イタリア語ＡⅠ	1	応用イタリア語ＡⅡ	1	特講イタリア語I	2	特講イタリア語II	2					同一言語8（国際日本学コースでは同一言語4）
		入門イタリア語ＢⅠ	1	入門イタリア語ＢⅡ	1	応用イタリア語ＢⅠ	1	応用イタリア語ＢⅡ	1									
		入門韓国語ＡⅠ	1	入門韓国語ＡⅡ	1	応用韓国語ＡⅠ	1	応用韓国語ＡⅡ	1	特講韓国語I	2	特講韓国語II	2					
		入門韓国語ＢⅠ	1	入門韓国語ＢⅡ	1	応用韓国語ＢⅠ	1	応用韓国語ＢⅡ	1									
		入門スペイン語ＡⅠ	1	入門スペイン語ＡⅡ	1	応用スペイン語ＡⅠ	1	応用スペイン語ＡⅡ	1	特講スペイン語I	2	特講スペイン語II	2					
		入門スペイン語ＢⅠ	1	入門スペイン語ＢⅡ	1	応用スペイン語ＢⅠ	1	応用スペイン語ＢⅡ	1									
		入門中国語ＡⅠ	1	入門中国語ＡⅡ	1	応用中国語ＡⅠ	1	応用中国語ＡⅡ	1	特講中国語I	2	特講中国語II	2					
		入門中国語ＢⅠ	1	入門中国語ＢⅡ	1	応用中国語ＢⅠ	1	応用中国語ＢⅡ	1									
		入門ドイツ語ＡⅠ	1	入門ドイツ語ＡⅡ	1	応用ドイツ語ＡⅠ	1	応用ドイツ語ＡⅡ	1	特講ドイツ語I	2	特講ドイツ語II	2					
		入門ドイツ語ＢⅠ	1	入門ドイツ語ＢⅡ	1	応用ドイツ語ＢⅠ	1	応用ドイツ語ＢⅡ	1									
		入門フランス語ＡⅠ	1	入門フランス語ＡⅡ	1	応用フランス語ＡⅠ	1	応用フランス語ＡⅡ	1	特講フランス語I	2	特講フランス語II	2					
		入門フランス語ＢⅠ	1	入門フランス語ＢⅡ	1	応用フランス語ＢⅠ	1	応用フランス語ＢⅡ	1									
		入門ロシア語ＡⅠ	1	入門ロシア語ＡⅡ	1	応用ロシア語ＡⅠ	1	応用ロシア語ＡⅡ	1	特講ロシア語I	2	特講ロシア語II	2					
		入門ロシア語ＢⅠ	1	入門ロシア語ＢⅡ	1	応用ロシア語ＢⅠ	1	応用ロシア語ＢⅡ	1									
		日本語（総合1）Ⅰ	1	日本語（総合1）Ⅱ	1	日本語演習（応用）ＢⅠ	1	日本語演習（応用）ＢⅡ	1	特講日本語I	2	特講日本語II	2					
		日本語（総合2）Ⅰ	1	日本語（総合2）Ⅱ	1	日本語演習（知識）ＢⅠ	1	日本語演習（知識）ＢⅡ	1									
		日本語（作文1）Ⅰ	1	日本語（作文1）Ⅱ	1	日本語演習（理解）ＢⅠ	1	日本語演習（理解）ＢⅡ	1									
		日本語（作文2）Ⅰ	1	日本語（作文2）Ⅱ	1	日本語演習（知識）ＣⅠ	1	日本語演習（知識）ＣⅡ	1									
		日本語（応用1）Ⅰ	1	日本語（応用1）Ⅱ	1	日本語演習（理解）ＣⅠ	1	日本語演習（理解）ＣⅡ	1									
		日本語（応用2）Ⅰ	1	日本語（応用2）Ⅱ	1	日本語演習（音声）Ⅰ	1	日本語演習（音声）Ⅱ	1									
						日本語演習（表現）Ⅰ	1	日本語演習（表現）Ⅱ	1									
	地域言語（留学）	派遣交換留学（語学）E	1	派遣交換留学（語学）F	2	派遣交換留学（語学）G	4	派遣交換留学（語学）H	8									
		推薦語学研修V	2	推薦語学研修VI	2	推薦語学研修VII	2	推薦語学研修VIII	2									
展開科目	文化交流コース科目（文化交流科目）	文化交流論（社会）	2	文化交流論（宗教）	2	文化交流論（表象）	2	文化交流論（現代文化）	2	比較文化論	2							自コース科目を14（国際日本学コースでは18）、他コース科目を14
		文化交流論（芸術）	2	文化交流論（生活）	2	文化交流論（文学）	2	文化交流論（歴史）	2									
	文化交流コース科目（地域文化科目）	地域文化論（中国）	2	地域文化論（東南アジア）	2	地域文化論（ヨーロッパA）	2	地域文化論（北アメリカ）	2	地域文化論（アフリカ）	2							
		地域文化論（韓国）	2	地域文化論（イスラーム圏）	2	地域文化論（ヨーロッパB）	2	地域文化論（ラテンアメリカ）	2									
	観光文化コース科目	国際観光論	2	観光行動論	2	観光と現代社会	2	観光メディア論	2	観光インターンシップ（国内）	2	観光インターンシップ（海外）	2	文化創生概論	2			
		観光文化史	2	観光交流論	2	観光地理学	2	Communication Skills in Business	2	English for the Tourism Industry A	2	English for the Tourism Industry B	2	文化資源論	2			
		人文観光資源論	2	コミュニティと地域観光文化	2	観光と持続可能性	2	観光文化事業論	2					観光の民俗	2			
						☆観光通訳演習	2	☆観光翻訳論	2									
	言語・メディアコース科目	ことばの仕組みA	2	ことばの仕組みB	2	★ことば学の基礎	2	★ことばと社会	2	★ことばの意味	2	★多文化社会と言語政策	2					
		ことばと心	2	ことばとﾄｰｸｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	2	★ことばの発達論	2	★ことばの比較	2	★ことばの音	2	■博物館情報・メディア論	2					
		外国語の習得論A	2	外国語の習得論B	2													
		言語メディア論	2	ことばとソーシャルメディア	2	ことばと放送メディア（コンテンツ）	2	ことばと放送メディア（実務）	2	ことばとジャーナリズムA	2	ことばとジャーナリズムB	2					
		メディア・ディスコース論	2			ことばと出版メディア（編集・実務）	2	ことばと広告メディア	2	ことばとマスメディアA	2	ことばとマスメディアB	2					
	国際日本学コース科目	日本文化論（言語）	2	国際日本文化論（言語）	2	日本文化論（宗教）	2	国際日本文化論（宗教）	2	日本文化論（美術）	2	国際日本文化論（美術）	2	日本文化論（映像メディア）	2	国際日本文化論（映像メディア）	2	
		日本文化論（歴史）	2	国際日本文化論（歴史）	2	日本文化論（現代文化）	2	国際日本文化論（現代文化）	2	日本文化論（舞台芸術）	2	国際日本文化論（舞台芸術）	2	日本文化論（文化受容）	2	国際日本文化論（文化受容）	2	
		日本文化論（社会）	2	国際日本文化論（社会）	2	国際日本文化論（古典文学）	2	国際日本文化論（近現代文学）	2	日本文化論（古典芸能）	2							
						☆日本文化論（古典文学）	2	☆日本文化論（近現代文学）	2									
	専門・留学	海外文化研修I	2	海外文化研修II	2	海外文化研修III	2	海外文化研修IV	2									
		派遣交換留学（専門）A	1	派遣交換留学（専門）B	2	派遣交換留学（専門）C	4	派遣交換留学（専門）D	8									
関連科目	実地・留学	派遣交換留学（実地研修）A	2	派遣交換留学（実地研修）B	4													20
	日本語教育研究					★日本語教育事情	2	★会話分析	2	★日本語教育概論	2	★日本語教授法	2					
						★日本語教育文法	2	★日本語教育とバイリンガリズム	2	★コースデザイン論	2	★日本語教育研究	2					
						★語用論	2	★日本語意味論	2									
		情報処理Ⅰ	2	情報処理II	2	プレゼミナールI	2	プレゼミナールII	2									
		東南アジア言語I	1	東南アジア言語II	1	☆東アジアの交流史A	2	☆東アジアの交流史B	2									
		アラビア語I	1	アラビア語II	1	☆日本のジェンダー史	2	☆儀礼の民俗	2									
		ポルトガル語I	1	ポルトガル語II	1	☆ジェンダーの民俗	2	☆芸能の民俗	2									
		留学生対象中日翻訳	1	留学生対象日中翻訳	1	ビジネス日本語	1	日本の食文化	2	異文化の学びとキャリア形成Ⅰ	2	異文化の学びとキャリア形成Ⅱ	2					
		ポップカルチャー論A	2	ポップカルチャー論B	2	伝統文化論A	2	伝統文化論B	2									

〔備考〕
1　○印は必修科目，★印は日本語教員養成課程科目（２年次から履修可），■は学芸員課程科目を示す。

〔履修要件〕
1　同一授業科目を重複して履修することはできない。
2　１年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする （通年科目を履修した場合は，その科目の単位数を二分割し，前学期・後学期それぞれの学期の単位数として換算する）。ただし，人間形成の分野の「キャリアデザイン」及び「国内インターンシップ」は、この上限に算入しない。また，卒業要件単位数に算入されない資格教育課程に関する科目の単位数もこの枠外とする。
3　英語以外の外国語（第二外国語）の「日本語」は外国人留学生ならびに外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）を対象とした授業科目であり，履修には資格認定を必要とする。
4　学科科目のうち演習・ゼミナール科目の「コース演習Ⅰ・Ⅱ」については，原則として他学部・他学科の学生は履修することができない。
5　国際文化交流学科・日本文化学科以外の学生で日本語教員養成課程未登録者は，原則として日本語教育研究科目を履修することができない。

〔コース登録〕
1　２年次当初に「文化交流コース」，「観光文化コース」，「言語・メディアコース」，「国際日本学コース」のうち，いずれかのコースを選択し，登録しなければならない。
2　１のコースの変更を希望する者は，３年次当初もしくは４年次当初に「変更届」により申請し，許可を得なければならない。

〔進級要件〕
1　２年次終了までに，以下の単位を修得しなければならない。
（1）初年次ゼミナール２単位。
（2）「学科入門科目」４単位。
（3）共通教養科目「外国語科目」と専攻科目「英語」のうち10単位。

〔学外単位認定制度〕
学則第13条及び第13条の２に基づく次の単位は，本学における授業科目の履修とみなし，卒業要件単位に算入することができる。なお，横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は，各セメスターの履修制限単位数に含める。
1　本学が主催する「派遣交換留学」所定のプログラムで得た成果に応じて本学科で認定された単位。
2　本学が主催又は推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
3　文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で，本学における所定の手続きにより認定された単位。
4　横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で，本学の授業科目として認定された単位。

〔卒業要件〕
1　４年以上在学し，学則所定の次表の卒業要件単位数を修得しなければならない。［ ］は国際日本学コース。

授業科目／入学年度	共通教養科目									専攻科目									合計
	共通基盤科目							共通テーマ科目	共通教養科目合計	基幹科目			展開科目				関連科目	専攻科目合計	
	初年次ゼミナール	外国語科目	教養基礎演習	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	現代社会と市民		学部教養科目	演習・ゼミナール	学科入門科目	英語（第一外国語）	英語以外の外国語（第二外国語）	コース科目	他コース科目			
2020年度以降入学	2	8		4	4	4	2	2	32	10	8	8	14	8［4］	14［18］	14		96	128
			6							20									

（共通教養科目）
2　共通教養科目については、次の単位を含めて32単位以上修得すること。
（1）初年次ゼミナール２単位（必修）。
（2）外国語科目は英語を８単位以上修得すること。
（3）人文・社会・自然の各分野からそれぞれ４単位以上
（4）人間形成の分野から２単位以上。ただし、「キャリアデザイン」及び「国内インターンシップ」の単位は，卒業要件単位数に算入できない。
（5）「共通テーマ科目」から２単位以上。
（6）教養基礎演習、人文・社会・自然・人間形成の各分野及び共通テーマ科目から規定の単位数を超えて６単位以上。
（7）人間形成の分野のうち「キャリアデザイン」及び「国内インターンシップ」の単位は，卒業要件単位数に算入できない。

（**専攻科目**）

3　学部教養科目から10単位以上修得すること。
4　演習・ゼミナールから必修科目を含めて８単位以上修得すること。
5　学科入門科目を８単位修得すること。
6　展開科目英語から14単位以上修得すること。
7　派遣交換留学において非英語プログラム（英語以外の言語で教授されるプログラム）で学修した場合，申請を経て「英語以外の外国語」を第一外国語，「英語」を第二外国語として，卒業要件単位数に算入することができる。
8　文化交流コース，観光文化コース，言語・メディアコースでは，「英語以外の外国語」を同一言語で８単位以上修得すること。
9　国際日本学コースでは，「英語以外の外国語」を同一言語で４単位以上修得すること。
10　文化交流コース，観光文化コース，言語・メディアコースでは，自コース科目から14単位以上修得すること。
11　国際日本学コースでは，自コース科目から18単位以上修得すること。
12　他コース科目から14単位以上修得すること。
13　関連科目から20単位以上修得すること。関連科目の単位として算入できるものは次のとおりとする。
（１）外国語科目を除く共通教養科目の卒業要件単位数を超える単位。（上限６単位）
（２）専攻科目の各科目群の卒業要件単位数を超える単位。
（３）共通教養科目の外国語科目のうち次のいずれかの単位。（上限６単位）
①　選択英語の「中級」「上級」の単位。
②　展開科目の英語以外の外国語として選択しているものと同一言語の「中級」「上級」「特修」の単位。
③　上記①及び②以外の言語の「初級」「中級」「上級」「特修」の単位。
（４）教職課程登録者が修得した「教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）」の単位。（上限６単位）
（５）学芸員課程登録者が修得した「学芸員に関する科目」の単位。（上限６単位）
（６）他学部・他学科開講の専攻科目の単位。ただし，他学部・他学科が受講を認めない科目については，履修することができない。

教育課程における標準年次の区切線について

①　標準年次が実線（―――）で区切られている場合，原則として上位年次の授業科目は履修できない。
②　標準年次が破線（……）で区切られている場合，原則として上位年次の授業科目は履修できるが，［履修要件］等にしたがって履修できない授業科目もありえるので注意すること。

４　履修案内
専攻科目

日本文化学科

日本文化学科履修案内

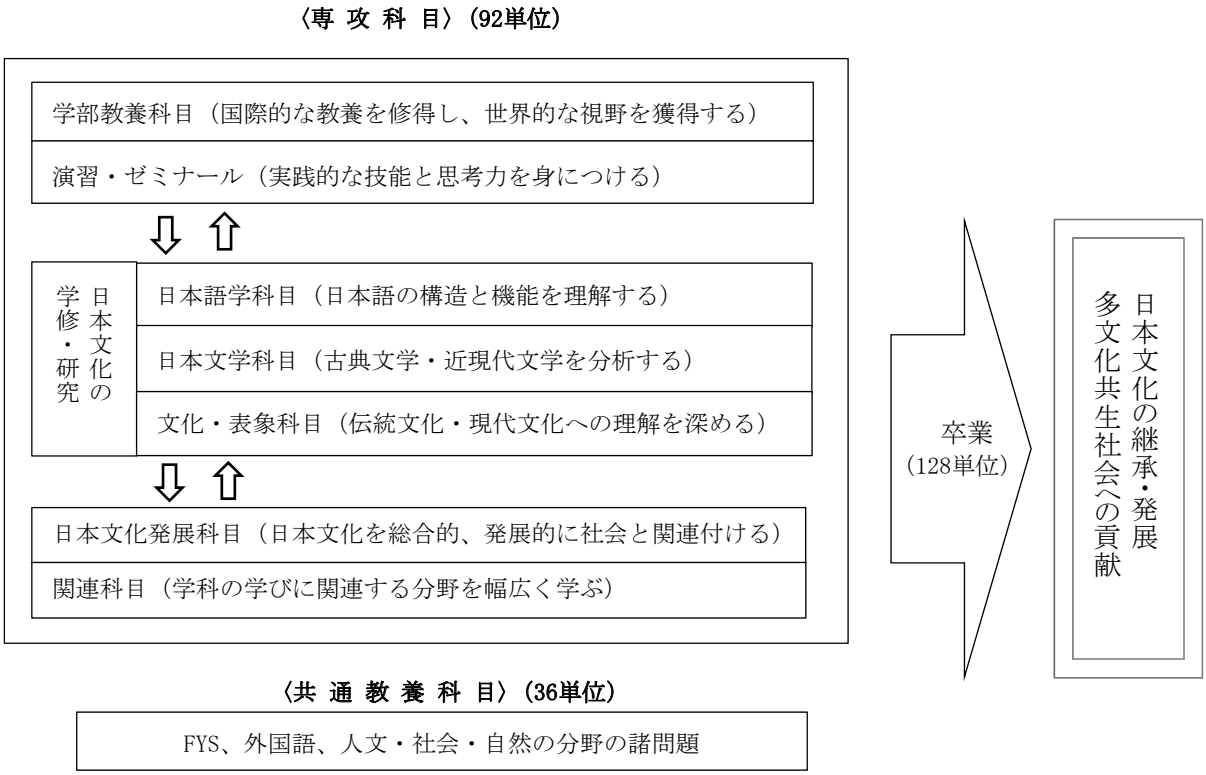
（2022年度入学者から適用）

【日本文化学科の教育目標】

日本文化学科では，日本語の運用能力を高めつつ，日本語の構造や機能，古典から近現代までの日本文学，能・歌舞伎・茶道・華道などの伝統文化，マンガ・アニメなどの現代文化を幅広く学修する。さらに国際的な教養や隣接領域についても学修し，日本文化を世界的に位置づけられる広い視野を獲得する。これらの学修によって，学生が，日本文化を継承・発展させ，さらに多文化共生社会を築いていける能力，知識，人間性を身につけることを，教育目標としている。

【カリキュラムの概要と特色】

本学科の教育目標を実現するためのカリキュラムの構成は以下のようにまとめられる。（　）内は卒業要件単位数。



次に，教育課程表に従って科目群の概要と特色を説明する。それぞれの科目群の特色を理解し，バランス良く計画的に学修してほしい。

〈専攻科目〉

〔基幹科目〕

・［学部教養科目］は国際日本学部の学生として国際的な教養を身につけるための科目群である。世界や日本の現状を知り，日本文化を世界的に位置づけられる広い視野を獲得することが目的となる。

・［演習・ゼミナール］はいずれも少人数クラスで，学生が主体となる科目群である。１・２年次に日本語の運用能力を高めるための「文章表現演習」「文章講読演習」がある。また３年次には，選択した演習クラスの教員の指導のもとで学生自らが興味あるテーマについて研究する「ゼミナール」などがある。ここでの研究が４年次の「卒業研究」につながる。

〔展開科目〕

日本文化を幅広くかつ奥深く学修するために［日本語学科目］［日本文学科目］［文化・表象科目］の３つの科目群が設けられている。また，それらを総合的，発展的に社会と関連付けるための［日本文化発展科目］が設けられている。

・［日本語学科目］は，日本語の文法・語彙・音声などについて学び，その構造や機能を理解するための科目群である。
・［日本文学科目］は，日本の古典文学から近現代文学までを幅広く，また詳細に分析するための科目群である。
・［文化・表象科目］は，浮世絵・茶道・華道・能・歌舞伎などの伝統文化や，演劇・マンガ・アニメなどの現代文化，宗教や食文化など，様々なジャンルの文化事象を通じて，日本文化についての理解を深める科目群である。
・［日本文化発展科目］は，上記３つの科目群で修得した知識や能力を，ジャーナリズム・観光・文化交流などに関連付ける科目群である。

〔関連科目〕

・日本語教員になるために必要な科目，また，派遣交換留学・海外文化研修などの日本文化学科での学びに関連する科目群である。

〈共通教養科目〉

・１年次前期の「初年次ゼミナール（FYS）」は20人程度の少人数クラスで，大学で学修・研究するための基礎を身につける科目である。また，外国語科目，人間・社会・自然・人間形成にかかわる諸問題について広い視野を獲得する共通基盤科目，共通テーマ科目などがある。

【専攻科目の履修要領】

「必修科目」とは卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目のことである。教育課程表の縦線による区切りは，各科目を履修すべき標準年次を示しているが，必修科目に関しては必ずその標準年次に履修すること。また，各科目群が縦線で区切られている場合，原則として上位年次の科目は履修できない。その他の科目は１年次から４年次まで自由に履修することができる。

〔基幹科目〕（20単位）

・［学部教養科目］から５科目（10単位）以上選択して修得すること。
・［演習・ゼミナール］
　・１年次後期の「文章表現演習」（２単位）と，２年次前・後期の「文章講読演習Ⅰ・Ⅱ」（４単位）は必修科目である。12人程度の少人数クラスの授業で，授業クラスは教員が決定する。
　・３年次の前・後期にある「ゼミナールⅠ・Ⅱ」「日本語学演習ＡⅠ・ＡⅡ」「日本語学演習ＢⅠ・ＢⅡ」「日本文学演習ＡⅠ・ＡⅡ」「日本文学演習ＢⅠ・ＢⅡ」（各４単位）は，履修クラスを選択することができる必修科目である。これらの中から必ず４単位以上を修得しなければならない。但し，国語の教員免許取得希望者は，「日本語学演習ＡⅠ・ＡⅡ」「日本語学演習ＢⅠ・ＢⅡ」「日本文学演習ＡⅠ・ＡⅡ」「日本文学演習ＢⅠ・ＢⅡ」の中のいずれか一つを必ず含めて４単位以上を修得しなければならない。なお，各科目の「Ⅰ」と「Ⅱ」は原則として同じ教員による科目を履修しなければならない。
　・４年次前・後期にある「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」「卒業論文」は必修ではないが，４年間の学修の総仕上げとして履修することが望ましい。「卒業論文」は「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」に履修登録したものだけが履修できる。

〔展開科目〕（40単位）

・［日本語学科目］［日本文学科目］［文化・表象科目］は，本学科の学びの軸となる科目群である。［日本語学科目］［日本文学科目］からそれぞれ６単位以上，［文化・表象科目］から８単位以上を修得すること。このうち，１年次前期の「日本語学概論」と後期の「日本文学概論Ｂ」は必修科目である。
・［日本文化発展科目］は他学科の科目を取り入れた科目群である。ここから８単位以上を修得すること。
・以上の28単位（６＋６＋８＋８）以外に，展開科目全体から12単位以上を修得すること。ただし，国語の教職課程登録者は原則として［日本語学科目］［日本文学科目］を中心に履修すること。

※上記の〔基幹科目〕〔展開科目〕の中から，さらに12単位以上を選択して修得すること。但し，そのうちの８単位は，上で述べたように〔基幹科目〕の「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」「卒業論文」であることが望ましい。

〔関連科目〕（20単位）

教育課程表に記載されていない科目で，関連科目の単位として参入できるものについては，教育課程表の次ページにある〔卒業要件〕の９を参照のこと。概括すれば以下の３点である。

・〈共通教養科目〉や，上に述べた〔基幹科目〕〔展開科目〕の卒業要件単位数を超えて履修した科目の単位。
・国語の教職課程，学芸員など，資格に関連する科目の一部。
・日本文化学科の教育課程表に記載のない，他学部他学科開講の科目。

【共通教養科目の履修要領】

〈共通教養科目〉を36単位以上修得すること。詳細は教育課程表の次ページの〔卒業要件〕の２を参照のこと。科目一覧表は★ページを参照のこと。ここでは特に注意すべき点のみ述べる。

・１年次前期の「初年次ゼミナール（FYS)」は必修科目である。
・外国語は「第一外国語」（８単位）と「第二外国語」（４単位）の２種類の言語を修得すること。第一，第二の外国語は，英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語の中から自由に組み合わせてよい。すべて２年次までに履修を終えることが望ましい。
・その他の科目は１年次から４年次まで自由に履修できる。卒業要件の修得単位数に気をつけること。

【その他，履修についての注意事項】

・共通教養科目であれ専攻科目であれ，同一名の科目は重複して履修することができない。
・共通教養科目と専攻科目を合わせて，１年間の履修単位数は48単位（半期24単位）を上限とする。

日本文化学科

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
国際的な教養を修得し、世界的な視野を獲得する。	学部教養科目							
実践的な技能と思考力を身につける。	FYS	文章表現演習	文献講読演習Ⅰ	文献講読演習Ⅱ	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ
							卒業論文	
日本文化の学修・研究								
日本語の構造と機能を理解する	日本語学概論		日本語表現法 日本語文法論A 日本語史 日本語音声学	日本語語彙論 日本語文法論B 日本語学特講	日本語学演習AⅠ 日本語学演習BⅠ	日本語学演習AⅡ 日本語学演習BⅡ		
国語教員になるための素養を身につける								
古典文学・近現代文学を分析する	日本文学概論A	日本文学概論B	日本文学史A 日本古典文学特講 漢文学A	日本文学史B 日本近代文学特講 漢文学B	日本文学演習AⅠ 日本文学演習BⅠ	日本文学演習AⅡ 日本文学演習BⅡ		
伝統文化・現代文化への理解を深める	日本の美術 現代文化論A ポップカルチャー論A 伝統文化論A	伝説・昔話の民俗 現代文化論B ポップカルチャー論B 伝統文化論B	書道Ⅰ 舞台芸能論 日本伝統文化演習A 芸能の民俗	書道Ⅱ 日本芸能論 日本伝統文化演習B	日本の食文化 日本の宗教	文化受容論		
日本文化を総合的、発展的に社会と関連付ける。	日本文化発展科目							
学科の学びに関連する分野を幅広く学ぶ	関連科目							

2023年度　日本文化学科　教育課程表（2022年度入学者から適用）

○は必修科目、●は教職課程必修科目を示す。

科目群名		1年次 1セメスター 授業科目名	単位	1年次 2セメスター 授業科目名	単位	2年次 3セメスター 授業科目名	単位	2年次 4セメスター 授業科目名	単位	3年次 5セメスター 授業科目名	単位	3年次 6セメスター 授業科目名	単位	4年次 7セメスター 授業科目名	単位	4年次 8セメスター 授業科目名	単位	卒業要件（最低）単位		
基幹科目	学部教養科目	国際倫理学	2	世界地域論	2	メディア・リテラシー	2	ことばと文化	2	ことばとメディア	2	ことばと人間	2	比較思想論	2	文化とアイデンティティ	2	10		
		国際宗教論	2	戦争と歴史認識	2	国際文化交流論	2	多文化共生論	2	異文化コミュニケーション論	2	ジェンダー文化論	2	日本文化論	2					
		現代国際関係論	2	国際平和論	2	観光文化論	2	横浜と観光	2	横浜の歴史と民俗A	2	オリエンタリズム論	2							
	演習・ゼミナール			○文章表現演習	2	○文献講読演習Ⅰ	2	○文献講読演習Ⅱ	2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2	卒業研究Ⅰ	2	卒業研究Ⅱ	2	10		
										日本語学演習AⅠ	2	日本語学演習AⅡ	2	卒業論文	4					
										日本語学演習BⅠ	2	日本語学演習BⅡ	2							
										日本文学演習AⅠ	2	日本文学演習AⅡ	2							
										日本文学演習BⅠ	2	日本文学演習BⅡ	2							
展開科目	日本語学科目	○●日本語学概論	2			●日本語表現法	2	日本語語彙論	2									6	40	72
						日本語文法論A	2	日本語文法論B	2											
						日本語史	2	日本語学特講	2											
						●日本語音声学	2													
	日本文学科目	●日本文学概論A	2	○●日本文学概論B	2	●日本文学史A	2	●日本文学史B	2									6		
						日本古典文学特講	2	日本近代文学特講	2											
						●漢文学A	2	●漢文学B	2											
	文化・表象科目					●書道Ⅰ	2	●書道Ⅱ	2									8		
						芸能の民俗	2													
		現代文化論A	2	現代文化論B	2	舞台芸術論	2	日本芸能論	2	日本の食文化	2	文化受容論	2							
		ポップカルチャー論A	2	ポップカルチャー論B	2	日本伝統文化演習A（茶道・華道・服飾）	2	日本伝統文化演習B（音楽・絵画・工芸）	2	日本の宗教	2	伝説・昔話の民俗	2							
						伝統文化論A	2	伝統文化論B	2	日本の美術	2									
	日本文化発展科目					儀礼の民俗	2	Intensive English Practicum	4									8		
						東アジアの交流史A	2	東アジアの交流史B	2											
		ことばと放送メディア（コンテンツ）	2	ことばと放送メディア（実務）	2	観光文化史	2	文化交流論（宗教）	2	地域文化論（中国）	2	日本史概論	2							
		ことばとマスメディアA	2	ことばとマスメディアB	2	観光地理学	2	文化交流論（表象）	2	地域文化論（韓国）	2	信仰の民俗	2							
		ことばとジャーナリズムA	2	ことばとジャーナリズムB	2	観光メディア論	2	文化交流論（芸術）	2	地域文化論（東南アジア）	2									
		ことばと出版メディア（編集・実務）	2	ことばと広告メディア	2			文化交流論（文学）	2											
		言語メディア論	2																	
関連科目	日本語教育研究					日本語教育事情	2	会話分析	2	日本語教育概論	2	日本語教授法	2					20		
						日本語教育文法	2	日本語教育とバイリンガリズム	2			コースデザイン論	2							
						語用論	2	日本語意味論	2											
		派遣交換留学A	1	派遣交換留学B	2	派遣交換留学C	4	派遣交換留学D	8	（申請を経て、卒業要件単位に算入可）										
		海外文化研修I	2	海外文化研修II	2	海外文化研修III	2	海外文化研修IV	2	（申請を経て、(専門)展開科目卒業要件単位に算入可）										
		情報処理Ⅰ	2	情報処理Ⅱ	2	プレゼミナールⅠ	2	プレゼミナールⅡ	2											
		異文化の学びとキャリア形成Ⅰ	2	異文化の学びとキャリア形成Ⅱ	2															

〔備考〕
1　○印は必修科目，●印は教職課程必修科目を示す

［履修要件］
1　同一授業科目を重複して履修することはできない。
2　１年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする（通年科目を履修した場合は，その科目の単位数を二分割し，前学期・後学期それぞれの学期の単位数として換算する）。ただし，教養基礎演習の「文章表現基礎演習」及び人間形成の分野の「国内インターンシップ」は，この枠外とする。また，資格教育課程に関する科目のうち，卒業要件単位数に算入できる科目（「教科教育法Ⅰ～Ⅳ（国語）」）以外の科目もこの枠外とする。
3　学科科目のうち演習・ゼミナール科目の「文章表現演習」「文献講読演習Ⅰ・Ⅱ」については，原則として他学部・他学科の学生は履修することができない。
4　国際文化交流学科・日本文化学科以外の学生で日本語教員養成課程未登録者は，原則として日本語教育研究科目を履修することができない。
5　国語の教職課程登録者については，原則として演習・ゼミナールに配置されている「日本語学演習」及び「日本文学演習」を履修すること。また，展開科目では各科目群で定められている最低単位数に加えて展開科目全体から12単位以上を修得しなければならないが，その単位修得には，原則として日本語学科目及び日本文学科目に配置されている科目を当てること。

［学外単位認定制度］
学則第13条及び第13条の２に基づく次の単位は，本学における授業科目の履修とみなし，卒業要件単位数に算入することができる。なお，横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は，各セメスターの履修制限単位数に含める。
1　本学が主催する「派遣交換留学」所定のプログラムで得た成果に応じて本学科で認定された単位。
2　本学が主催又は推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
3　文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で，本学における所定の手続きにより認定された単位。
4　横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で，本学の授業科目として認定された単位。

［卒業要件］
1　４年以上在学し，学則所定の次表の卒業要件単位数を修得しなければならない。

授業科目／入学年度	共通教養科目										専攻科目									
	共通基盤科目								共通テーマ科目	共通教養科目合計	基幹科目		展開科目				関連科目	専攻科目合計	合計
	初年次ゼミナール	第一外国語科目	第二外国語科目	教養基礎演習	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	現代社会と市民		学部教養科目	演習・ゼミナール	日本語学科目	日本文学科目	文化・表象科目	日本文化発展科目			
2020年度以降入学	2	8	4		4	4	4	2	2	36	10	10	6	6	8	8	20	92	128
				6							12		12						

2　共通教養科目から次の内訳で合計36単位以上を修得すること。ただし，「文章表現基礎演習」「国内インターンシップ」は卒業要件単位数に算入できない。
（１）　初年次ゼミナール２単位。
（２）　第一外国語を８単位以上修得すること。ただし，外国人留学生は母語以外の言語を選択すること。
（３）　第二外国語として，第一外国語以外の外国語（同一言語に限る）科目より４単位以上修得すること。ただし，外国人留学生は母語以外の言語を選択すること。
（４）　人文・社会・自然の各分野からそれぞれ４単位以上修得すること。
（５）　人間形成の分野から２単位以上修得すること。
（６）　共通テーマ科目から２単位以上修得すること。
（７）　教養基礎演習・人文・社会・自然・人間形成の各分野及び共通テーマ科目から，上記（４）～（６）で定められた単位数に加えて，６単位以上修得すること。
3　学部教養科目から10単位以上修得すること。
4　演習・ゼミナールから必修科目を含めて10単位以上修得すること。
5　日本語学科目及び日本文学科目からそれぞれ６単位以上修得すること。
6　文化・表象科目及び日本文化発展科目からそれぞれ８単位以上修得すること。
7　上記の５，６の計28単位の他に，展開科目から12単位以上修得すること。
8　上記の３～７の計60単位の他に，基幹科目及び展開科目から12単位以上修得すること。
9　関連科目から20単位以上修得すること。
関連科目の単位として算入できるものは次のとおりとする。
（１）外国語科目を除く共通教養科目の卒業要件単位数を超える単位。（上限６単位）
（２）専攻科目の各科目群の卒業要件単位数を超える単位。
（３）第一外国語科目，第二外国語科目の卒業要件単位数を超える単位。（上限６単位）
（４）教職課程登録者が修得した「教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）」のうち，「教科教育法Ⅰ(国語)」「教科教育法Ⅱ(国語)」「教科教育法Ⅲ(国語)」「教科教育法Ⅳ(国語)」の８単位。
（５）学芸員課程登録者が修得した「学芸員に関する科目」の単位。（上限６単位）
（６）他学部他学科開講の専攻科目の単位。ただし，他学部・他学科が受講を認めない科目については，履修することができない。

教育課程における標準年次の区切線について
①　標準年次が実線（――― ）で区切られている場合，原則として上位年次の授業科目は履修できない。
②　標準年次が破線（…… ）で区切られている場合，原則として上位年次の授業科目は履修できるが，［履修要件］等にしたがって履修できない授業科目もありえるので注意すること。

４　履修案内
専攻科目

歴史民俗学科

歴史民俗学科履修案内

（2020年度入学者から適用）

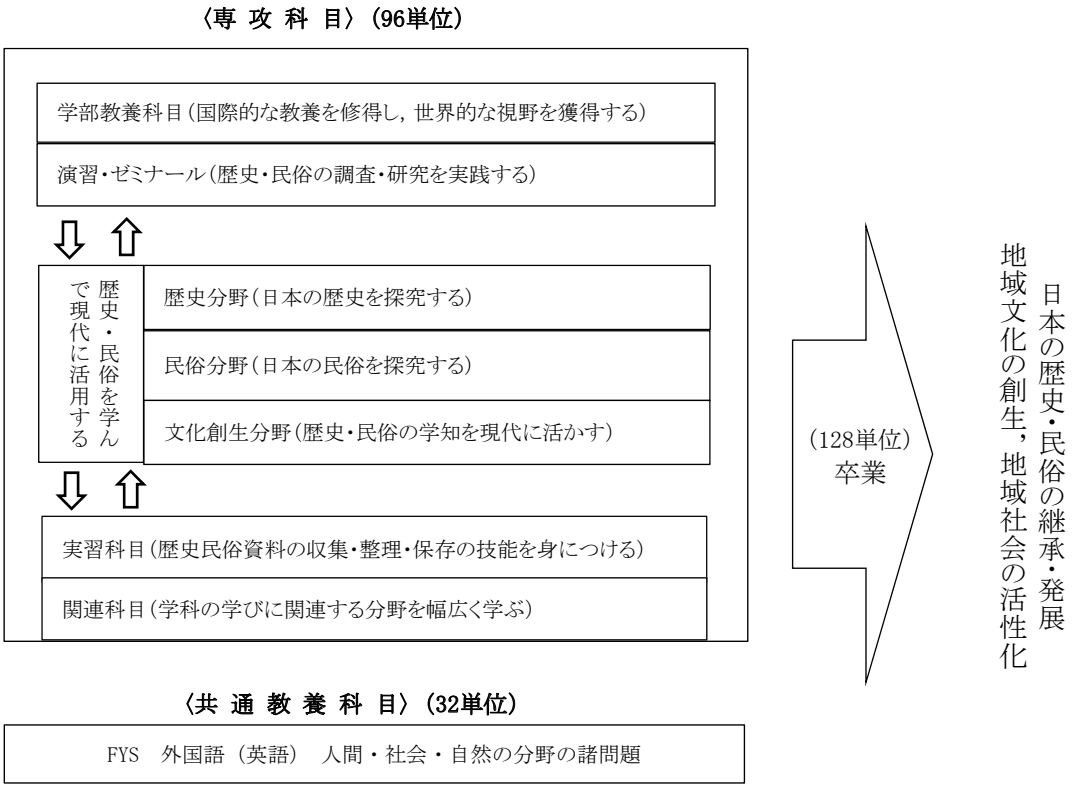
【歴史民俗学科の教育目標】

歴史民俗学科では，学生が，(1) 資料実習やフィールドワークなどを通して日本の歴史と民俗を多角的かつ総合的に理解すること，(2) アジアを中心とした国際的視点から日本の歴史と民俗を位置付けられること，(3) 歴史民俗資料の収集・整理・保存及び活用の技能を身に付けること，(4) 歴史と民俗の継承，地域文化の創生，地域社会の活性化の担い手となることを，教育目標として定めています。

歴史・民俗を中心に日本の過去・現在の文化を深く幅広く理解し，その学知を現代に活かして地域文化の創生，地域社会の活性化など，未来の文化創生に主体的に関わり寄与できる見識・技能を身につけた人間を育成することが，歴史民俗学科の願いです。

【カリキュラムの概要と特色】

歴史民俗学科の教育目標を実現するためのカリキュラムの構成は次のようにまとめられます。() 内は卒業要件単位数。



〈共通教養科目〉(32単位) については本履修案内にすでに説明されているので，ここでは歴史民俗学科の **〈専攻科目〉(96単位)** について，教育課程表・卒業要件にしたがって説明していきます。

歴史民俗学科の **〈専攻科目〉** は，**1. 基幹科目，2. 展開科目，3. 関連科目**の3つの科目群によって構成されています。それぞれの科目群の概要と特色をよく理解して，バランスよく計画的に履修するようにしてください。

〈専攻科目〉(96単位)

1. 基幹科目

基幹科目は，歴史民俗学科における学修の基本となる科目群で，必修科目が多く含まれています。必修科目とは，卒業するために必ず履修しなければならない科目という意味です。

(1) **学部教養科目**（１～４年次）（８単位以上）

国際日本学部の学生が共通して履修する科目群です。世界や日本の現状を知り，歴史・民俗を中心とする日本の文化を多様な視点から考察するための国際的な素養を身につけることを目的とします。

(2) **演習・ゼミナール**（18単位以上）

いずれも少人数・双方向型の授業で，学生の調査・発表や質疑応答・討論などを中心とした科目です。学科の学修の骨格となる科目群です。

○「基礎演習」（１年次後学期）（必修２単位）

歴史・民俗及び文化創生の各分野の調査・研究を進めていくために必要な学問上の手続きや方法論の基礎を実践的に身につける入門科目です。20名程度のクラス授業。

○「専門演習Ⅰ」（２年次前学期）・「専門演習Ⅱ」（２年次後学期）（必修４単位）

「基礎演習」における学修をふまえ，「専門演習Ⅰ」では歴史分野，「専門演習Ⅱ」では民俗分野，それぞれの分野における調査・研究に必要な学問上の手続きや方法論を実践的に身につけます。20名程度のクラス授業。

○「プレゼミナールⅠ」（２年次前学期）・「プレゼミナールⅡ」（２年次後学期）（選択４単位）

学生が自らの興味・関心に従って指導教員を選択し，事前に登録した上で履修する科目です。歴史民俗学科の各専門分野の入門的な理解をめざすとともに，調査・研究の初歩的な能力を身につけます。

○「ゼミナールⅠ」（３年次前学期）・「ゼミナールⅡ」（３年次後学期）（必修４単位）

「ＳゼミナールⅠ」（３年次前学期）・「ＳゼミナールⅡ」（３年次後学期）（選択４単位）

学生が自らの興味・関心に従って指導教員を選択し，事前に登録した上で履修する科目です。指導教員の指導のもと，それぞれの研究分野に必要な専門的な調査・研究能力を身につけます。

ゼミナールは２つまで登録が可能で，１つを必修科目の「ゼミナールⅠ・Ⅱ」（４単位）とし，もう１つを選択科目の「ＳゼミナールⅠ・Ⅱ」（４単位）とすることができます。ただし，「ＳゼミナールⅠ・Ⅱ」として登録できるのは歴史民俗学科の教員が開くゼミナールに限られますので注意してください。

○「卒業研究Ⅰ」（４年次前学期）・「卒業研究Ⅱ」（４年次後学期）（必修４単位）

学生が自らの興味・関心に従って，「ゼミナールⅠ・Ⅱ」又は「ＳゼミナールⅠ・Ⅱ」の指導教員を選択し，事前に登録した上で履修する科目です。各人の問題関心にもとづく研究テーマを設定し，指導教員の指導のもと卒業論文を作成します。完成した「卒業論文」が必修４単位となります。

(3) **実習科目**（８単位以上）

日本の歴史・民俗を調査・研究するために必要な歴史民俗資料の種類・内容・性格について学ぶとともに，その収集・整理・保存及び活用の方法・技能を実践的に修得する科目群です。

○「歴史民俗資料入門Ⅰ」（１年次前学期）・「歴史民俗資料入門Ⅱ」（１年次後学期）（必修４単位）

「歴史民俗資料入門Ⅰ」では歴史分野，「歴史民俗資料入門Ⅱ」では民俗分野，それぞれの分野における資料のあり方について学ぶとともに，神奈川大学日本常民文化研究所が所蔵する資料に実際に触れながら，その扱い方を身につける入門科目です。20名程度のクラス授業。

○「歴史史料実習」（２年次以上）・「民俗調査実習Ⅰ・Ⅱ」（２，３年次）（選択４単位以上）

「歴史史料実習」は，日本史を学ぶ上で欠かせない各時代（古代・中世・近世・近現代）における史料の種類・内容・性格について学ぶとともに，その調査法・読解法の基礎を身につけます。

「民俗調査実習Ⅰ・Ⅱ」は，「民俗調査実習Ⅰ」で民俗学を学ぶ上で欠かせない民俗誌作成のための調査法を学び，「民俗調査実習Ⅱ」でフィールドワークを行って，その成果にもとづき民俗誌を作成します。なお，「民俗調査実習Ⅱ」を履修するためには「民俗調査実習Ⅰ」を事前に履修しておく必要があります。

2. 展開科目

展開科目は，日本の歴史・民俗をさまざまな視点から幅広く学び，その学知を現代に活かして未来の文化創生に寄与する方法・能力を身につけるための科目群で，歴史分野・民俗分野・文化創生分野の3分野で構成されています。

各分野は，必修科目をふくむ概論科目から，より専門的・発展的な科目へと，学生の興味・関心の進展に従って段階的に学ぶことができるようになっています。また，この中には，教職課程・学芸員課程など資格教育課程に関わる科目も含まれています。

各分野ともに１年次から履修できる科目と，２年次から履修できる科目の区別がありますので，教育課程表・卒業要件をよく確認した上で計画的に履修するようにしてください。

(1) **歴史分野**（16単位以上）

概論科目として「日本史概論」（１年次前期）（必修２単位），「人文地理学概論」（選択２単位）が置かれています。

専門的・発展的科目は，日本の古代・中世・近世・近代・現代からなる時代史の科目と，東アジアの交流史・社会史・ジェンダー史・美術史・歴史考古学・歴史地理学などの分野史の科目によって構成されており（いずれも選択２単位），日本の歴史を幅広い視点から学ぶことができます。

(2) **民俗分野**（16単位以上）

概論科目として「民俗学概論」（１年次前期）（必修２単位），「社会学概論」「宗教学概論」「文化人類学概論」（各選択２単位）が置かれています。

専門的・発展的科目は，信仰・伝説昔話・社会・生業・観光・自然・ジェンダー・儀礼・芸能・メディア・民具・東アジア・沖縄など，民俗学が研究対象とするさまざまな分野によって構成されており（いずれも選択２単位），民俗学を幅広い視点から学ぶことができます。

(3) **文化創生分野**（12単位以上）

概論科目として「文化創生概論」（１年次前期）（必修２単位），「政治学概論」（選択２単位）が置かれています。

専門的・発展的科目には，文化創生を実践するために求められる基本的視点と方法を学ぶ多様な科目とともに，学芸員課程に関わる科目群，観光に関わる科目群，マスメディア・ジャーナリズムに関わる科目群などが配置されています（いずれも選択２単位）。

将来，社会・地理歴史の教員，博物館・資料館の学芸員，地域振興や文化行政をになう地方公務員，旅行・観光業，放送・新聞・出版などのマスメディア，文化イベントの企画・制作，地域プランナーなど，さまざまな進路で，地域文化の創生，地域社会の活性化に主体的に関わり寄与していくために必要な素養を身につけることができます。

3. 関連科目

社会・地理歴史の教員になるために必要な科目，また，「情報処理Ⅰ・Ⅱ」や「派遣交換留学」など，歴史民俗学科の学びに関連する科目群です。

【その他，履修についての注意事項】

・共通教養科目・専攻科目ともに同一名の科目を重複して履修することはできません。

・共通教養科目・専攻科目を合わせて１年間の履修単位数は48単位（半期24単位）を上限とします。

歴史民俗学科

	1年次 1セメスター　2セメスター	2年次 3セメスター　4セメスター	3年次 5セメスター　6セメスター	4年次 7セメスター　8セメスター
国際的な教養を修得し、世界的な視野を獲得する。	学部教養科目			
歴史・民俗の調査を実践する	ＦＹＳ 基礎演習	専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ プレゼミナールⅠ プレゼミナールⅡ	ゼミナールⅠ ＳゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ＳゼミナールⅡ	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業論文
歴史民俗資料の収集・整理・保存の技能を身につける	歴史民俗資料入門Ⅰ 歴史民俗資料入門Ⅱ	歴史史料実習（古代・中世・近世・近現代） 民俗調査実習Ⅰ・Ⅱ（民俗調査法を学び、民俗誌を作成する）		
日本の歴史を探究する（歴史分野）	概論科目（日本史概論など）	専門的・発展的科目（時代史と分野史）		
日本の民俗を探究する（民俗分野）	概論科目（民俗学概論など）	専門的・発展的科目（民俗学の諸分野）		
歴史・民俗の学知を現代に活かす（文化創生分野）	概論科目（文化創生概論など）	専門的・発展的科目（文化創生・学芸員・観光・マスメディア・ジャーナリズムなど）		
学科の学びに関連する分野を幅広く学ぶ	関連科目（社会・地理歴史の教員になるために必要な科目など）			

2023年度　歴史民俗学科　教育課程表（2020年度入学者から適用）

○は必修科目、●は教職課程必修科目、■は学芸員課程科目を示す。

科目群名		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件（最低）単位	
		1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター		8セメスター			
		授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位		
基幹科目	学部教養科目	国際倫理学	2	世界地域論	2	メディア・リテラシー	2	ことばと文化	2	ことばとメディア	2	ことばと人間	2	比較思想論	2	文化とアイデンティティ	2	8	
		国際宗教論	2	戦争と歴史認識	2	国際文化交流論	2	多文化共生論	2	異文化コミュニケーション論	2	ジェンダー文化論	2	日本文化論	2				
		現代国際関係論	2	国際平和論	2	観光文化論	2	横浜と観光	2	横浜の歴史と民俗A	2	オリエンタリズム論	2						
	演習・ゼミナール			○基礎演習	2	○専門演習Ⅰ	2	○専門演習Ⅱ	2	○ゼミナールⅠ	2	○ゼミナールⅡ	2	○卒業研究Ⅰ	2	○卒業研究Ⅱ	2	18	
						プレゼミナールⅠ	2	プレゼミナールⅡ	2	ＳゼミナールⅠ	2	ＳゼミナールⅡ	2	○卒業論文			4		
	実習科目	○歴史民俗資料入門Ⅰ	2	○歴史民俗資料入門Ⅱ	2	歴史史料実習（古代）	2	歴史史料実習（中世）	2	歴史史料実習（近世）	2							8	
						歴史史料実習（近現代）A	2	歴史史料実習（近現代）B	2										
						民俗調査実習Ⅰ	2	民俗調査実習Ⅱ	2										
展開科目	歴史分野	○●日本史概論（ｵﾑﾆﾊﾞｽ）	2	日本の古代	2	東アジアの交流史A	2	東アジアの交流史B	2	歴史考古	2	歴史地理	2					16	96
		●人文地理学概論	2	日本の中世	2	日本の社会史A	2	日本の社会史B	2	日本のジェンダー史	2								
		日本の美術	2	日本の近世	2														
				日本の近代	2														
				日本の現代	2														
		日本の宗教	2	日本文化論（言語）	2	日本文学史A	2	日本文学史B	2										
				文化受容論	2														
	民俗分野	○民俗学概論（オムニバス）	2	信仰の民俗	2	自然の民俗	2	ジェンダーの民俗	2	儀礼の民俗	2	芸能の民俗	2					16	
		●社会学概論	2	伝説・昔話の民俗	2	メディアの民俗	2	沖縄の民俗	2	民具論	2								
		●宗教学概論	2	東アジアの民俗	2														
		文化人類学概論	2	社会の民俗	2														
				生業の民俗	2														
				観光の民俗	2														
		地域文化論（中国）	2	文化交流論（生活）	2	舞台芸術論	2	日本芸能論	2	現代文化論A	2	現代文化論B	2						
	文化創生分野	○文化創生概論	2	文化資源論	2	文化創生実践論	2	文化政策論	2	アーカイブス論	2	横浜の歴史と民俗B	2					12	
		●政治学概論	2	文化遺産論	2														
						■博物館概論	2	■博物館展示論	2	■博物館資料論	2	■博物館情報・メディア論	2						
		観光文化史	2	観光と現代社会	2	コミュニティと地域観光文化	2	観光メディア論	2										
		ことばと放送メディア（コンテンツ）	2	ことばと放送メディア（実務）	2	ことばとジャーナリズムA	2	ことばとマスメディアA	2	ことばと出版メディア（編集・実務）	2	ことばと広告メディア	2						
関連科目		派遣交換留学A	1	派遣交換留学B	2	派遣交換留学C	4	派遣交換留学D	8	（申請を経て、卒業要件単位に算入可）								18	
		情報処理Ⅰ	2	情報処理Ⅱ	2														
		●外国史概論A	2	●外国史概論B	2			Intensive English Practicum	4										
		●地誌学概論	2	●自然地理学概論	2	異文化の学びとキャリア形成Ⅰ	2	異文化の学びとキャリア形成Ⅱ	2										

〔備考〕
1　○印は必修科目，●印は教職課程必修科目，■印は学芸員科目を示す。

〔履修要件〕
1　同一授業科目を重複して履修することはできない。
2　１年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする（通年科目を履修した場合は，その科目の単位数を二分割し，前学期・後学期それぞれの学期の単位数として換算する）。ただし，人間形成の分野の「国内インターンシップ」は，この上限に算入しない。また，卒業要件単位数に算入されない資格教育課程に関する科目の単位数もこの枠外とする。
3　学科科目のうち演習科目，実習科目，「ＳゼミナールⅠ・Ⅱ」については，原則として他学部・他学科の学生は履修することができない。
4　社会又は地理歴史の教職課程登録者については，原則として実習科目に配置されている「歴史史料実習」を履修すること。また，展開科目のうち，歴史分野の16単位，民俗分野の16単位及び文化創生分野の12単位を修得するにあたっては，原則としてその半数を「教科に関する専門的事項」に配置されている科目から履修すること。

〔学外単位認定制度〕
学則第13条及び第13条の２に基づく次の単位は，本学における授業科目の履修とみなし，卒業要件単位に算入することができる。なお，横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は，各セメスターの履修制限単位数に含める。
1　本学が主催する「派遣交換留学」所定のプログラムで得た成果に応じて本学科で認定された単位。
2　本学が主催又は推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
3　文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で，本学における所定の手続きにより認定された単位。
4　横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で，本学の授業科目として認定された単位。

〔卒業要件〕
1　４年以上在学し，学則所定の次表の卒業要件単位数を修得しなければならない。

授業科目／入学年度	共通教養科目									専攻科目								合計
	共通基盤科目							共通テーマ科目	共通教養科目合計	基幹科目			展開科目			関連科目	専攻科目合計	
	初年次ゼミナール	外国語科目	教養基礎演習	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	現代社会と市民		学部教養科目	演習・ゼミナール	実習科目	歴史分野	民俗分野	文化創生分野			
2020年度以降入学	2	8		4	4	4	2	2	32	8	18	8	16	16	12	18	96	128
			6															

2　共通教養科目から次の内訳で合計32単位以を修得すること。
（１）初年次ゼミナール２単位（必修）。
（２）外国語科目から英語を８単位。ただし，外国人留学生及び外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）は申請により，英語に換えて，４～６単位を日本語とすることができる。なお，８単位に不足する単位は英語で補うものとする。
（３）人文・社会・自然の各分野からそれぞれ４単位以上修得すること。
（４）人間形成の分野から２単位以上修得すること。ただし，「国内インターンシップ」は卒業要件単位数に算入できない。
（５）共通テーマ科目から２単位以上修得すること。
（６）教養基礎演習，人文・社会・自然・人間形成の各分野及び共通テーマ科目から規定の単位数を超えて６単位以上。
3　専攻科目から次の内訳で96単位以上を修得すること。
（１）　基幹科目から34単位以上修得すること。
①　学部教養科目から８単位以上修得すること。
②　演習・ゼミナールから必修科目の単位を含め18単位以上修得すること。
③　実習科目から必修科目を含め８単位以上修得すること。
（２）　展開科目から各分野の必修科目を含め歴史分野・民俗分野から各16単位以上，文化創生分野から12単位以上修得すること。
（３）関連科目から18単位以上修得すること。
なお，次の科目についても関連科目の単位として算入できる。
①　共通教養科目，基幹科目（学部教養科目，演習・ゼミナール，実習科目），展開科目（歴史分野，民俗分野，文化創生分野）の卒業要件単位数を超える単位。
②　教職課程登録者が修得した「教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）」の単位。（上限６単位）
③　他学部・他学科開講の専攻科目の単位。ただし，他学部・他学科が受講を認めない科目については履修することができない。

教育課程における標準年次の区切線について
①　標準年次が実線（ ── ）で区切られている場合，原則として上位年次の授業科目は履修できない。

4　履修案内
副専攻

副専攻について　（2014年度入学者から適用）

●副専攻とは

みなさんは，自らの所属する学科の科目を主専攻として学んでいます。そのほかに，特定のテーマに沿って体系的にまとめられた科目を副専攻として学ぶことができます。

本学のほとんどの学部・学科では，他学部や他学科で開講されている科目の履修を認め，単位を修得した場合には，その一部（又は全部）を卒業要件単位として算入できる仕組みになっています。副専攻制度はこの仕組みを利用し，在学中に広い視野と多面的な能力を培う機会を提供するものです。

副専攻には，ある学部（学科）がすべての科目を提供する副専攻（単独型）と，複数の学科が科目を提供し学科横断的に実施される副専攻（横断型）の二種類があります。横断型の場合，履修する科目の中に自学科の開講科目が含まれることもあります。

副専攻において修得した他学部・他学科科目の単位は，自らの所属する学科の教育課程表に定める単位の取扱いに従います。

●副専攻を履修するには

つぎに副専攻の登録方法と履修の方法について説明します。各副専攻の開講科目や定員，履修条件などについては後述の『副専攻一覧』を参照してください。

(1) 副専攻は原則として全学の学生に向けて開設されていますが，特定の学部・学科の学生を対象とする副専攻もあります。なお，副専攻の登録は一人につき一副専攻に限ります。複数の副専攻を登録することはできません。

(2) 副専攻の本登録は２年次前学期に行います。

(3) 副専攻ガイダンスについてはWeB St@tionを通じてお知らせします。副専攻登録希望者は必ず確認してください。なお，副専攻科目の中には１年次から履修できる科目もありますので，副専攻の登録を希望する場合は１年次から計画的に履修しておくことが望ましいです。

(4) 定員や登録のための前提条件（前年度に一定の単位数を修得していること等の条件）を設定している副専攻については，事前選考を行い，登録者として決定します。

(5) 副専攻科目の履修登録は，各学部･学科が定める履修上限単位数の範囲内で行います。自学科の科目とのバランスをよく考えて履修登録をしてください。

(6) 副専攻の各科目では，他学部・他学科の学生に対して履修人数を制限する場合があります。履修登録の際は，担当者の許可を得てください。

(7) 各副専攻の定める修了要件を満たした場合は，卒業時に副専攻修了証が授与されます。また，修了者の「卒業・学位証明書」及び「学業成績証明書」には，修了した副専攻名が記載されます。

(8) 基準の単位を満たした場合は，申請により４年次４月以降に副専攻修了見込証明書を取得することができます。

(9) 修得した副専攻科目の単位は副専攻の修了あるいは未了にかかわらず，所属する学科の教育課程表に定める単位の取扱いに従います。

各学部・学科における他学科履修の単位の取扱いは次のとおりです。

学　部　・　学　科		副専攻を構成する他学部・他学科科目を修得した場合の認定群	認定群の卒業要件単位数
法学部	法律学科（2020年度以前入学者）	自由選択科目	14
	法律学科（2021年度以降入学者）		6
	自治行政学科（2020年度以前入学者）	自由選択科目	14
	自治行政学科（2021年度以降入学者）		6
経済学部	経済学科	自由選択科目	10
	現代ビジネス学科	自由選択科目	10
経営学部	国際経営学科（2020年度以前入学者）	副専攻・他学部科目	20
	国際経営学科（2021年度以降入学者）	関連科目	20
外国語学部	英語英文学科	関連科目	20
	スペイン語学科	関連科目	20
	中国語学科	関連科目	24
	国際文化交流学科	関連科目	20
国際日本学部	国際文化交流学科	関連科目	20
	日本文化学科	関連科目	20
	歴史民俗学科	関連科目	18
人間科学部	人間科学科	関連科目	16
理学部	理学科	関連科目	20
	数理・物理学科	関連科目	22
	情報科学科	関連科目	21
	化学科	関連科目	20
	生物科学科	関連科目	20
	総合理学プログラム	関連科目	27
工学部	機械工学科（2022年度以前入学者）	工学部他学科の科目のみ関連科目	6
	機械工学科（2023年度以降入学者）	関連科目	6
	電気電子情報工学科	選択科目（専門科目）	8
	物質生命化学科	関連科目（卒業要件単位として認定しない）	0
	情報システム創成学科	関連科目	4
	経営工学科（2020年度以前入学者）	関連科目	1
	経営工学科（2021～2022年度入学者）	関連科目	2
	経営工学科（2023年度以降入学者）	関連科目	8
	建築学科	関連科目	8
	総合工学プログラム	関連科目	8
	応用物理学科	関連科目	8
建築学部	建築学科	関連科目	8
化学生命学部	応用化学科	関連科目（卒業要件単位として認定しない）	0
	生命機能学科	関連科目（卒業要件単位として認定しない）	0
情報学部	計算機科学科	選択科目	6
	システム数理学科	関連科目（卒業要件単位として認定しない）	0
	先端情報領域プログラム	関連科目（卒業要件単位として認定しない）	0

●副専攻一覧

副専攻名称	科目提供学部	募集対象学部・学科	定員	*履修開始学年
法律学	法学部	法学部を除く全学部	20	1年次
国際協力	法学部・経済学部 外国語学部・国際日本学部 人間科学部	全学部	20	1年次
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ特修	外国語学部・国際日本学部	外国語学部ｽﾍﾟｲﾝ語学科		1年次
地方自治	法学部・経済学部	法学部を除く全学部	20	1年次
日本語・日本研究	法学部・経済学部 外国語学部・国際日本学部 人間科学部	外国語学部国際文化交流学科・国際日本学部を除く全学部全学科	20	1年次
ビジネスマネジメント	経営学部	経営学部を除く全学部（2020年度以前入学者）		1年次
		経済学部・経営学部を除く全学部（2021年度以降入学者）	20	
国際教養	経営学部	経営学部を除く全学部（2020年度以前入学者）		1年次
自然・環境	理学部	理学部を除く全学部		1年次
知能ロボティクス	工学部	機械工学科	20	1年次
		電気電子情報工学科	10	1年次
宇宙理工学	工学部	機械工学科	10	2年次
		応用物理学科	10	2年次
生活･環境デザイン工学	工学部	電気電子情報工学科	10	1年次
		経営工学科	10	2年次

*「履修開始学年」は副専攻登録開始年ではなく，副専攻の一部の科目が１年次配当科目であることを示しています。
２年次で副専攻の登録を予定している場合は，１年次のうちから十分に注意して計画的に履修してください。

●副専攻修了見込証明書発行基準

副専攻名称	修了要件単位数	副専攻修了見込証明書発行基準単位数	
		４月１日現在	10月１日現在
法律学	20	14以上	16以上
国際協力	22※	16以上	18以上
英語コミュニケーション特修（2019年度以前入学者）	22	16以上	18以上
英語コミュニケーション特修（2020年度以降入学者）	20	14以上	16以上
地方自治	20	14以上	16以上
日本語・日本研究	22	16以上	18以上
ビジネスマネジメント	20	14以上	16以上
国際教養（2020年度以前入学者）	20	14以上	16以上
自然・環境	20	14以上	16以上
知能ロボティクス	20	14以上	16以上
宇宙理工学	20	14以上	16以上
生活・環境デザイン	20	14以上	16以上

※第１群から14単位以上，第２群から８単位以上

副専攻名：法律学副専攻

意義と特色
　本専攻は，公務員試験，資格試験，法科大学院進学等の理由から，法律学を専門的に学びたいという他学部生のニーズに対応するものである。
　学問的体系性を考慮して，法律基本科目（憲法・民法・刑法）を中心に科目を設定していることが特色である。

募集対象学部・学科
　法学部を除く全学部

募集定員
　20名

修了要件単位数
　20単位

設定科目一覧

科目名	科目提供学部・学科	配当年次	単位数	備考
憲法Ⅰ	法学部・法律学科	1	2	
憲法Ⅱ	法学部・法律学科	1	2	
憲法Ⅲ	法学部・法律学科	2	2	
憲法Ⅳ	法学部・法律学科	2	2	
民事法入門	法学部・法律学科	1	2	
民法基礎Ａ	法学部・法律学科	1	4	
民法基礎Ｂ	法学部・法律学科	2	4	
民法基礎Ｃ	法学部・法律学科	2	4	
刑事法入門	法学部・法律学科	1	2	
刑法Ⅰ	法学部・法律学科	2	2	
刑法Ⅱ	法学部・法律学科	2	2	
刑法Ⅲ	法学部・法律学科	3	2	
刑法Ⅳ	法学部・法律学科	3	2	
民事訴訟法Ⅰ	法学部・法律学科	3	2	2020年度以前入学者に適用
		2		2021年度以降入学者に適用
刑事訴訟法Ⅰ	法学部・法律学科	3	2	2020年度以前入学者に適用
刑事訴訟法	法学部・法律学科	3	4	2021年度以降入学者に適用

副専攻名：国際協力副専攻

意義と特色

グローバル化の進行とともに「国際協力」の必要性が高まっていることはいうまでもない。その結果，単に海外における活動に限らず，日本における外国人移民の流入など，国内における「共生」や「協力」が求められている。また，さまざまな職業において外国人問題と向き合う可能性は増している。

この副専攻ではいわゆる「周辺諸国」，すなわち，アジア，アフリカ，ラテンアメリカ諸国との「国内」「国外」における国際協力の実践を視点に据え，これらの諸国の政治・経済・社会問題を理解したうえで，「協力」を実践するための基本的知識を修得することを目的としている。

募集対象学部・学科

全学部

募集定員

20名

修了要件単位数

22単位以上（第1群から14単位以上，第2群から8単位以上）

設定科目一覧

［第１群］国際協力

科目名	科目提供学部・学科	配当年次	単位数	備考
国際政治学Ⅱ	法学部・法律学科	2	2	
国際法Ⅰ	法学部・法律学科	2	2	
国際法Ⅱ	法学部・法律学科	2	2	
国際法Ⅲ	法学部・法律学科	3	2	
国際法Ⅳ	法学部・法律学科	3	2	
地域国際協力特論	法学部・自治行政学科	1	2	2020年度以前入学者に適用
国際協力論Ⅰ	法学部・自治行政学科	3	2	2021年度以降入学者に適用
異文化社会論（アジア）	人間科学部	3	2	2014～2018年度入学者に適用
異文化社会論Ａ				2019年度以降入学者に適用
異文化間教育学	人間科学部	2	2	
ボランティア学習論	人間科学部	2	2	
横浜学Ⅱ	人間科学部	3	2	

［第２群］地域研究

科目名	科目提供学部・学科	配当年次	単位数	備考
国際事情（アジアＡ）	外国語学部・国際文化交流学科 国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	2	2019年度以前入学者に適用
国際文化交流論				2020年度以降入学者に適用
国際事情（アジアＢ）	外国語学部・国際文化交流学科 国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	2	2019年度以前入学者に適用
地域文化論（中国）				2020年度以降入学者に適用
中国政治経済概説Ａ	外国語学部・中国語学科	1	2	
中国政治経済概説Ｂ	外国語学部・中国語学科	1	2	
ラテンアメリカ現代研究Ⅰ	外国語学部・スペイン語学科	2	2	
ラテンアメリカ現代研究Ⅱ	外国語学部・スペイン語学科	2	2	
ラテンアメリカ研究Ⅱ－１（地域事情）	外国語学部・スペイン語学科	3	2	2019年度以前入学者に適用
ラテンアメリカ政治経済Ⅰ				2020年度以降入学者に適用
ラテンアメリカ史Ⅰ	外国語学部・スペイン語学科	2	2	
ラテンアメリカ史Ⅱ	外国語学部・スペイン語学科	2	2	
国際協力研修講座	外国語学部・スペイン語学科	3	2	
中国経済論Ⅰ	経済学部・経済学科	3	2	
中国経済論Ⅱ	経済学部・経済学科	3	2	
中東政治経済論Ⅰ	経済学部・経済学科	3	2	
中東政治経済論Ⅱ	経済学部・経済学科	3	2	

副専攻名：英語コミュニケーション特修副専攻

意義と特色

スペイン語学科で学んだことを武器に，グローバル社会での活躍を目指すには，時に高い英語の運用スキルが求められる。

英語コミュニケーション特修副専攻では，英語のコミュニケーション能力をいっそう高め，より専門的かつ実践的な英語力を身に付けた人材を育成する。そのため，高いモティベーションをもった学生に向けた中級以上の科目を設置している。

募集対象学部・学科

外国語学部スペイン語学科

募集定員

定員は設けない

修了要件単位数

20単位（2020年度以降入学者）／22単位（2019年度以前入学者）

設定科目一覧【2020年度以降入学者】

科目名	科目提供学部・学科等	配当年次	単位数
Business CommunicationⅠ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Business CommunicationⅡ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Advanced ReadingⅠ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Advanced ReadingⅡ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Advanced SpeakingⅠ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Advanced SpeakingⅡ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Advanced ListeningⅠ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Advanced ListeningⅡ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Practicum in Proficiency TestsⅠ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Practicum in Proficiency TestsⅡ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Practicum in Intercultural CommunicationⅠ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Practicum in Intercultural CommunicationⅡ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Discussion & Debate Ⅰ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
Discussion & Debate Ⅱ	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
English Learning StrategiesⅠ	国際日本学部・国際文化交流学科	1	1
English Learning StrategiesⅡ	国際日本学部・国際文化交流学科	1	1
Vocabulary SkillsⅠ	国際日本学部・国際文化交流学科	1	1
Vocabulary SkillsⅡ	国際日本学部・国際文化交流学科	1	1
English for Professional Purposes	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	1
English for the Tourism Industry A	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	2
English for the Tourism Industry B	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	2
Communication Skills in Business	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4	2
Presentation and DiscussionⅠ	外国語学部・英語英文学科	3	2
Presentation and DiscussionⅡ	外国語学部・英語英文学科	3	2
Essay WritingⅠ	外国語学部・英語英文学科	3	2
Essay WritingⅡ	外国語学部・英語英文学科	3	2
通訳演習Ⅰ	外国語学部・英語英文学科	4	2
通訳演習Ⅱ	外国語学部・英語英文学科	4	2
翻訳演習Ⅰ	外国語学部・英語英文学科	4	2
翻訳演習Ⅱ	外国語学部・英語英文学科	4	2
海外語学研修（英語）A	－	1～4	2
英語会話（中級Ⅰ）	外国語科目	1～4	1
英語会話（中級Ⅱ）	外国語科目	1～4	1
英語会話（上級Ⅰ）	外国語科目	1～4	1
英語会話（上級Ⅱ）	外国語科目	1～4	1
TOEIC 演習（中級Ⅰ）	外国語科目	1～4	1
TOEIC 演習（中級Ⅱ）	外国語科目	1～4	1
TOEIC 演習（上級Ⅰ）	外国語科目	1～4	1
TOEIC 演習（上級Ⅱ）	外国語科目	1～4	1

設定科目一覧【2019年度以前入学者】

科目名	科目提供学部・学科等	配当年次	単位数
英語表現演習ＡⅠ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
英語表現演習ＡⅡ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
英語表現演習ＢⅠ	外国語学部・国際文化交流学科	3～4	1
英語表現演習ＢⅡ	外国語学部・国際文化交流学科	3～4	1
上級英語演習（リーディング）Ⅰ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
上級英語演習（リーディング）Ⅱ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
上級英語演習（スピーキング）Ⅰ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
上級英語演習（スピーキング）Ⅱ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
英語専門演習（言語）ＡⅠ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
英語専門演習（言語）ＡⅡ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
英語資格演習Ⅰ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
英語資格演習Ⅱ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
英語日本文化演習Ⅰ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
英語日本文化演習Ⅱ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
英語国際文化演習Ⅰ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
英語国際文化演習Ⅱ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
英語ＣＡＬＬ／ＬＬ演習Ⅰ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
英語ＣＡＬＬ／ＬＬ演習Ⅱ	外国語学部・国際文化交流学科	2～4	1
英語海外研修	外国語学部・国際文化交流学科	1～4	2
*英語（Ｏ．Ｃ．Ｓ．）ＡⅢ	外国語科目	1	2
*英語（Ｏ．Ｃ．Ｓ．）ＡⅣ	外国語科目	1	2
*英語（Ｏ．Ｃ．Ｓ．）ＡⅤ	外国語科目	1	2
*英語（Ｏ．Ｃ．Ｓ．）ＡⅥ	外国語科目	1	2
*英語（Ｏ．Ｃ．Ｓ．）ＢⅢ	外国語科目	2	2
*英語（Ｏ．Ｃ．Ｓ．）ＢⅣ	外国語科目	2	2
*英語（Ｏ．Ｃ．Ｓ．）ＢⅤ	外国語科目	2	2
*英語（Ｏ．Ｃ．Ｓ．）ＢⅥ	外国語科目	2	2
*英語（Ｏ．Ｃ．Ｓ．）ＢⅦ	外国語科目	2	2
英語読解・上級Ⅰ	外国語科目	1～4	1
英語読解・上級Ⅱ	外国語科目	1～4	1
英語作文・中級Ⅰ	外国語科目	1～4	1
英語作文・中級Ⅱ	外国語科目	1～4	1
英語作文・上級Ⅰ	外国語科目	1～4	1
英語作文・上級Ⅱ	外国語科目	1～4	1
英語会話・中級Ⅰ	外国語科目	1～4	1
英語会話・中級Ⅱ	外国語科目	1～4	1
英語会話・上級Ⅰ	外国語科目	1～4	1
英語会話・上級Ⅱ	外国語科目	1～4	1
英語リスニング・中級Ⅰ	外国語科目	1～4	1
英語リスニング・中級Ⅱ	外国語科目	1～4	1
英語リスニング・上級Ⅰ	外国語科目	1～4	1
英語リスニング・上級Ⅱ	外国語科目	1～4	1
ＴＯＥＩＣ演習・中級Ⅰ	外国語科目	1～4	1
ＴＯＥＩＣ演習・中級Ⅱ	外国語科目	1～4	1
ＴＯＥＩＣ演習・上級Ⅰ	外国語科目	1～4	1
ＴＯＥＩＣ演習・上級Ⅱ	外国語科目	1～4	1

*英語（Ｏ．Ｃ．Ｓ．）は英語（Oral Communication Skills）を示す。

副専攻

副専攻名：地方自治副専攻

意義と特色

「地方分権」が叫ばれて久しい今日，分権や自治は，すべての国民にとって関心の高いテーマの一つである。この副専攻では，将来，一人の専門的職業人であると同時に，地域に生きる一人の「市民」として，地域の自治の実現に参加し寄与していくために必要な，分権と自治に関する基本的知識とノウハウを提供するものである。

また，法学，政治学，経済学等の各分野にわたり，地方分権や自治に関する基本的な仕組み，関連法制度，わが国のこれまでの取り組みと現在の問題状況及び諸外国の実態等について，多角的に学ぶことができる。特に，元自治体職員や自治体関連の研究組織に長年在籍した実務家出身者の講座が多く，理論だけに拘泥せず，実務の実情を反映した実践的な内容となっているのが特徴である。

募集対象学部・学科
　法学部を除く全学部
募集定員
　20名
修了要件単位数
　20単位

設定科目一覧

科目名	科目提供学部・学科	配当年次	単位数	備考
地域国際協力特論	法学部・自治行政学科	1	2	2020年度以前入学者に適用
国際協力論Ⅰ	法学部・自治行政学科	3	2	2021年度以降入学者に適用
行政法Ⅰ	法学部・自治行政学科	2	2	2020年度以前入学者に適用
		3		2021年度以降入学者に適用
行政法Ⅱ	法学部・自治行政学科	2	2	2020年度以前入学者に適用
		3		2021年度以降入学者に適用
自治体法Ⅰ	法学部・自治行政学科	3	2	2020年度以前入学者に適用
		2		2021年度以降入学者に適用
自治体法Ⅱ	法学部・自治行政学科	3	2	2020年度以前入学者に適用
		2		2021年度以降入学者に適用
基本行政学	法学部・自治行政学科	2	2	
応用行政学	法学部・自治行政学科	2	2	
消費生活行政特論	法学部・自治行政学科	2	2	
地方自治論Ⅰ	法学部・自治行政学科	3	2	
地方自治論Ⅱ	法学部・自治行政学科	3	2	
公共経営論	法学部・自治行政学科	3	2	
自治体経営論	法学部・自治行政学科	3	2	
都市政策論Ⅰ	法学部・自治行政学科	3	2	
都市政策論Ⅱ	法学部・自治行政学科	3	2	
地方財政論Ⅰ	経済学部・経済学科	3	2	
地方財政論Ⅱ	経済学部・経済学科	3	2	

副専攻名：日本語・日本研究副専攻

意義と特色

国際交流や国際協力においては日本に関する知識を持つことが欠かせない。そのため，この副専攻では日本語，日本文化，日本の政治・経済・社会に関する基礎知識を修得することを目的とする。

国際交流や国際協力に際しては，日本文化に対する理解に加えて，日本の政治・経済・社会に関する教養も不可欠である。この副専攻はこうした理念に基づき，日本問題に関する総合的な科目構成となっている。日本語科目が重視されているのは，日本語に関する知識は外国語の修得はいうまでもなく，あらゆる学問の基礎となるからである。さらに，グローバル化の進行とともに日本語の学習を望む外国人は急増しており，将来，何らかの形で日本語を教える立場に立つ可能性も高まっている。そうした場合に，日本語に関する基礎的な知識をもって臨んでほしいと考えるためである。

募集対象学部・学科

外国語学部国際文化交流学科と国際日本学部を除く全学部・全学科

募集定員

20名

修了要件単位数

22単位以上

設定科目一覧

科目名	科目提供学部・学科等	配当年次	単位数	備考
日本語学Ⅰ　*1	共通教養科目	1～4	2	2019年度以前入学者に適用
日本語学Ⅱ　*1	共通教養科目	1～4	2	2019年度以前入学者に適用
日本語学　　*1	共通教養科目	1～4	2	2020年度以降入学者に適用
異文化間教育学　*1	人間科学部	2	2	
文学Ⅰ　*2	共通教養科目	1～4	2	2019年度以前入学者に適用
文学Ⅱ　*2	共通教養科目	1～4	2	2019年度以前入学者に適用
文学　　*2	共通教養科目	1～4	2	2020年度以降入学者に適用
日本史Ⅰ	共通教養科目	1～4	2	2019年度以前入学者に適用
日本史Ⅱ	共通教養科目	1～4	2	2019年度以前入学者に適用
日本史	共通教養科目	1～4	2	2020年度以降入学者に適用
日本政治史	法学部・法律学科	2	2	
日本政治思想史Ⅰ	法学部・法律学科	3	2	
日本政治思想史Ⅱ	法学部・法律学科	3	2	
日本経済史Ⅰ	経済学部・経済学科	2	2	
日本経済史Ⅱ	経済学部・経済学科	2	2	
日本文化論（歴史Ｂ）	外国語学部・国際文化交流学科	1～4	2	2019年度以前入学者に適用
日本文化論（歴史Ａ）	外国語学部・国際文化交流学科	1～4	2	2019年度以前入学者に適用
日本の古代	国際日本学部・歴史民俗学科	1		2020年度以降入学者に適用
日本文化論（近代文学）	外国語学部・国際文化交流学科	1～4	2	2019年度以前入学者に適用
日本文化論（近現代文学） 日本文学史Ｂ	国際日本学部・国際文化交流学科 国際日本学部・日本文化学科	2～4		2020年度以降入学者に適用
日本文化論（古典文学）	外国語学部・国際文化交流学科	1～4	2	2019年度以前入学者に適用
日本文化論（古典文学） 日本文学史Ａ	国際日本学部・国際文化交流学科 国際日本学部・日本文化学科	2～4		2020年度以降入学者に適用
日本文化論（言語）	外国語学部・国際文化交流学科	2	2	
	国際日本学部・国際文化交流学科	1～4		
日本民俗学	外国語学部・国際文化交流学科	1～4	2	2019年度以前入学者に適用
現代社会心理学　*2	人間科学部	2	2	
人口地理学　*2	人間科学部	2	2	
景観地理学　*2	人間科学部	2	2	

*1　「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」「日本語学」「異文化間教育学」のうち2科目4単位を修得しなければならない。

*2　「文学Ⅰ」「文学Ⅱ」及び「文学」については授業内容として日本文学が含まれるとシラバスに記載する担当者の科目，「現代社会心理学」，「人口地理学」及び「景観地理学」については授業内容として日本に関するものが含まれるとシラバスに記載する担当者の科目に，それぞれ限る。副専攻科目として認定される授業担当者の科目の判断に迷う場合は，履修登録前に教務課に確認すること。

副専攻名：ビジネスマネジメント副専攻

意義と特色

高度に発達した国際ビジネス社会の動向を正しく理解し，企業その他の経済主体や事業組織のマネジメントの在り方について，理論的・制度的に学修することが多くの現代人にとって強く求められている。

本副専攻は，企業等のマネジメントに関する専門的知識や技能を修得し，広く産業界で活躍し得る能力を養成することを目的とする。

募集対象学部・学科

経営学部を除く全学部（2020年度以前入学者）

経済学部と経営学部を除く全学部（2021年度以降入学者）

募集定員

定員は設けない（2020年度以前入学者）

20名（2021年度以降入学者）

修了要件単位数

20単位以上

設定科目一覧【2021年度以降入学者】

科目名	科目提供学部・学科	配当年次	単位数	備考
経営の基礎	経営学部	1	2	
会計の基礎	経営学部	1	2	
経営学総論	経営学部	1	2	
デザイン経営論	経営学部	1	2	
簿記原理	経営学部	1	2	
ビジネスモデル入門	経営学部	1	2	
知的財産権と情報倫理	経営学部	1	2	
ミクロ経済学	経営学部	1	2	
会計学原理Ⅰ	経営学部	2	2	
経営管理論	経営学部	2	2	
経営戦略論	経営学部	2	2	
マーケティング戦略論	経営学部	2	2	
ビジネスとテクノロジー	経営学部	3	2	
マーケティング論	経営学部	2	2	
生産管理論	経営学部	2	2	
サプライチェーン・マネジメント	経営学部	3	2	
企業の社会的責任論	経営学部	3	2	
ベンチャー論	経営学部	3	2	

【2020年度以前入学者】

科目名	科目提供学部・学科	配当年次	単位数	備考
会計の基礎	経営学部	1	2	
経済の基礎	共通教養科目	1	2	2019 年度以前入学者に適用
経済学	共通教養科目	1～4	2	2020 年度以降入学者に適用
経営学総論	経営学部	1	2	
知的財産権と情報倫理	経営学部	1	2	
ミクロ経済学	経営学部	1	2	
Management Ⅰ	経営学部	1	2	
会計学原理	経営学部	2	2	
経営メディア論	経営学部	2	2	
経営環境概論	経営学部	2	2	
企業と広告	経営学部	2	2	
e ビジネス論	経営学部	3	2	2018 年度以降入学者に適用
		2	2	2014～2017 年度入学者に適用
Management Ⅱ	経営学部	2	2	
マーケティング論	経営学部	2	2	
情報と職業	経営学部	2	2	
生産マネジメント	経営学部	2	2	
サプライチェーン・マネジメント	経営学部	2	2	
企業の社会的責任論	経営学部	2	2	
ベンチャー論	経営学部	3	2	2018 年度以降入学者に適用
		2	2	2014～2017 年度入学者に適用

副専攻名：国際教養副専攻（2020年度以前入学者）

意義と特色

交通手段の発達と情報技術の革新，他方で政治・経済のボーダレス化と生活・文化のグローバル化が進展する現代社会にあっては，国際間の人的・文化的交流がますます活発に展開されるようになっている。国際社会の平和・安定と人類の幸福・繁栄は，国際交流の発展と異文化理解の進展に依拠しているといえる。

本副専攻は，自然科学分野を主専攻とする学生が，国際交流への理解とそのための外国語力，国際地域事情等を修得し，広く世界で活躍し得る能力を養成することを目的とする。

募集対象学部・学科

経営学部を除く全学部

募集定員

定員は設けない

修了要件単位数

20単位以上

設定科目一覧

科目名	科目提供学部・学科	配当年次	単位数	備考
必修以外の外国語科目	共通教養科目	１～４	---	※
国際社会論	経営学部	1	2	
国際コミュニケーション	経営学部	1	2	2016 年度以降入学者に適用
		2	2	2014・2015 年度入学者に適用
国際関係論	経営学部	2	2	
スタディー・アブロードⅠ	経営学部	1	2	2016 年度以降入学者に適用
		2	2	2014・2015 年度入学者に適用
スタディー・アブロードⅡ	経営学部	1	2	2016 年度以降入学者に適用
		2	2	2014・2015 年度入学者に適用
国際機構論	経営学部	3	2	2018 年度以降入学者に適用
		2	2	2014～2017 年度入学者に適用
世界史	経営学部	2	2	2014～2019 年度入学者に適用
近現代史	経営学部	2	2	2020 年度以降入学者に適用
コミュニケーション論	経営学部	3	2	2018 年度以降入学者に適用
		2	2	2014～2017 年度入学者に適用
多文化社会論	経営学部	3	2	2018 年度以降入学者に適用
多次元文化社会論	経営学部	2	2	2014～2017 年度入学者に適用
国際地域論（北アメリカ）	経営学部	2	2	
国際地域論（東アジア）	経営学部	2	2	
国際地域論（ヨーロッパ）	経営学部	2	2	
国際地域論（オセアニア）	経営学部	2	2	
国際地域論（ロシア・中央アジア）	経営学部	2	2	
国際地域論（中東・アフリカ）	経営学部	2	2	
国際地域論（ラテンアメリカ）	経営学部	2	2	
国際地域論（東南アジア）	経営学部	2	2	
国際地域論（南アジア）	経営学部	2	2	

※　英語については，「特修英語（上級Ⅰ～Ⅳ）」と「特修英語（中級Ⅰ～Ⅳ）」を対象とする。

副専攻名：自然・環境副専攻

意義と特色

現代社会は，科学技術の発展と深く関わっており，科学技術に対する適切な理解無しには成立し得ない状況にある。科学技術は，産業経済を発展させると同時に，環境破壊や生命倫理の問題など各種社会問題をも引き起こしている。このような問題を解決するためには自然科学の基礎知識が不可欠である。

本副専攻は，社会・人文科学分野を主専攻とする学生が，自然科学の基礎並びに意義を学修し理解することにより，社会のあらゆる分野で活躍し得る能力を養成することを目的とする。

募集対象学部・学科

理学部を除く全学部

募集定員

定員は設けない

修了要件単位数

20単位以上

設定科目一覧

科目名	科目提供学部・学科	配当年次	単位数	備考
基礎数学	共通教養科目	1	2	
数学	共通教養科目	1～4	2	
基礎物理学	共通教養科目	1～4	2	
物理学	共通教養科目	1～4	2	
基礎化学	共通教養科目	1	2	
化学	共通教養科目	1～4	2	
基礎生物学	共通教養科目	1～4	2	
生物学	共通教養科目	1～4	2	
科学の世界	共通教養科目	1～4	2	
科学技術と社会	共通教養科目	1～4	2	
体験型研修	共通教養科目	1～4	2	
自然の歴史	理学部理学科	1	2	
天文学概論	理学部理学科	1	2	
化学概論Ⅰ	理学部理学科	1	2	
化学概論Ⅱ	理学部理学科	1	2	
基礎生態学	理学部理学科	1	2	
生物学概論Ⅰ	理学部理学科	1	2	
生物学概論Ⅱ	理学部理学科	1	2	
地球科学概論Ⅰ	理学部理学科	1	2	
地球科学概論Ⅱ	理学部理学科	1	2	
環境と社会	共通教養科目	1～4	2	
文化財基礎化学	理学部理学科	2	2	
応用環境化学	理学部理学科	3	2	
環境生物学	理学部理学科	3	2	

副専攻名：知能ロボティクス副専攻

意義と特色

機械工学，電気電子工学，情報工学の著しい発展に伴い，従来からの産業用途に限らず，多様な分野で各種ロボットの活用が期待されるようになっている。ロボットは複合技術であり，教育分野を学んだ技術者が求められる。

本副専攻は，機械工学科と電気電子情報工学科が共同で設置し，ロボットの開発や設計製作に求められる機械工学と電気電子情報工学に関する横断分野の学修により，次世代のロボット開発に求められる知識や能力を備えた人材育成を目的とする。

募集対象学部・学科

工学部機械工学科・電気電子情報工学科

募集定員

工学部機械工学科20名・電気電子情報工学科10名

修了要件単位数

他学科提供科目10単位以上を含め，20単位以上

設定科目一覧

科目名	科目提供学部・学科	配当年次	単位数	備考
機械要素	工学部・機械工学科	1 ※2	2	
自動制御Ⅰ	工学部・機械工学科	2	2	機械工学科のみ履修可能
機械製図Ⅰ	工学部・機械工学科	2	2	
ロボット工学	工学部・機械工学科	2	2	
自動制御Ⅱ	工学部・機械工学科	2 ※3	2	
工作機械	工学部・機械工学科	3	2	
メカトロニクス	工学部・機械工学科	3	2	
CAD/CAMⅡ	工学部・機械工学科	3	2	
ディジタル工学	工学部・機械工学科	3	2	
プログラミング言語Ⅰ	工学部・電気電子情報工学科	1 ※2	2	
電気回路Ⅰ	工学部・電気電子情報工学科	1 ※2	2	
ディジタルシステム基礎	工学部・電気電子情報工学科	2	2	電気電子情報工学科のみ履修可能
プログラミング言語Ⅱ	工学部・電気電子情報工学科	2 ※3	2	
電気回路Ⅱ	工学部・電気電子情報工学科	2 ※3	2	
電子回路Ⅰ	工学部・電気電子情報工学科	2 ※3	2	
基礎制御工学	工学部・電気電子情報工学科	2	2	電気電子情報工学科のみ履修可能
アルゴリズムとデータ構造	工学部・電気電子情報工学科	3	2	
知能情報学	工学部・電気電子情報工学科	3	2	

※機械工学科提供科目における電気電子情報工学科学生の履修年次及び，
電気電子情報工学科提供科目における機械工学科学生の履修年次を示す。

副専攻名：宇宙理工学副専攻

意義と特色

従来，宇宙開発は国家プロジェクト，国際プロジェクトにより推進されてきた。他方，近年では，宇宙開発は民間企業における活動にシフトしつつある。より精密かつ精確な天気予報も気象衛星によって実現されているのは，その一例である。今後，宇宙開発に必要なロケット等，移駐への各種輸送システム技術から，宇宙観測のための最新技術を学んだ技術者・研究者育成が必要になる。

本副専攻は，機械工学科と応用物理学科が共同で設置し，宇宙環境に関する知識とロケット開発に求められる知識や技術を修得し，各種宇宙開発に従事するために期待される知識や能力を備えた人材育成を目的とする。

募集対象学部・学科

工学部機械工学科・応用物理学科

募集定員

各学科10名

修了要件単位数

他学科提供科目10単位以上を含め，20単位以上

設定科目一覧

科目名	科目提供学部・学科	配当年次	単位数	備考
メカニカルデザイン	工学部・機械工学科	2	2	
材料力学Ⅰ	工学部・機械工学科	2	2	
流体力学Ⅰ	工学部・機械工学科	2	2	
ロケット工学	工学部・機械工学科	2	2	
機械材料	工学部・機械工学科	2 ※3	2	
流体力学Ⅱ	工学部・機械工学科	3	2	
ロケットエンジン	工学部・機械工学科	3	2	
工業熱力学Ⅱ	工学部・機械工学科	3	2	
宇宙科学	工学部・応用物理学科	2	2	
光学計測	工学部・応用物理学科	2	2	
材料物性学	工学部・応用物理学科	2	2	
相対論	工学部・応用物理学科	3	2	
放射線計測	工学部・応用物理学科	3	2	
宇宙環境工学	工学部・応用物理学科	3	2	
衛星システム工学	工学部・応用物理学科	3	2	
放射選シミュレーション	工学部・応用物理学科	3	2	

※機械工学科提供科目における応用物理学科学生の履修年次を示す。

副専攻名：生活・環境デザイン工学副専攻

意義と特色

持続可能な社会構築について，世界的に高い関心が寄せられている。また，Quality of Life (QOL)，すなわち生活の質の向上を図ることも必要になっている。情報通信技術，人間工学，マネジメント手法を適用することによって，これらの課題に対する新たなアプローチが可能になる。

本副専攻は，電気電子情報工学科と経営工学科が共同で設置し，情報通信に関する技術力と人間生活の課題解決力，さらには人間生活に貢献するシステム開発，環境に配慮した持続可能なマネジメント能力を備えた人材育成を目的とする。

募集対象学部・学科

工学部電気電子情報工学科・経営工学科

募集定員

各学科10名

修了要件単位数

他学科提供科目10単位以上を含め，20単位以上

設定科目一覧

科目名	科目提供学部・学科	配当年次	単位数	備考
情報システム基礎	工学部・電気電子情報工学科	1 ※2	2	
ディジタルシステム基礎	工学部・電気電子情報工学科	2	2	
通信工学基礎	工学部・電気電子情報工学科	3	2	
組み込みシステム	工学部・電気電子情報工学科	3	2	
アルゴリズムとデータ構造	工学部・電気電子情報工学科	3	2	
通信ネットワーク工学	工学部・電気電子情報工学科	3	2	
情報ネットワーク	工学部・電気電子情報工学科	3	2	
知能情報学	工学部・電気電子情報工学科	3	2	
人間工学基礎	工学部・経営工学科	2	2	
数理最適化	工学部・経営工学科	2	2	
システム分析・設計	工学部・経営工学科	2	2	
プロジェクトマネジメント	工学部・経営工学科	3	2	
製品サービスシステム	工学部・経営工学科	3	2	
技術マネジメント	工学部・経営工学科	3	2	
環境マネジメント	工学部・経営工学科	3	2	
UX/UI デザイン	工学部・経営工学科	3	2	

※電気電子情報工学科提供科目における経営工学科学生の履修年次を示す。

5　各種案内

語学研修及び留学について

本学では，語学力の一層の向上と国際的感覚の涵養を目的として，海外の大学等への語学研修制度（夏季及び春季休暇中）及び留学制度（４ヵ月以上２年以内）を設けています。

各制度への応募時期や説明会の開催等については，WeB St@tion のお知らせ等で確認してください。神奈川大学ホームページの「国際交流・留学」のページでも確認できます。〔問い合わせ先：国際センター〕

各学部が主催する留学プログラムについては，神奈川大学ホームページの各学部ページをご参照ください。

１．語学研修について

本学が提供する語学研修に，推薦語学研修があります。概要は下記のとおりですが，詳細については，神奈川大学公式ホームページの「国際交流・留学」のページに掲載する募集要項，又は『2023年度留学ガイドブック』で確認してください。

https://www.kanagawa-u.ac.jp/international/

［推薦語学研修］

https://www.kanagawa-u.ac.jp/international/abroad/recommendable/

① 推薦語学研修とは，夏季及び春季休暇中を利用し，海外の大学等が提供する語学研修コースに，学生個人で参加する制度です。

② 原則的には，能力別クラス編成により，研修生の語学習得程度に応じた指導を受けることができます。

③ 研修申込み，渡航手続等はすべて受講者の責任で受講者本人が行うことになりますが，大学がこれを支援します。

④ 教員の引率はありませんが，研修前後１週間以内の旅行等を自由に計画できるため，海外滞在の機会を学生本人の意思と責任に基づいて有効に生かすことが可能です。

⑤ 研修，単位認定等の詳細については国際センターが主催する推薦語学研修説明会や推薦語学研修募集要項で確認してください。

＜応募資格＞

各学部１～４年次生で，向学心旺盛かつ心身共に健康な者で，語学研修に関する本学での事前説明会に出席でき，研修実施機関が定める受講資格を満たす者。

＜推薦語学研修先一覧＞（2023年度予定）

推薦語学研修ホームページ内「研究先大学の案内」よりご確認ください。

※米田吉盛教育奨学金「神奈川大学海外活動支援奨学金」の対象となります。（オンラインの場合は対象外）

https://www.kanagawa-u.ac.jp/campuslife/scholarship/overview/#anc02

＜単位認定＞

単位認定については下記のとおりです。なお，各学部・学科の教育課程により算入される科目群が異なるので，本書「学則及び諸規程－海外語学研修の単位認定に関する取扱規程」で確認してください。

- 英語圏（オーストラリア，ニュージーランド，アメリカ，カナダ，イギリス）:「海外語学研修（英語）」２単位として認定し，卒業要件単位に算入されます。
- 韓国：「海外語学研修（韓国語）」２単位として認定し，卒業要件単位に算入されます。
- 台湾・中国：「海外語学研修（中国語）」２単位として認定し，卒業要件単位に算入されます。
- スペイン：「海外語学研修（スペイン語）」２単位として認定し，卒業要件単位に算入されます。
- ドイツ：「海外語学研修（ドイツ語）」２単位として認定し，卒業要件単位に算入されます。
- フランス：「海外語学研修（フランス語）」２単位として認定し，卒業要件単位に算入されます。
- ロシア：「海外語学研修（ロシア語）」２単位として認定し，卒業要件単位に算入されます。

２．留学について

本学在学中に留学するには，学則第45条に基づいて留学する方法と休学して留学する方法があります。

学則第45条に基づく留学は，留学期間が修学年限に算入され，さらに留学先で修得した単位は，審査のうえ本学の単位として認定されます。学部・学科により異なりますが，留学前の単位修得状況や学修計画によっては４年間で卒業することも可能になります。（関係規程は本書学則及び諸規程「学生の海外留学に関する取扱規程」）

休学による留学は，留学期間が修学年限に算入されないので，卒業は延びますが，単位認定や修得単位数などに関係なく，留学期間中は自由な勉学が可能です。なお，休学して留学する場合は，学生課に休学を願い出てください。

この学則第45条に基づく留学には大きく分けて（1）交換留学，（2）一般留学の２種類があります。手続方法などは下記のとおりです。

なお，留学希望者は，神奈川大学ホームページの「国際交流・留学」のページで詳細を確認してください。

＜国際交流・留学＞

https://www.kanagawa-u.ac.jp/international/

（1）派遣交換留学（中・長期）

https://www.kanagawa-u.ac.jp/international/abroad/exchange/

派遣交換留学とは，本学と海外の大学との学術交流協定に基づき，学生を当該大学へ派遣する制度です。派遣交換留学には，留学期間が約4～6カ月間の短期留学と約１年間の長期留学があります。全学部の学生を対象とする派遣交換留学制度及び対象学部が限定されている部局間での派遣交換留学制度についての概要（2023年度予定）は以下のとおりです。派遣先大学名，学習内容，派遣年次，応募資格などの詳細については，神奈川大学ホームページの「国際交流・留学」のページにて公開されている募集要項で確認してください。なお，募集条件等はやむを得ぬ理由により変更することがあるので留意してください。

＜全学交換留学先一覧＞（2023年度予定）

ホームページ：協定校のご紹介

https://www.kanagawa-u.ac.jp/international/abroad/exchange/

＜単位認定＞

留学先で取得した単位は帰国後本学における審査を経て単位を認定します。認定条件や上限単位数等については所属学科における教育課程表の定めるところによります。

＜授業料＞

留学期間中は通常通り神奈川大学への授業料納入を必要としますが，派遣先大学授業料は免除となります。ただし，一部の大学の授業料は自己負担となります。

＜奨学金＞

派遣先ごとに定められた留学期間を上限とし，本学奨学金（米田吉盛教育奨学金「海外活動支援奨学金」）又は日本学生支援機構「海外留学支援制度（協定派遣）」等による奨学金を支給します。

● 日本学生支援機構「海外留学支援制度（協定派遣）」…月額6～10万円

※今後変更となる場合があります。

(2) 一般留学

一般留学とは，前述の派遣交換留学以外の留学で，私費（本学奨学金以外の奨学金留学生を含む）による留学のことを言います。一般留学については「学生の海外留学に関する取扱規程」を熟読してください。手続方法の概略は次のとおりです。

①自分で大学を選び，留学先大学への入学手続を自分で行う。
②留学先大学からの入学許可書又は受入れ承諾書等を添付した留学願書を，国際センターに提出する。
③留学願書の提出時期は，４月（当該年度後期からの留学予定者）及び10月（翌年度４月からの留学予定者）。
④各学部の教授会における審査の結果，留学を許可する者には海外留学許可証を発行する。

なお，留学するためには，準備期間が必要です。留学願書を提出する前に国際センター及び教務課に相談し，十分な時間をかけて留学計画を立てるようにしてください。

３．その他

横浜キャンパス国際センター（２９号館）では，派遣交換留学・推薦語学研修の報告書を閲覧できるほか，留学に関する書籍，TOEFL®・TOEIC®対策，スペイン語検定，HSK など各試験対策教材や，日本語学習，辞書，語学，留学関連誌，旅行ガイドブックにいたるまで，国際交流に役立つ書籍・雑誌の貸出を行う書籍・検定対策本コーナーを設置しています。またオンラインにて，語学研修や留学の相談も受け付けています。

（申し込み方法は，本学ホームページ「国際交流・留学」から）

各 種 資 格 案 内

大学において所定の単位を修得すれば受験資格が得られたり，卒業後所定の実務経験を満たすことにより免状の交付を受けたり，受験資格が得られる場合があります。
受験資格については変更される場合がありますので，必ず試験実施機関へ確認してください。

各学部学科の取得可能資格

学部	学科	取得可能資格
経営学部	国際経営学科	★税理士，社会保険労務士
		■公認会計士，中小企業診断士，行政書士，不動産鑑定士，ファイナンシャルプランナー，宅地建物取引士，基本情報技術者，旅行業務取扱管理者，ＣＢＳ（国際秘書）
外国語学部	英語英文学科	■（ＪＴＡ公認）翻訳専門職資格試験，全国通訳案内士，実用英語技能検定 旅行業務取扱管理者，ＣＢＳ（国際秘書）
	スペイン語学科	■スペイン語技能検定，ＤＥＬＥ（スペイン語認定証），全国通訳案内士（スペイン語・英語），旅行業務取扱管理者，ＳＩＥＬＥ（スペイン語国際評価サービス）
	中国語学科	■中国語検定，ＨＳＫ（漢語水平考試），全国通訳案内士，旅行業務取扱管理者
	国際文化交流学科	■各種外国語検定，全国通訳案内士，旅行業務取扱管理者
国際日本学部	国際文化交流学科	■各種外国語検定，全国通訳案内士，旅行業務取扱管理者，世界遺産検定
	日本文化学科	■日本語漢字能力検定，日本語検定，文章読解・作成能力検定，旅行業務取扱管理者
	歴史民俗学科	■日本語漢字能力検定，世界遺産検定

★所定科目の単位修得又は学科の卒業により資格試験の受験資格が得られる。（実務経験が必要になる場合があります。）
■在学中の学修により資格試験に向けた準備ができる。

注）上記各学部学科の取得可能資格等は主要なものを抜粋して案内しております。
取得を目指す資格が記載されていなくても，受験資格要件を満たせば試験を受験できる場合があります。

資格取得講座について

本学では，将来の進路に役立てたい，あるいは勉学の励みにしたいといった学生のニーズにこたえるため，正課授業とは別に「神奈川大学資格取得講座」を開設しています。

“リーズナブルな受講料金”と“様々なフォローアップシステム”で，学生のスキルアップを支援するものです。詳細については資格取得講座 HP「神大で資格」もしくは『資格取得講座総合ガイドブック』を参照してください。

＊この資格取得講座はいずれも有料で，卒業に必要な単位には認定されません。ただし，文部科学省認定の技能資格又はそれに準じる技能資格審査については単位認定されるものがあります。詳細は「各種検定試験合格者の単位認定に関する取扱規程」を参照してください。

お問い合わせ

資格取得講座に関する質問・受講に関する相談は，以下までご連絡ください。

KU ポートスクエア／社会連携部

TEL　045－682－5553　　Email　info@ku-portsquare.jp

＜神大で資格 HP＞

各種案内

転部・転科／再入学の制度について

転部・転科

本学の学生が，現在の学部・学科から他学部・学科へ移籍する制度です。
「転部・転科試験要項」は以下のURLまたはQRコードからアクセスして確認してください。
URL　http://www.kanagawa-u.ac.jp/education/transfer/

転部・転科試験要項

再　入　学

本学を退学した者が，再び退学前の学部・学科・年次へ入学する制度です。
「再入学試験要項」は以下のURLまたはQRコードからアクセスして確認してください。
URL　http://www.kanagawa-u.ac.jp/education/readmission/

再入学試験要項

「科目等履修生」及び「研究生」について

［科目等履修生］

神奈川大学学則第35条に基づき，本学の学生以外の者が，学部の開設する授業科目中の１科目又は数科目の履修を希望するときは，各学部において学生の学修に妨げのない限り選考のうえ科目等履修生として入学を許可する制度です。

履修した科目について，所定の試験等に合格した場合は，当該科目の単位を修得することができます。

この制度を利用することで，独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の「学位授与制度」を利用し，学士の学位取得を目指すこともできます。また，本学在学中に取得できなかった教員免許状の取得を目指すことや，社会教育課程，学芸員課程，日本語教員養成課程修了のための不足単位等を補うことができます。

詳細は，神奈川大学公式ホームページに公開されている募集要項をご確認ください。

大学ホームページ
「科目等履修生」

［研究生］

神奈川大学学則第39条の２に基づき，特定の事項について研究しようとする者があるときは選考のうえ，研究生として入学を許可することができる制度です。

大学を卒業して学士の資格を取得した者を対象とし，指導教員のもとで半年又は１年間研究を行います。

現在，この制度を利用して個人や企業からの研究生が，さまざまな分野で研究を行っています。

詳細は，神奈川大学公式ホームページに公開されている募集要項をご確認ください。

大学ホームページ
「研究生」

大　学　院　に　つ　い　て

８研究科からなる本学大学院は，２年間の博士前期課程と３年間の博士後期課程が設けられ，学部教育を深化した高度な研究・開発能力，運用能力の育成を目的として「学部４年間の学びをさらに究めたい」「最先端技術開発に携わる研究者になりたい」という学生のために拓かれています。

各研究科の特色・詳細はホームページをご覧ください。

― 本学大学院の構成 ―

研究科	専攻	博士前期課程		博士後期課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
法学研究科	法律学専攻	１０	２０	３	９
経済学研究科	経済学専攻	１０	２０	２	６
経営学研究科	国際経営専攻	１０	２０	３	９
外国語学研究科	欧米言語文化専攻	１０	２０	３	９
	中国言語文化専攻	５	１０	２	６
人間科学研究科	人間科学専攻	１２	２４	４	１２
理学研究科	理学専攻	５９	１１８	３	９
工学研究科	工学専攻	１２０	２４０	１１	３３
	建築学専攻	３０	６０	３	９
歴史民俗資料学研究科	歴史民俗資料学専攻	２０	４０	６	１８
合計		２８６	５７２	４０	１２０

【教育職員免許状について】

取得を希望する教科・校種の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得している者，又は学部に開講されている教職課程関係の諸科目を科目等履修生として修得した者が，各研究科・専攻で定められた科目を修得し，かつ修士の学位を取得（１年以上在学して30単位以上修得した者を含む）すれば，下表のとおり専修免許状を取得することができます。

表　大学院の課程において取得できる教員免許（2019年度入学者から適用）

取得できる研究科・専攻		免許状の種類	
研究科	専攻	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
法学	法律学	――――	公民
経済学	経済学	――――	地理歴史 公民
経営学	国際経営	――――	公民
外国語学	欧米言語文化	英語	英語
理学	理学	数学 理科	数学 理科
工学	工学	数学	数学 情報 工業
歴史民俗資料学	歴史民俗資料学	社会	地理歴史

【大学院に関する問い合わせについて】

各専攻の教育課程表，講義内容，担当教員の研究分野等詳細については，修学キャンパス教務課の担当窓口へ問い合わせてください。

6　学則及び諸規程

神 奈 川 大 学 学 則

第１章　総　則

第１条　神奈川大学(以下「本大学」という。)は，教育基本法(昭和 22 年法律第 25 号)及び学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)にのっとり，一般教養並びに専門学術の理論及び応用を教授研究し，識見高邁にして実践力に富む人材を育成し，文化の創造発展及び人類の福祉に貢献することを目的とする。

第１条の２　本大学は，教育研究水準の向上を図り，前条の目的を達成するため，関係法令の定めるところにより，教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い，これを公表するものとする。

２　本大学は，前項の点検及び評価の結果について，６年ごとに文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるとともに，本大学以外の機関が行うその他の評価等を通じ，その検証並びに教育研究活動等の改善及び充実に努めるものとする。

３　前２項の点検及び評価を行うにあたっての項目の設定，実施体制等については，別に定める。

第１条の３　本大学は，次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を，刊行物への掲載，インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって公表するものとする。

(1)　本大学の教育研究上の目的に関すること。
(2)　教育研究上の基本組織に関すること。
(3)　教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
(4)　入学者に関する受入方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
(5)　授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
(6)　学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関すること。
(7)　校地，校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。
(8)　授業料，入学金その他の本大学が徴収する費用に関すること。
(9)　本大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

第２条　本大学に法学部，経済学部，経営学部，外国語学部，国際日本学部，人間科学部，理学部，工学部，建築学部，化学生命学部及び情報学部の 11 学部を置く。

２　各学部の修業年限は，４年とする。

３　学生は，８年を超えて在学することはできない。

第３条　法学部には法律学科及び自治行政学科を，経済学部には経済学科及び現代ビジネス学科を，経営学部には国際経営学科を，外国語学部には英語英文学科，スペイン語学科及び中国語学科を，国際日本学部には国際文化交流学科，日本文化学科及び歴史民俗学科を，人間科学部には人間科学科を，理学部には理学科を，工学部には機械工学科，電気電子情報工学科，経営工学科及び応用物理学科を，建築学部には建築学科を，化学生命学部には応用化学科及び生命機能学科を，情報学部には計算機科学科及びシステム数理学科を置く。

第３条の２　前２条に規定する各学部又は各学科の教育研究上の目的については，学部ごとに規程をもって定めるものとする。

第４条　本大学には付属図書館及び付属研究所をおく。

２　付属図書館及び付属研究所に関する規程は，別に定める。

第５条　本大学に次の職員を置く。

学長，学部長，教授，准教授，助教，助手，事務職員，技術職員

２　前項のほか，副学長及び学長補佐を置くことができる。

第５条の２　学長は，本大学を代表し，校務をつかさどり，所属職員を統督する。

２　学部長は，学部を代表し，学部に関する校務をつかさどる。

３　副学長は，学長を補佐し，学長から権限の委任を受けた校務をつかさどる。

４　学長は，前項の規定により副学長に校務の一部の権限を委任したときは，速やかに当該権限の内容及び受任者その他当該権限の行使に必要な事項について評議会に報告するとともに，これを告示しなければならない。

５　学長補佐は，学長から委任された業務について，学長を補佐する。

第６条　本大学の重要事項を審議するために評議会を置く。

２　評議会は，次に掲げる評議員をもって組織する。

(1)　学長
(2)　学部長
(3)　各学部から教授，准教授及び助教のうち２名

３　学長は，次に掲げる事項を決定するに当たっては，評議会に諮問しなければならない。ただし，緊急を要する場合その他やむを得ない事情があるときは，この限りでない。

(1)　学部間の連絡調整に関する事項
(2)　学則その他重要な規則等の制定又は改廃に関する事項
(3)　予算案編成及び決算処理の方針に関する事項
(4)　学部，学科その他重要な施設及び組織の設置又は改廃に関する事項

(5)　教員人事の基準に関する事項(教員定員に関する事項を含む。)
(6)　学生の定員に関する事項
(7)　学生の生活指導，福利厚生及びその身分に関する事項
(8)　その他学長が諮問すべきであると判断する事項
4　学長は，評議会が答申した内容と異なる決定をした場合，又は前項ただし書の規定により評議会に諮問せずに決定した場合には，直近の評議会において，その理由及び当該決定の内容について説明するものとする。
5　評議会に関しては，前各項に規定するもののほか，別に定めるところによる。
第６条の２　本大学の各学部に，学校教育法(以下「法」という。)第93条第１項に規定する教授会を置く。
2　教授会は，学部ごとに，その所属する教授，准教授及び助教をもって組織する。
3　教授会は，次に掲げる事項について審議し，学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
(1)　学生の入学，卒業及び課程の修了
(2)　学位の授与
(3)　前２号に掲げるもののほか，教育研究に関する重要な事項で，教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
4　学長は，前項第３号の規定に基づき当該事項を定める場合には，あらかじめ教授会の意見を聴き，その意見を十分に参酌した上で定めるものとし，これを定めたときは，速やかに告示しなければならない。
5　教授会は，第３項に規定するもののほか，学長及び学部長(以下「学長等」という。)がつかさどる次に掲げる事項について審議し，及び学長等の求めに応じ，意見を述べることができる。
(1)　教員人事に関する事項
(2)　研究に関する事項
(3)　教育に関する事項
(4)　学生の転部，転科，休学，退学その他身上に関する事項
(5)　学部予算の作成及び執行に関する事項
(6)　学長から諮問された事項
(7)　学部長から付議された事項
(8)　その他教授会が必要と認めた事項
6　学長等は，第３項及び前項の規定により教授会が述べた意見の内容と異なる決定をした場合には，直近の評議会又は当該学部の教授会において，その理由及び当該決定の内容について説明しなければならない。ただし，学長が教授会に説明する場合は，書面によることができる。
7　教授会の審議手続に関する規程は，評議会の審議を経て理事会がこれを定める。

第２章　教育課程及び履修方法

第７条　各学部は，教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し，体系的に教育課程を編成する。
2　教育課程は，各授業科目を必修科目，選択必修科目，選択科目及び自由科目に分け，これを各年次に配当して編成する。
3　各学部における授業科目の名称，単位数，年次配当及び履修方法は，別表第１のとおりとする。ただし，必要と認めるときは，教授会の審議を経て，その一部を変更することができる。
4　前３項のほか，外国人留学生等のために必要な授業科目を置くことができる。
5　前各項のほか，教科及び教職に関する科目，社会教育主事・学芸員の資格取得及び日本語教員養成のために必要な授業科目を置く。
第８条　学生は，前条により自己の所属する学部，学科の所定の授業科目を履修しなければならない。
2　学生は，各学部，学科の定めるところにしたがい他の学部，学科の授業科目を履修することができる。
3　教育職員の免許状を取得しようとする者のために教職課程をおく。
各学部，学科の教育課程に応じた中学校及び高等学校の教育職員免許状授与の所要資格を得させるための授業科目については，別表第２のとおりとし，免許状の種類は，別表第３のとおりとする。
4　社会教育主事の資格を得させるために必要な授業科目及び単位数は，別表第４のとおりとする。
5　学芸員の資格を得させるために必要な授業科目及び単位数は，別表第５のとおりとする。
6　日本語教員養成のために必要な授業科目及び単位数は，別表第６のとおりとする。
7　学生は，その年度に履修しようとする授業科目を選択し，指定期間内に履修科目届を提出しなければならない。
8　前各項のほか，各学部，学科の履修については，別に定める。
第８条の２　学生が，職業を有している等の事情により，修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは，当該学部において支障のない場合に限り，その計画的な履修(以下「長期履修」という。)を認めることができる。
2　長期履修の取扱いに関する規程は，別に定める。
第９条　削除

第３章　修了認定及び卒業

第10条　各履修科目の修了は，試験その他の方法によって当該科目担任者がこれを認定する。

２　成績は秀，優，良，可，不可の５段階に分けて評価し，秀，優，良，可を合格とし，不可を不合格とする。
３　合格者は，第７条の別表第１に規定する単位数を取得したものとする。
第 10 条の２　前条に規定する単位の認定は，授業科目の履修が修了する学年末又は学期末において行う。
第 11 条　各授業科目の単位数は，１単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により単位数を計算する。
(1)　講義及び演習については，15 時間から 30 時間までの授業をもって１単位とする。
(2)　実験，実習及び実技については，30 時間から 45 時間までの授業をもって１単位とする。
(3)　１の授業科目について，講義，演習，実験，実習又は実技のうち２以上の方法の併用により行う場合については，５時間の講義及び 20 時間の実験の授業をもって１単位とすることを基準とする。
２　前項の規定にかかわらず，卒業論文，卒業研究等の授業科目については，これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には，これらに必要な学修を考慮して，単位数を定めることができる。
第 12 条　前条第１項に規定する講義，演習，実験，実習又は実技による授業は，文部科学大臣が別に定めるところにより，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
２　前項に規定する授業の方法により修得できる単位数は，60 単位を限度とする。
第 12 条の２　大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)を卒業又は中途退学し，新たに本大学の第１年次に入学した学生の既修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)については，教育上有益と認められる場合に限り，教授会の審議を経て，本大学において修得したものとして認定することができる。
２　前項の規定による単位認定は，60 単位を超えない範囲内で行う。
３　前２項の規定による単位認定と関連して修業年限の短縮は行わない。
４　単位認定の手続等に関する規程は，別に定める。
第 13 条　本大学学生であって，他大学における授業科目履修を希望する者があるとき，審査のうえ教育上有益と認められる場合に限り，学部長は，教授会の審議を経て，これを許可することができる。
２　学部長は，教授会の審議を経て，学生が前項の規定により授業科目について修得した単位を本大学において修得したものとして認定することができる。ただし，認定し得る単位数は，前条により認定する単位数と合わせて 60 単位を限度とする。
３　前２項に関する規程は，別に定める。
第 13 条の２　本大学学生であって，入学前又は入学後に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修は，教育上有益と認められる場合に限り，本大学における授業科目の履修とみなし，単位を認定することができる。
２　前項により認定し得る単位数は，第 12 条の２及び前条により認定する単位数と合わせて 60 単位を限度とする。
３　前２項に関する規程は，別に定める。
第 14 条　本大学に通算して４年以上在学し，第８条から前条までに規定する方法で所定の授業科目及び単位数を履修取得した者に対しては卒業を認める。ただし，留学中の者についてはその留学期の終了後とする。
第 15 条　本大学を卒業した者には，学士の学位を授与する。
２　前項の学位の授与は，神奈川大学学位規程の定めるところによる。

第４章　学年，学期及び休業日

第 16 条　学年は，４月１日に始まり翌年３月 31 日に終わる。
第 17 条　学年を分けて次の２期とする。ただし，前学期の終了日，後学期の開始日は，学年暦編成上の必要により変更することがある。
前学期　４月１日に始まり９月 30 日に終わる。
後学期　10 月１日に始まり翌年３月 31 日に終わる。
第 18 条　休業日は，次のとおりとする。
(1)　日曜日
(2)　国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日
(3)　本大学創立記念日５月 15 日
(4)　春季休業　３月 21 日から３月 31 日まで
(5)　夏季休業　７月 11 日から９月 10 日まで
(6)　冬季休業　12 月 25 日から翌年１月７日まで
(7)　前各号に掲げるもののほか，学長が指定する日
２　前項の規定にかかわらず，教育上必要があると認めるときは，同項の休業日を授業日に変更することができる。

第５章　入学

第 19 条　本大学学生の収容定員は，次のとおりである。

		入学定員	収容定員
法学部	法律学科	400 名	1,600 名
	自治行政学科	200 名	800 名
	計	600 名	2,400 名
経済学部	経済学科	650 名	2,600 名
	現代ビジネス学科	300 名	1,200 名
	計	950 名	3,800 名
経営学部	国際経営学科	530 名	2,120 名
	計	530 名	2,120 名
外国語学部	英語英文学科	200 名	800 名
	スペイン語学科	90 名	360 名
	中国語学科	60 名	240 名
	計	350 名	1,400 名
国際日本学部	国際文化交流学科	170 名	680 名
	日本文化学科	60 名	240 名
	歴史民俗学科	70 名	280 名
	計	300 名	1,200 名
人間科学部	人間科学科	300 名	1,200 名
	計	300 名	1,200 名
理学部	理学科	275 名	1,100 名
	計	275 名	1,100 名
工学部	機械工学科	145 名	580 名
	電気電子情報工学科	145 名	580 名
	経営工学科	90 名	360 名
	応用物理学科	60 名	240 名
	計	440 名	1,760 名
建築学部	建築学科	200 名	800 名
	計	200 名	800 名
化学生命学部	応用化学科	110 名	440 名
	生命機能学科	80 名	320 名
	計	190 名	760 名
情報学部	計算機科学科	100 名	400 名
	システム数理学科	100 名	400 名
	計	200 名	800 名
	合計	4,335 名	17,340 名

第 20 条　入学時期は，学年の初めとする。ただし，学長は，教授会の審議を経て，後学期の初めとすることができる。

第 21 条　本大学に入学する者は，次の各号のいずれかに該当する者であることを要する。

(1)　高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2)　通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者

(3)　外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5)　専修学校の高等課程(修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6)　文部科学大臣の指定した者

(7)　大学入学資格検定規程(昭和 26 年文部省令第 13 号)により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者又は高等学校卒業程度認定試験規則(平成 17 年文部科学省令第１号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

(8)　本大学の入学資格審査により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，18 歳に達したもの

第 22 条　本大学に入学を許可される者は，所定の入学試験に合格した者に限る。

第 23 条　本大学在学者で他の学部，学科に転部・転科を希望する者は，選考のうえこれを許可することがある。

２　前項の転部･転科者の在学年数については,元の学部,学科の在学年数の全部又は一部を算入することができる。

第 24 条　本大学への編入学，転入学又は再入学を希望する者については，次の各号のいずれかに該当する者について選考のうえ，相当年次に入学を許可することができる。
(1)　大学を卒業した者又は退学した者
(2)　短期大学，高等専門学校，国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者
(3)　学校教育法施行規則(昭和 22 年文部省令第 11 号。以下「省令」という。)附則第７条に定める従前の規定による高等学校，専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了又は卒業した者
(4)　法第 132 条に定める専修学校の専門課程を修了した者
(5)　法第 88 条に定める大学の学生以外の者として大学において一定の単位を修得した者
(6)　その他前各号に定める者と同等の資格があると認められるもの
２　前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱いについては，その者の申請に基づき教授会の審議を経て，学長が決定する。
３　第１項の規定により入学を許可された者の在学すべき年数については，教授会の審議を経て，学長が決定する。
第 25 条　削除
第 26 条　外国人で入学を希望する者については選考のうえ特別学生として入学を許可することがある。
第 27 条　入学の許可を受けた者は，所定の書式による誓約書，保証人の保証書及び本大学所定の書類を提出し，入学金，授業料その他所定の納入金を納入しなければならない。
第 28 条　前条の保証人は，父母又はこれらに準ずるもので独立の生計を営む成年者であることを要する。なお，保証人として不適当と認めたときはその変更を命ずることがある。
第 29 条　保証人は，学生在学中に関する一切の事項につきその責に任ずるものとする。
第 30 条　保証人が死亡その他の事由で，その責務を尽くし得ない場合には，新たに保証人を選定して届け出なければならない。

第６章　科目等履修生，委託生及び研究生

第 31 条　削除
第 32 条　削除
第 33 条　削除
第 34 条　削除
第 35 条　本大学の学生以外の者が，学部の開設する授業科目中の１科目又は数科目の履修を希望するときは，各学部において学生の学修に妨げのない限り選考のうえ科目等履修生として入学を許可することがある。
２　科目等履修生の取扱いは，別に定める。
第 36 条　削除
第 37 条　削除
第 38 条　削除
第 39 条　官公庁，法人又は外国政府より委託せられた学生を委託生とする。
２　委託生の取扱いは，科目等履修生に準ずる。
第 39 条の２　本大学において，特定の事項について研究しようとする者があるときは選考のうえ，研究生として許可することができる。
２　研究生として許可する者は，大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。
３　研究生の取扱いについては，別に定める。
第 40 条　科目等履修生，委託生及び研究生に関して本章各条に規定しない事項については，神奈川大学学則を準用する。ただし，第３章中第 14 条及び第 15 条は適用しない。

第７章　休学，留学，退学，転学及び除籍

第 41 条　病気その他の事由により長期にわたって修学することができない者は，所定の手続を経て休学を願い出るものとする。
２　休学は，１学期又は１学年を区分とし，当該年度限りとする。ただし，特別の事情がある場合は，引き続き休学を許可することができる。
３　休学期間は，通算して３年を超えることができない。
第 42 条　病気の事情によっては休学を命ずることができる。
第 43 条　休学の事由がやんだときは，復学を願い出るものとする。
２　復学は学期又は学年の始めとする。
第 44 条　休学期間は，在学年数に算入しない。
第 45 条　外国の大学に留学して授業科目を履修しようとする者が，保証人連署のうえ，その旨を願い出たときは，留学を許可することができる。
２　留学期間は，第 14 条に定める修学年限に算入することができる。
３　留学期間中外国の大学において修得した単位数については，第 13 条の規定を準用する。
４　留学期間中，学生は，授業料その他の学生納入金を別に定めるところにより納入しなければならない。
５　留学に関する学内手続その他については，別に定める。

第 46 条　退学しようとする者は，保証人連署の退学願を出さなければならない。
第 47 条　他の大学へ転学しようとする者は，その事由を具し，保証人連署のうえ願い出て許可を受けなければならない。
第 48 条　次の各号のいずれかに該当する者は，本大学より除籍する。
(1)　在学８年を超えてなお卒業し得ない者
(2)　進級制を実施している学部・学科の学生で，在学４年を超えてなお３年次への進級要件を満たし得ない者
(3)　所定の授業料，履修費，研修料その他の納入金を期日までに納入しない者

第８章　授業料，履修費，研修料その他の納入金

第 49 条　授業料，履修費，研修料その他の納入金の額は，別表第７に定める。
第 50 条　授業料その他の納入金は，毎学年の初めにその全額を納入するものとする。ただし，別に定めるところにより分納を認める。
第 51 条　休学期間中の授業料その他の納入金は，別に定めるところにより減額する。ただし，１分納期を全休した者に限る。
第 52 条　学年の中途において退学した者又は除籍された者もその学年の授業料その他の納入金は，納入しなければならない。
第 53 条　既納の授業料その他の納入金は，いかなる理由があっても一切返還しない。

第９章　奨学制度

第 54 条　本大学に給費，貸費及び学費減免の奨学制度をおく。
２　奨学制度に関する規程は，別に定める。

第 10 章　賞罰

第 55 条　一般の模範とするに足る行為のあった学生を褒賞することがある。
第 56 条　法令若しくは本大学の諸規則示達に違反した者又は学生としての本分に反した者については，学長はこれを懲戒する。
２　懲戒の手続については，省令第 26 条第５項の規定に基づき学長が別に定める。
第 57 条　削除

第 11 章　寄宿寮

第 58 条　本大学に附属寄宿寮をおくことができる。
２　寄宿寮に関する規程は，別に定める。

附　則

１　本学則は昭和 24 年４月１日から施行する。

：

（略）

：

附　則（平成 26 年２月 20 日改正）

１　本学則は，平成 26 年２月 20 日から施行する。ただし，次項の規定は平成 18 年４月１日から，附則第３項の規定は平成 23 年４月１日から，附則第４項の規定は平成 24 年４月１日から適用する。
２　平成 18 年度学則別表第１（第７条関係）教育課程及び履修方法の一部を次のように改正する。
(8)　経営学部国際経営学科専攻科目中に次の授業科目を追加する。

配当群	授業科目の名称	授業を行う年次	単位数又は時間数
選択科目	循環型社会論	３年次	２単位（選択）

３　平成 23 年度学則別表第１（第７条関係）教育課程及び履修方法の一部を次のように改正する。
(2)　経営学部基本科目中の授業科目の名称を次のように改める。

配当群	平成 22 年度までの授業科目の名称	平成 23 年度からの授業科目の名称	授業を行う年次	単位数又は時間数
外国語科目	朝鮮語Ⅰ	韓国語Ⅰ	１年次	２単位（選択）
外国語科目	朝鮮語Ⅱ	韓国語Ⅱ	１年次	２単位（選択）
外国語科目	朝鮮語Ⅲ	韓国語Ⅲ	１年次	２単位（選択）
外国語科目	朝鮮語Ⅳ	韓国語Ⅳ	１年次	２単位（選択）
外国語科目	上級朝鮮語Ⅰ	上級韓国語Ⅰ	２年次	１単位（選択）
外国語科目	上級朝鮮語Ⅱ	上級韓国語Ⅱ	２年次	１単位（選択）
外国語科目	上級朝鮮語Ⅲ	上級韓国語Ⅲ	２年次	１単位（選択）

外国語科目	上級朝鮮語Ⅳ	上級韓国語Ⅳ	２年次	１単位（選択）

(8)　経営学部国際経営学科専攻科目中の次の授業科目を廃止する。

配当群	授業科目の名称	授業を行う年次	単位数又は時間数
選択科目	一般化学Ⅰ	１年次	２単位（選択）
選択科目	一般化学Ⅱ	１年次	２単位（選択）

4　平成 24 年度学則別表第１（第７条関係）教育課程及び履修方法の一部を次のように改正する。

(3)　理学部基礎科目中の次の授業科目を廃止する。

配当群	授業科目の名称	授業を行う年次	単位数又は時間数
教養系科目	生物科学の世界	１年次	２単位（選択）

(8)　経営学部国際経営学科専攻科目中の次の授業科目を廃止する。

配当群	授業科目の名称	授業を行う年次	単位数又は時間数
選択科目	経営学特殊講義	３年次	２単位（選択）
選択科目	生物科学の世界	１年次	２単位（選択）

(8)　経営学部国際経営学科専攻科目中に次の授業科目を追加する。

配当群	授業科目の名称	授業を行う年次	単位数又は時間数
選択科目	経営学特殊講義Ⅰ	１年次	２単位（選択）
選択科目	経営学特殊講義Ⅱ	２年次	２単位（選択）
選択科目	経営学特殊講義Ⅲ	２年次	２単位（選択）
選択科目	経営学特殊講義Ⅳ	３年次	２単位（選択）

：

（略）

：

附　則（令和２年４月１日改正）

1　本学則は，令和２年４月１日から施行する。

2　本学則は，施行日以後に第１年次に入学する者から適用し，施行日の前日において在学する者に係る学部，学科の組織，教育課程，卒業要件等については，なお従前の例による。

附　則（令和２年７月９日改正）

1　本学則は，令和２年７月９日から施行し，令和２年４月１日から適用する。

附　則（令和３年４月１日改正）

1　本学則は，令和３年４月１日から施行する。

附　則（令和４年４月１日改正）

1　本学則は，令和４年４月１日から施行する。

2　本学則は，施行日以後に第１年次に入学する者から適用し，施行日の前日において在学する者に係る学部，学科の組織，教育課程，卒業要件等については，なお従前の例による。

附　則（令和５年４月１日改正）

1　本学則は，令和５年４月１日から施行する。

2　本学則は，施行日以後に第１年次に入学する者から適用し，施行日の前日において在学する者に係る学部，学科の組織，教育課程，卒業要件等については，なお従前の例による。

神 奈 川 大 学 履 修 規 程

（趣旨）

第１条　この規程は，神奈川大学学則（以下「学則」という。）に基づき授業科目（以下単に「科目」という。）の履修，試験及び成績評価に関し必要な事項を定めるものとする。

（科目の履修）

第２条　学生は，履修しようとする科目を各学期の履修登録期間内に登録しなければならない。

２　登録した科目を変更し，又は追加することはできない。

３　学科，年次又はクラスが指定された科目については，その指定に従い履修するものとする。ただし，科目担任者が特に認める場合は，この限りでない。

４　同一科目を同一学期に重複して履修することはできない。ただし，教育課程表及び授業時間割表において指示する特定の科目については，この限りでない。

５　既に単位を取得した科目を履修することはできない。

６　履修に関するその他の事項については，教育課程表，履修要覧，授業時間割表等に定めるところによるものとする。

（定期試験）

第３条　定期試験は，各学期末に行う。

２　定期試験が前学期末と後学期末の２回行われる科目については，その双方を受験しなければならない。

３　定期試験を受験することができるのは，当該科目を履修登録した者に限る。

４　授業料その他の納入金の未納者は，受験することができない。

（追試験）

第４条　追試験は，病気その他やむを得ない理由により定期試験を受験することができなかった者に対し，本学が指定する日に行う。

２　追試験を希望する者は，医師の診断書その他の理由を証明するに足る書類を添え，原則として当該科目の試験日を含む４日以内（ただし，日曜日及び祝日は除く。）にその申請をし，追試験審査委員会の許可を得なければならない。

３　追試験を許可された者は，所定の期日までに追試験料を納入しなければならない。

（試験の実施）

第５条　第３条及び第４条に定める試験は，次により実施する。

(1)　学生証又は受験許可証を携帯しない者は，受験することができない。

(2)　試験開始後は，棄権することができない。

(3)　次の答案は無効とする。

（ア）　学科，年次，組，学籍番号又は氏名の記載のない答案

（イ）　科目，科目担任者，試験日又は時限を間違えて受験した者の答案

(4)　試験開始時刻に遅れた者は，受験することができない。ただし，開始後30分以内に試験場に到着し，かつ，正当な理由のある場合には，受験を認めることがある。

(5)　試験開始後40分間は，退場することができない。

(6)　その他の事項については，試験監督者の指示によるものとする。

（臨時試験）

第６条　臨時試験は，各科目担任者が随時これを行うことができる。

（不正行為）

第７条　第３条及び第４条に定める試験において，不正行為を行った者に対する成績の取扱い及び処分については別に定める。

（成績評価）
第８条　学業成績を総合的に判断する指標として，グレードポイントアベレージ（以下「GPA」という。）を用いる。
２　GPA は，履修登録をした科目の得点にグレードポイント（以下「GP」という。）を付与し，GP に当該科目の単位数を乗じ，その総和を，履修登録科目の総単位数で除して算出する。
３　学則第10条第２項の成績評価は，次の表のとおりとする。

評価	得点	GP	合否	
秀	100点～90点	4	合格	所期の目標を十分に達成し， 特に秀でた成績を示している
優	89点～80点	3	合格	所期の目標を十分に達成し， 優れた成績を示している
良	79点～70点	2	合格	不十分な点があるが， 所期の目標をほぼ達成している
可	69点～60点	1	合格	所期の目標の最低限は満たしている
不可	60点未満	0	不合格	いくつかの重要な点において 所期の目標を達成していない

４　前項の規定は，追試験及び平常点の成績評価について準用する。
５　成績に関する照会をする者は，所定の期間内に申請しなければならない。

（改廃）
第９条　この規程の改廃は，教授会及び評議会の審議を経て，理事会が行う。

附　則
この規程は，平成２年４月１日から施行する。
：
（略）
：
附　則
この規程は，令和３年４月１日から施行する。

神奈川大学試験不正行為等取扱内規（学長決定）

平成27年６月26日
学長決定　第２号

（趣旨）
第１条　この内規は、神奈川大学履修規程第７条に基づき、試験における不正行為について必要な事項を定めるものとする。

（定義）
第２条　試験における不正行為とは、次の各号のいずれかに該当する行為をいう。
(1)　他人に受験を依頼する行為又はこれを引き受ける行為
(2)　他人と答案を交換する行為
(3)　言語、動作又は電子機器等により他人に連絡をする行為又は連絡を受ける行為
(4)　他人の答案を書き写す行為又は他人に自己の答案を見せる行為
(5)　カンニングペーパーを使用する行為
(6)　所持品、電子機器、身体、机又は壁等に書き込みをする行為
(7)　使用が許可されていないノート、書籍、電子機器その他の物品（次号において単に「物品」という。）を使用する行為
(8)　使用が許可された物品の貸借等をする行為
(9)　その他試験監督者の指示に従わず、又は公正な試験を妨げると認められる行為

（不正行為の確認）
第３条　試験監督者は、不正行為を発見した場合、その受験者の受験を直ちに中止させ、この受験者を同行して学修進路支援委員会に報告するものとする。
２　学修進路支援委員会は、不正行為に関する事実の確認を行うものとする。
３　学修進路支援委員会は、不正行為を行ったことが確認された場合、その受験者に始末書を提出させるものとする。
４　不正行為に係る答案、始末書、証拠品等の保管等の取扱いについては、学修進路支援委員会が定める。

（不正行為等を行った者の成績の取扱い）
第４条　不正行為を行った者の成績については、当該試験期間の全試験科目を無効とする。
２　学修進路支援委員会は、不正行為を行った者の氏名、学生証番号及び当該不正行為の態様並びに成績の取扱いを記載した報告書を作成し、これを学生生活支援委員会に提出しなければならない。
３　教務部長は、前項の取扱いについて速やかに学長及び当該学部長に報告しなければならない。
４　不正行為に関する事実の確認において、それが過失又は錯誤に基づくものであると判断された場合は、不正行為扱いとしない。ただし、当該科目の成績を無効とする。
５　前４項の規定は、試験終了後に不正行為が発覚した場合においても適用する。

（処分）
第５条　不正行為を行った者は、学則第56条に基づき、次のとおり懲戒する。
(1)　不正行為が単純なものと認められるとき　戒告
(2)　不正行為が悪質と認められるとき　停学
(3)　不正行為が二度にわたったとき　退学

（所管）
第６条　この内規に関する事務は、教務課が所管する。

附　則
この内規は、平成27年６月26日から施行する。

附　則
この内規は、令和５年４月１日から施行する。

神奈川大学既修得単位の認定に関する取扱規程

（趣旨）

第１条　この規程は，神奈川大学学則第12条の２第４項の規定に基づき，神奈川大学（以下「本学」という。）において行う，入学者の既修得単位の認定について必要な事項を定める。

（既修得単位の認定手続）

第２条　前条の規定により既修得単位の認定を受けようとする者は，入学した年度の所定の期日までに，次の書類を所属学部長に提出するものとする。

(1)　既修得単位認定願(所定用紙)

(2)　既修得単位に係る大学又は短期大学の在籍期間証明書又は卒業証明書

(3)　既修得単位に係る大学又は短期大学の成績証明書

（認定単位数等の通知）

第３条　学部長は，前条の規定に基づいて認定された単位数等を当該学生に通知するとともに，学習内容の豊富化を図るよう適切な指導を行うものとする。

（事務の所管）

第４条　既修得単位の認定に関する事務は，教務課が所管する。

附則

この規程は，平成元年４月１日から施行する。

：

（略）

：

附則

この規程は，令和５年４月１日から施行する。

学生の海外留学に関する取扱規程

（目的）

第１条　この規程は，神奈川大学学則第45条第５項及び神奈川大学大学院学則第37条第４項に基づき，神奈川大学及び神奈川大学大学院（以下「本学」という。）学生の海外留学に関する取り扱いについて定める。

（留学の定義）

第２条　この規程で留学とは，修学（語学研修を含む。以下同じ。）又は研究のため，本学の許可を得て，外国の大学，短期大学，大学院又はそれらに相当する教育機関（以下「大学等」という。）で６ヵ月以上にわたり正規の授業を受け又は研究に従事することをいう。

（留学の資格）

第３条　留学できる者は，留学目的が明確で，かつ留学計画が周到である者とする。

（出願・許可手続）

第４条　留学しようとする者は，あらかじめ留学先の大学等の入学許可証又は受け入れ承諾書等を添付し，所定の様式により，願い出て，学部学生の場合は在学する学部の教授会，大学院学生の場合は在学する研究科の委員会の審議を経て，学長の許可を受けなければならない。

（留学期間）

第５条　在学中に留学できる期間は，学部学生は２年以内，大学院学生は１年以内とする。ただし，大学院学生に限り，特別な理由がある場合は，申請により期間延長を許可することができる。

（履修登録の取扱）

第６条　本学における履修登録の取り扱いについては，可能な限り通算して単位を修得できるよう配慮するものとする。

（留学許可の取消し）

第７条　次の各号の一に該当する者については，学長は学部学生の場合は在学する学部の教授会，大学院学生の場合は在学する研究科の委員会の審議を経た上で，前条に定める登録を含め，留学の許可を取り消すことができる。

(1)　本学の許可なく留学中に留学先の大学等を変更した者
(2)　留学先の大学等における研究又は修学を怠った者
(3)　本学又は留学先の大学等の学則及びこれに係わる取扱規程に違反した者
(4)　本学又は留学先の大学等の学生の身分を失った者
(5)　その他学生としての本分に反した者

（事務の所管）

第８条　学生の海外留学に関する事務は国際センターが所管する。

（改廃）

第９条　この規程の改廃は，評議会及び大学院委員会の議を経て理事会が行う。

附則

この規程は，昭和60年４月１日から施行する。

：

（略）

：

附則

この規程は，平成27年４月１日から施行する。

海外語学研修の単位認定に関する取扱規程

（趣旨）

第１条　この規程は，神奈川大学学則第13条に基づき，本学が主催又は推薦する当該年度海外語学研修制度の所定のプログラムを修了した者の単位認定について必要な事項を定める。

（単位認定の対象となる大学）

第２条　この規程で単位認定の対象となる大学は，当該年度に本学が主催又は推薦する海外語学研修の実施大学とする。

（認定単位の取扱い）

第３条　この規程で認定された単位は，別表に定める科目名として認定し，各学科の配当群において所定の単位数を卒業要件単位に算入することができる。

２　単位認定の申請は，同一言語圏については１回限りとする。ただし，外国語学部の学生は，３回まで申請できるものとする。また，国際日本学部国際文化交流学科の学生は，英語圏は４回まで，英語圏以外については４回，あわせて８回まで申請できるものとする。

３　この規程で認定する単位は，各年次の履修制限単位数には含めない。

４　この規程で認定された単位の成績評価は，一律に「認定」とする。

（単位の認定手続）

第４条　前３条の規定により単位の認定を受けようとする者は，所定の期日までに，「単位認定申請書」及び「海外語学研修修了証明書」を教務課を経て所属学部長に提出しなければならない。

（事務の所管）

第５条　海外語学研修の単位認定に関する事務は，教務課が所管する。

（改廃）

第６条　この規程の改廃は，評議会の審議を経て，理事会が行う。

附則

１　この規程は，平成12年４月１日から施行する。

２　この規程は，平成12年度在籍者から適用する。

：

（略）

：

附則

この規程は，令和５年４月１日から施行する。

別表（第３条関係）

認定科目の名称	単位数	認定科目の名称	単位数
海外語学研修（英語）	2	海外語学研修（ドイツ語）	2
【外国語学部に適用】		【外国語学部に適用】	
海外語学研修（英語）Ａ	2	海外語学研修（ドイツ語）Ａ	2
海外語学研修（英語）Ｂ	2	海外語学研修（ドイツ語）Ｂ	2
海外語学研修（英語）Ｃ	2	海外語学研修（ドイツ語）Ｃ	2
海外語学研修（中国語）	2	海外語学研修（フランス語）	2
【外国語学部に適用】		【外国語学部に適用】	
海外語学研修（中国語）Ａ	2	海外語学研修（フランス語）Ａ	2
海外語学研修（中国語）Ｂ	2	海外語学研修（フランス語）Ｂ	2
海外語学研修（中国語）Ｃ	2	海外語学研修（フランス語）Ｃ	2
海外語学研修（スペイン語）	2	海外語学研修（ロシア語）	2
【外国語学部に適用】		【外国語学部に適用】	
海外語学研修（スペイン語）Ａ	2	海外語学研修（ロシア語）Ａ	2
海外語学研修（スペイン語）Ｂ	2	海外語学研修（ロシア語）Ｂ	2
海外語学研修（スペイン語）Ｃ	2	海外語学研修（ロシア語）Ｃ	2
海外語学研修（韓国語）	2		
【外国語学部に適用】			
海外語学研修（韓国語）Ａ	2		
海外語学研修（韓国語）Ｂ	2		
海外語学研修（韓国語）Ｃ	2		

認定科目群	
法学部法律学科	自由選択科目
法学部自治行政学科	自由選択科目
経済学部経済学科	自由選択科目
経済学部現代ビジネス学科	自由選択科目
経営学部国際経営学科	選択科目（2013年度以前入学者）
	学外認定科目（2014年度以降入学者）
外国語学部英語英文学科	関連科目（2019年度以前入学者）
	関連科目（2020年度以降入学者）
	ただし、必修外国語とする言語は共通教養科目外国語科目に認定し、英語は１年次のみ学科専攻科目の「海外英語研修Ａ」「海外英語研修Ｂ」に個別認定する。
外国語学部スペイン語学科	関連科目
外国語学部中国語学科	関連科目
	ただし、「海外語学研修（中国語）Ａ、海外語学研修（中国語）Ｂ、海外語学研修（中国語）Ｃ」は、次の科目群に認定する。
	選択必修C群科目（2019年度以前入学者）
	選択科目表現法演習（2020年度以降入学者）
外国語学部国際文化交流学科	関連科目
国際日本学部国際文化交流学科	英語は学科専攻科目の「推薦語学研修Ⅰ～Ⅳ」に、英語以外は学科専攻科目の「推薦語学研修Ⅴ～Ⅷ」に個別認定する。
国際日本学部日本文化学科	関連科目
国際日本学部歴史民俗学科	関連科目
人間科学部人間科学科	関連科目
理学部数理・物理学科	基礎科目教養系科目Ⅱ群（2012・2013年度入学者）
	共通教養科目外国語科目（2014年度以降入学者）
理学部情報科学科	基礎科目教養系科目（2011年度以前入学者）
	基礎科目教養系科目Ⅱ群（2012・2013年度入学者）
	共通教養科目外国語科目（2014年度以降入学者）
理学部化学科	基礎科目教養系科目（2011年度以前入学者）
	基礎科目教養系科目Ⅱ群（2012・2013年度入学者）
	共通教養科目外国語科目（2014年度以降入学者）
理学部生物科学科	基礎科目教養系科目（2011年度以前入学者）
	基礎科目教養系科目Ⅱ群（2012・2013年度入学者）
	共通教養科目外国語科目（2014年度以降入学者）
理学部総合理学プログラム	基礎科目教養系科目（2011年度以前入学者）
	基礎科目教養系科目Ⅱ群（2012・2013年度入学者）
	共通教養科目外国語科目（2014年度以降入学者）
理学部理学科	共通教養科目外国語科目
工学部機械工学科	関連科目
工学部電気電子情報工学科	関連科目
工学部物質生命化学科	関連科目
工学部情報システム創成学科	関連科目
工学部経営工学科	関連科目
工学部建築学科	関連科目
工学部総合工学プログラム	関連科目
工学部応用物理学科	関連科目

建築学部建築学科	関連科目
化学生命学部応用化学科	関連科目
化学生命学部生命機能学科	関連科目
情報学部計算機科学科	共通教養科目外国語科目
情報学部システム数理学科	共通教養科目外国語科目
情報学部先端情報領域プログラム	共通教養科目外国語科目

各種検定試験合格者の単位認定に関する取扱規程

（趣旨）

第１条　この規程は，神奈川大学学則第13条の２に基づき，文部科学省認定の技能資格又はそれに準じる技能資格の審査（以下「検定試験」という。）に合格した者の単位認定について必要な事項を定める。

（検定試験の種類と認定基準）

第２条　単位認定の対象となる検定試験の種類及び認定基準は，各学部の定めによるものとし，履修要覧に記載する。

２　前項の規定にかかわらず，各学科で履修できない外国語に該当する検定試験は，単位認定の対象から除く。

（認定単位の取扱い）

第３条　認定された単位は，各学部で定める科目名として認定し，各学科の配当群において所定の単位数を卒業要件単位に算入することができる。

２　同一認定基準において２種類以上の検定試験が単位認定の対象となる場合は，本人の申請により，いずれか１種類の検定試験のみを認定する。

３　認定された単位は，各年次の履修制限単位数には含めない。

４　認定された単位の成績評価は，一律に「認定」とする。

５　単位認定の対象とする外国語検定試験について，各言語を母語とする者の申請は，原則として認めない。

（単位の認定手続）

第４条　前３条の規定により単位の認定を受けようとする者は，所定の期日までに，「単位認定申請書」及び検定試験の「合格証明書」（級数又はスコアを含む。）を教務課を経て所属学部長に提出しなければならない。

（事務の所管）

第５条　各種検定試験合格者の単位認定に関する事務は，教務課が所管する。

（改廃）

第６条　この規程の改廃は，評議会の審議を経て，理事会が行う。

附則

１　この規程は，平成12年４月１日から施行する。

２　この規程は，平成12年度在籍者から適用する。

・

・

（略）

・

・

附則

この規程は，令和５年４月１日から施行する。

経営学部

(1) 各種英語検定

検定試験	認定基準	認定科目の名称	単位	認　定 単位数	認　定 科目群
実用英語技能検定 (公益財団法人日本英語検定協会)　(注4) TOEFL® (国際教育交換協議会)　(注1) TOEIC® (一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)　(注3) IELTS™ Academic (公益財団法人日本英語検定協会，ブリティッシュ・カウンシル)　(注4) IELTS™for UKVI Academic (ブリティッシュ・カウンシル)　(注4)	１級 96点以上 (590点以上) 850点以上 6.5以上 6.5以上	技能資格（英語）A 技能資格（英語）B 技能資格（英語）C 技能資格（英語）D	2 2 2 2	8	外国語科目
実用英語技能検定 (公益財団法人日本英語検定協会)　(注4) TOEFL® (国際教育交換協議会)　(注1) TOEIC® (一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)　(注3) IELTS™ Academic (公益財団法人日本英語検定協会，ブリティッシュ・カウンシル)　(注4) IELTS™for UKVI Academic (ブリティッシュ・カウンシル)　(注4)	準１級 71点以上 (530点以上) 675点以上 5.5以上 5.5以上	技能資格（英語）A 技能資格（英語）B	2 2	4	外国語科目
実用英語技能検定 (公益財団法人日本英語検定協会)　(注4) TOEFL® (国際教育交換協議会)　(注1) TOEIC® (一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)　(注3) IELTS™ Academic (公益財団法人日本英語検定協会，ブリティッシュ・カウンシル)　(注4) IELTS™for UKVI Academic (ブリティッシュ・カウンシル)　(注4)	２級 52点以上 (470点以上) 500点以上 4.5以上 4.5以上	技能資格（英語）A	2	2	外国語科目

(注1) TOEFL® (TOEFL-ITP®を含む。) の認定基準の96点以上，71点以上，52点以上の数値はInternet-Based　Scoreを示し，(　) 内の590点以上，530点以上，470点以上の数値はPaper-Based　Scoreを示す。
(注2) 「実用英語技能検定」「TOEFL®」「TOEIC®」「IELTS™ Academic」「IELTS™for UKVI Academic」の認定は，入学前2年以内及び入学後の検定試験に合格した者を対象とする。
(注3) TOEIC®は，「TOEIC®-IP」を含む。
(注4) テストセンターでの受験は認定対象とする。

経営学部

（2）各種外国語（英語を除く）検定

検定試験	認定基準	認定科目の名称	単位	認　定 単位数	認定科目群
実用フランス語技能検定 （公益財団法人フランス語教育振興協会）	準２級以上	技能資格（フランス語）Ａ 技能資格（フランス語）Ｂ 技能資格（フランス語）Ｃ	2 2 2	6	外国語科目
	３級	技能資格（フランス語）Ａ 技能資格（フランス語）Ｂ	2 2	4	
	４級	技能資格（フランス語）Ａ	2	2	
Delf Dalf （フランス国民教育省）	Ａ２以上	技能資格（フランス語）Ａ 技能資格（フランス語）Ｂ 技能資格（フランス語）Ｃ	2 2 2	6	外国語科目
	Ａ１	技能資格（フランス語）Ａ 技能資格（フランス語）Ｂ	2 2	4	
ドイツ語技能検定 （公益財団法人ドイツ語学文学振興会）	２級以上	技能資格（ドイツ語）Ａ 技能資格（ドイツ語）Ｂ 技能資格（ドイツ語）Ｃ	2 2 2	6	外国語科目
	３級	技能資格（ドイツ語）Ａ 技能資格（ドイツ語）Ｂ	2 2	4	
	４級	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	2	
Goethe-Zertifikat （東京ドイツ文化センター）	Ｂ１以上	技能資格（ドイツ語）Ａ 技能資格（ドイツ語）Ｂ 技能資格（ドイツ語）Ｃ	2 2 2	6	外国語科目
	Ａ２以上	技能資格（ドイツ語）Ａ 技能資格（ドイツ語）Ｂ	2 2	4	
	Ａ１	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	2	
D.E.L.E.：スペイン語検定 （セルバンテス文化センター東京）	Ｂ１以上	技能資格（スペイン語）Ａ 技能資格（スペイン語）Ｂ 技能資格（スペイン語）Ｃ	2 2 2	6	外国語科目
	Ａ２	技能資格（スペイン語）Ａ 技能資格（スペイン語）Ｂ	2 2	4	
	Ａ１	技能資格（スペイン語）Ａ	2	2	
スペイン語技能検定 （公益財団法人日本スペイン協会）	２級以上	技能資格（スペイン語）Ａ 技能資格（スペイン語）Ｂ 技能資格（スペイン語）Ｃ	2 2 2	6	外国語科目
	３級	技能資格（スペイン語）Ａ 技能資格（スペイン語）Ｂ	2 2	4	
	４級	技能資格（スペイン語）Ａ	2	2	
ハングル能力検定 （特定非営利活動法人ハングル能力検定協会）	準２級以上	技能資格（韓国語）Ａ 技能資格（韓国語）Ｂ 技能資格（韓国語）Ｃ	2 2 2	6	外国語科目
	３級	技能資格（韓国語）Ａ 技能資格（韓国語）Ｂ	2 2	4	
	４級	技能資格（韓国語）Ａ	2	2	
韓国語能力試験 （韓国教育財団）	５級以上	技能資格（韓国語）Ａ 技能資格（韓国語）Ｂ 技能資格（韓国語）Ｃ	2 2 2	6	外国語科目
	３級以上	技能資格（韓国語）Ａ 技能資格（韓国語）Ｂ	2 2	4	
	２級	技能資格（韓国語）Ａ	2	2	

経営学部

検定試験	認定基準	認定科目の名称	単位	認　定 単位数	認定科目群
中国語検定 （一般財団法人日本中国語検定協会）	２級以上	技能資格（中国語）Ａ 技能資格（中国語）Ｂ 技能資格（中国語）Ｃ	2 2 2	6	外国語科目
	３級	技能資格（中国語）Ａ 技能資格（中国語）Ｂ	2 2	4	
	４級	技能資格（中国語）Ａ	2	2	
漢語水平考試(HSK) （中国国家漢語国際推進事務室）（注1）	筆記試験５級以上又は口頭試験高級	技能資格（中国語）Ａ 技能資格（中国語）Ｂ 技能資格（中国語）Ｃ	2 2 2	6	外国語科目
	筆記試験３・４級又は口頭試験中級	技能資格（中国語）Ａ 技能資格（中国語）Ｂ	2 2	4	
	筆記試験２級	技能資格（中国語）Ａ	2	2	
ロシア語検定試験 （ロシア連邦教育科学省）	第１レベル以上	技能資格（ロシア語）Ａ 技能資格（ロシア語）Ｂ 技能資格（ロシア語）Ｃ	2 2 2	6	外国語科目
	基礎レベル	技能資格（ロシア語）Ａ 技能資格（ロシア語）Ｂ	2 2	4	
	入門レベル	技能資格（ロシア語）Ａ	2	2	
ロシア語能力検定試験 （ロシア語能力検定委員会）	２級以上	技能資格（ロシア語）Ａ 技能資格（ロシア語）Ｂ 技能資格（ロシア語）Ｃ	2 2 2	6	外国語科目
	３級	技能資格（ロシア語）Ａ 技能資格（ロシア語）Ｂ	2 2	4	
	４級	技能資格（ロシア語）Ａ	2	2	

(3) その他検定

検定試験	認定基準	認定科目の名称	単位	認　定 単位数	認定科目群
簿記検定 （日本商工会議所） （注1）	２級以上	会社簿記（2020年度以前入学者） 中級簿記（2021年度以降入学者）	2	6	中級簿記，原価計算入門： 専攻科目選択科目 簿記原理： 専攻科目選択必修科目 （2021入以降） 会社簿記，原価計算入門，簿記原理： 専攻科目選択科目 （2020入以前）
		原価計算入門	2		
		簿記原理	2		
簿記能力検定 （公益社団法人全国経理教育協会）	１級以上	会社簿記（2020年度以前入学者） 中級簿記（2021年度以降入学者）	2	6	
		原価計算入門	2		
		簿記原理	2		
簿記実務検定 （公益財団法人全国商業高等学校協会）	１級	簿記原理	2	4	
		原価計算入門	2		
（注1）テストセンターでの受験は認定対象とする。					

外国語学部

(1) 各種英語検定

検定試験	認定基準	認定科目の名称	単位	認定単位数	認定科目群	学部学科
実用英語技能検定 (公益財団法人日本英語検定協会) (注6)	1級	英語技能資格B又は 英語技能資格AⅠ 英語技能資格AⅡ	6 4 2	6	関連科目	英語英文学科 (注3)
TOEFL® (国際教育交換協議会) (注1)	96点以上 (590点以上)	技能資格(英語)A 技能資格(英語)B 技能資格(英語)C	2 2 2	6	外国語科目 (注4)	国際文化交流学科
TOEIC® (一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会) (注2)	850点以上	技能資格(英語)a 技能資格(英語)b 技能資格(英語)c	2 2 2	6	選択必修 (注4)	
IELTS™ Academic (公益財団法人日本英語検定協会,ブリティッシュ・カウンシル) (注6) IELTS™for UKVI Academic (ブリティッシュ・カウンシル) (注6)	6.5以上 6.5以上	技能資格(英語)AⅠ 技能資格(英語)BⅠ 技能資格(英語)CⅠ	2 2 2	6 (注3)	外国語科目	スペイン語学科 中国語学科 (注5)
実用英語技能検定 (公益財団法人日本英語検定協会) (注6)	準1級	英語技能資格AⅠ	4	4	関連科目	英語英文学科 (注3)
TOEFL® (国際教育交換協議会) (注1)	71点以上 (530点以上)	技能資格(英語)A 技能資格(英語)B	2 2	4	外国語科目 (注4)	国際文化交流学科
TOEIC® (一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会) (注2)	675点以上	技能資格(英語)a 技能資格(英語)b	2 2	4	選択必修 (注4)	
IELTS™ Academic (公益財団法人日本英語検定協会,ブリティッシュ・カウンシル) (注6) IELTS™for UKVI Academic (ブリティッシュ・カウンシル) (注6)	5.5以上 5.5以上	技能資格(英語)AⅠ 技能資格(英語)BⅠ	2 2	4	外国語科目	スペイン語学科 中国語学科 (注5)
実用英語技能検定 (公益財団法人日本英語検定協会) (注6)	2級	技能資格(英語)A	2	2	外国語科目 (注4)	国際文化交流学科
TOEFL® (国際教育交換協議会) (注1)	52点以上 (470点以上)	技能資格(英語)a	2	2	選択必修 (注4)	
TOEIC® (一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会) (注2) IELTS™ Academic (公益財団法人日本英語検定協会,ブリティッシュ・カウンシル) (注6) IELTS™for UKVI Academic (ブリティッシュ・カウンシル) (注6)	500点以上 4.5以上 4.5以上	技能資格(英語)AⅠ	2	2	外国語科目	スペイン語学科 中国語学科 (注5)

(注1) TOEFL® (TOEFL-ITP®を含む。) の認定基準の96点以上,71点以上52点以上の数値はInternet-Based Scoreを示し, ( ) 内の590点以上,530点以上,470点以上の数値はPaper-Based Scoreを示す。
(注2) TOEIC®は,「TOEIC®-IP」を含む。
(注3) 英語英文学科における「実用英語技能検定」「TOEFL®」「TOEIC®」「IELTS™ Academic」「IELTS™for UKVI Academic」の認定は,入学後の検定試験に合格した者を対象とし,6単位を上限とする。
(注4) 国際文化交流学科における「実用英語技能検定」「TOEFL®」「TOEIC®」「IELTS™ Academic」「IELTS™for UKVI Academic」の認定は,入学前2年以内及び入学後の検定試験に合格した者を対象とする。また,認定科目群は申請時に決定する。
(注5) スペイン語学科,中国語学科における「実用英語技能検定」「TOEFL®」「TOEIC®」「IELTS™ Academic」「IELTS™for UKVI Academic」の認定は,入学前2年以内及び入学後の検定試験に合格した者を対象とし,6単位を上限とする。
(注6) テストセンターでの受験は認定対象とする。

外国語学部

（2）各種外国語（英語を除く）検定

検定試験	認定基準	認定科目の名称	単位	認定単位数		認定科目群	学部学科
実用フランス語技能検定 （公益財団法人フランス語教育振興協会）	準２級以上	技能資格（フランス語）Ａ	2	6	2 （注1）	外国語科目	英語英文学科 スペイン語学科 中国語学科
		技能資格（フランス語）Ｂ	2				
		技能資格（フランス語）Ｃ	2				
	３級	技能資格（フランス語）Ａ	2	4		関連科目	国際文化交流学科
		技能資格（フランス語）Ｂ	2				
	４級	技能資格（フランス語）Ａ	2	2			
Delf Dalf （フランス国民教育省）	Ａ２以上	技能資格（フランス語）Ａ	2	6	2 （注1）	外国語科目	英語英文学科 スペイン語学科 中国語学科
		技能資格（フランス語）Ｂ	2				
		技能資格（フランス語）Ｃ	2				
	Ａ１	技能資格（フランス語）Ａ	2	4		関連科目	国際文化交流学科
		技能資格（フランス語）Ｂ	2				
ドイツ語技能検定 （公益財団法人ドイツ語学文学振興会）	２級以上	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	6	2 （注1）	外国語科目	英語英文学科 スペイン語学科 中国語学科
		技能資格（ドイツ語）Ｂ	2				
		技能資格（ドイツ語）Ｃ	2				
	３級	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	4		関連科目	国際文化交流学科
		技能資格（ドイツ語）Ｂ	2				
	４級	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	2			
Goethe-Zertifikat （東京ドイツ文化センター）	Ｂ１以上	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	6	2 （注1）	外国語科目	英語英文学科 スペイン語学科 中国語学科
		技能資格（ドイツ語）Ｂ	2				
		技能資格（ドイツ語）Ｃ	2				
	Ａ２以上	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	4		関連科目	国際文化交流学科
		技能資格（ドイツ語）Ｂ	2				
	Ａ１	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	2			
D.E.L.E.：スペイン語検定 （セルバンテス文化センター東京）	Ｂ２以上	技能資格（スペイン語）Ｄ	2	4		関連科目	スペイン語学科
		技能資格（スペイン語）Ｃ	2				
	Ｂ１	技能資格（スペイン語）Ｃ	2	2			
	Ｂ１以上	技能資格（スペイン語）Ａ	2	6	2 （注1）	外国語科目	英語英文学科 中国語学科
		技能資格（スペイン語）Ｂ	2				
		技能資格（スペイン語）Ｃ	2				
	Ａ２	技能資格（スペイン語）Ａ	2	4		関連科目	国際文化交流学科
		技能資格（スペイン語）Ｂ	2				
	Ａ１	技能資格（スペイン語）Ａ	2	2			
スペイン語技能検定 （公益財団法人日本スペイン協会）	２級以上	技能資格（スペイン語）Ｃ	2	2		関連科目	スペイン語学科
		技能資格（スペイン語）Ａ	2	6	2 （注1）	外国語科目	英語英文学科 中国語学科
		技能資格（スペイン語）Ｂ	2				
		技能資格（スペイン語）Ｃ	2				
	３級	技能資格（スペイン語）Ａ	2	4		関連科目	国際文化交流学科
		技能資格（スペイン語）Ｂ	2				
	４級	技能資格（スペイン語）Ａ	2	2			
ハングル能力検定 （特定非営利活動法人ハングル能力検定協会）	準２級以上	技能資格（韓国語）Ａ	2	6	2 （注1）	外国語科目	英語英文学科 スペイン語学科 中国語学科
		技能資格（韓国語）Ｂ	2				
		技能資格（韓国語）Ｃ	2				
	３級	技能資格（韓国語）Ａ	2	4		関連科目	国際文化交流学科
		技能資格（韓国語）Ｂ	2				
	４級	技能資格（韓国語）Ａ	2	2			

外国語学部

検定試験	認定基準	認定科目の名称	単位	認定単位数		認定科目群	学部学科
韓国語能力検定 （韓国教育財団）	５級以上	技能資格（韓国語）Ａ	2	6	2 （注1）	外国語科目	英語英文学科 スペイン語学科 中国語学科
		技能資格（韓国語）Ｂ	2				
		技能資格（韓国語）Ｃ	2				
	３級以上	技能資格（韓国語）Ａ	2	4		関連科目	国際文化交流学科
		技能資格（韓国語）Ｂ	2				
	２級	技能資格（韓国語）Ａ	2	2			
中国語検定 （一般財団法人日本中国語検定協会）	２級以上	技能資格（中国語）Ａ	2	6	2 （注1）	外国語科目	英語英文学科 スペイン語学科
		技能資格（中国語）Ｂ	2				
		技能資格（中国語）Ｃ	2				
	３級	技能資格（中国語）Ａ	2	4		関連科目	国際文化交流学科
		技能資格（中国語）Ｂ	2				
	４級	技能資格（中国語）Ａ	2	2			
漢語水平考試(HSK) （中国国家漢語国際推進事務室）（注2）	筆記試験５級以上又は口頭試験高級	技能資格（中国語）Ａ	2	6	2 （注1）	外国語科目	英語英文学科 スペイン語学科
		技能資格（中国語）Ｂ	2				
		技能資格（中国語）Ｃ	2				
	筆記試験３・４級又は口頭試験中級	技能資格（中国語）Ａ	2	4		関連科目	国際文化交流学科
		技能資格（中国語）Ｂ	2				
	筆記試験2級	技能資格（中国語）Ａ	2	2			
ロシア語検定試験 （ロシア連邦教育科学省）	第１レベル以上	技能資格（ロシア語）Ａ	2	6	2 （注1）	外国語科目	英語英文学科 スペイン語学科 中国語学科
		技能資格（ロシア語）Ｂ	2				
		技能資格（ロシア語）Ｃ	2				
	基礎レベル	技能資格（ロシア語）Ａ	2	4		関連科目	国際文化交流学科
		技能資格（ロシア語）Ｂ	2				
	入門レベル	技能資格（ロシア語）Ａ	2	2			
ロシア語能力検定試験 （ロシア語能力検定委員会）	２級以上	技能資格（ロシア語）Ａ	2	6	2 （注1）	外国語科目	英語英文学科 スペイン語学科 中国語学科
		技能資格（ロシア語）Ｂ	2				
		技能資格（ロシア語）Ｃ	2				
	３級	技能資格（ロシア語）Ａ	2	4		関連科目	国際文化交流学科
		技能資格（ロシア語）Ｂ	2				
	４級	技能資格（ロシア語）Ａ	2	2			
実用イタリア語検定試験 （特定非営利活動法人国際市民交流のためのイタリア語検定協会）	準２級以上	技能資格（イタリア語）Ａ	2	2 （注1）		関連科目	英語英文学科 スペイン語学科 中国語学科 国際文化交流学科
PLIDAイタリア語検定 （ダンテ・アリギエーリ協会）	B1以上						
CILS （シエナ外国人大学）	Uno以上						

（注1）国際文化交流学科は，表中の認定基準の最上位に合格したもののみを対象とし，申請は，いずれか１外国語の検定試験に限り２単位を上限として関連科目へ認定する。

（注2）テストセンターでの受験は認定対象とする。

国際日本学部

(1) 各種英語検定

検定試験	認定基準	認定科目の名称	単位	認定単位数	認定科目群	学部学科
実用英語技能検定 (公益財団法人日本英語検定協会) (注5)	１級	技能資格（英語）Ａ 技能資格（英語）Ｂ 技能資格（英語）Ｃ	2 2 2	6 (注3)	外国語科目 (注4)	国際文化交流学科
TOEFL® (国際教育交換協議会)　(注1)	96点以上 (590点以上)	技能資格（英語）ａ 技能資格（英語）ｂ 技能資格（英語）ｃ	2 2 2	6 (注3)	展開科目英語 (注4)	
TOEIC® (一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)　(注2) IELTS™ Academic (公益財団法人日本英語検定協会，ブリティッシュ・カウンシル)　(注5) IELTS™for UKVI Academic (ブリティッシュ・カウンシル) (注5)	850点以上 6.5以上 6.5以上	技能資格（英語）ＡＩ 技能資格（英語）ＢＩ 技能資格（英語）ＣＩ	2 2 2	6 (注3)	外国語科目	日本文化学科 歴史民俗学科
実用英語技能検定 (公益財団法人日本英語検定協会) (注5)	準１級	技能資格（英語）Ａ 技能資格（英語）Ｂ	2 2	4 (注3)	外国語科目 (注4)	国際文化交流学科
TOEFL® (国際教育交換協議会)　(注1)	71点以上 (530点以上)	技能資格（英語）ａ 技能資格（英語）ｂ	2 2	4 (注3)	展開科目英語 (注4)	
TOEIC® (一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)　(注2) IELTS™ Academic (公益財団法人日本英語検定協会，ブリティッシュ・カウンシル)　(注5) IELTS™for UKVI Academic (ブリティッシュ・カウンシル) (注5)	675点以上 5.5以上 5.5以上	技能資格（英語）ＡＩ 技能資格（英語）ＢＩ	2 2	4 (注3)	外国語科目	日本文化学科 歴史民俗学科
実用英語技能検定 (公益財団法人日本英語検定協会) (注5)	２級	技能資格（英語）Ａ	2	2 (注3)	外国語科目 (注4)	国際文化交流学科
TOEFL® (国際教育交換協議会)　(注1)	52点以上 (470点以上)	技能資格（英語）ａ	2	2 (注3)	展開科目英語 (注4)	
TOEIC® (一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)(注2) IELTS™ Academic (公益財団法人日本英語検定協会，ブリティッシュ・カウンシル)　(注5) IELTS™for UKVI Academic (ブリティッシュ・カウンシル) (注5)	500点以上 4.5以上 4.5以上	技能資格（英語）ＡＩ	2	2 (注3)	外国語科目	日本文化学科 歴史民俗学科

(注1) TOEFL®（TOEFL-ITP®を含む。）の認定基準の96点以上，71点以上52点以上の数値はInternet-Based　Scoreを示し，（　）内の590点以上，530点以上，470点以上の数値はPaper-Based　Scoreを示す。
(注2) TOEIC®は，「TOEIC®-IP」を含む。
(注3) 「実用英語技能検定」「TOEFL®」「TOEIC®」「IELTS™ Academic」「IELTS™for UKVI Academic」の認定は，入学前2年以内及び入学後の検定試験に合格した者を対象とし，6単位を上限とする。
(注4) 国際文化交流学科の認定科目群は，申請時に決定する。
(注5) テストセンターでの受験は認定対象とする。

国際日本学部

(2) 各種外国語（英語を除く）検定

検定試験	認定基準	認定科目の名称	単位	認定単位数		認定科目群
実用フランス語技能検定 （公益財団法人フランス語教育振興協会）	準２級以上	技能資格（フランス語）Ａ	2	6	2 （注1）	国際文化交流学科は関連科目 日本文化学科・歴史民俗学科は外国語科目
		技能資格（フランス語）Ｂ	2			
		技能資格（フランス語）Ｃ	2			
	３級	技能資格（フランス語）Ａ	2	4		
		技能資格（フランス語）Ｂ	2			
	４級	技能資格（フランス語）Ａ	2	2		
Delf Dalf （フランス国民教育省）	Ａ２以上	技能資格（フランス語）Ａ	2	6	2 （注1）	国際文化交流学科は関連科目 日本文化学科・歴史民俗学科は外国語科目
		技能資格（フランス語）Ｂ	2			
		技能資格（フランス語）Ｃ	2			
	Ａ１	技能資格（フランス語）Ａ	2	4		
		技能資格（フランス語）Ｂ	2			
ドイツ語技能検定 （公益財団法人ドイツ語学文学振興会）	２級以上	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	6	2 （注1）	国際文化交流学科は関連科目 日本文化学科・歴史民俗学科は外国語科目
		技能資格（ドイツ語）Ｂ	2			
		技能資格（ドイツ語）Ｃ	2			
	３級	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	4		
		技能資格（ドイツ語）Ｂ	2			
	４級	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	2		
Goethe-Zertifikat （東京ドイツ文化センター）	Ｂ１以上	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	6	2 （注1）	国際文化交流学科は関連科目 日本文化学科・歴史民俗学科は外国語科目
		技能資格（ドイツ語）Ｂ	2			
		技能資格（ドイツ語）Ｃ	2			
	Ａ２以上	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	4		
		技能資格（ドイツ語）Ｂ	2			
	Ａ１	技能資格（ドイツ語）Ａ	2	2		
D.E.L.E.：スペイン語検定 （セルバンテス文化センター東京）	Ｂ１以上	技能資格（スペイン語）Ａ	2	6	2 （注1）	国際文化交流学科は関連科目 日本文化学科・歴史民俗学科は外国語科目
		技能資格（スペイン語）Ｂ	2			
		技能資格（スペイン語）Ｃ	2			
	Ａ２以上	技能資格（スペイン語）Ａ	2	4		
		技能資格（スペイン語）Ｂ	2			
	Ａ１	技能資格（スペイン語）Ａ	2	2		
スペイン語技能検定 （公益財団法人日本スペイン協会）	２級以上	技能資格（スペイン語）Ａ	2	6	2 （注1）	国際文化交流学科は関連科目 日本文化学科・歴史民俗学科は外国語科目
		技能資格（スペイン語）Ｂ	2			
		技能資格（スペイン語）Ｃ	2			
	３級	技能資格（スペイン語）Ａ	2	4		
		技能資格（スペイン語）Ｂ	2			
	４級	技能資格（スペイン語）Ａ	2	2		
ハングル能力検定 （特定非営利活動法人ハングル能力検定協会）	準２級以上	技能資格（韓国語）Ａ	2	6	2 （注1）	国際文化交流学科は関連科目 日本文化学科・歴史民俗学科は外国語科目
		技能資格（韓国語）Ｂ	2			
		技能資格（韓国語）Ｃ	2			
	３級	技能資格（韓国語）Ａ	2	4		
		技能資格（韓国語）Ｂ	2			
	４級	技能資格（韓国語）Ａ	2	2		

国際日本学部

検定試験	認定基準	認定科目の名称	単位	認定単位数		認定科目群
韓国語能力試験 （韓国教育財団）	５級以上	技能資格（韓国語）Ａ 技能資格（韓国語）Ｂ 技能資格（韓国語）Ｃ	2 2 2	6	2 （注1）	国際文化交流学科は関連科目 日本文化学科・歴史民俗学科は外国語科目
	３級以上	技能資格（韓国語）Ａ 技能資格（韓国語）Ｂ	2 2	4		
	２級	技能資格（韓国語）Ａ	2	2		
中国語検定 （一般財団法人日本中国語検定協会）	２級以上	技能資格（中国語）Ａ 技能資格（中国語）Ｂ 技能資格（中国語）Ｃ	2 2 2	6	2 （注1）	国際文化交流学科は関連科目 日本文化学科・歴史民俗学科は外国語科目
	３級	技能資格（中国語）Ａ 技能資格（中国語）Ｂ	2 2	4		
	４級	技能資格（中国語）Ａ	2	2		
漢語水平考試(HSK) （中国国家漢語国際推進事務室）（注2）	筆記試験５級以上又は口頭試験高級	技能資格（中国語）Ａ 技能資格（中国語）Ｂ 技能資格（中国語）Ｃ	2 2 2	6	2 （注1）	国際文化交流学科は関連科目 日本文化学科・歴史民俗学科は外国語科目
	筆記試験３・４級又は口頭試験中級	技能資格（中国語）Ａ 技能資格（中国語）Ｂ	2 2	4		
	筆記試験2級	技能資格（中国語）Ａ	2	2		
ロシア語検定試験 （ロシア連邦教育科学省）	第１レベル以上	技能資格（ロシア語）Ａ 技能資格（ロシア語）Ｂ 技能資格（ロシア語）Ｃ	2 2 2	6	2 （注1）	国際文化交流学科は関連科目 日本文化学科・歴史民俗学科は外国語科目
	基礎レベル	技能資格（ロシア語）Ａ 技能資格（ロシア語）Ｂ	2 2	4		
	入門レベル	技能資格（ロシア語）Ａ	2	2		
ロシア語能力検定試験 （ロシア語能力検定委員会）	２級以上	技能資格（ロシア語）Ａ 技能資格（ロシア語）Ｂ 技能資格（ロシア語）Ｃ	2 2 2	6	2 （注1）	国際文化交流学科は関連科目 日本文化学科・歴史民俗学科は外国語科目
	３級	技能資格（ロシア語）Ａ 技能資格（ロシア語）Ｂ	2 2	4		
	４級	技能資格（ロシア語）Ａ	2	2		
実用イタリア語検定試験 （特定非営利活動法人国際市民交流のためのイタリア語検定協会）	準２級以上	技能資格（イタリア語）Ａ	2	2 （注1）		関連科目 （国際文化交流学科のみ対象）
PLIDAイタリア語検定 （ダンテ・アリギエーリ協会）	Ｂ1以上					
CILS （シエナ外国人大学）	Uno以上					

（注1）国際文化交流学科は，表中の認定基準の最上位に合格したもののみを対象とし，申請は，いずれか１外国語の検定試験に限り２単位を上限として関連科目へ認定する。
（注2）テストセンターでの受験は認定対象とする。

横浜市内大学間の単位互換に関する神奈川大学取扱規程

（趣旨）

第１条　この規程は，神奈川大学学則第13条並びに横浜市内大学間学術・教育交流協議会規程第２条第１号に基づき，横浜市内大学間の単位互換について必要な事項を定める。

（単位互換の実施学部）

第２条　この規程で単位互換を実施する学部・学科（以下「各学部」という。）は，別表第１及び別表第２のとおりとする。

（提供科目の決定）

第３条　各学部は，他の大学の学生が履修することができる授業科目（以下「提供科目」という。）を，教授会の審議を経て，所定の時期（前年度の11月下旬）までに決定する。

２　共通教養系科目，外国語科目，資格教育課程科目を提供科目とする場合は，該当協議会・委員会等において前項に準じて決定する。

（学生の受入れ）

第４条　他の大学の学生が前条の提供科目の履修を出願してきたときは，各学部教授会において選考のうえ，所定の時期までに受入れの決定を行う。ただし，教授会は学修進路支援委員会にその権限を委任することができる。この場合には，教務部長は，選考の結果をすみやかに教授会に報告して承認を得なければならない。

２　前項の決定にあたっては，原則として，当該学生の所属学部，学年次及び履修人数等について制限を設けないものとする。

（科目履修，試験，並びに成績評価）

第５条　前条により受入れた学生の科目履修，試験並びに成績評価については，本学の学則の定めるところにより実施する。

（学生の派遣）

第６条　本学の学生が他大学の提供科目の履修を出願してきたときは，第４条第１項の規定を準用して派遣の決定を行う。

２　前項の場合において，次の各号に掲げる年次の学生については，当該各号に定める要件を満たすものに限り出願を認めるものとする。

(1)　１年次生　後期の科目に限る。

(2)　２年次生　２年次開始時において30単位以上を修得していること。

(3)　３年次生　３年次開始時において60単位以上を修得していること。

３　出願者が多数となる提供科目においては，派遣者を選抜するものとする。

（科目履修登録）

第７条　前条第1項において，科目履修登録ができる単位数は，別表第１及び別表第２に定めるとおりとする。

（単位の認定）

第８条　前２条により修得した単位は，別表第１及び別表第２に定める各学部の配当群において所定の単位を認定する。

２　前項の単位は，各学部の定めるところにより卒業要件単位に算入することができる。

３　この規程で修得した単位の成績評価は，一律に「認定」とする。ただし，修得できなかった場合は「不可」とする。

（事務の所管）

第９条　この規程に関する事務は，教務課が所管する。

（改廃）

第10条　この規程の改廃は，評議会の審議を経て，理事会が行う。

附則

１　この規程は，平成13年４月１日から施行する。

２　この規程は，平成13年度在籍者から適用する。

：

（略）

：

附則

この規程は，令和５年４月１日から施行する。

別表第１（第２条、第７条、第８条関係）

2013年度以前入学者

学部・学科	単位互換科目の履修可能単位数(1)		認定科目群	単位互換科目の卒業要件への算入可能単位数(2)
	年間	通算		
法学部　法律学科	8	３２	自由選択科目	１８
法学部　自治行政学科	8	３２	自由選択科目	１８
経済学部　経済学科	8	３２	自由選択科目	１２
経済学部　現代ビジネス学科	8	３２	自由選択科目	１０
経営学部　国際経営学科	8	３２	選択科目	１２
外国語科目　英語英文学科	8	３２	関連科目	１８
外国語学部　スペイン語学科	8	３２	関連科目	２８
外国語学部　中国語学科（スタンダードコース）（2010年度以前入学者）	8	３２	関連科目	３０
外国語学部　中国語学科（インテンシブコース）（2010年度以前入学者）	8	３２	関連科目	２２
外国語学部　中国語学科（2011年度以降入学者）	8	３２	関連科目	２４
外国語学部　国際文化交流学科	8	３２	関連科目	１６
人間科学部　人間科学科	8	３２	関連科目	２０
理学部　数理・物理学科	6	２４	関連科目	6
理学部　情報科学科	6	２４	関連科目	6
理学部　化学科	6	２４	関連科目	6
理学部　生物科学科	6	２４	関連科目	6
理学部　総合理学プログラム	6	２４	関連科目	6
工学部　機械工学科	8	３２	関連科目	6
工学部　電気電子情報工学科	8	３２	関連科目	8
工学部　物質生命化学科	8	３２	関連科目	2
工学部　情報システム創成学科	8	３２	関連科目	4
工学部　経営工学科	8	３２	関連科目	4
工学部　建築学科	8	３２	関連科目	8
工学部　総合工学プログラム	8	３２	関連科目	8

＜注＞

(1)　単位互換科目の履修可能単位数

１年間又は４年間通算して履修登録できる単位互換科目の上限単位数を示す。2012年度以前の入学者に限り、単位互換科目は、各学部・学科が定める年間履修登録単位数の上限を超えて登録することができる。

(2)　単位互換科目の卒業要件への算入可能単位数

４年間通算して卒業要件に算入できる単位互換科目の上限単位数を示す。ただし、各学部・学科の認定群において認定される単位は、その他の科目の修得単位と合わせ，認定群で定める卒業要件単位数を限度とする。また、(1)の通算履修可能単位数の範囲で修得しても、(2)の限度を超えて卒業要件単位に算入することはできない。

別表第２（第２条、第７条、第８条関係）

2014年度以降入学者

学部・学科	単位互換科目の履修可能単位数(1)		認定科目群	単位互換科目の卒業要件への算入可能単位数(2)
	年間	通算		
法学部　法律学科	8	３２	自由選択科目	１４
法学部　自治行政学科	8	３２	自由選択科目	１４
経済学部　経済学科	8	３２	自由選択科目	１０
経済学部　現代ビジネス学科	8	３２	自由選択科目	１０
経営学部　国際経営学科	8	３２	学外認定科目	１２
外国語学部　英語英文学科	8	３２	関連科目	１８
外国語学部　スペイン語学科	8	３２	関連科目	２０
外国語学部　中国語学科	8	３２	関連科目	２４
外国語学部　国際文化交流学科	8	３２	関連科目	１６
国際日本学部　国際文化交流学科	8	３２	関連科目	１６
国際日本学部　日本文化学科	8	３２	関連科目	１６
国際日本学部　歴史民俗学科	8	３２	関連科目	１６
人間科学部　人間科学科（2014年度入学者）	8	３２	関連科目	２０
人間科学部　人間科学科（2015年度以降入学者）	8	３２	関連科目	１６
理学部　数理・物理学科	6	２４	関連科目	6
理学部　情報科学科	6	２４	関連科目	6
理学部　化学科	6	２４	関連科目	6
理学部　生物科学科	6	２４	関連科目	6
理学部　総合理学プログラム	6	２４	関連科目	6
理学部　理学科	6	２４	関連科目	6
工学部　機械工学科	8	３２	関連科目	6
工学部　電気電子情報工学科	8	３２	関連科目	8
工学部　物質生命化学科	8	３２	関連科目	2
工学部　情報システム創成学科	8	３２	関連科目	4
工学部　経営工学科（2014年度～2022年度入学者）	8	３２	関連科目	1
工学部　経営工学科（2023年度以降入学者）	8	３２	関連科目	8
工学部　建築学科	8	３２	関連科目	8
工学部　総合工学プログラム	8	３２	関連科目	8
工学部　応用物理学科	8	３２	関連科目	8
建築学部　建築学科	8	３２	関連科目	8
化学生命学部　応用化学科	8	３２	関連科目	2
化学生命学部　生命機能学科	8	３２	関連科目	2
情報学部　計算機科学科	6	２４	選択科目	6
情報学部　システム数理学科	6	２４	選択科目（B～E群）	4
情報学部　先端情報領域プログラム	6	２４	関連科目	6

＜注＞

(1)　単位互換科目の履修可能単位数

１年間又は４年間通算して履修登録できる単位互換科目の上限単位数を示す。

(2)　単位互換科目の卒業要件への算入可能単位数

４年間通算して卒業要件に算入できる単位互換科目の上限単位数を示す。ただし、各学部・学科の認定群において認定される単位は、その他の科目の修得単位と合わせ、認定群で定める卒業要件単位数を限度とする。また、(1)の通算履修可能単位数の範囲で修得しても、(2)の限度を超えて卒業要件単位に算入することはできない。

国内大学間の単位互換に関する神奈川大学取扱規程

第１章　総則

（趣旨）

第１条　この規程は，神奈川大学学則第13条に基づき，国内大学間の単位互換を行うにあたって必要な事項を定める。

（単位互換の対象）

第２条　国内大学間の単位互換の対象は，神奈川大学（以下「本学」という。）と協定又は覚書を締結した他の大学（短期大学を含む。以下「他大学」という。）とする。

２　前項の協定又は覚書の締結は，評議会の審議を経て，学長が行う。

第２章　学生の受入れ

（手続）

第３条　他大学の学生が本学の授業科目の履修を希望するときは，他大学を通じて本学に申請するものとする。

２　他大学の学生が前項に基づき申請してきたときは，各学部教授会において選考の上，所定の時期までに受入れの決定を行う。

（身分）

第４条　この規程に基づき，本学が受入れを決定した他大学の学生の身分は，特別聴講学生とする。

（科目履修，試験及び成績評価）

第５条　特別聴講学生の科目履修，試験及び成績評価については，本学の学則の定めるところにより実施する。

（受入れの取消し）

第６条　学長は，特別聴講学生が，次の各号のいずれかに該当するときは，他大学と協議の上，受入れを取り消すことができる。

(1)　履修の見込みがないと認められるとき。

(2)　本学の諸規程に違反し，又は学生としての本分に反する行為があると認められるとき。

(3)　その他受入れの趣旨に反する行為があると認められるとき。

第３章　学生の派遣

（手続）

第７条　本学の学生が他大学の授業科目の履修を希望するときは，所定の様式により申請するものとする。

２　前項に基づき申請してきたときは，当該学生が所属する学部の教授会において審査のうえ，所定の時期までに派遣の決定を行う。

（科目履修等）

第８条　前条に基づき派遣された本学の学生は，他大学の定めるところにより授業科目を履修する。

（単位認定）

第９条　前条の規定により履修した授業科目の単位認定は，他大学の成績評価に基づき，別に定めるところにより行う。

（派遣の取消し）

第10条　学長は，派遣した本学の学生が，次の各号のいずれかに該当するときは，他大学と協議の上，派遣を取り消すことができる。

(1)　履修の見込みがないと認められるとき。

(2)　他大学の諸規程に違反し，又は学生としての本分に反する行為があると認められるとき。

(3)　その他派遣の趣旨に反する行為があると認められるとき。

第４章　補則

（委任）

第11条　この規程に定めるもののほか，国内大学間の単位互換の実施に関し必要な事項は，別に定める。

（適用除外）

第12条　横浜市内大学間学術・教育交流協議会規程第２条第１号による単位互換については，この規程を適用せず，横浜市内大学間の単位互換に関する神奈川大学取扱規程による。

（事務の所管）
第13条　この規程に関する事務は，教務課が所管する。
（改廃）
第14条　この規程の改廃は，評議会の審議を経て，理事会が行う。

附　則
この規程は，令和２年４月１日から施行する

附　則
この規程は，令和５年４月１日から施行する

神奈川大学学位規程（抜粋）

（目的）

第１条　この規程は，学位規則（昭和28年文部省令第９号）第13条の規定に基づき，本学が授与する学位について必要な事項を定めるものとする。

（学位の名称）

第２条　本学において授与する学位は，学士，修士，博士及び専門職学位とし，専攻分野を付記するものとする。

２　前項の規定により付記する専攻分野は別表１のとおりとする。

３　前項に定めるもののほか，修士及び博士について，当該研究科が適当と認めるときは，学位に付記する専攻分野の名称を学術とすることができる。

（学士の学位授与要件）

第３条　学士の学位は，本大学学則の定めるところにより，本大学を卒業した者に授与する。

（学位名称の使用）

第14条　学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは，本大学名を「学士(法学・神奈川大学)」「修士(法学・神奈川大学)」及び「博士(法学・神奈川大学)」のように付記するものとする。

（学則の準用）

第18条　その他本規程に定めるもの以外は，本大学学則又は本大学院学則の定めるところによる。

（規程の改廃）

第19条　大学に係る本規程の改廃は，評議会の審議を経て，理事会が行う。

２　大学院に係る本規程の改廃は，大学院委員会の審議を経て，理事会が行う。

附　則

この規程は，昭和42年４月１日から施行する。

：

（略）

：

附　則（平成24年４月１日改正）

１　本学位規程は平成24年４月１日から施行する。

２　この規程の施行の際，工学部電子情報フロンティア学科に在学する学生については，当該学生が在学する間，なお従前の例による。

：

（略）

：

附　則（平成30年３月29日改正）

１　本学位規程は，平成30年３月29日から施行する。

附　則（平成30年11月８日改正）

１　本学位規程は，平成30年11月８日から施行する。

附　則（平成31年４月１日改正）

１　本学位規程は，平成31年４月１日から施行する。

２　この規程の施行の際，工学研究科機械工学専攻，電気電子情報工学専攻，応用化学専攻及び経営工学専攻の博士前期課程及び博士後期課程に在学する学生については，当該学生が在学する間，なお従前の例による。

附　則（平成31年４月１日改正）

１　本学位規程は，平成31年４月１日から施行する。

附　則（令和２年４月１日改正）

１　本学位規程は，令和２年４月１日から施行する。

２　この規程の施行の際，外国語学部国際文化交流学科に在学する学生については，当該学生が在学する間，なお従前の例による。

附　則（令和３年３月25日改正）

1　本学位規程は，令和３年３月25日から施行する。

附　則（令和４年４月１日改正）

1　本学位規程は，令和４年４月１日から施行する。

2　この規程の施行の際，工学部建築学科に在学する学生については，当該学生が在学する間，なお従前の例による。

附　則（令和５年４月１日改正）

1　本学位規程は，令和５年４月１日から施行する。

2　この規程の施行の日の前日において理学部又は工学部に在学する学生については，当該学生が在学する間，なお従前の例による。

別表１（第２条第２項関係）

１　学士の学位

学部	学科	学位（専攻分野の名称）
法学部	法律学科	学士（法学）
	自治行政学科	学士（行政学）
経済学部	経済学科	学士（経済学）
	現代ビジネス学科	学士（商学）
経営学部	国際経営学科	学士（国際経営学）
外国語学部	英語英文学科	学士（文学）
	スペイン語学科	
	中国語学科	
国際日本学部	国際文化交流学科	学士（文学）
	日本文化学科	
	歴史民俗学科	
人間科学部	人間科学科	学士（人間科学）
理学部	理学科	学士（理学）
工学部	機械工学科	学士（工学）
	電気電子情報工学科	
	経営工学科	
	応用物理学科	
建築学部	建築学科	学士（建築学）
化学生命学部	応用化学科	学士（化学生命学）
	生命機能学科	
情報学部	計算機科学科	学士（情報学）
	システム数理学科	

卒業見込証明書発行基準

卒業見込証明書の発行基準は下記による。４年次に在学し，以下の条件を満たした者について発行される。

【2023年度以降入学者に適用】

学　部・学　科		卒業見込証明書発行基準
法学部	法律学科 自治行政学科	(1)（４月１日現在）　学則所定の「卒業要件単位数」の３/４以上を修得した者 (2)（10月１日現在）　学則所定の「卒業要件単位数」の７/８以上を修得した者 （ただし，４月１日現在で３/４の条件を満たした者を除く）
経済学部	経済学科 現代ビジネス学科	
経営学部	国際経営学科	
外国語学部	英語英文学科 スペイン語学科 中国語学科	
国際日本学部	国際文化交流学科 日本文化学科 歴史民俗学科	
人間科学部	人間科学科	
理学部	理学科	「卒業研究履修資格」を満たした者
工学部	機械工学科 電気電子情報工学科 経営工学科 応用物理学科	「４年次への進級要件」を満たした者
建築学部	建築学科	
化学生命学部	応用化学科 生命機能学科	
情報学部	計算機科学科	「卒業研究履修資格」を満たした者（※1）
	システム数理学科	「４年次への進級要件」を満たした者（※1）

※1　先端情報領域プログラムからの分属者含む。

【2021年度から2022年度入学者に適用】

学　部・学　科		卒業見込証明書発行基準
法学部	法律学科 自治行政学科	(1)（４月１日現在）　学則所定の「卒業要件単位数」の３/４以上を修得した者 (2)（10月１日現在）　学則所定の「卒業要件単位数」の７/８以上を修得した者 （ただし，４月１日現在で３/４の条件を満たした者を除く）
経済学部	経済学科 現代ビジネス学科	
経営学部	国際経営学科	
外国語学部	英語英文学科 スペイン語学科 中国語学科	
国際日本学部	国際文化交流学科 日本文化学科 歴史民俗学科	
人間科学部	人間科学科	
理学部	数理・物理学科 情報科学科 化学科 生物科学科	「卒業研究履修資格」を満たした者（※2）
工学部	機械工学科 電気電子情報工学科 物質生命化学科 情報システム創成学科 経営工学科 建築学科	「４年次への進級要件」を満たした者（※3）
建築学部	建築学科（2022年度入学者～）	「４年次への進級要件」を満たした者

※2　総合理学プログラムからの分属者含む。
※3　総合工学プログラムからの分属者含む。

【2012年度から2020年度入学者に適用】

<table>
<tr><th colspan="2">学　部・学　科</th><th>卒業見込証明書発行基準</th></tr>
<tr><td>法学部</td><td>法律学科
自治行政学科</td><td rowspan="6">(1)（４月１日現在）　学則所定の「卒業要件単位数」の３/４以上を修得した者

(2)（10月１日現在）　学則所定の「卒業要件単位数」の７/８以上を修得した者
（ただし，４月１日現在で３/４の条件を満たした者を除く）

※国際経営学科で上記(1)および(2)の要件に満たない者については，別に定める「取扱い」により，特別に経営学部長の許可を得た場合に，発行を認めることとする。</td></tr>
<tr><td>経済学部</td><td>経済学科
現代ビジネス学科</td></tr>
<tr><td>経営学部</td><td>国際経営学科</td></tr>
<tr><td>外国語学部</td><td>英語英文学科
スペイン語学科
中国語学科
国際文化交流学科</td></tr>
<tr><td>国際日本学部</td><td>国際文化交流学科
日本文化学科
歴史民俗学科</td></tr>
<tr><td>人間科学部</td><td>人間科学科</td></tr>
<tr><td>理学部</td><td>数理・物理学科
情報科学科
化学科
生物科学科</td><td>(1)「卒業研究履修資格」を満たした者（※4）
(2) 2018年度以前に入学し，総合理学プログラムから各学科に分属された者は「総合理学研究履修資格」を満たした者</td></tr>
<tr><td rowspan="3">工学部</td><td>機械工学科
電気電子情報工学科
物質生命化学科
情報システム創成学科
経営工学科</td><td>「４年次への進級要件」を満たした者（※5）</td></tr>
<tr><td>建築学科</td><td>(1) 2013年度以前入学者は，「卒業研究履修資格」を満たした者
(2) 2014年度以降入学者から「４年次への進級要件」を満たした者（※5）</td></tr>
<tr><td>総合工学プログラム（2015年度入学者まで）</td><td>「総合工学研究（卒業研究）履修資格」を満たした者</td></tr>
</table>

※4　2019年度以降入学の総合理学プログラムからの分属者含む。
※5　2016年度以降入学の総合工学プログラムからの分属者含む。

7　専任教員研究室一覧

横浜キャンパス研究室一覧

法学部

	（氏　名）	（研究室）
教　授	池端忠司	24-211
〃	井上匡子	24-311
〃	岩田太	24-221
〃	近江美保	24-216
〃	大川千寿	24-304
〃	大庭三枝	24-218
〃	加藤正明	24-207
〃	嘉藤亮	24-209
〃	公文孝佳	24-306
〃	幸田雅治	24-203
〃	近藤和哉	24-320
〃	篠森大輔	24-312
〃	柴田直子	24-214
〃	清水耕一	24-213
〃	新海浩之	24-303
〃	関ふ佐子	24-315
〃	田口勉	24-220
〃	陳丹舟	24-302
〃	角田光隆	24-317
〃	鶴藤倫道	24-321
〃	出口裕明	24-313
〃	中村壽宏	24-301
〃	松平徳仁	24-314
〃	三浦大介	24-210
〃	吉行幾真	24-208
准教授	足立治朗	24-206
〃	石井梨紗子	24-205
〃	上北正人	24-219
〃	上田正基	24-316
〃	遠藤史啓	24-319
〃	小山吉亮	24-215
〃	菊池和彦	24-310
〃	小谷昌子	24-217
〃	小室百合	24-307
〃	酒井弘格	24-305
〃	東郷佳朗	24-308
〃	朴孝淑	24-309
〃	藤間大順	24-318
〃	渕麻依子	24-204
〃	諸坂佐利	24-212

経済学部

	（氏　名）	（研究室）
教　授	飯塚信夫	1-605
〃	出雲雅志	1-724
〃	岩田真一郎	1-702
〃	宇井貴志	1-503
〃	浦上拓也	1-705
〃	奥山茂	1-618
〃	小山和伸	1-620
〃	數阪孝志	1-613
〃	金澤雄一郎	1-614
〃	兼子良夫	1-621
〃	工藤喜美枝	1-625
〃	呉春美	1-507
〃	五嶋陽子	1-611
〃	齊藤実	1-609
〃	玉井義浩	1-713
〃	寺嶋正尚	1-601
〃	遠原智文	1-623
〃	戸田龍介	1-709
〃	鳴瀬成洋	1-608
〃	比佐章一	1-504
〃	兵頭昌	1-721
〃	松村敏	1-707
〃	谷沢弘毅	1-509
〃	柳澤和也	1-717
〃	山口拓美	1-719
〃	山本崇雄	1-506
〃	吉岡忠昭	1-712
准教授	井上修	1-701
〃	岩木宏道	1-703
〃	浦沢聡士	1-607
〃	枝村一磨	1-624
〃	大島朋剛	1-704
〃	大滝英生	1-511
〃	小川淳平	1-706
〃	小川浩	1-615
〃	奥山聡子	1-722
〃	川村哲也	1-716
〃	木庭俊彦	1-710
〃	坂田大輔	1-619
〃	佐藤睦朗	1-617
〃	品川俊介	1-606
〃	清水俊裕	1-718
〃	原口純一	1-610
〃	藤井誠	1-708
〃	舟橋秀治	1-622
〃	堀江恭子	1-711
〃	三浦慎太郎	1-510
〃	三島斉紀	1-725
〃	森田圭亮	1-604
〃	八ッ橋治郎	1-602
〃	横川和穂	1-603
助　教	權純鎬	1-720
〃	道満治彦	1-505
〃	中西勇人	1-723
〃	渡辺久里子	1-612

横浜キャンパス研究室一覧

人間科学部

［人間科学科］

	（氏　名）	（研究室）
教　　授	安部賢一	28-110
〃	阿部政孝	28-108
〃	大竹弘和	17-530
〃	大西勝也	17-505
〃	荻野佳代子	17-514
〃	笠間千浪	17-511
〃	加藤美智子	17-504
〃	北岡祐	17-521
〃	衣笠竜太	17-534
〃	小林力	17-503
〃	齊藤ゆか	17-515
〃	杉山崇	17-528
〃	瀬戸正弘	17-524
〃	大後栄治	17-502
〃	平井誠	17-513
〃	古屋喜美代	17-516
〃	松本安生	17-508
〃	間山広朗	17-506
〃	山蔦圭輔	17-536
〃	吉澤達也	17-533
〃	渡部かなえ	17-520
准教授	芦田裕介	17-507
〃	麻生典子	17-527
〃	石井哲次	17-522
〃	遠藤大哉	17-535
〃	川嶋伸佳	17-512
〃	小泉諒	17-509
〃	近藤宏	17-510
〃	櫻小路岳文	17-531
〃	笹川俊	17-523
〃	清水和明	28-109
〃	高橋誠	17-532
〃	前原吾朗	17-526
〃	松永理恵	17-525
助　　教	太田早織	17-517
〃	森田麻登	17-529

横浜キャンパス研究室一覧

理学部

	（氏　名）	（研究室）
［理学科］		
教　授	安積良隆	23-304
〃	阿部吉弘	17-307
〃	伊藤　博	17-305
〃	岩元明敏	17-321
〃	大泉三津夫	17-417
〃	大平　剛	23-313
〃	粕谷伸太	17-405
〃	加部義夫	23-214
〃	河合明雄	23-116
〃	川本達也	23-318
〃	木原伸浩	23-221
〃	木村　敬	17-407
〃	小谷　享	17-322
〃	酒井政美	17-311
〃	佐藤たまき	17-208
〃	鈴木健太郎	23-322
〃	高橋一男	17-209
〃	辻　勇人	23-218
〃	豊泉龍児	23-314
〃	長澤倫康	17-403
〃	西谷和彦	23-307
〃	西本右子	23-209
〃	廣津昌和	23-321
〃	藤原　研	17-323
〃	堀　久男	23-118
〃	堀口正之	17-309
〃	松澤　寛	17-308
〃	松原世明	23-117
〃	水野智久	23-112
准教授	小関祥康	17-310
〃	加藤憲一	17-306
〃	川東　健	17-406
〃	坂本卓也	17-207
〃	東海林竜也	23-222
〃	白井直樹	23-210
〃	鈴木祥弘	17-210

	（氏　名）	（研究室）
［理学科］		
准教授	知久哲彦	17-404
〃	星野　靖	23-113
助　教	浅岡真理子	23-323
〃	伊藤　涼	17-304
〃	越智拓海	17-332
〃	白石卓也	23-125
〃	力石紀子	23-205
〃	辻　直美	23-125
〃	藤田深里	23-323
〃	山西克典	23-205
〃	渡邉信子	23-205

横浜キャンパス研究室一覧

工学部

	（氏　名）	（研究室）
［機械工学科］		
教　授	伊東弘行	8-515
〃	林　憲玉	23-508
〃	江上　正	12-310
〃	髙野　敦	6-402
〃	竹村兼一	12-37
〃	中尾陽一	12-39
〃	中西裕二	5-225
〃	原村嘉彦	23-509
〃	山崎　徹	23-510
〃	由井明紀	8-514
准教授	寺島岳史	6-403
助　教	楠山純平	12-26
〃	栗原　海	23-502
〃	張　斌	12-24
〃	鈴木健児	12-38
〃	喜多村竜太	6-107
〃	三林誠治	23-507
〃	諸隈崇幸	23-503
〃	峯下弘毅	23-507
〃	矢野大志	5-222
［電気電子情報工学科］		
教　授	木下宏揚	23-626
〃	土屋健伸	23-515
〃	中山明芳	23-707
〃	村上　紅	23-619
〃	山口栄雄	23-511
准教授	陳　春平	23-513
〃	中村　聡	23-615
〃	根岸信太郎	23-613
〃	平岡隆晴	23-622
〃	藤ノ木健介	23-625
〃	松木伸行	23-514
〃	米田征司	23-630
助　教	中沢吉博	23-507
〃	細野海人	23-614
〃	森　淳一	23-604
〃	渡邉騎通	23-602

	（氏　名）	（研究室）
［経営工学科］		
教　授	石井信明	23-532-1
〃	翁　嘉華	23-416
〃	片桐英樹	23-409
〃	窪谷浩人	6-410
〃	髙野倉雅人	5-220-1
〃	久宗周二	23-627
〃	平井裕久	23-428
准教授	佐藤公俊	23-413-1
〃	松本光広	23-708
助　教	赤坂信悟	23-416
〃	太田修平	23-532
〃	荻谷光晴	5-220
〃	小村亜唯子	23-429-1
〃	藤江　遼	5-221
〃	目片悠貴	23-407
［応用物理学科］		
教　授	佐々木志剛	5-323C
〃	渋谷　寛	5-227
〃	清水雄輝	5-423
〃	田村忠久	6-302
〃	日比野欣也	6-411
〃	松田和之	6-409
准教授	宇佐見義之	5-422
〃	有働慈治	6-416
〃	客野　遥	5-323B
〃	西野晃徳	5-421
助　教	池田大輔	6-301
〃	竹川俊也	6-301
［工学部所属］		
教　授	伊藤秀一	6-422
准教授	平田康史	6-419
助　教	越野克久	6-420
〃	久保田翔大	
〃	鈴木敏行	6-425
〃	嶺　幸太郎	6-421

横浜キャンパス研究室一覧

建築学部

	（氏　名）	（研究室）
［建築学科］		
教　　授	岩　本　靜　男	12-34
〃	内　田　青　蔵	8-63
〃	島　崎　和　司	12-35
〃	朱牟田　善　治	8-55
〃	鈴　木　信　弘	9-63
〃	ｽﾀﾝﾘｰ・ﾗｯｾﾙ	8-63
〃	曽我部　昌　史	8-61
〃	高　橋　寿太郎	9-62
〃	中　井　邦　夫	8-67A
〃	野　村　和　宣	9-62
〃	藤　田　正　則	8-54
〃	松　隈　　洋	8-510
〃	安　田　洋　介	6-407
〃	山　家　京　子	8-66A
〃	吉　江　慶　祐	12-36
〃	六　角　美　瑠	8-68A
准 教 授	上　野　正　也	9-63
〃	須　崎　文　代	9-64
〃	芹　川　真　緒	8-56
〃	立　花　美　緒	9-65
助　　教	落　合　　努	12-12
〃	柏　原　沙　織	9-61
〃	印　牧　岳　彦	9-64
〃	姜　　明　采	8-59
〃	白　井　佑　樹	12-15
〃	中　村　　慎	12-22
〃	森　長　　誠	6-406
〃	楊　　暁　雨	12-32
〃	吉　浦　温　雅	8-57
〃	吉　岡　寛　之	8-61

横浜キャンパス研究室一覧

化学生命学部

	（氏　名）	（研究室）
［応用化学科］		
教　授	池原飛之	23-722-1
〃	岩倉いずみ	23-716
〃	上田　渉	23-829-1
〃	亀山　敦	23-709
〃	小出芳弘	23-819
〃	金　仁華	23-717-1
〃	引地史郎	23-822-1
〃	松本　太	23-816-1
〃	本橋輝樹	23-808-1
〃	横澤　勉	23-718-1
准教授	中田典秀	23-814-1
助　教	石川理史	23-827
〃	岡村将也	23-821
〃	楠本壮太郎	23-825
〃	橋本征奈	23-712
〃	原　秀太	23-721
〃	福西美香	23-816
［生命機能学科］		
教　授	朝倉史明	6-304
〃	井上和仁	23-305
〃	井深章子	23-306
〃	岡田正弘	23-727-1
〃	岡本専太郎	23-731-1
〃	小野　晶	23-818-1
〃	野嶽勇一	23-812
〃	細谷浩史	9-311
〃	山下裕司	23-627
准教授	中川理絵	6-303
助　教	荒井直樹	23-812
〃	伊部公太	23-731
〃	澄本慎平	23-726
〃	藤原章司	23-826

情報学部

	（氏　名）	（研究室）
［計算機科学科］		
教　授	海谷治彦	20-409
〃	木下佳樹	20-405
〃	桑原垣夫	20-406
〃	後藤智範	20-411
〃	斉藤和巳	20-402
〃	田中　賢	20-407
〃	張　善俊	20-408
〃	永松礼夫	20-412
〃	ﾎﾞｻｰﾙ・ｱﾝﾄﾜｰﾇ	20-404
〃	松尾和人	20-410
准教授	馬谷誠二	20-403
助　教	上原由衣	20-413
〃	河野友亮	20-414
［システム数理学科］		
教　授	秋吉政徳	9-510
〃	今井崇雅	20-311
〃	進藤　晋	20-304
〃	杉本　剛	20-302
〃	瀬古沢照治	20-211
〃	西澤弘毅	20-306
〃	能登正人	20-327
〃	藤岡　淳	20-315
〃	森田　光	20-313
〃	山口高平	20-325
〃	山崎教昭	20-321
〃	吉田　稔	20-319
准教授	内田智史	20-329
〃	鈴木友之	20-323
助　教	奥野祥二	20-310-A
〃	騫　申	20-310-F
〃	齋藤　渓	20-310-G
〃	中村憲史	20-310-C
〃	李　嘉誠	20-310-B
〃	王　天澄	20-310-D
［情報学部所属］		
教　授	松澤和光	20-212

みなとみらいキャンパス研究室一覧

経営学部

［国際経営学科］

	（氏　名）	（研究室）
教　授	青木宗明	14006
〃	浅海典子	13012
〃	大庭絵里	12020
〃	大橋哲	12013
〃	上村昌司	13022
〃	齋藤純一	12025
〃	白石万紀子	12024
〃	杉田弘也	14025
〃	鈴木そよ子	15007
〃	関口博正	13021
〃	関口昌秀	15006
〃	泉水英計	14010
〃	髙城玲	14009
〃	田中則仁	13006
〃	丹野勲	13008
〃	林悦子	13010
〃	廣田律子	12012
〃	松岡弘樹	14005
〃	真鍋明裕	13019
〃	湯川恵子	13011
〃	吉留公太	14014
准教授	ｱｰﾏﾝ・ﾊﾃﾞｨ	13025
〃	阿部克彦	12011
〃	飯塚重善	14024
〃	石濱慎司	12007
〃	大田博樹	13018
〃	河内智子	12023
〃	木村恭大	13005
〃	小島大徳	13009
〃	兒島峰	12009
〃	尻無濱芳崇	13020
〃	関真彦	12022
〃	ｾﾛﾝ・ﾌｪｱﾁｬｲﾙﾄﾞ	12005
〃	徐寧教	13007
〃	知花愛実	14013
〃	ﾁｬｰﾙｽﾞ・ﾊｰｽﾄ	13025
〃	津村将章	12014
〃	道用大介	14011
〃	中見真也	14007
〃	韓一栄	12005
〃	山岡義卓	13005
〃	山崎友彰	14012
〃	行本勢基	13024
〃	李貞和	12026
助　教	後藤篤志	12008
〃	望月耕太	15008

外国語学部

［英語英文学科］

	（氏　名）	（研究室）
教　授	久保野雅史	19008
〃	郷健治	19010
〃	佐藤裕美	19025
〃	鈴木宏枝	19024
〃	髙橋一幸	19023
〃	村井まや子	18022
准教授	ｺｵﾘ・ｼﾞｮﾝ・ｳｫﾚｽ	19011
〃	小松雅彦	19012
〃	栗田梨津子	19009
〃	中村ｼﾞｪﾆｽ	19021
〃	ﾊﾞﾝｷｱ・ｼﾞｮﾝ・ｼﾞｪｰﾑｽﾞ	19020
〃	正木慶介	19018
〃	ﾔｽﾀﾞ・ﾚｲﾓﾝﾄﾞ・ｶｲ	19019
助　教	ﾁｯｸ・ｼﾝ・ｲｰ・ｿﾆｱ	19022
〃	冨塚亮平	18019
〃	源邦彦	19007
〃	ﾗﾌﾞﾘｰ・ｴｽﾀｰ	18021
〃	ﾜｲ・ｲｰ・ﾛ	18020

［スペイン語学科］

教　授	新木秀和	20025
〃	片岡喜代子	20020
〃	菊田和佳子	20019
〃	黒田祐我	19005
准教授	A.ﾊﾞﾛﾝ・ﾛﾍﾟｽ	20024
〃	岩崎賢	20023
〃	梅崎かほり	20022
〃	落合佐枝	20028
〃	西田依麻	19006
助　教	ﾓﾗﾚｽ・ﾗﾏ・ｱﾚﾊﾝﾄﾞﾛ	20021

［中国語学科］

教　授	鈴木慶夏	20009
〃	孫安石	20010
〃	彭国躍	20011
〃	村井寛志	20013
准教授	秋山珠子	20006
〃	夏海燕	20007
〃	加藤宏紀	20008
〃	樊可人	20014
〃	松浦智子	20012
助　教	由川美音	20028

みなとみらいキャンパス研究室一覧

国際日本学部

	（氏　名）		（研究室）
［国際文化交流学科］			
教　授	ｲｰﾄﾝ・F・ﾁｬｰﾁﾙ		18012
〃	岩　畑　貴　弘		18007
〃	岩　本　典　子		18008
〃	江　川　紹　子		17025
〃	大　川　真由子		17006
〃	大　島　希巳江		16025
〃	菊　地　恵　太		18009
〃	熊　谷　謙　介		17008
〃	島　川　　崇		17019
〃	ｼﾞｪｰﾑｽﾞ・ｳｪﾙｶｰ		16019
〃	S.ﾌﾞｯﾍﾝﾍﾞﾙｹﾞﾙ		16024
〃	辻　子　美保子		18010
〃	髙　井　典　子		17024
〃	堤　　正　典		18014
〃	ﾃﾞﾋﾞｯﾄﾞ・ｱﾘﾝ		18006
〃	原　　良　枝		18005
〃	廣　瀬　富　男		18025
〃	細　田　由　利		18024
〃	山　本　信太郎		17011
〃	柳　　赫　秀		17012
〃	尹　　亭　仁		17005
〃	ﾙﾊﾟｰﾄ・ﾌﾞﾗｲｱﾝ		16026
准教授	角　山　朋　子		17007
〃	ｸﾘｽﾁｬﾝ・ﾗｯﾄｸﾘﾌ		16020
〃	鈴　木　祐　一		18011
〃	鈴　木　幸　子		17020
〃	髙　木　南欧子		18005
〃	崔　　瑛		17023
〃	塚　田　　純		18013
〃	ﾃｨﾈｯﾛ・ﾏﾙｺ		16021
〃	富　谷　玲　子		18026
〃	中　林　広　一		17009
〃	平　山　　昇		17022
〃	前　川　理　子		17010
〃	山　口　太　郎		17018
〃	山　根　麻　紀		18023
助　教	柏　木　　翔		17021
〃	ｼｪﾗｰ・ｸｲﾝﾀﾅ		16022
〃	ﾍｰﾌﾞ・ｽﾃﾌｧﾝ・ﾖｾﾌ		16023
［日本文化学科］			
教　授	上　原　雅　文		16012
〃	駒　走　昭　二		16005
〃	澤　口　哲　弥		16006
〃	坪　井　雅　史		16013
〃	中　村　隆　文		16014
〃	深　澤　　徹		16011
〃	松　本　和　也		16009
〃	山　田　昌　裕		16007
准教授	藤　澤　　茜		16010
〃	水　川　敬　章		16008
［歴史民俗学科］			
教　授	礒　永　和　貴		15025
〃	大　川　　啓		15009
〃	小　熊　　誠		15010
〃	木　下　直　之		15025
〃	久留島　典　子		15011
〃	昆　　政　明	［横浜］	19-217
〃	後田多　　敦		15012
〃	周　　星		15024
〃	前　田　禎　彦		15021
〃	安　室　　知		15019
〃	山　本　志　乃		15018
准教授	角　南　聡一郎		15023
〃	関　口　博　巨		15022
〃	丸　山　泰　明		15020
助　教	新　垣　夢　乃		15005

《MEMO》

《MEMO》

《MEMO》

授　業　時　間　区　分

時限	授　業　時　間
1	9：00 ～ 10：40
2	10：50 ～ 12：30
3	13：30 ～ 15：10
4	15：20 ～ 17：00
5	17：10 ～ 18：50
6	19：00 ～ 20：40
7	20：45 ～ 22：25

※６限は横浜キャンパスのみ
※６，７限は博士前期課程昼夜開講制時限

履修要覧 2023

●経営学部
●外国語学部
●国際日本学部

神奈川大学

〈みなとみらいキャンパス〉
〒 220-8739 横浜市西区みなとみらい 4-5-3
☎045-664-3710（代表）
〈横浜キャンパス〉
〒 221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
☎045-481-5661（代表）

世界へ、そして未来へ
神奈川大学
www.kanagawa-u.ac.jp

FSC
www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C022784